

青少年の意識・ニーズに関する調査報告書

令和6（2024）年3月

福岡県

目 次

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 今回の調査項目の作成方針	2
4. 調査主体と調査実施機関	2
5. 調査結果の分析者	2
II. 調査結果	3
第1部 青少年の調査結果	3
A. 小・中・高校生調査	3
1. 対象者属性	3
(1) 性別	3
(2) 同居家族	4
2. ふだんの生活について	5
(1) 日常の行動	5
(2) 過去の生活体験	14
(3) 学校が休みの日にすること	22
(1) 抑うつ傾向	24
(2) 日ごろの悩みごと	26
(3) 悩みごとの相談相手	27
4. 家族について	28
(1) 食事を一緒にする人	28
(2) 自分がお世話をしている家族	29
(3) お世話をしている理由	30
(4) 自分が行っているお世話の内容	31
(5) 自分が行っているお世話の頻度	32
(6) 平日1日のお世話時間	32
(7) お世話することでやりたくてもできないこと	33
(8) 学校や周りの大人にしてほしいことや支援内容	34
(9) 自分や家族のことを相談する方法	35
(10) 家族や親戚、友達以外で相談しやすい相手	36
(11) ヤングケアラーという自覚	37
5. 学校生活	38
(1) 学校生活の満足度	38
(2) 学校へ行きたくないと感じる頻度	42
(3) 学校へ行きたくないと感じた理由	43
(4) 最近、仲間はずれやいじめをうけた経験	44
(5) 仲間はずれやいじめをうけたときの対処	45
6. 多様な性について	46

(1) L G B T (性的少数者を表す総称の一つ) の認知状況	46
(2) L G B Tの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なこと	46
7. 地域の活動について	47
(1) 地域社会とのかかわり	47
(2) 今後のボランティア活動への参加意向 (中・高校生のための設問)	50
(3) ボランティア活動に参加したくない理由	50
8. インターネットの利用について	51
(1) インターネット利用可能機器の所有状況	51
(2) 平日の学校以外でのインターネット利用時間	51
(3) インターネットを利用するようになってから変化したこと	52
(4) フィルタリングの使用状況	61
(5) フィルタリングを使用していない理由	61
9. 生成A Iについて	62
(1) 生成A Iの認知度	62
(2) 生成A Iの使用経験	62
(3) 生成A Iを使った内容 (自由記述)	63
10. 進路選択について	64
(1) 将来の職業生活について考えていること	64
11. 国際化について	66
(1) 海外の人たちとの交流経験	66
(2) 海外の人たちとの交流機会	66
(3) 海外留学や海外で仕事をすることへの意向	67
(4) 海外に出てやってみたいこと (自由記述)	67
(5) 海外留学や海外で仕事をしたいと思わない理由	68
12. 規範意識について	69
(1) 小・中・高校生としての規範意識	69
(2) 中・高校生としての規範意識	69

B. 青少年の調査結果の〈日常の行動と過去の生活体験〉、〈家族のお世話をする頻度・時間と子どもの状況〉〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係 ----- 79

1. 〈日常の行動と過去の生活体験〉との関係	79
2. 〈家族のお世話をする頻度・時間と子どもの状況〉との関係	83
3. 〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係	88

第2部 保護者の調査結果 ----- 95

1. 対象者属性	95
(1) 年齢	95
(2) 同居家族	96
(3) 家族構成	96
(4) 地区	97
2. 子どもについて	98
(1) きょうだいの人数	98
(2) 未就学時のころの子どもの外向性	98

(3) 子どもと過ごす時間	99
(4) 子どもと過ごす時間に対する意識	99
(5) 子どもと話す頻度	100
(6) 子どもと話をしない理由	100
(7) 子どもとの関係	101
(8) 子どもへの日ごろのしつけの態度	101
(9) 子どもの教育やしつけについて心がけていること	103
(10) 子どものしつけや教育について悩んでいること	105
(11) 「体罰によるしつけ」の禁止についての認知状況	106
3. 家庭について	107
(1) 家庭観	107
(2) 日ごろの生活態度や考え方	108
(3) 経済的困窮の状況	109
4. 学校について	110
(1) 学校生活の満足度	110
(2) 子どもの進学に対しての希望	116
5. 多様な性について	117
(1) L G B T（性的少数者を表す総称の一つ）の認知状況	117
(2) L G B Tの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なこと	118
6. 不登校・いじめについて	118
(1) 子どもが学校に行きたくないと言う頻度	119
(2) 子どもが学校へ行きたくないと言う理由	120
(3) 最近、子どもが仲間はずれやいじめをうけた経験	121
(4) 子どもが仲間はずれやいじめをうけたときの対処	122
(5) 学校における「いじめ問題」を解決するために必要なこと	123
7. 地域社会とのかかわりやボランティア活動について	124
(1) 近所の人とのかかわり	124
(2) 今後の近所の人との付き合い	124
(3) 地域活動への参加状況	125
(4) ボランティア活動の参加意向	126
(5) ボランティア活動に参加したくない理由	126
8. メディア・コミュニケーションについて	127
(1) 子どものインターネット利用可能機器の所有状況	127
(2) 子どものスマートフォンの保有状況	127
(3) 子どもにスマートフォンを持たせた理由	128
(4) 子どものインターネット利用状況	129
(5) フィルタリングの使用状況	130
(6) フィルタリングを使用していない理由	131
(7) 子どものインターネット利用上の不安	132
(8) インターネット利用上の家庭のルール	133
(9) 子どものインターネット利用についての相談先	134
(10) 子どものインターネット利用について必要な取組	135

9. 国際化について.....	136
(1) 海外の人たちとの交流経験.....	136
(2) 海外の人たちとの交流機会.....	137
(3) 子どもが海外留学や海外で仕事をする事への賛否.....	138
(4) 子どもに海外留学や海外で仕事をしてほしくない理由.....	139
10. 規範意識について.....	140
(1) 小・中・高校生の行為に対する規範意識.....	140
11. 青少年の健全育成について.....	146
(1) 青少年の健全育成に必要な取組.....	146
12. 〈子どもと話す頻度〉と他項目との関係.....	147
(1) 〈子どもとの関係〉との関係.....	147
(2) 〈家庭観〉との関係.....	147
(3) 〈L G B T（性的少数者を表す総称の一つ）の認知状況〉との関係.....	148
(4) 〈海外の人との交流経験〉との関係.....	148

Ⅲ. 調査結果のまとめ ----- 149

1. 小・中・高校生調査.....	149
(1) 日常生活について.....	149
(2) 抑うつ傾向.....	149
(3) 家族について.....	149
(4) 学校生活について.....	149
(5) 多様な性について.....	150
(6) 地域社会とのかかわりについて.....	150
(7) インターネット利用について.....	150
(8) 生成A I の認知度と使用経験.....	150
(9) 進路選択について.....	150
(10) 国際化について.....	150
(11) 規範意識について.....	150
2. 保護者調査.....	151
(1) 子どもについて.....	151
(2) 家庭について.....	151
(3) 学校生活について.....	151
(4) 不登校・いじめについて.....	151
(5) 多様な性について.....	151
(6) 地域社会とのかかわりやボランティア活動について.....	151
(7) メディア・コミュニケーションについて.....	151
(8) 国際化について.....	152
(9) 規範意識について.....	152

〈参考資料〉 ----- 153

【結果の記載方法および利用上の注意】

①数表、図表、文中に示すN、nは、回答率算出上の標本数である。

N＝標本全数 n＝該当数（その設問を回答しなくてよい人を除いた数）

②数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合がある。

③文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものをまとめて表す場合は『 』で表記している。

④各選択肢の回答率（％）は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計は100％にならない場合がある。

⑤各設問とも、回答者数を回答率算出の基礎としているため、複数回答の設問では、各選択肢の回答率の合計が100％を超える場合がある。

⑥本調査では、数値の差異に関する説明は、統計学的分析に基づき明確な差異がある場合に限り言及している。例えば、前回調査との比較において、数値上は小・中・高校生すべてで増加していても、高校生で前回との差が小さく有意な差異が認められない場合には、高校生については増加と表現せず、小学生、中学生についてのみ増加と表現している。

⑦前回調査とは令和2（2020）年に実施したものである。

⑧本調査は、学術研究を目指したものでなく、行政資料として分析研究を行い、取りまとめたものである。

I . 調查概要

I. 調査概要

1. 調査の目的

令和5年4月に施行されたこども基本法を踏まえ、青少年や保護者の意識と行動等の傾向や県の施策に対するニーズを把握し、青少年施策の企画・立案の基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査設計

A. 小・中・高校生調査

- (1) 調査地域 福岡県内全域
- (2) 調査対象 県内小学校、中学校、高等学校に在籍する児童及び生徒
- (3) 標本数 各年代 4,800 サンプル
- (4) 標本抽出 層化二段無作為
〈第一段〉小学6年生、中学2年生、高等学校2年生の生徒数を基に対象学校を決定し、小学校は160校、中学校、高校は120校を無作為抽出。小学校、中学校は公立校の中からのみ、高校は公立、私立含めた形で抽出。
〈第二段〉各学校の任意で、対象となる児童・生徒を小学校は30名程度、中学校、高校は40名程度抽出。
- (5) 調査方法 学校を介して調査票及びWEB回答画面にアクセスするQRコードを記載した調査依頼状を配布。
小学6年生はWEB、調査票のいずれかで回答、中学2年生、高校2年生はWEBで回答
- (6) 調査期間 令和5年11月下旬～令和6年1月中旬（1月12日WEB回答締切）
- (7) 回収状況 有効標本回収数
小学校 2,261 サンプル（回収率：47.1%）
中学校 2,604 サンプル（回収率：54.3%）
高 校 1,964 サンプル（回収率：40.9%）

B. 小・中・高校生保護者調査

- (1) 調査地域 福岡県内全域
- (2) 調査対象 県内に在住する小学校、中学校、高等学校の保護者
- (3) 標本数 各年代 4,800 サンプル
- (4) 標本抽出 層化二段無作為
〈第一段〉小学6年生、中学2年生、高等学校2年生の生徒数を基に対象学校を決定し、小学校は160校、中学校、高校は120校を無作為抽出。小学校、中学校は公立校の中からのみ、高校は公立、私立含めた形で抽出を実施。
〈第二段〉各学校の任意で、対象となる保護者を小学校は30名程度、中学校、高校は40名程度抽出。

- (5) 調査方法 学校を介して WEB 回答画面にアクセスする QR コードを記載した調査依頼状を配布し、WEB で回答
- (6) 調査期間 令和 5 年 11 月下旬～令和 6 年 1 月中旬 (1 月 12 日 WEB 回答締切)
- (7) 回収状況 有効標本回収数
- | | |
|-----|--------------------------|
| 小学校 | 1,541 サンプル (回収率 : 32.1%) |
| 中学校 | 792 サンプル (回収率 : 16.5%) |
| 高 校 | 956 サンプル (回収率 : 19.9%) |

3. 今回の調査項目の作成方針

- ・ 調査結果の経年変化を把握する必要がある設問は、原則として前回調査の設問を活かした。
- ・ 設問の表現は、わかりやすく、より実態に合う用語に変更した。
- ・ 保護者以外の児童、生徒にヤングケアラーに関する設問などを追加した。

4. 調査主体と調査実施機関

調 査 主 体 : 福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 政策課
福岡県福祉労働部 こども未来課

調査実施機関 : 株式会社日本統計センター

5. 調査結果の分析者

株式会社日本統計センター

Ⅱ. 調查結果

第 1 部 青少年の調査結果

Ⅱ. 調査結果

第1部 青少年の調査結果

A. 小・中・高校生調査

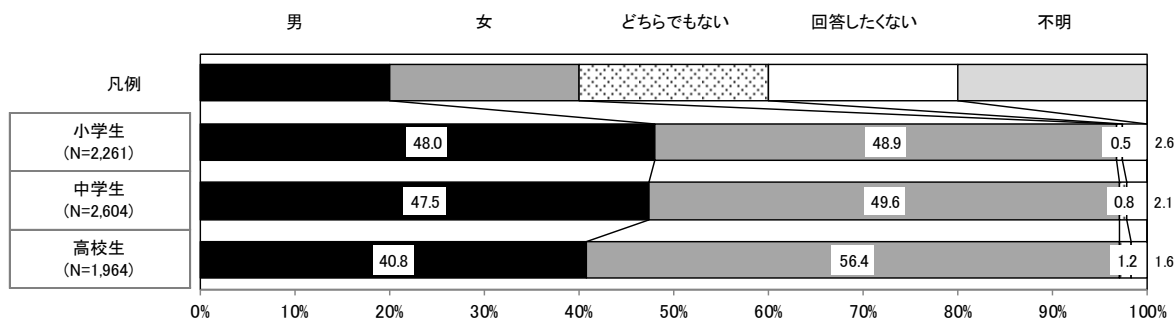
1. 対象者属性

対象者の属性は、以下の通りとなっています。

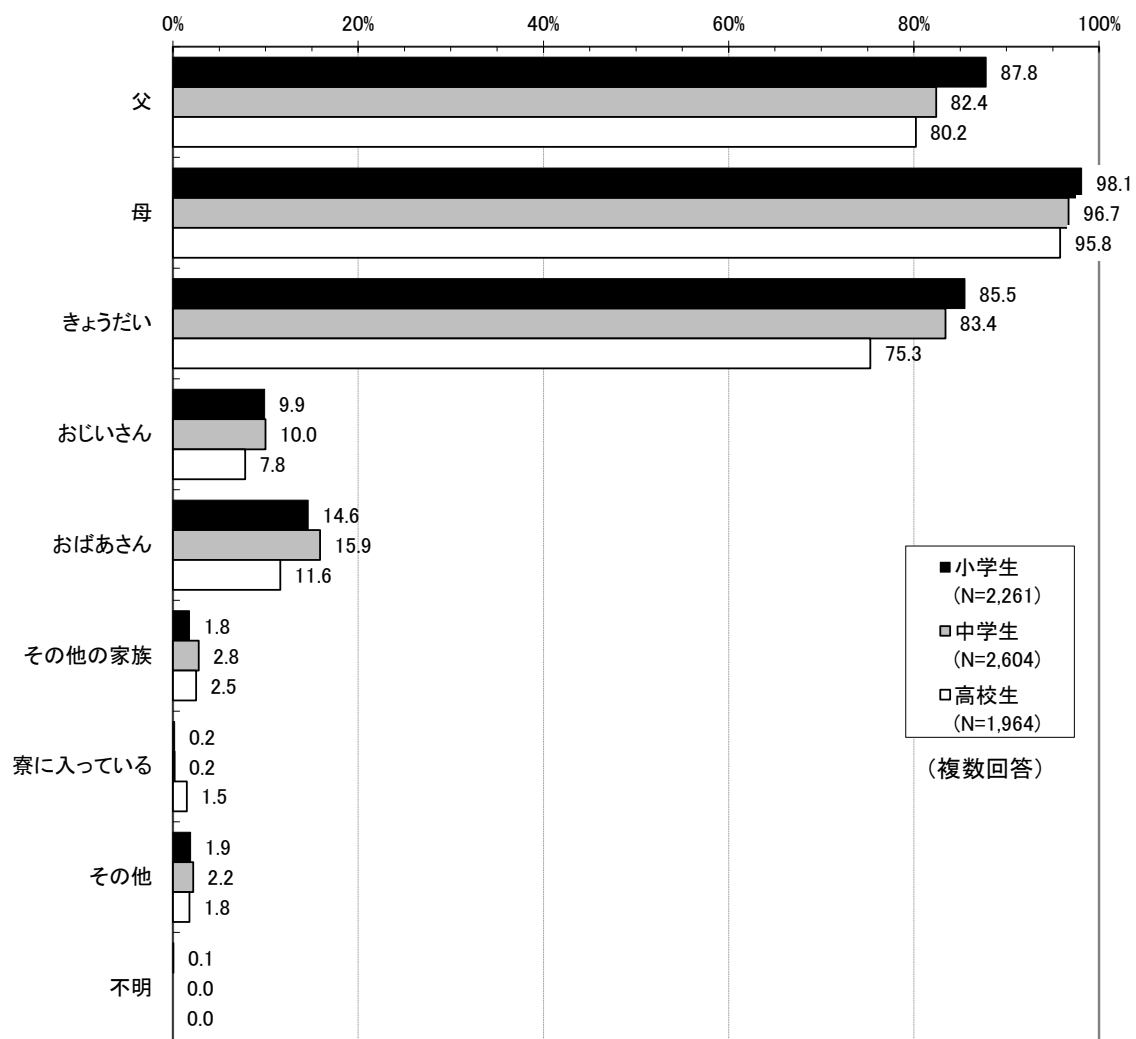
調査対象者の属性

		小学生		中学生		高校生	
総数		2,261	100.0%	2,604	100.0%	1,964	100.0%
性別	男	1,085	48.0%	1,236	47.5%	801	40.8%
	女	1,106	48.9%	1,291	49.6%	1,107	56.4%
	どちらでもない	11	0.5%	22	0.8%	24	1.2%
	回答したくない	59	2.6%	55	2.1%	32	1.6%
地区別	福岡市	562	24.9%	543	20.9%	658	33.5%
	福岡地区	638	28.2%	562	21.6%	427	21.7%
	北九州市	237	10.5%	459	17.6%	400	20.4%
	北九州地区	138	6.1%	141	5.4%	49	2.5%
	北筑後地区	209	9.2%	200	7.7%	98	5.0%
	南筑後地区	199	8.8%	386	14.8%	222	11.3%
	筑豊地区	169	7.5%	169	6.5%	51	2.6%
	京築地区	106	4.7%	144	5.5%	59	3.0%
	不明	3	0.1%	—	—	—	—

(1) 性別



(2) 同居家族

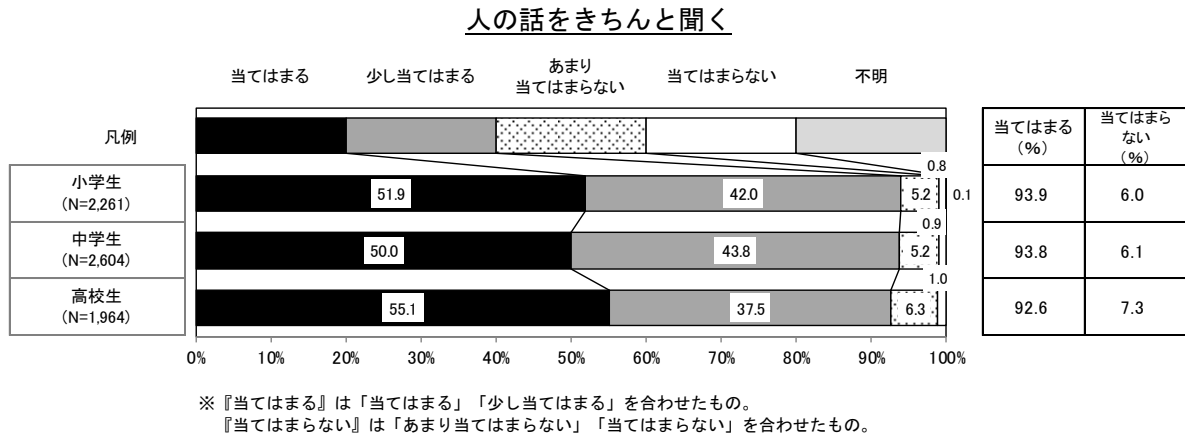


2. ふだんの生活について

(1) 日常の行動

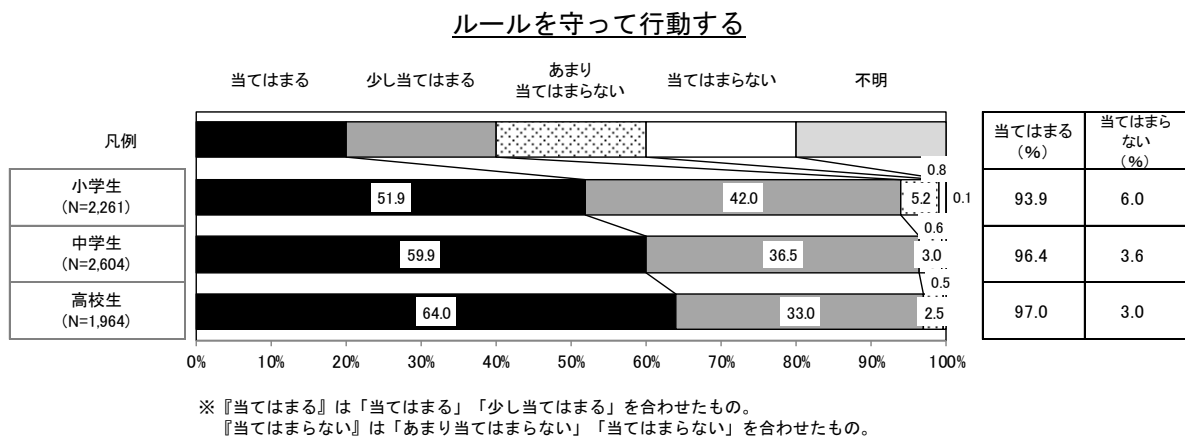
①人の話をきちんと聞く

〈人の話をきちんと聞く〉かどうか尋ねたところ、年齢に関わらず「当てはまる」が5割を超えています。小・中・高校生すべてで『当てはまる』は9割を超えています。



②ルールを守って行動する

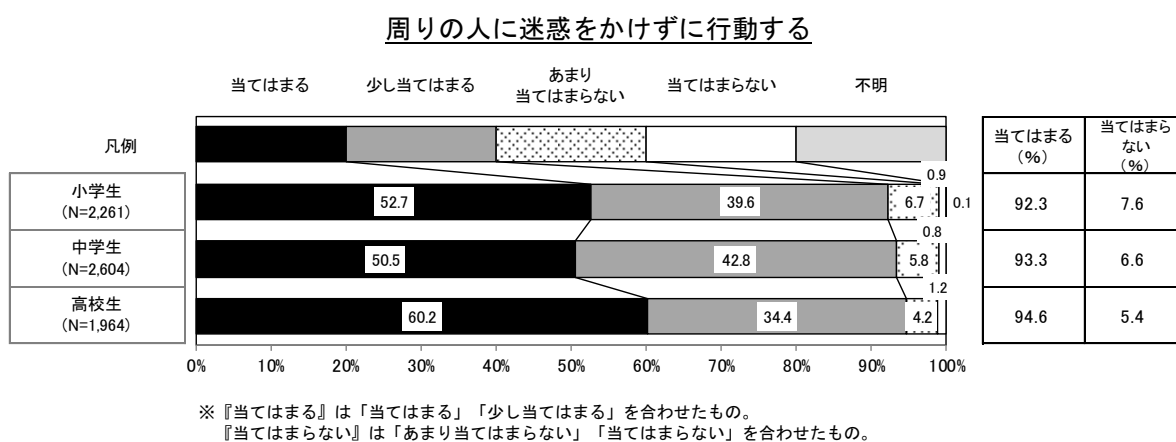
〈ルールを守って行動する〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は年齢が上がるほど多くなる傾向がみられ、高校生で6割台半ばとなっています。また、小・中・高校生すべてで『当てはまる』は9割を超えています。



③周りの人に迷惑をかけずに行動する

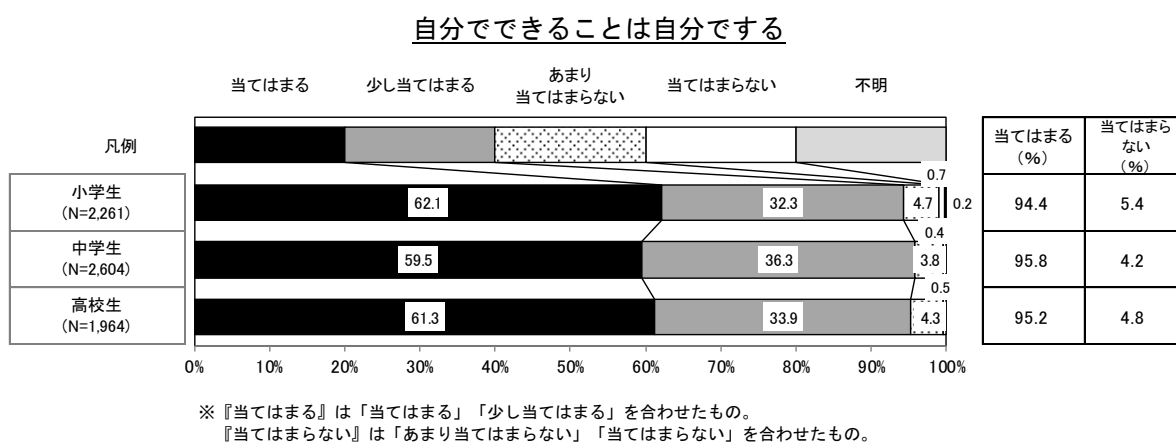
〈周りの人に迷惑をかけずに行動する〉かどうか尋ねたところ、小学生、中学生の「当てはまる」は5割程度、高校生の「当てはまる」は6割で、小学生、中学生に比べて多くなっています。

また、小・中・高校生で『当てはまる』に大きな差はなく9割を超えています。



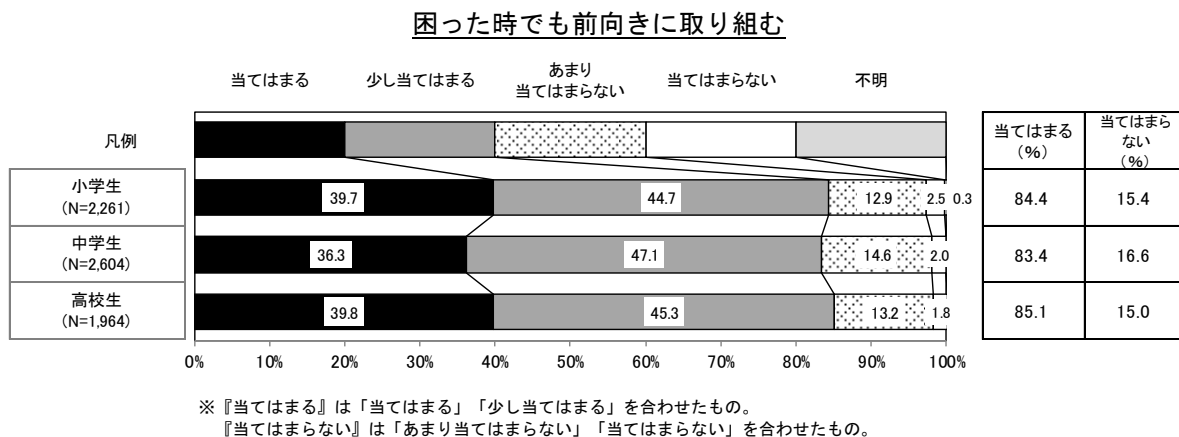
④自分でできることは自分でする

〈自分でできることは自分でする〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「当てはまる」が6割前後で、『当てはまる』が9割を超えています。



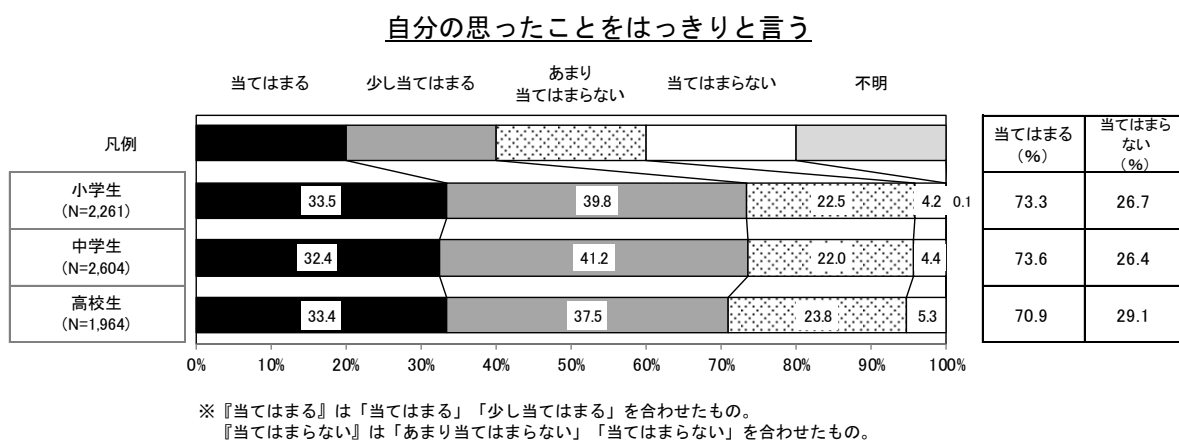
⑤ 困った時でも前向きに取り組む

〈困った時でも前向きに取り組む〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「当てはまる」は4割前後で、『当てはまる』は8割以上となっています。



⑥ 自分の思ったことをはっきりと言う

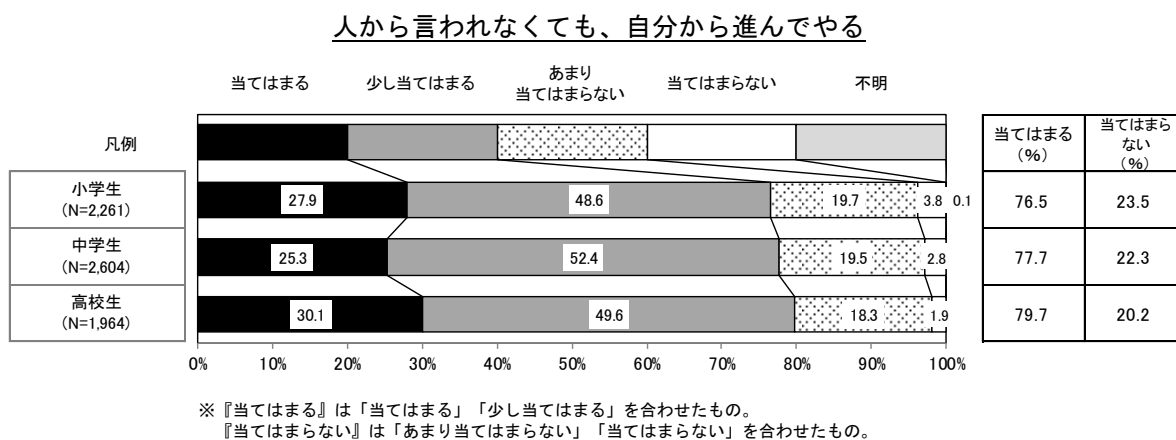
〈自分の思ったことをはっきりと言う〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生の「当てはまる」は3割台前半となっています。『当てはまる』は7割台前半となっています。



⑦人から言われなくても、自分から進んでやる

〈人から言われなくても、自分から進んでやる〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生、高校生に比べて中学生で少ない傾向がみられ、「当てはまる」は2割台半ばとなっています。

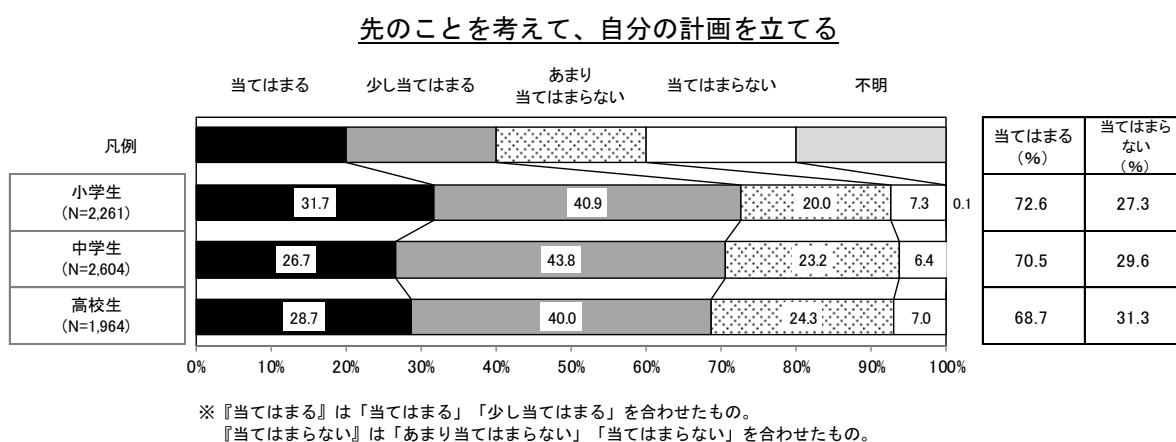
また、小・中・高校生すべてで『当てはまる』は7割台後半となっています。



⑧先のことを考えて、自分の計画を立てる

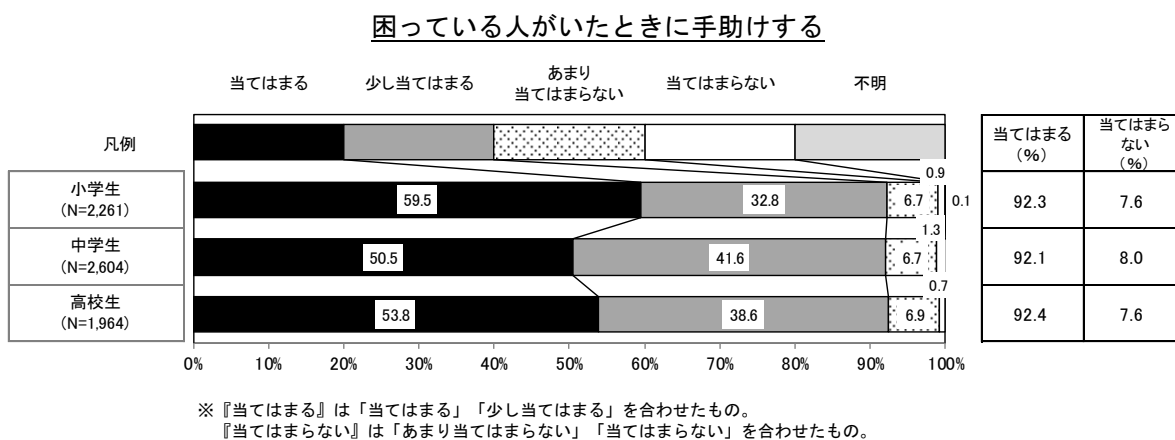
〈先のことを考えて、自分の計画を立てる〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生、高校生に比べて中学生で少ない傾向がみられ、「当てはまる」は2割台半ばとなっています。

小・中・高校生のすべてで『当てはまる』は7割前後となっています。



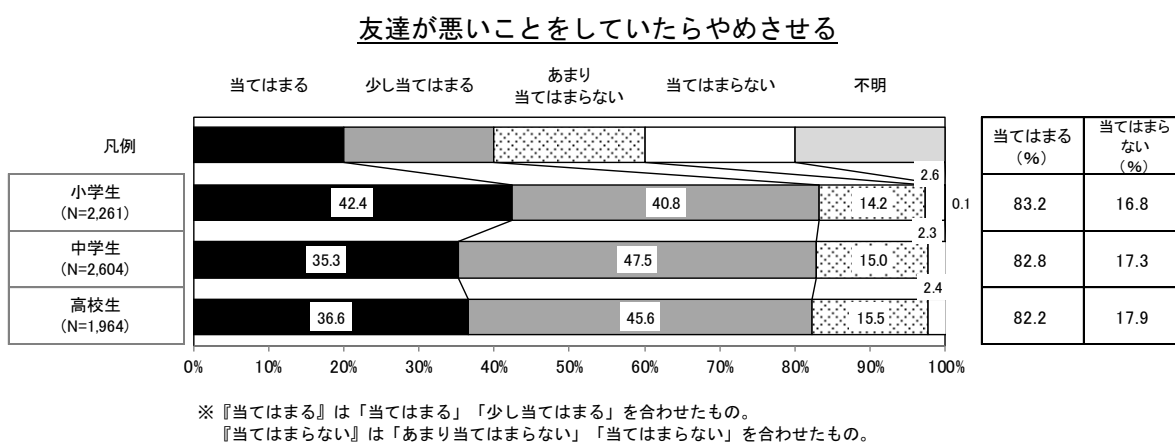
⑨ 困っている人がいたときに手助けする

〈困っている人がいたときに手助けする〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生で最も多く、「当てはまる」が6割弱となっています。また、小・中・高校生すべてで『当てはまる』は9割を超えています。



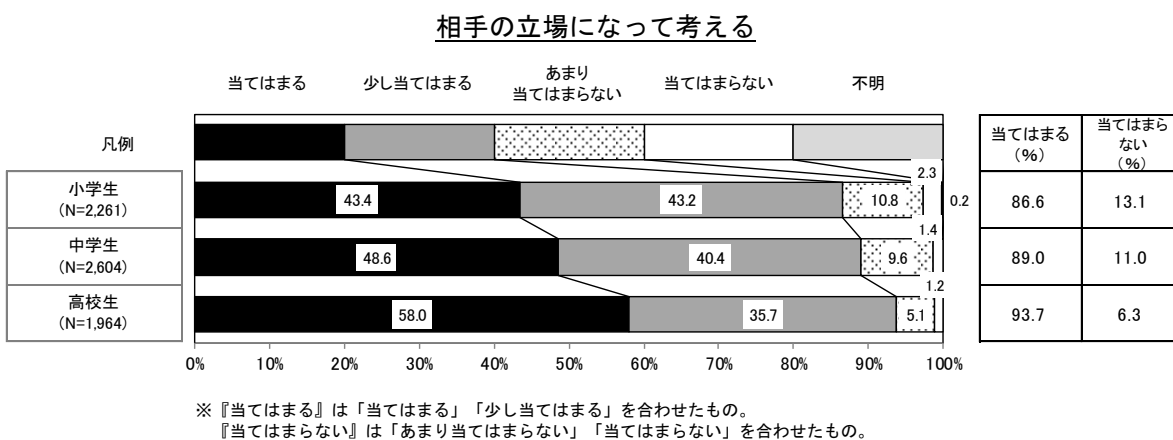
⑩ 友達が悪いことをしていたらやめさせる

〈友達が悪いことをしていたらやめさせる〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生で最も多く、「当てはまる」が4割を超えています。また、『当てはまる』に大きな違いはなく、8割台前半となっています。



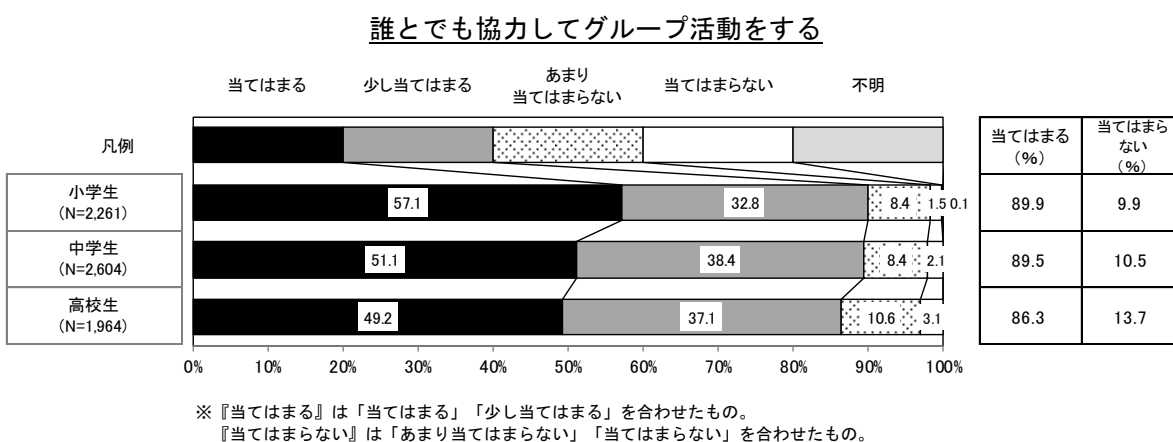
⑪相手の立場になって考える

〈相手の立場になって考える〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は年齢が上がるほど多くなる傾向がみられ、高校生では6割弱となっています。また、『当てはまる』も高校生で9割を超えています。



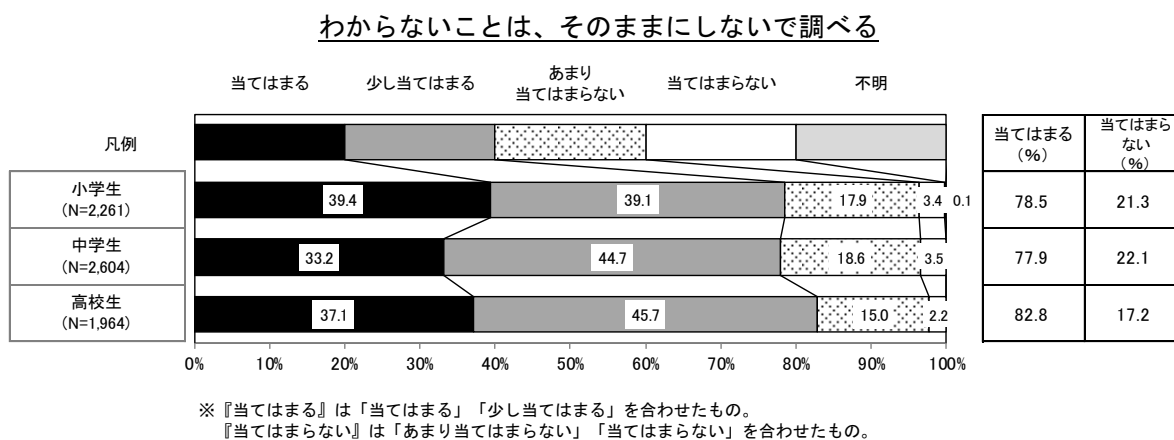
⑫誰とでも協力してグループ活動をする

〈誰とでも協力してグループ活動をする〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生で最も多く、「当てはまる」が5割台後半となっています。また、『当てはまる』に大きな違いはなく、8割台後半となっています。



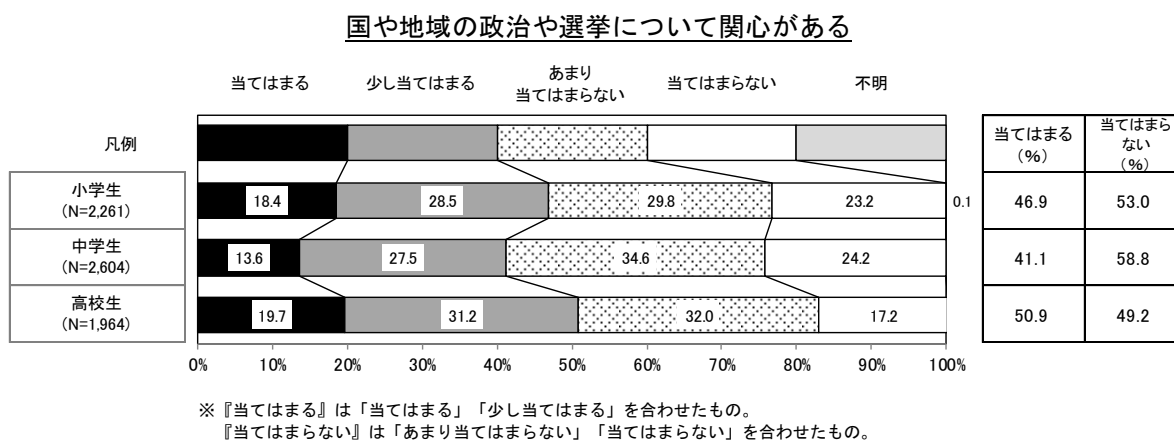
⑬ わからないことは、そのままにしないで調べる

〈わからないことは、そのままにしないで調べる〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生、高校生に比べて中学生で少ない傾向がみられ、「当てはまる」は3割台前半となっています。また、高校生で『当てはまる』が8割を超えています。



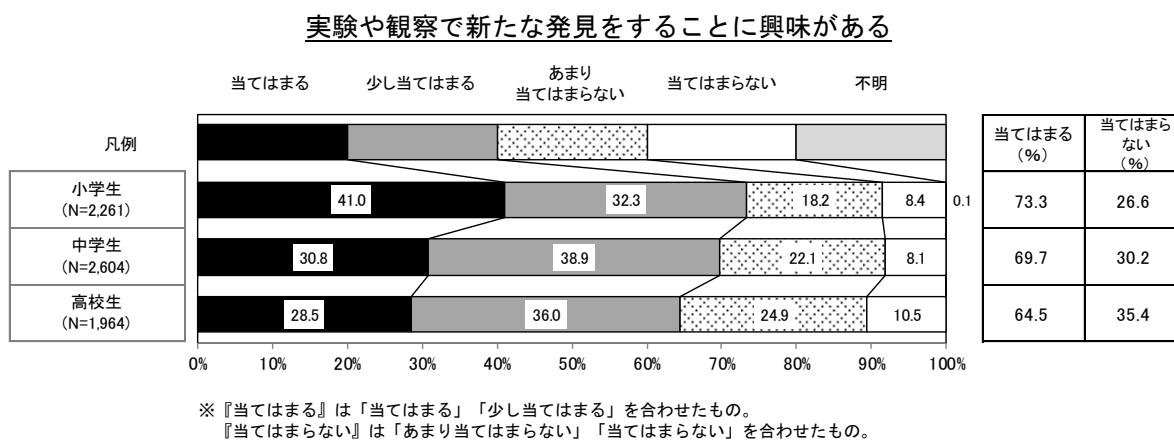
⑭ 国や地域の政治や選挙について関心がある

〈国や地域の政治や選挙について関心がある〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生、高校生に比べて中学生で少ない傾向がみられ、「当てはまる」は1割台前半となっています。また、中学生は『当てはまる』も小学生、高校生に比べて低く、4割程度となっています。



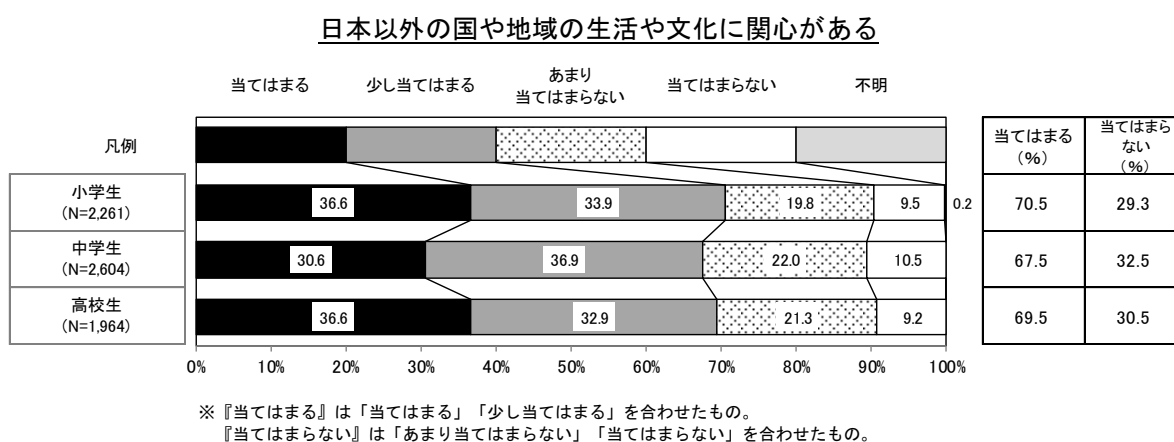
⑮実験や観察で新たな発見をすることに興味がある

〈実験や観察で新たな発見をすることに興味がある〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生で最も多く、「当てはまる」が4割を超えています。また、小学生で『当てはまる』は中学生、高校生に比べて高く、7割を超えています。



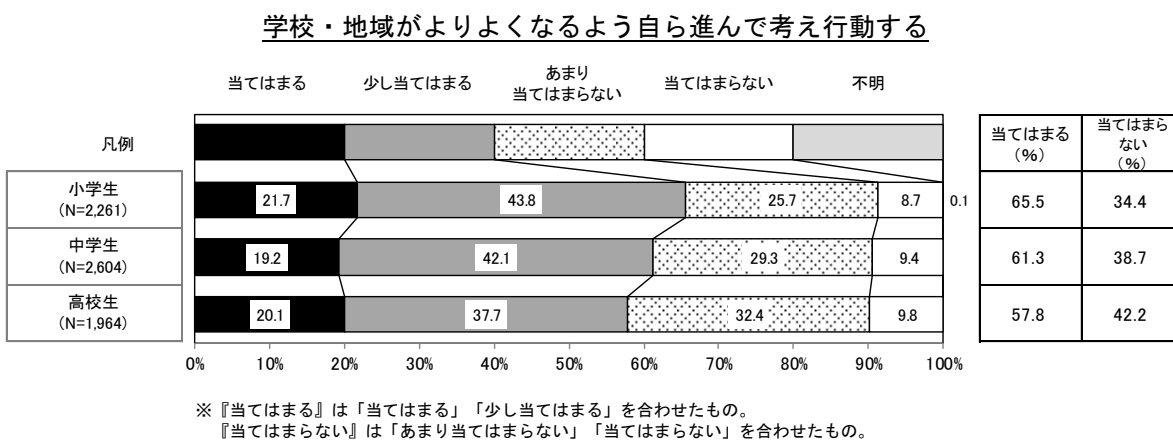
⑯日本以外の国や地域の生活や文化に関心がある

〈日本以外の国や地域の生活や文化に関心がある〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小学生、高校生に比べて中学生で少ない傾向がみられ、「当てはまる」は3割となっています。また、小・中・高校生すべてで『当てはまる』は6割台後半～7割となっています。



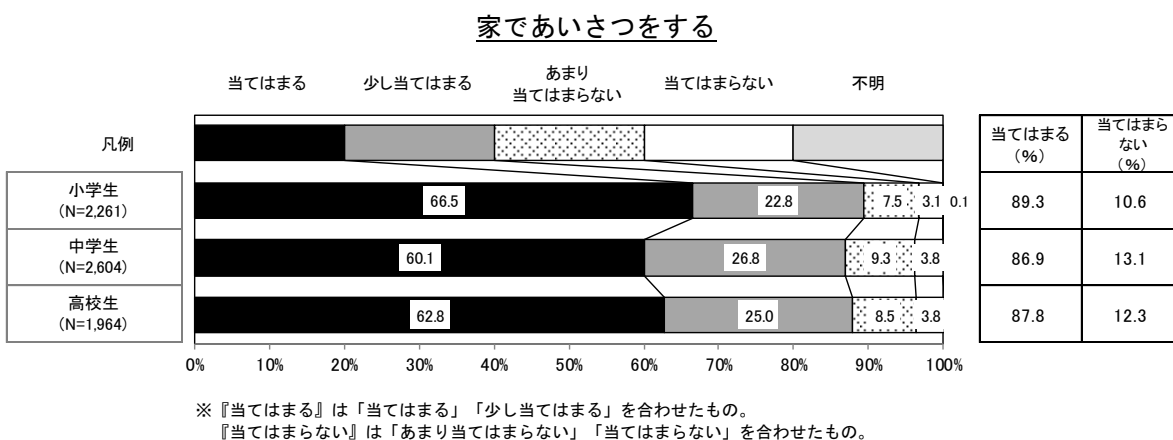
⑰学校・地域がよりよくなるよう自ら進んで考え行動する

〈学校・地域がよりよくなるよう自ら進んで考え行動する〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生で大きな違いはなく、「当てはまる」は2割程度となっています。また、『当てはまる』は年齢が下がるほど多くなる傾向がみられ、小学生で6割台半ばを占めています。



⑱家であいさつをする

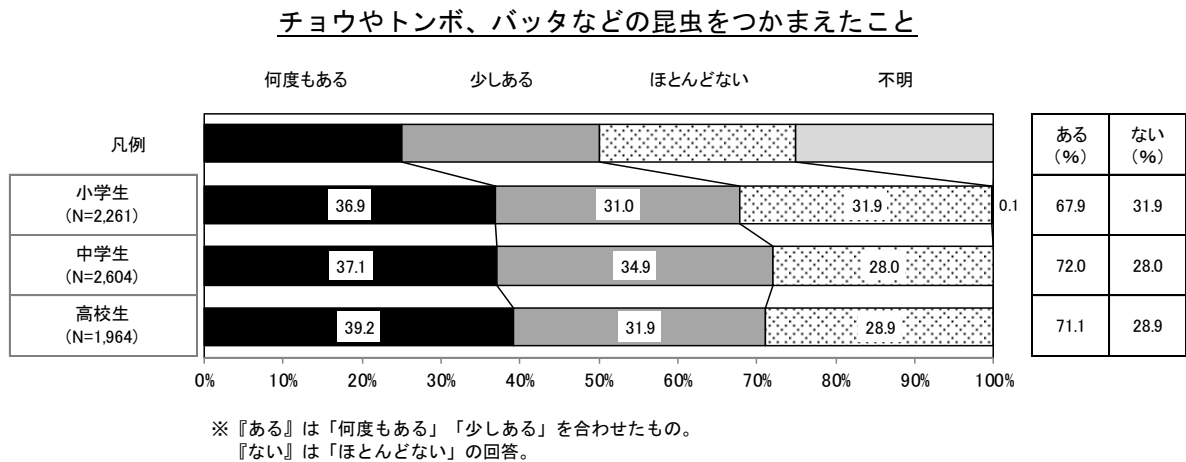
〈家であいさつをする〉かどうか尋ねたところ、「当てはまる」は小・中・高校生の中で小学生が最も多く、6割台半ばとなっています。また、小・中・高校生すべてで『当てはまる』は8割台後半となっています。



(2) 過去の生活体験

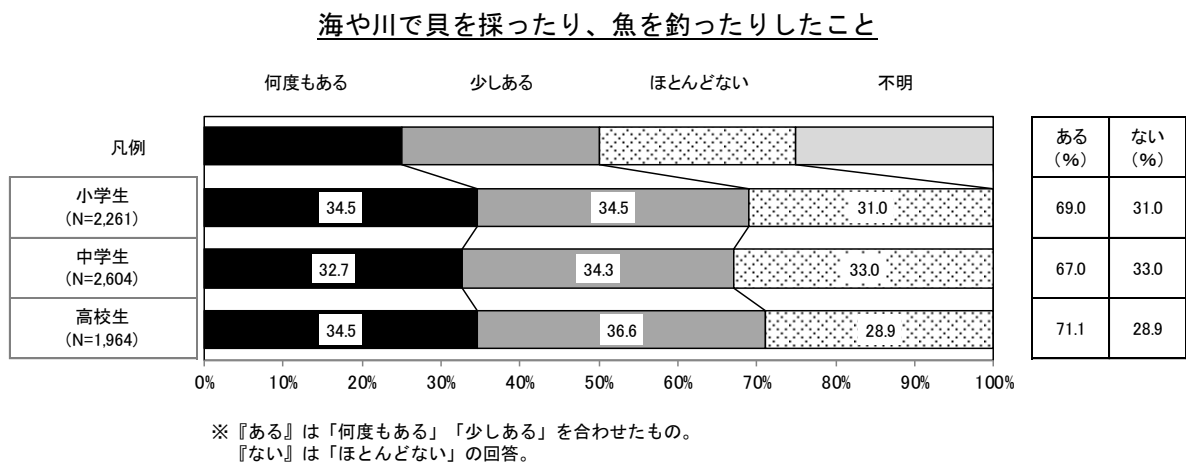
①チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと

〈チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと〉について尋ねたところ、『ある』は中学生、高校生に比べて小学生でやや少なくなっています。



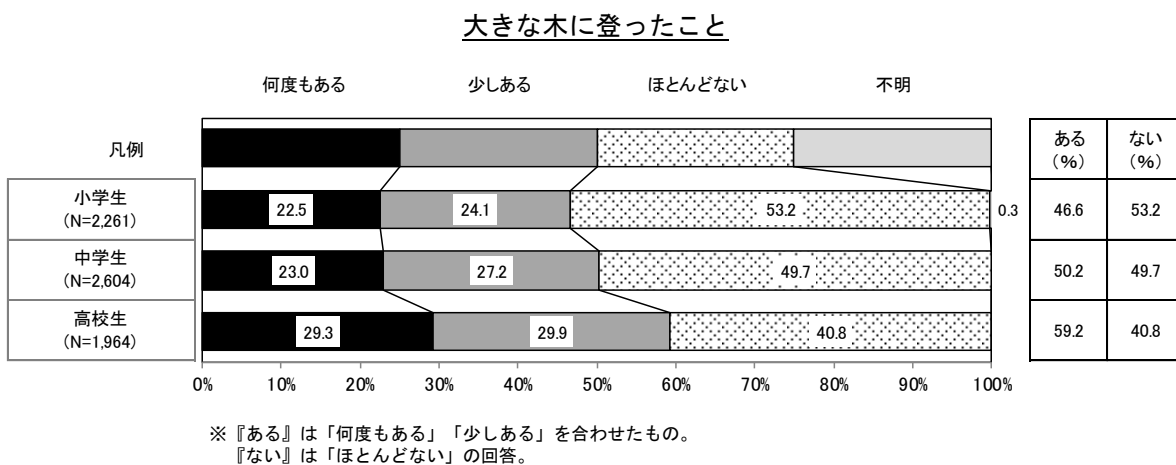
②海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと

〈海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと〉について尋ねたところ、『ある』は小学生、高校生に比べて中学生でやや少なくなっています。



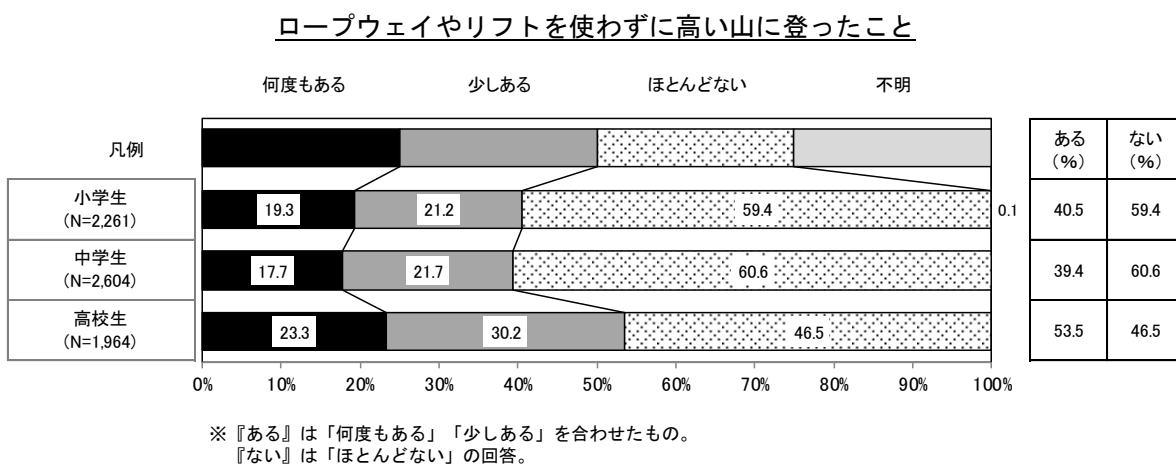
③大きな木に登ったこと

〈大きな木に登ったこと〉について尋ねたところ、年齢が上がるにつれて「何でもある」が多くなっており、高校生では『ある』が6割弱となっています。



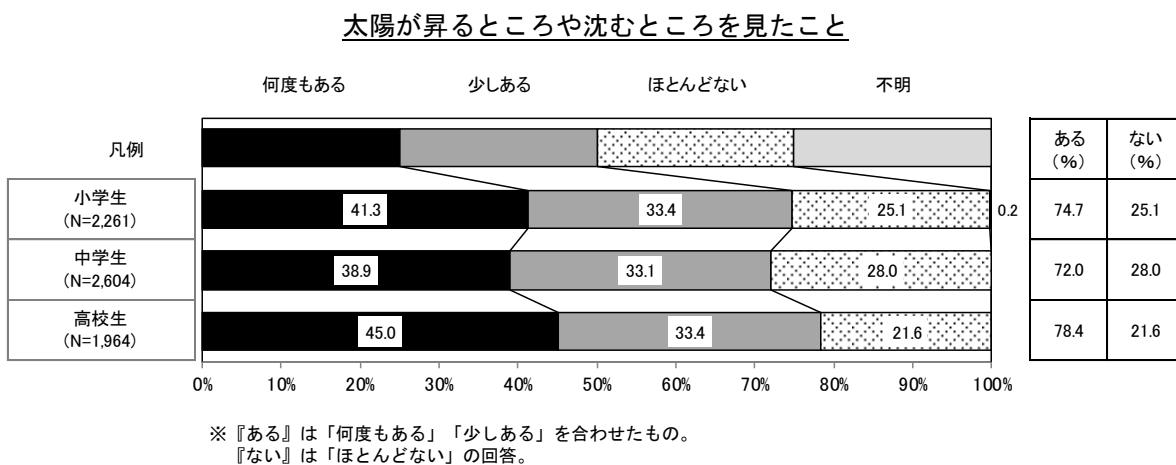
④ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと

〈ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと〉について尋ねたところ、「何でもある」は小学生、中学生に比べて高校生で多くっており、高校生では『ある』が5割を超えています。



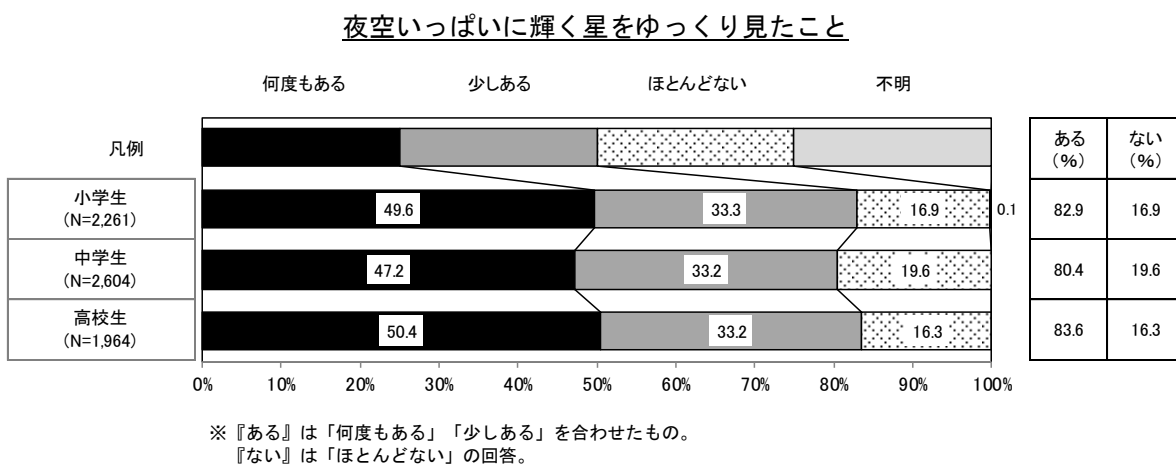
⑤太陽が昇るところや沈むところを見たこと

〈太陽が昇るところや沈むところを見たこと〉について尋ねたところ、「何度もある」は小学生、中学生に比べて高校生で多くなっており、高校生では『ある』が7割台後半となっています。



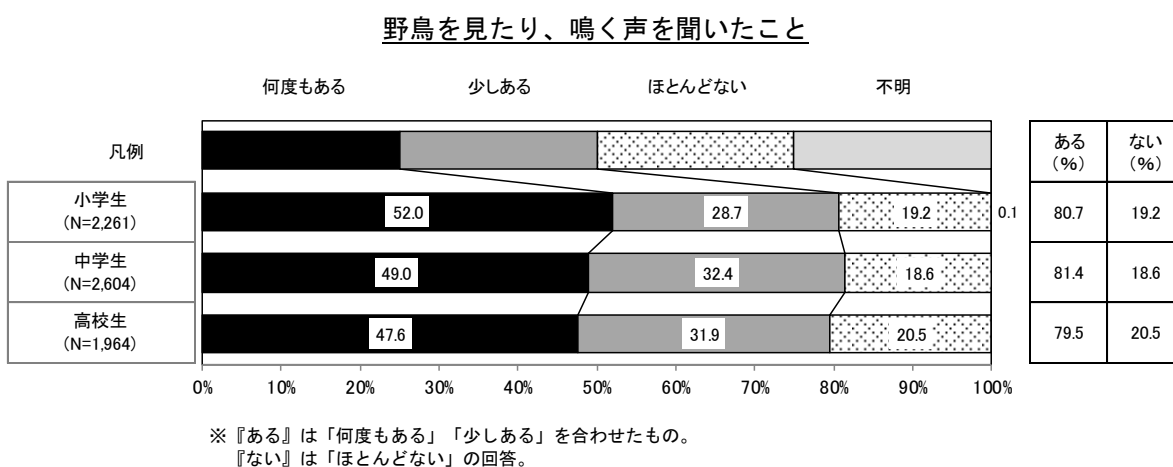
⑥夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと

〈夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと〉について尋ねたところ、小・中・高校生で大きな差はなく、『ある』は8割台前半となっています。



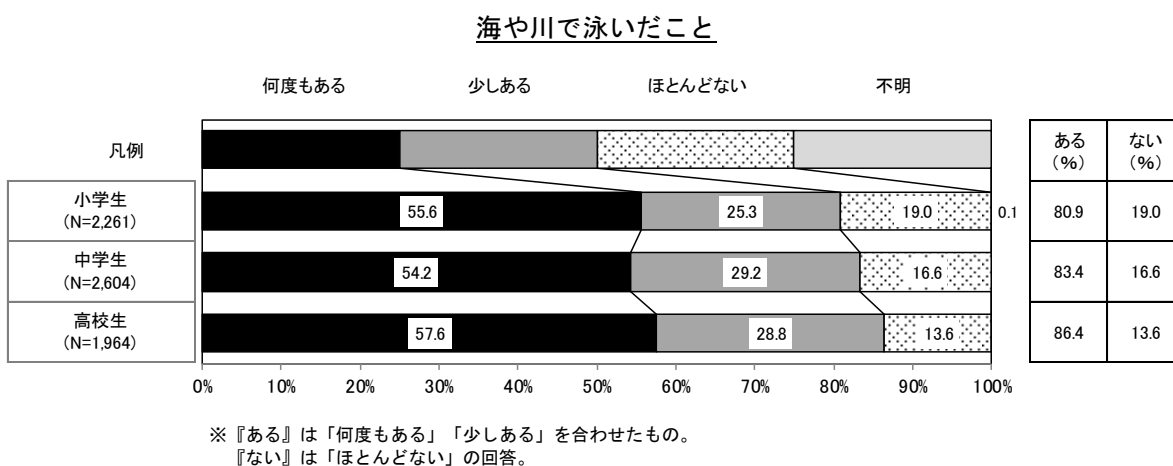
⑦野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと

〈野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと〉について尋ねたところ、「何度もある」は小学生で最も多く、5割台前半となっています。『ある』は小・中・高校生で大きな違いはなく、8割前後となっています。



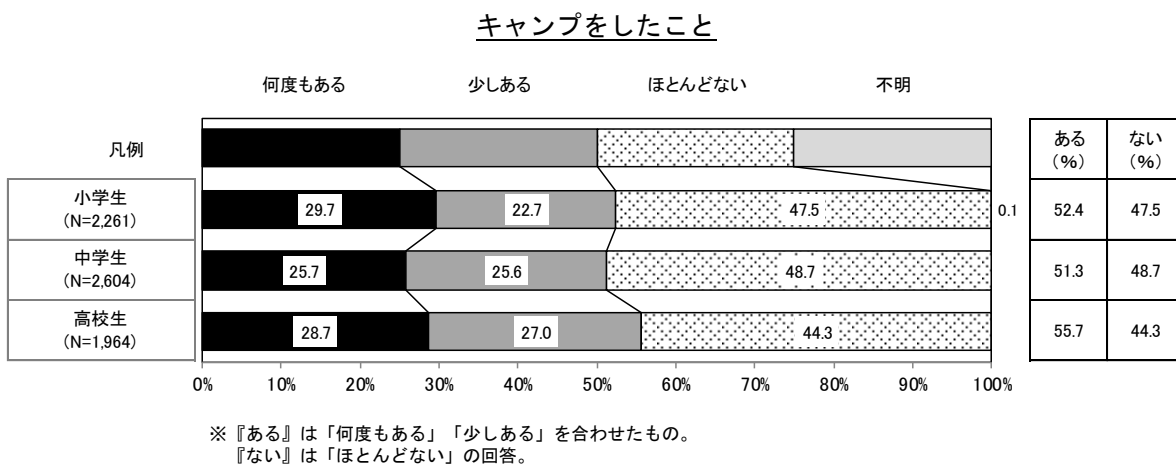
⑧海や川で泳いだこと

〈海や川で泳いだこと〉について尋ねたところ、小・中・高校生で「何度もある」に大きな差はなく、5割台半ばとなっています。『ある』は高校生が最も多く、8割台後半となっています。



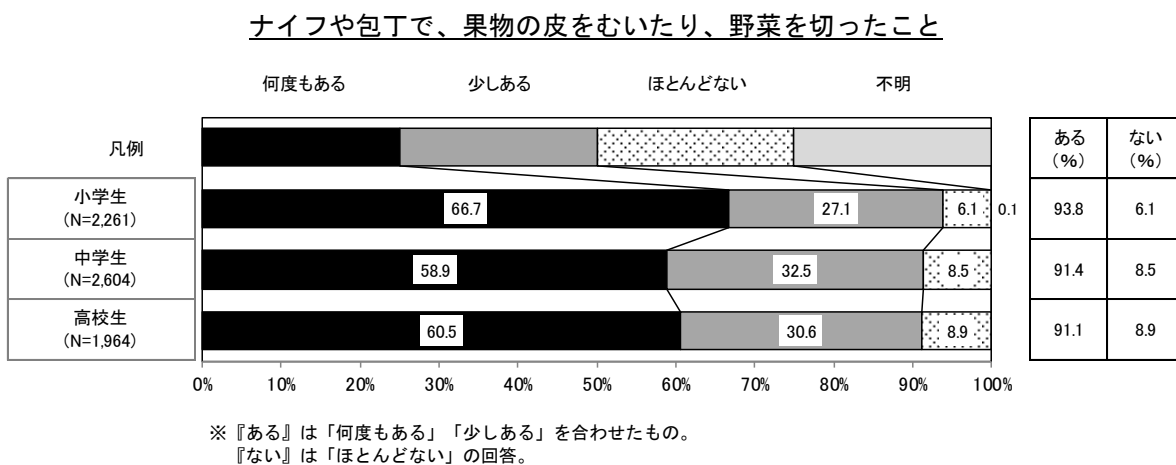
⑨キャンプをしたこと

〈キャンプをしたこと〉について尋ねたところ、小・中・高校生とも「何度もある」が2割台後半となっています。『ある』は小・中・高校生とも5割台前半～5割台半ばとなっています。



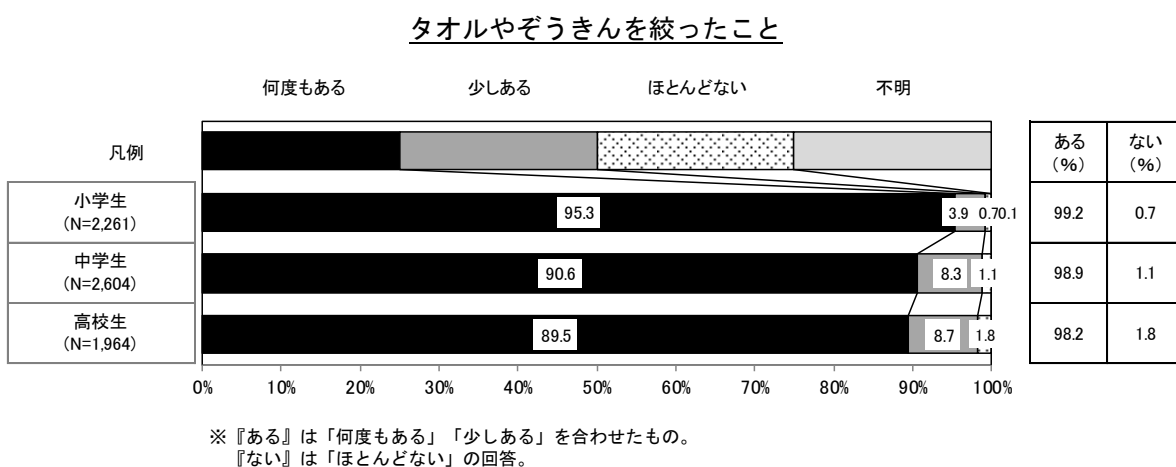
⑩ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと

〈ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと〉について尋ねたところ、「何度もある」は小学生で最も多く、6割台半ばとなっています。また、『ある』は小・中・高校生ともに9割を超えています。



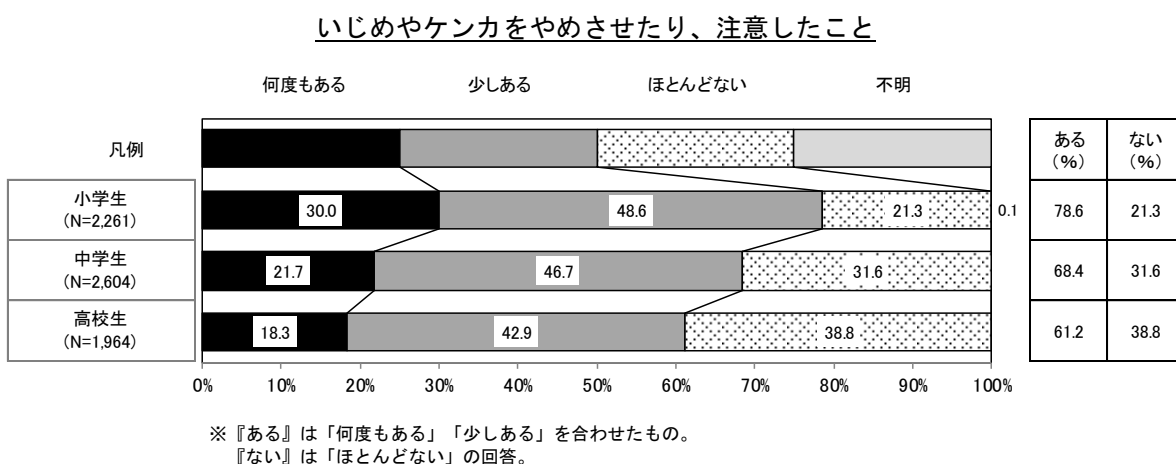
⑪タオルやぞうきを絞ったこと

〈タオルやぞうきを絞ったこと〉について尋ねたところ、「何度もある」は年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がみられます。また、小・中・高校生とも、ほぼ全員が『ある』となっています。



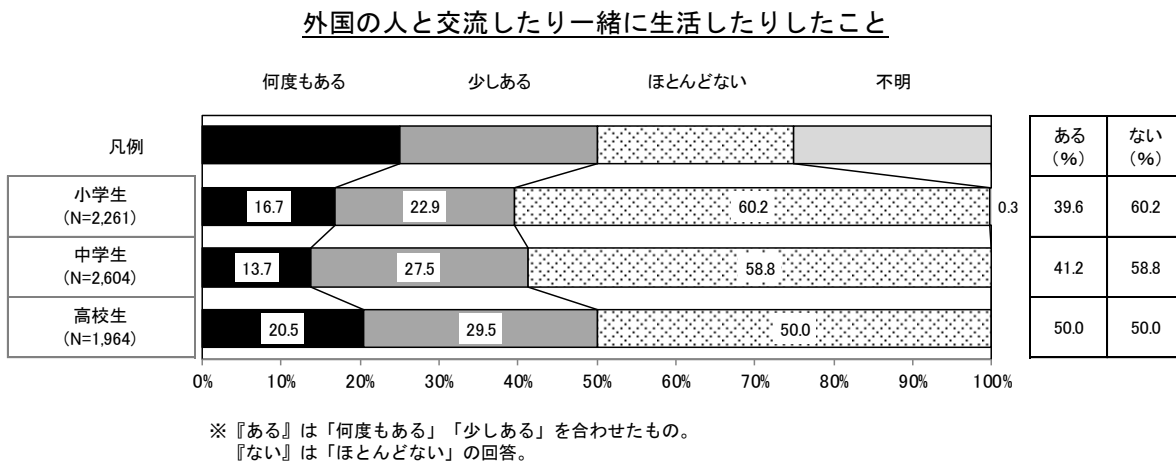
⑫いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと

〈いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと〉について尋ねたところ、「何度もある」は年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がみられます。また、『ある』は小学生で7割台後半となっており、中学生との差が10.2ポイント、高校生との差が17.4ポイントとなっています。



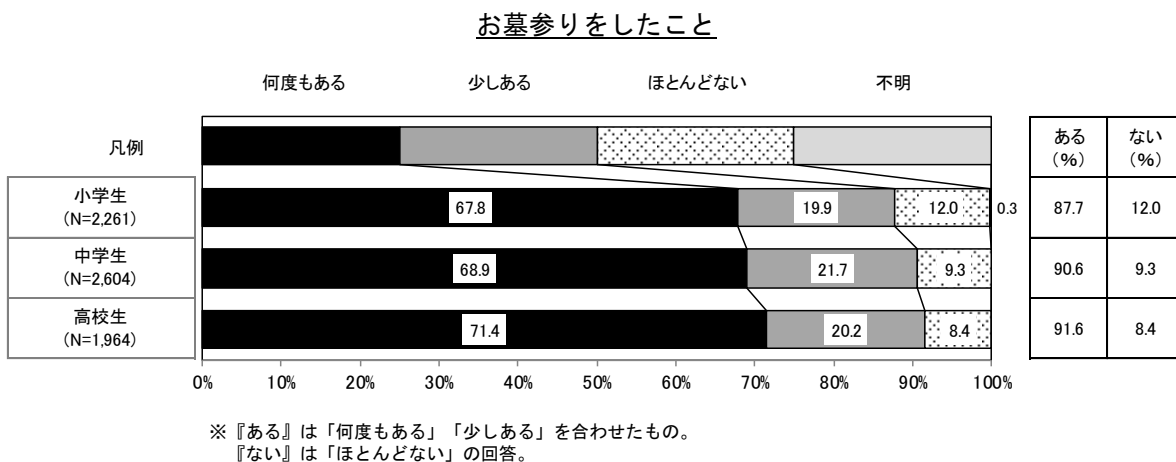
⑬外国の人と交流したり一緒に生活したりしたこと

〈外国の人と交流したり一緒に生活したりしたこと〉について尋ねたところ、『ある』は年齢が上がるにつれて多くなっており、高校生は『ある』が5割に上っています。



⑭お墓参りをしたこと

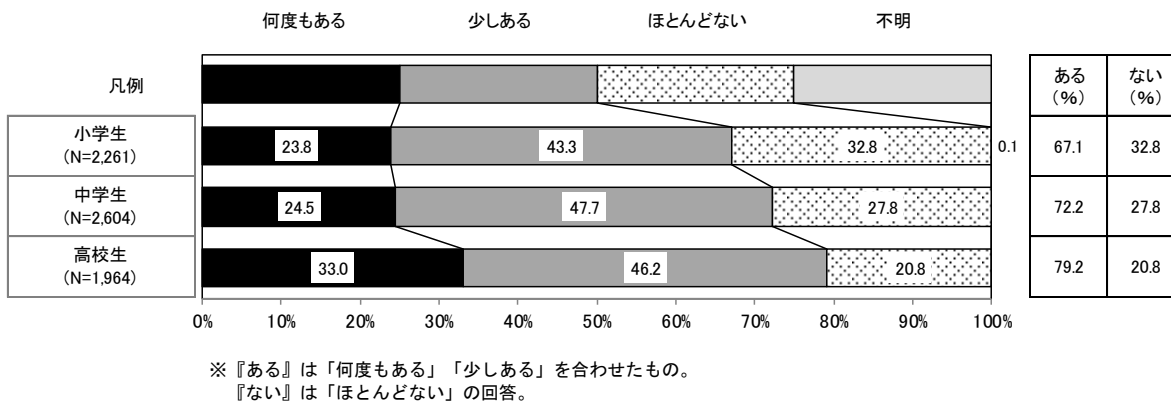
〈お墓参りをしたこと〉について尋ねたところ、『ある』は年齢が上がるとともに高くなる傾向がみられ、中学生、高校生で9割を超えています。



⑮体の不自由な人、お年寄り、困っている人などの手助けをしたこと

〈体の不自由な人、お年寄り、困っている人などの手助けをしたこと〉について尋ねたところ、年齢が上がるにつれて『ある』が多くなる傾向がみられ、小学生と高校生では 12.1 ポイントの差がみられます。

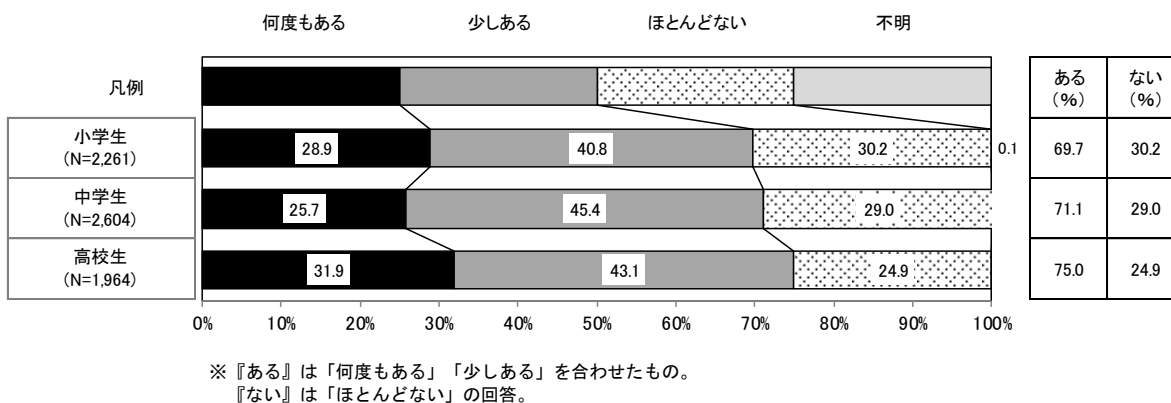
体の不自由な人、お年寄り、困っている人などの手助けをしたこと



⑯道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりしたこと

〈道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりしたこと〉について尋ねたところ、「何度もある」は小学生、高校生に比べて中学生でやや少なくなっています。また、『ある』は年齢が上がるにつれて多くなる傾向がみられ、高校生は 7 割台半ばとなっています。

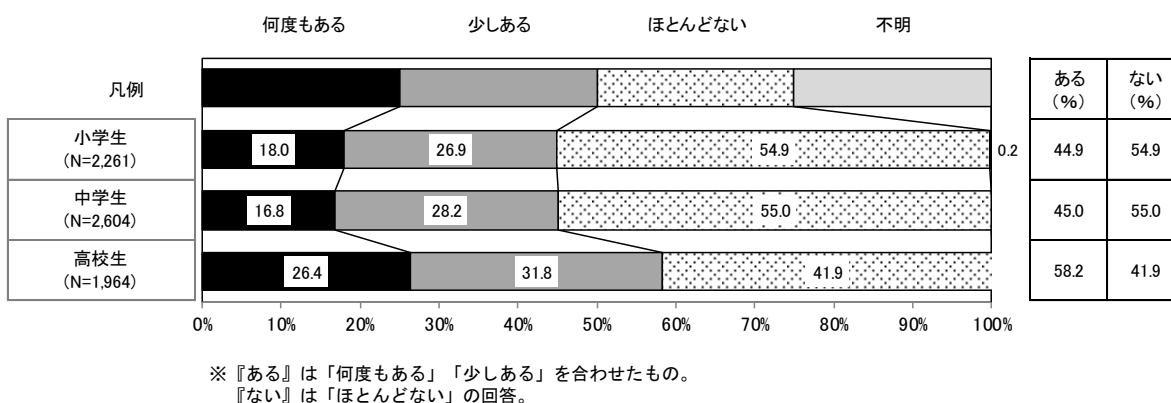
道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりしたこと



⑩体の不自由な人などの手助け、ゴミを拾ったこと以外のボランティア活動に参加したこと

〈体の不自由な人などの手助け、ゴミを拾ったこと以外のボランティア活動に参加したこと〉について尋ねたところ、小学生、中学生に比べて高校生で多くなっています。『ある』は高校生で5割台後半となっており、小学生と比べて13.3ポイント、中学生と比べて13.2ポイント多くなっています。

体の不自由な人などの手助け、ゴミを拾ったこと以外のボランティア活動に参加したこと



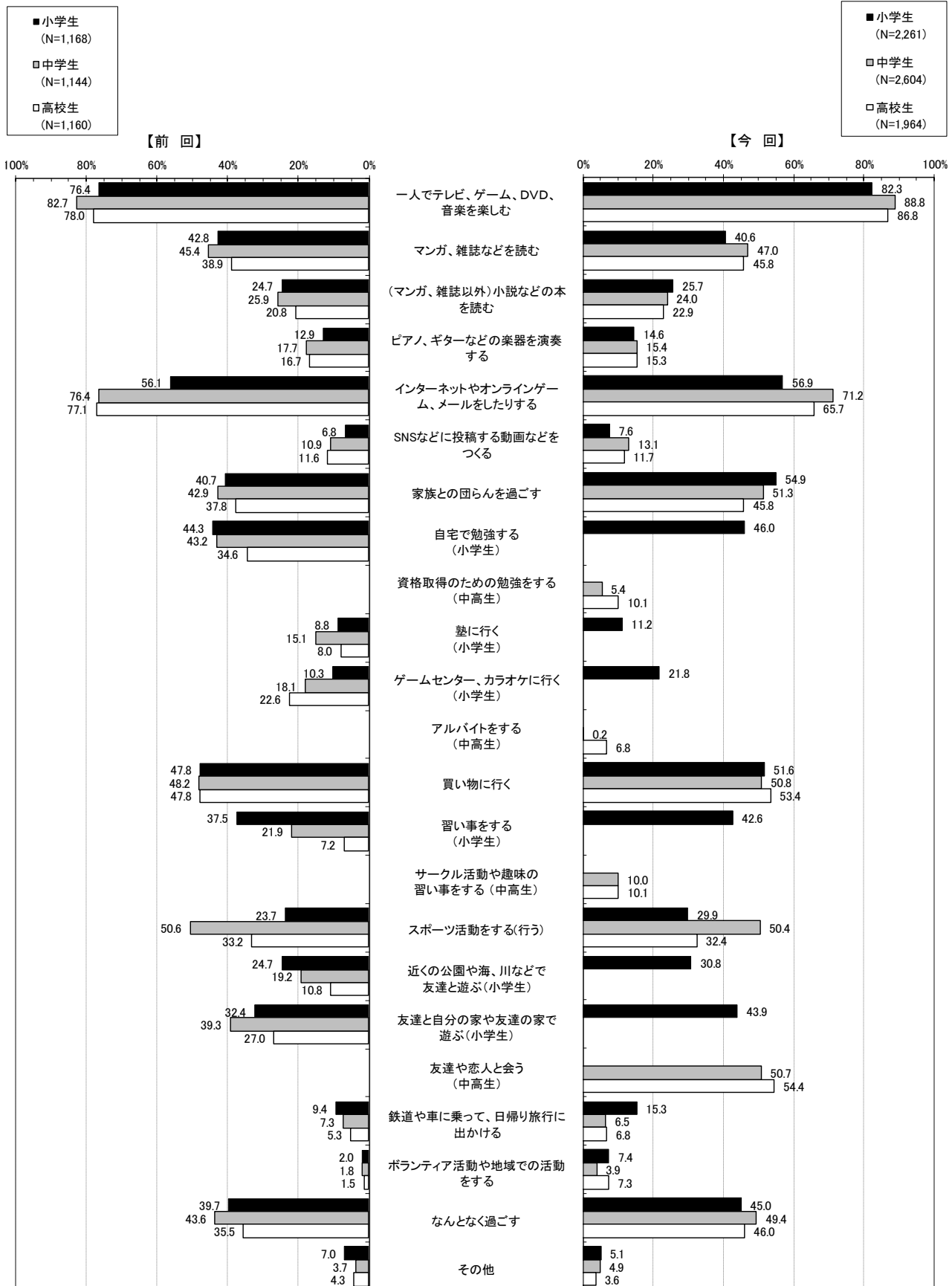
(3) 学校が休みの日にすること

学校が休みの日にすることについて尋ねたところ、小・中・高校生いずれも「一人でテレビ、ゲーム、音楽を楽しむ」が8割を超え、最も多くなっています。次いで小学生、中学生は「インターネットやオンラインゲームをしたり、メールのやりとりをしたりする」、「家族との団らんを過ごす」が、高校生は「インターネットやオンラインゲームをしたり、メールのやりとりをしたりする」、「友達や恋人と会う」となっており、年齢が上がるにつれて「家族との団らんを過ごす」は少なくなる傾向がみられます。

前回調査と比較すると、「一人でテレビ、ゲーム、音楽を楽しむ」、「家族との団らんを過ごす」は小・中・高校生すべてで増加しています。「家族との団らんを過ごす」は前回調査に比べて、小学生で14.2ポイント、中学生で8.4ポイント、高校生で8.0ポイント増加しています。

また、「何となく過ごす」も小・中・高校生ともに増加しており、特に高校生で10.5%増加しています。

学校が休みの日にすること



※以下の選択肢は前回と若干表現を変更しているが、前回比較において、同義で扱っている。

「インターネットやオンラインゲーム、メールをしったりする」(前回「パソコン、スマートフォン(携帯電話)、タブレットなどでインターネットを利用したり、メールのやりとりをしったりする」)、「習い事をする(小学生)」(前回「習い事(習字、英会話、スポーツなど)をする」)、「近くの公園や海、川などで友達と遊ぶ(小学生)」(前回「近くの公園や海、川、空き地などで友達と遊ぶ」)、「鉄道や車に乗って、日帰り旅行に出かける」(前回「ハイキング、鉄道、ドライブなどの小旅行を楽しむ」)

※「資格取得のための勉強をする(中学生)」、「アルバイトをする(中学生)」、「サークル活動や趣味の習い事をする(中学生)」、「友達や恋人と会う(中学生)」は今回調査からの項目。

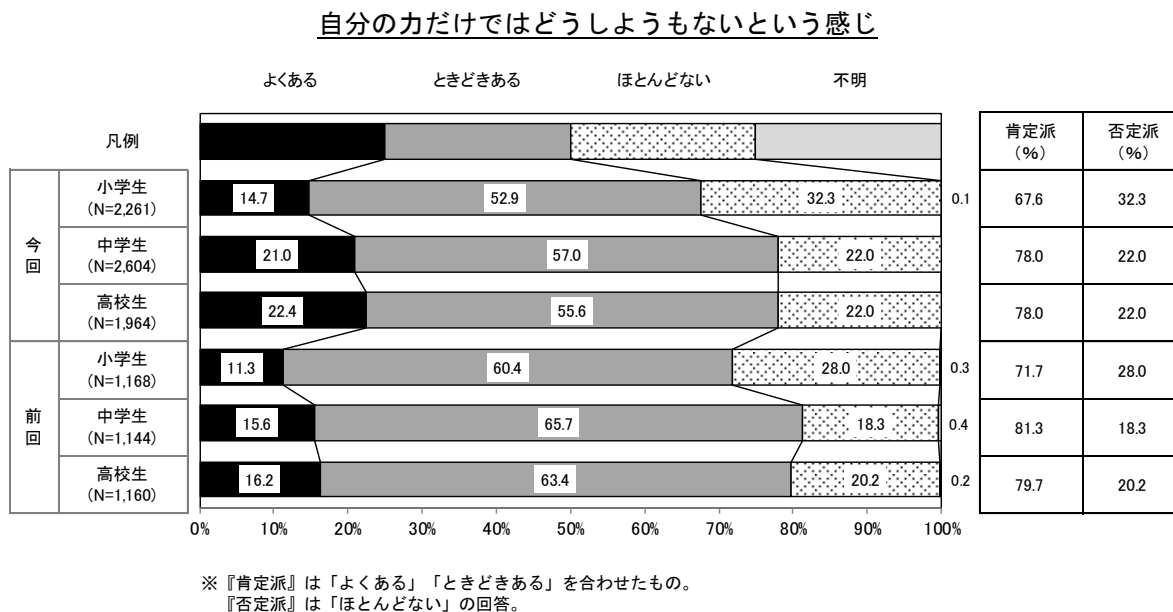
3. 日ごろ考えていることについて

(1) 抑うつ傾向

①自分の力だけではどうしようもないという感じ

〈自分の力だけではどうしようもないという感じ〉について尋ねたところ、年齢が上がるほど「よくある」は多くなっており、『肯定派』は中学生、高校生で78.0%を占めています。

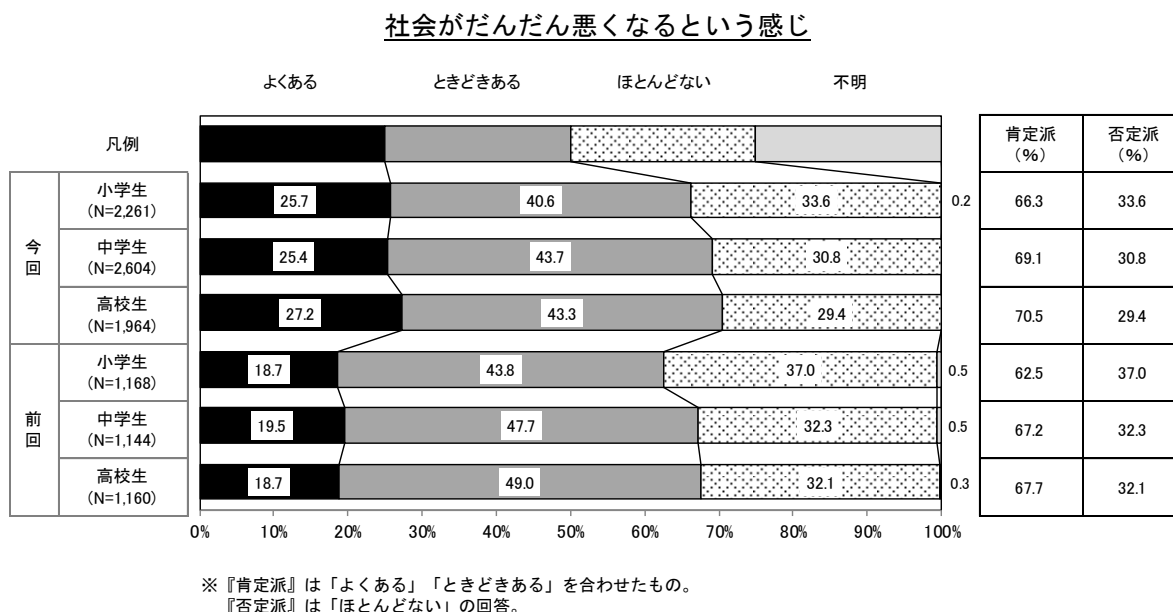
前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに「ときどきある」が減少、小学生、中学生で「ほとんどない」が増加し、小学生、中学生は『肯定派』が減少しています。



②社会がだんだん悪くなるという感じ

〈社会がだんだん悪くなるという感じ〉について尋ねたところ、小・中・高校生で大きな差はみられません。『肯定派』は小学生で6割台後半、中学生、高校生で約7割となっています。

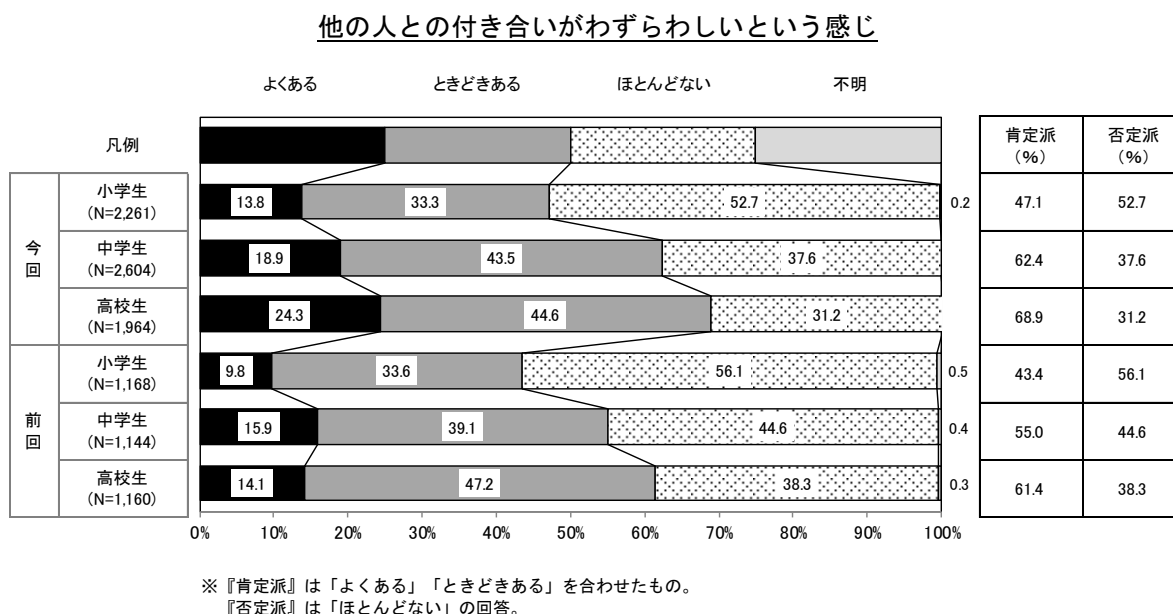
前回調査と比較すると、中学生、高校生で「ときどきある」がやや減少していますが、大きな変化はみられません。



③他の人との付き合いがわずらわしいという感じ

〈他の人との付き合いがわずらわしいという感じ〉について尋ねたところ、年齢が上がるほど『肯定派』は多くなっており、高校生で6割台後半となっています。なお、小学生は『否定派』が5割前後と多くなっています。

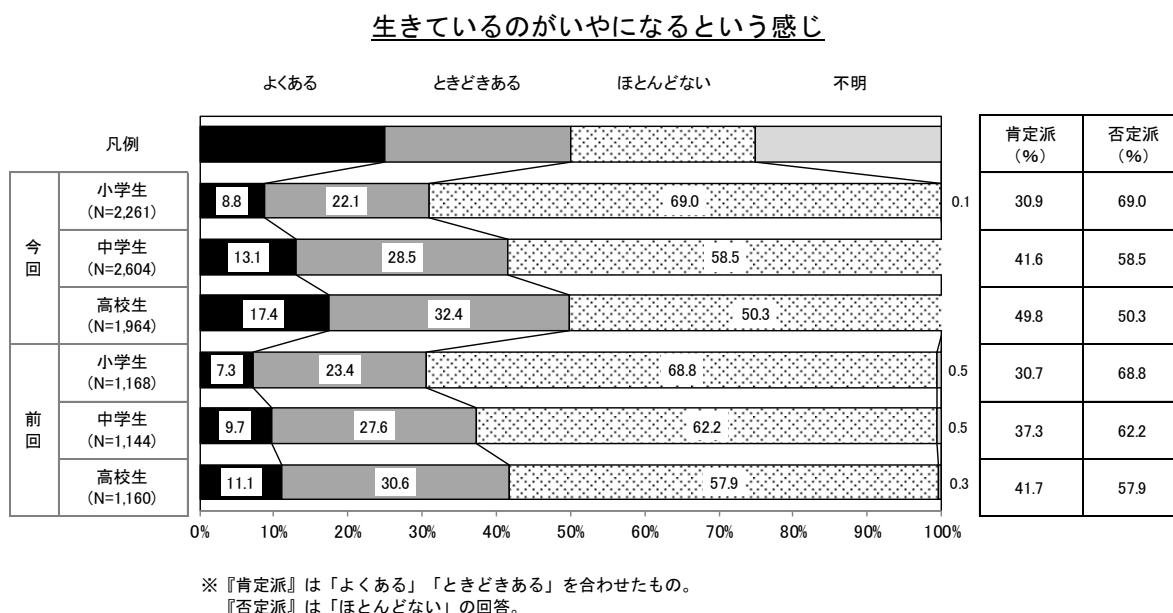
前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに『肯定派』が増加しています。



④生きているのがいやになるという感じ

〈生きているのがいやになるという感じ〉について尋ねたところ、小・中・高校生とも「ほとんどない」が最も多いですが、年齢が上がるほど「よくある」、「ときどきある」は多くなっており、『肯定派』は高校生で5割弱となっています。

前回調査と比較すると、中学生、高校生で『肯定派』が増加し、中学生で4.3ポイント増、高校生で8.1ポイント増となっています。小学生は大きな変化はみられません。

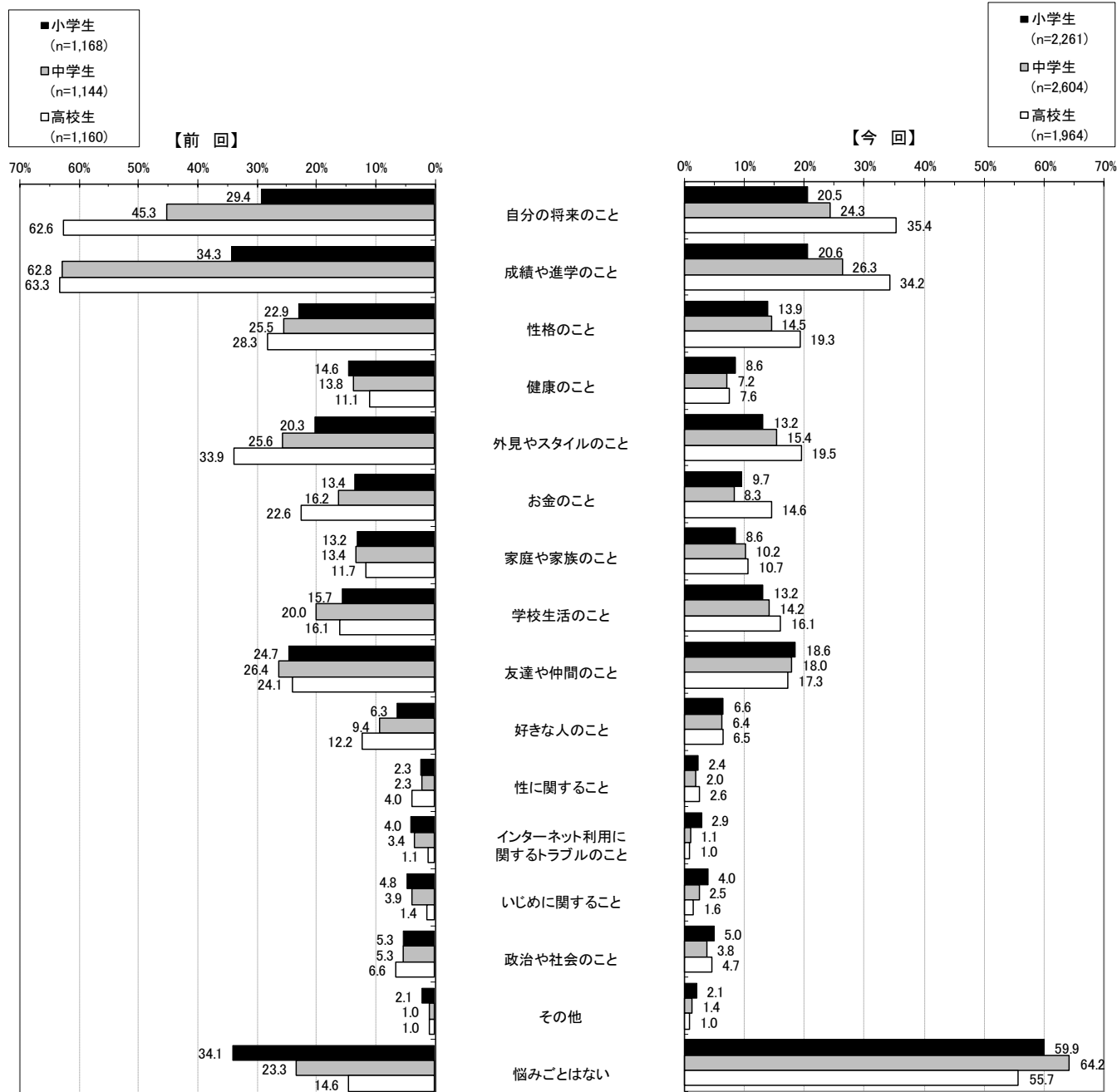


(2) 日ごろの悩みごと

日ごろの悩みごとについて尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「悩みごとはない」が最も多く、次いで「自分の将来のこと」、「成績や進学のこと」となっています。また、「自分の将来のこと」、「成績や進学のこと」、「外見やスタイルのこと」は年齢が上がるにつれて多くなっています。

前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに「自分の将来のこと」、「成績や進学のこと」、「外見やスタイルのこと」は大幅に減少し、「悩みごとはない」が大幅に増加しています。

日ごろの悩みごと



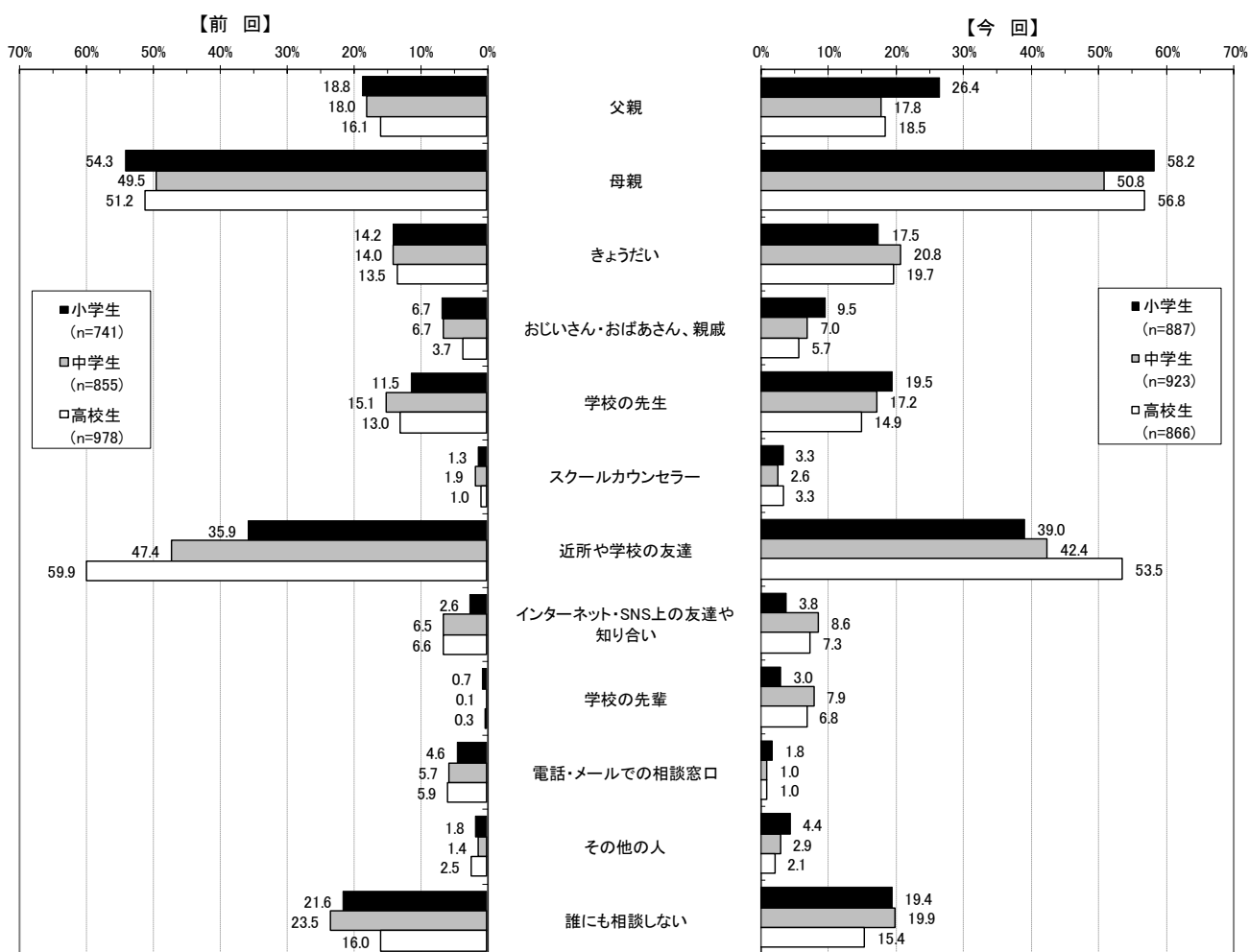
※「好きな人のこと」は前回「異性との付き合い」と同義で扱っている。

(3) 悩みごとの相談相手

悩みごとがあると回答した人に、その相談相手を尋ねたところ、小・中・高校生ともに「母親」が最も多くなっています。また、年齢が上がるにつれて「近所や学校の友達」が多くなる傾向がみられます。また、「誰にも相談しない」は小学生、中学生で2割弱、高校生で1割台半ばとなっています。

前回調査と比較すると、小学生で「父親」が7.6ポイント増加、中学生、高校生で「近所や学校の友達」が減少しており、中学生で5.0ポイント減少、高校生で6.4ポイント減少しています。

悩みごとの相談相手



4. 家族について

(1) 食事を一緒にする人

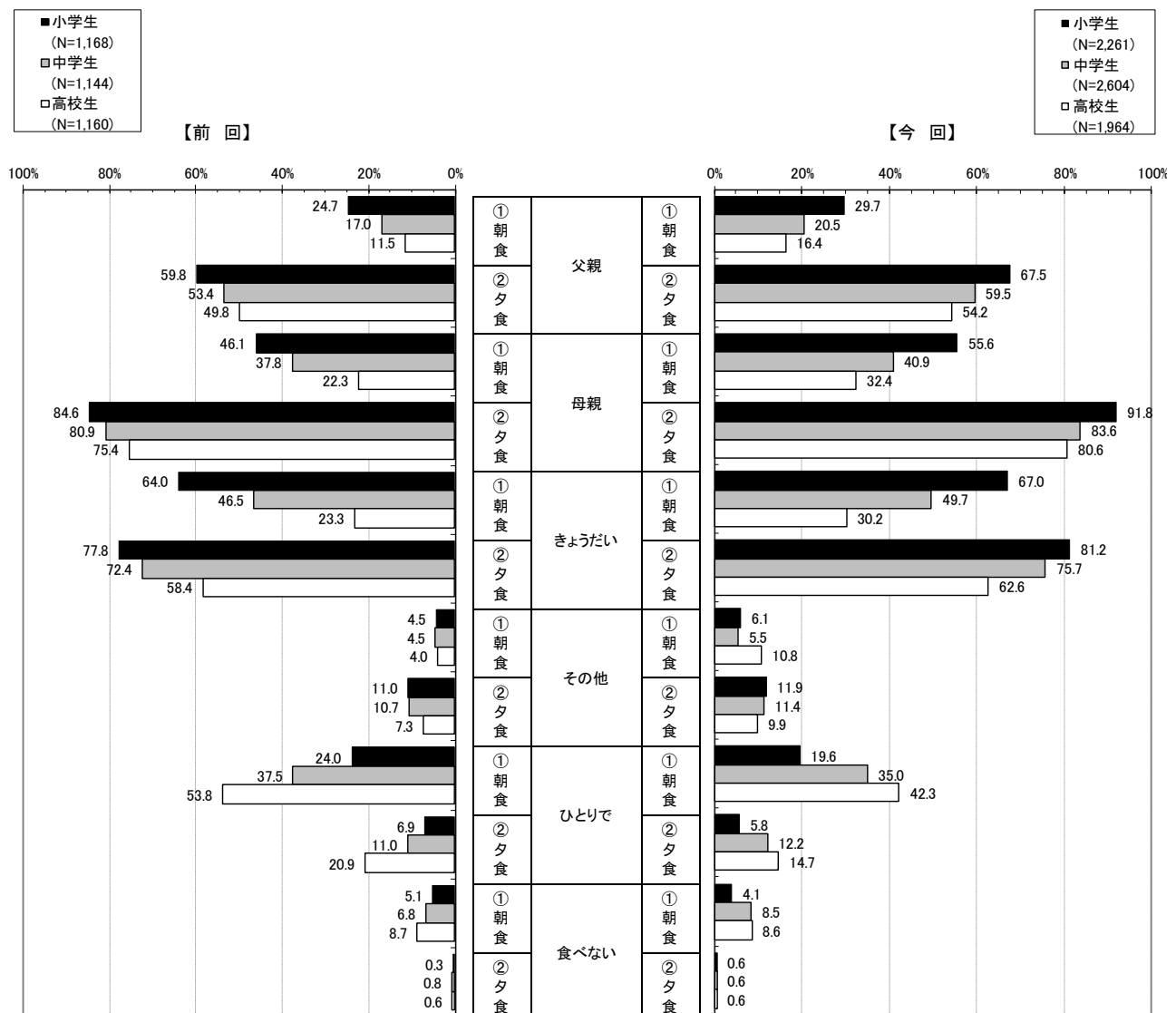
食事を一緒にする人について尋ねたところ、朝食については小学生、中学生では「きょうだい」、高校生では「ひとりで」が最も多くなっています。特に、「ひとりで」は年齢が上がるにつれて多くなる傾向がみられ、小学生では2割、中学生で3割台半ば、高校生で4割台前半となっています。

一方、夕食については小・中・高校生すべてで「母親」が最も多く、次いで「きょうだい」、「父親」が5割を超えています。中学生、高校生は「ひとりで」が1割台前半で、小学生に比べて多くなっています。

朝食と夕食の食事形態をみると、夕食は朝食に比べて「父親」と一緒に食事をしている子どもが多い傾向がみられます。

前回調査と比較すると、小・中・高校生とも、朝食を「ひとりで」は減少しており、特に高校生で、朝食を「ひとりで」は11.5%減少しています。

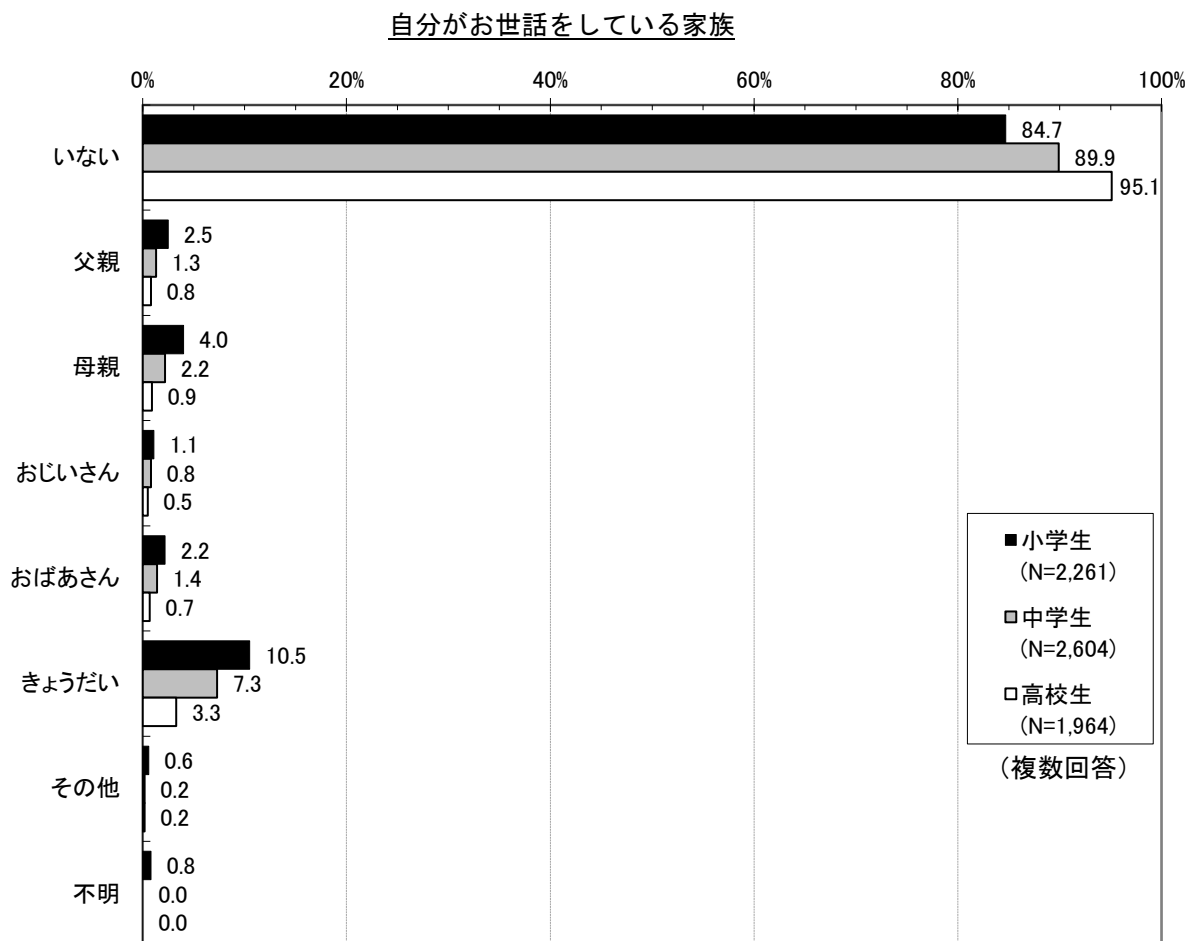
食事を一緒にする人



(2) 自分がお世話をしている家族

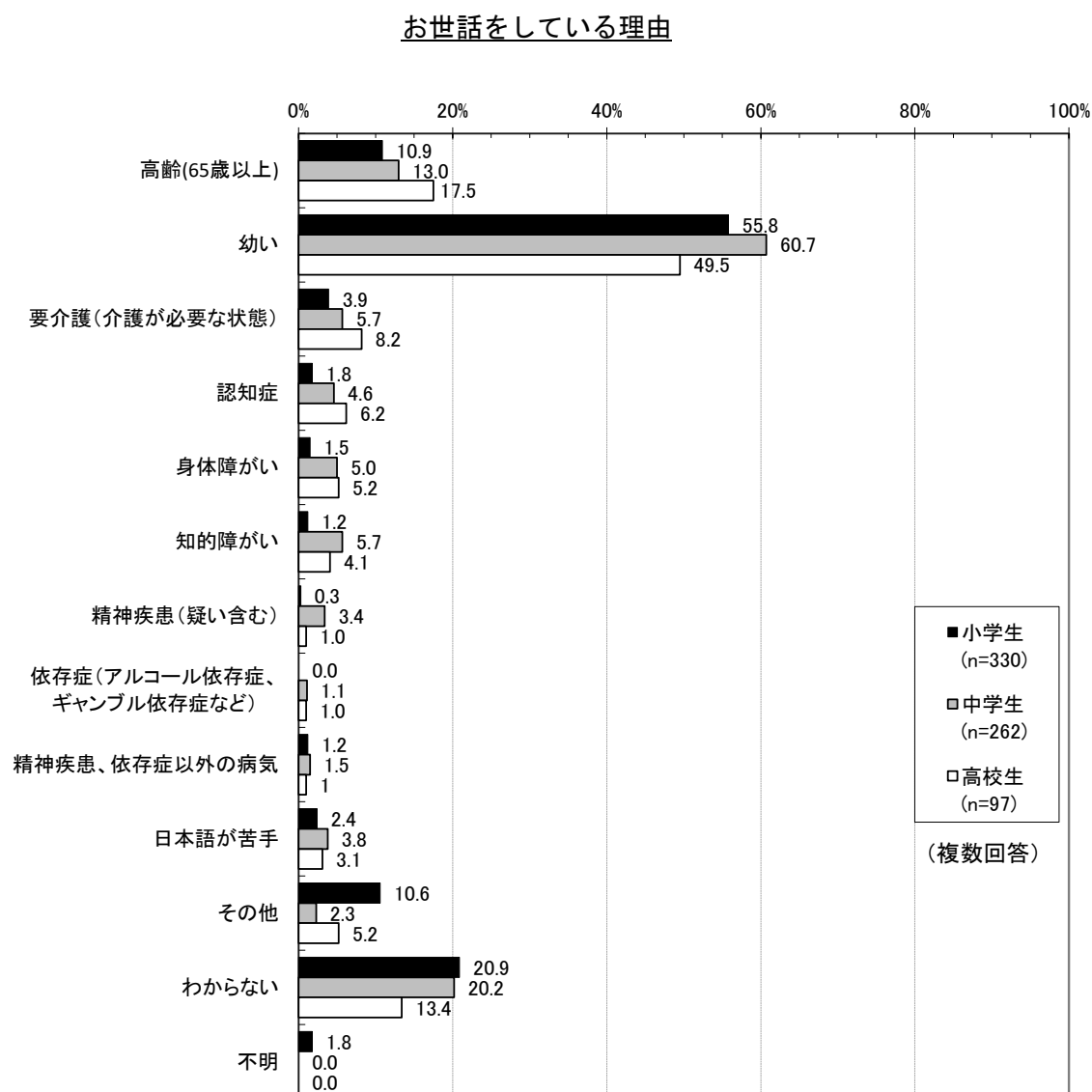
自分がお世話をしている家族（「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをする事です）について尋ねたところ、小学生では「いない」が84.7%、中学生が89.9%、高校生が95.1%です。

小学生で自分がお世話をしている家族がいる割合は14.5%、中学生は10.1%、高校生は4.9%で、小・中・高校生とも「きょうだい」が最も多くなっています。



(3) お世話をしている理由

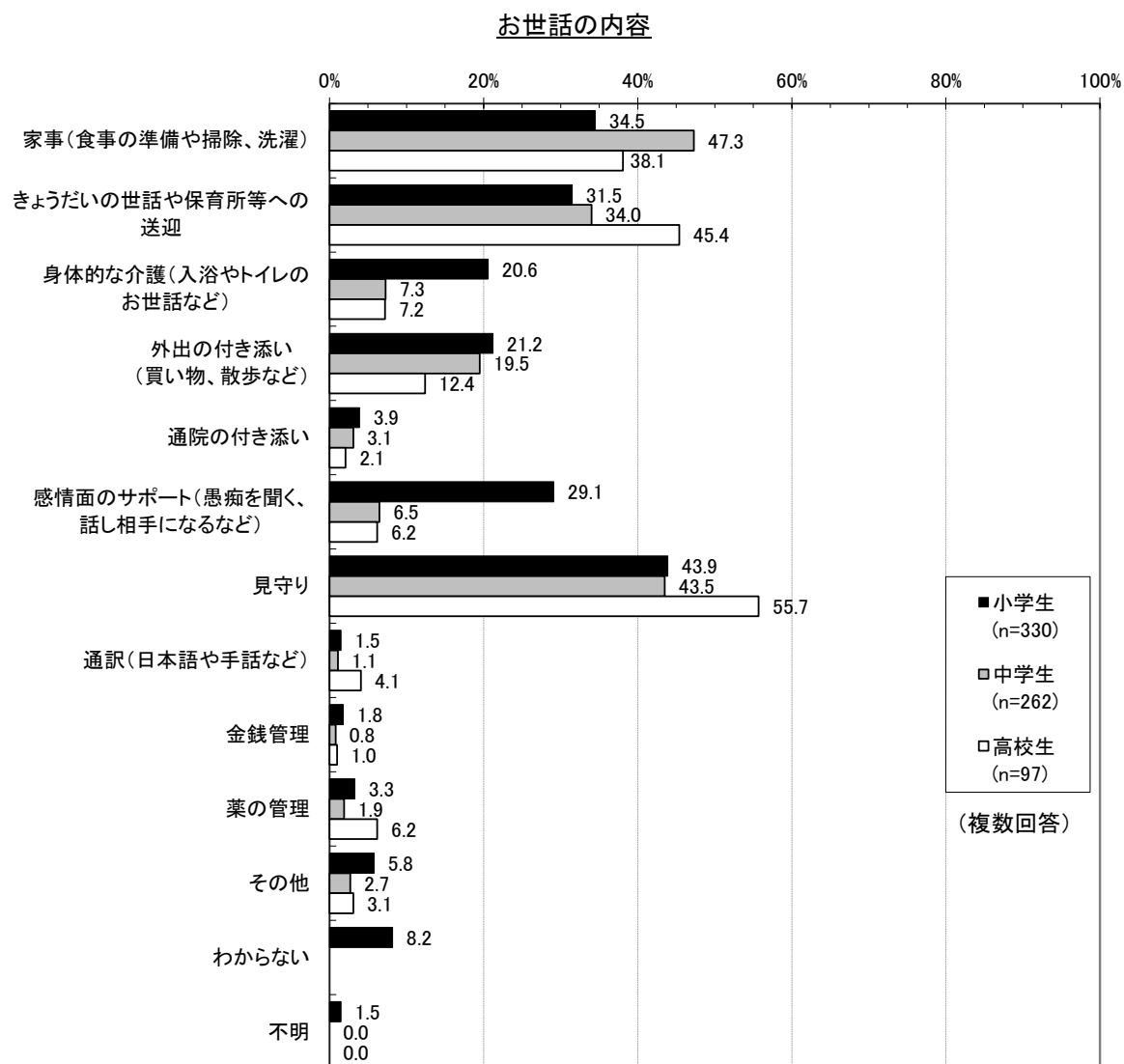
お世話をしている理由について尋ねたところ、小・中・高校生とも「若い」が最も多く、次が「高齢（65歳以上）」となっています。



(4) 自分が行っているお世話の内容

自分が行っているお世話の内容について尋ねたところ、小学生、高校生では「見守り」が最も多く、中学生では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多くなっています。

また、中学生、高校生と表現を変えていますが、小学生で「入浴やトイレのお世話」、「話を聞く」が中学生、高校生に比べて多くなっています。



※「わからない」は小学生のみ設定

※小学生は中・高校生に比べて、わかりやすい表現に変更している。

「きょうだいの世話や保育所等への送迎」→「きょうだいの世話や送り迎え」

「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」→「入浴やトイレのお世話」

「外出の付き添い（買い物、散歩など）」→「買い物、散歩と一緒にいく」

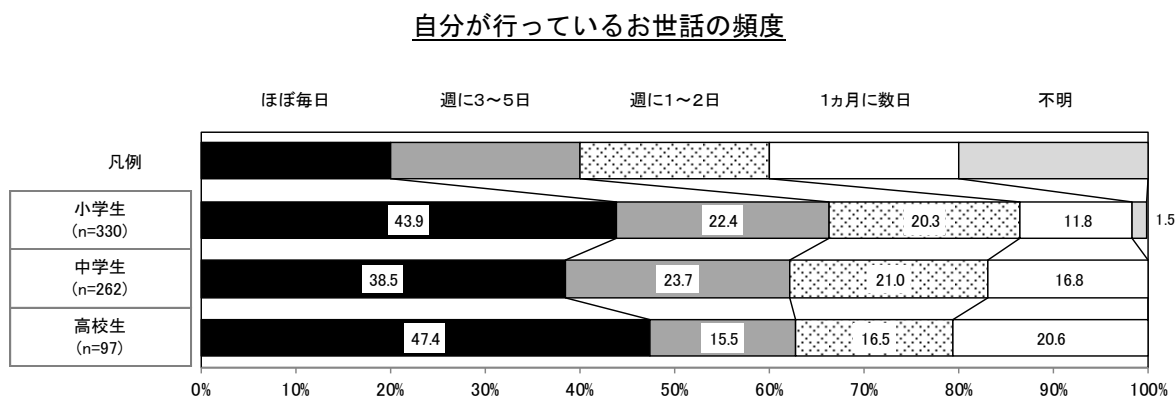
「通院の付き添い」→「病院と一緒にいく」

「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」→「話を聞く」

「金銭管理」→「お金の管理」

(5) 自分が行っているお世話の頻度

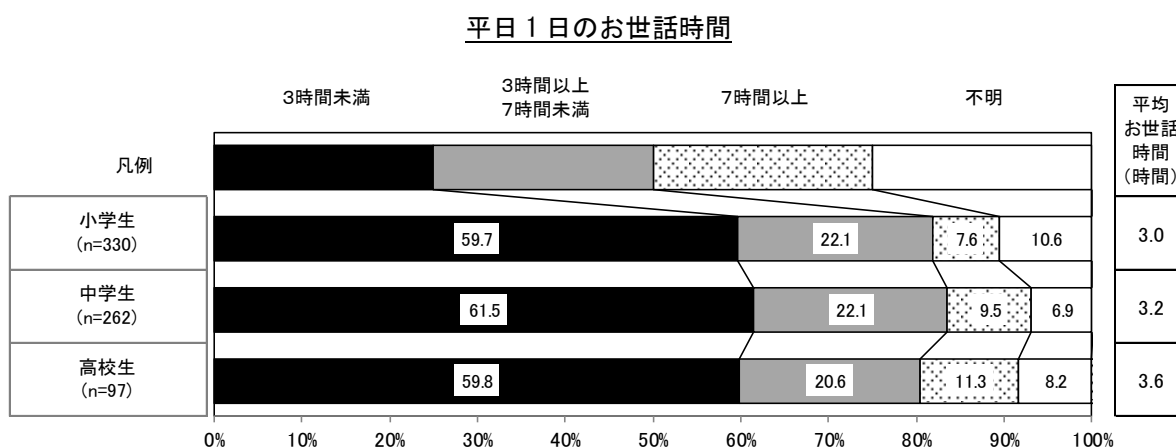
自分が行っているお世話の頻度について尋ねたところ、小・中・高校生とも「ほぼ毎日」が最も多く、高校生では47.4%が「ほぼ毎日」と回答しています。



(6) 平日1日のお世話時間

平日1日のお世話時間（日によって異なる場合はこの1か月の中で最も長かった日の時間）について尋ねたところ、平均お世話時間は小学生が3.0時間、中学生が3.2時間、高校生が3.6時間でした。

小・中・高校生とも「3時間未満」が最も多いですが、「3時間以上7時間未満」が2割を超えており、高校生は「7時間以上」が1割を超えています。



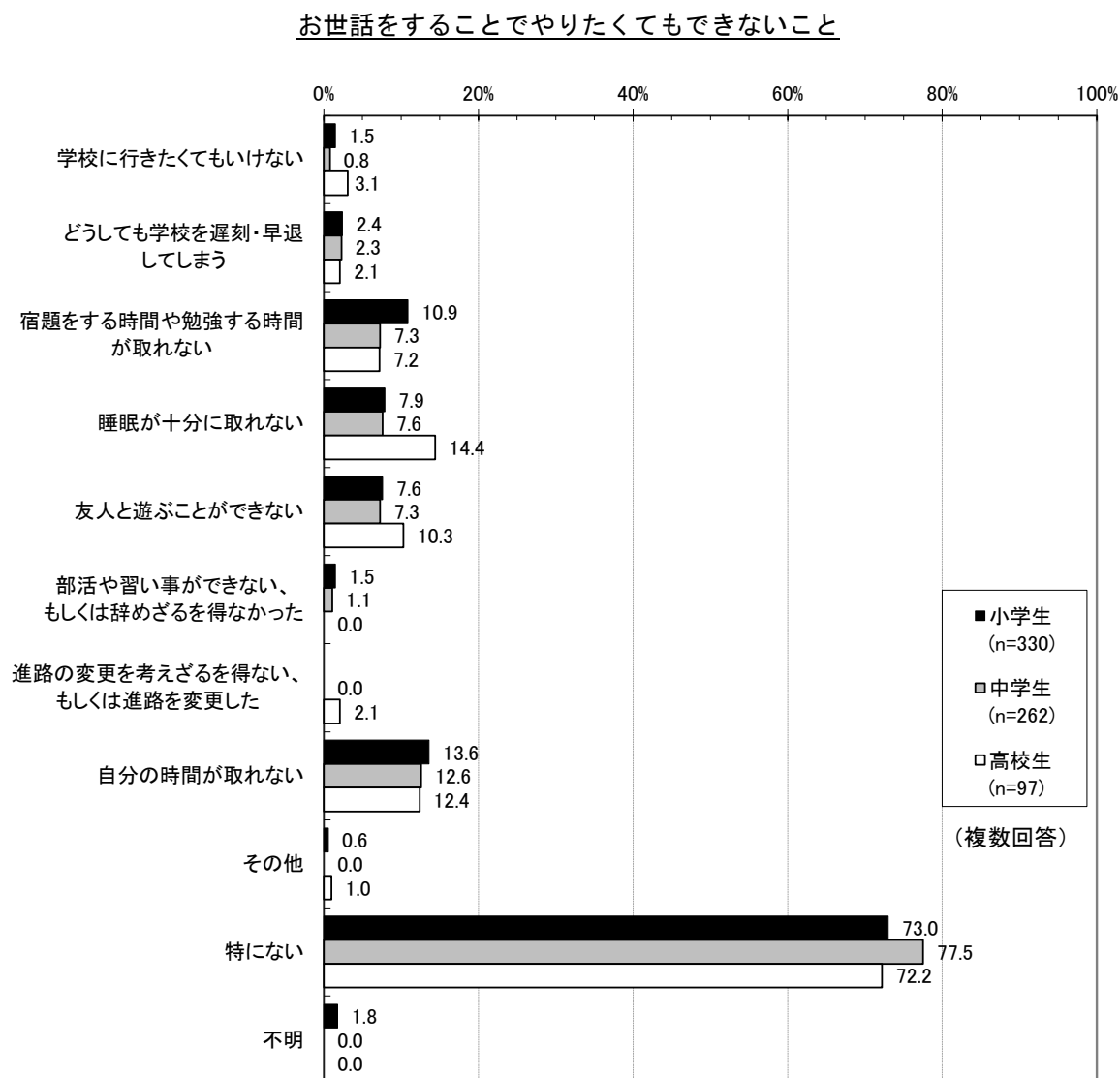
※『平均お世話時間』はお世話時間（実時間）の平均時間（無回答除く）。

(7) お世話することでやりたくてもできないこと

家族のお世話をすることでやりたくてもできないことについて尋ねたところ、小・中・高校生ともに「特にない」が7割を超えています。できないことでは、小学生、中学生で「自分の時間が取れない」が最も多く、高校生で「睡眠が十分とれない」が最も多くなっています。

このほか、小学生では「宿題など勉強をする時間がない」が10.9%、高校生では「友人と遊ぶことができない」が10.3%となっています。

「学校に行きたくてもいけない」、「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」など、通学に支障があるケースも1~3%と少数ですが回答されています。



※「進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した」は中・高校生のみ設定

※小学生は上記の表現からわかりやすい表現に変更している。

「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」→「学校を遅刻・早退してしまう」

「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」→「宿題など勉強をする時間がない」

「睡眠が十分に取れない」→「眠る時間がたりない」

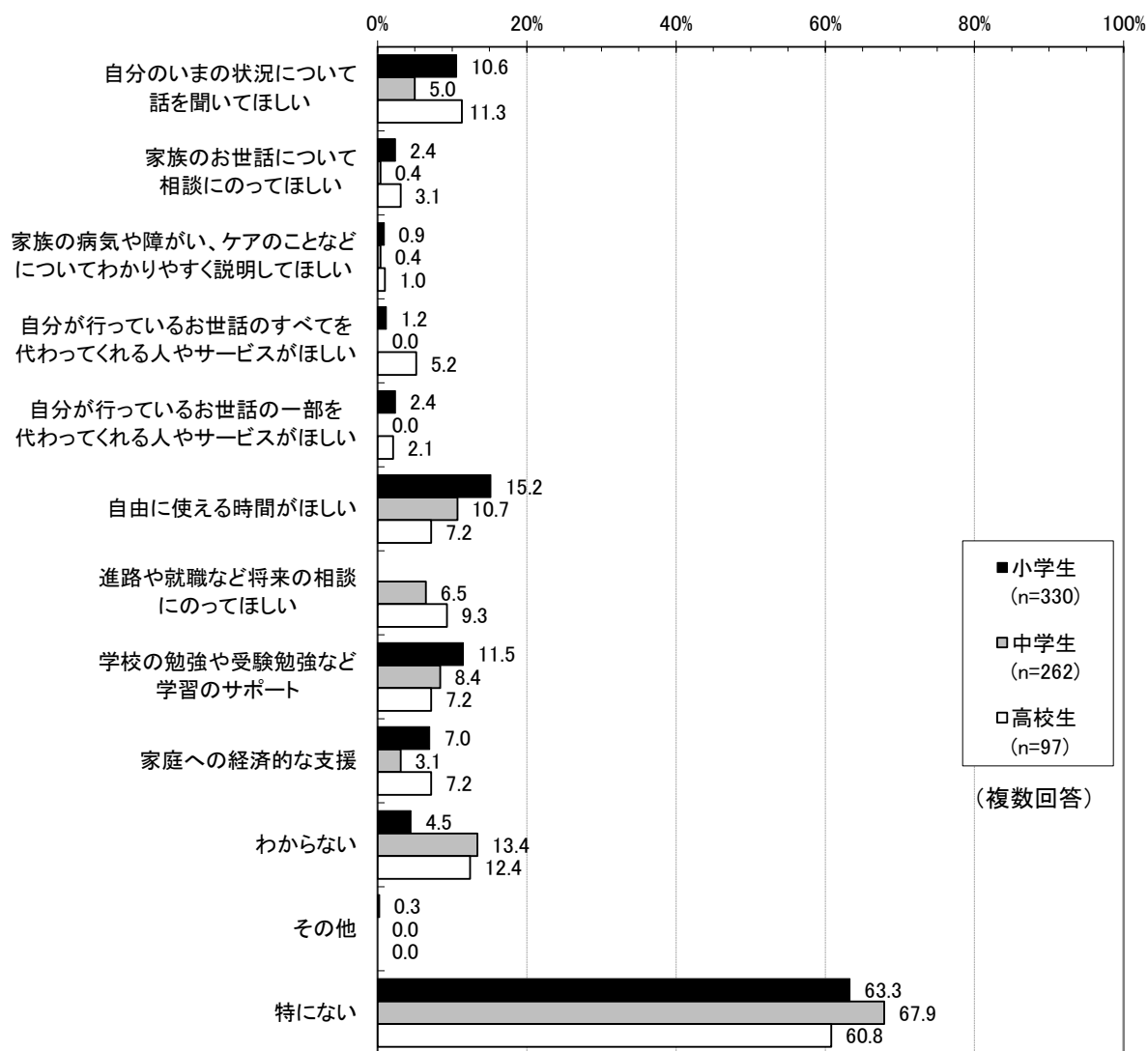
「部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった」→「習い事ができない」

(8) 学校や周りの大人にしてほしいことや支援内容

学校や周りの大人にしてほしいことや支援内容について尋ねたところ、小・中・高校生ともに「特にない」が6割を超えています。してほしいことや支援内容では、小学生、中学生で「自由に使える時間がほしい」が最も多く、高校生で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が最も多くなっています。

小学生は「勉強を教えてほしい」が11.5%と1割を超えています。

学校や周りの大人にしてほしいことや支援内容



※「進路や就職など将来の相談にのってほしい」は中・高校生のみ設定

※小学生は上記の表現からわかりやすい表現に変更している。

「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」→「自分のことについて話を聞いてほしい」

「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」→「家族の病気や障がい、お世話のことについてわかりやすく説明してほしい」

「自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」→「自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい」

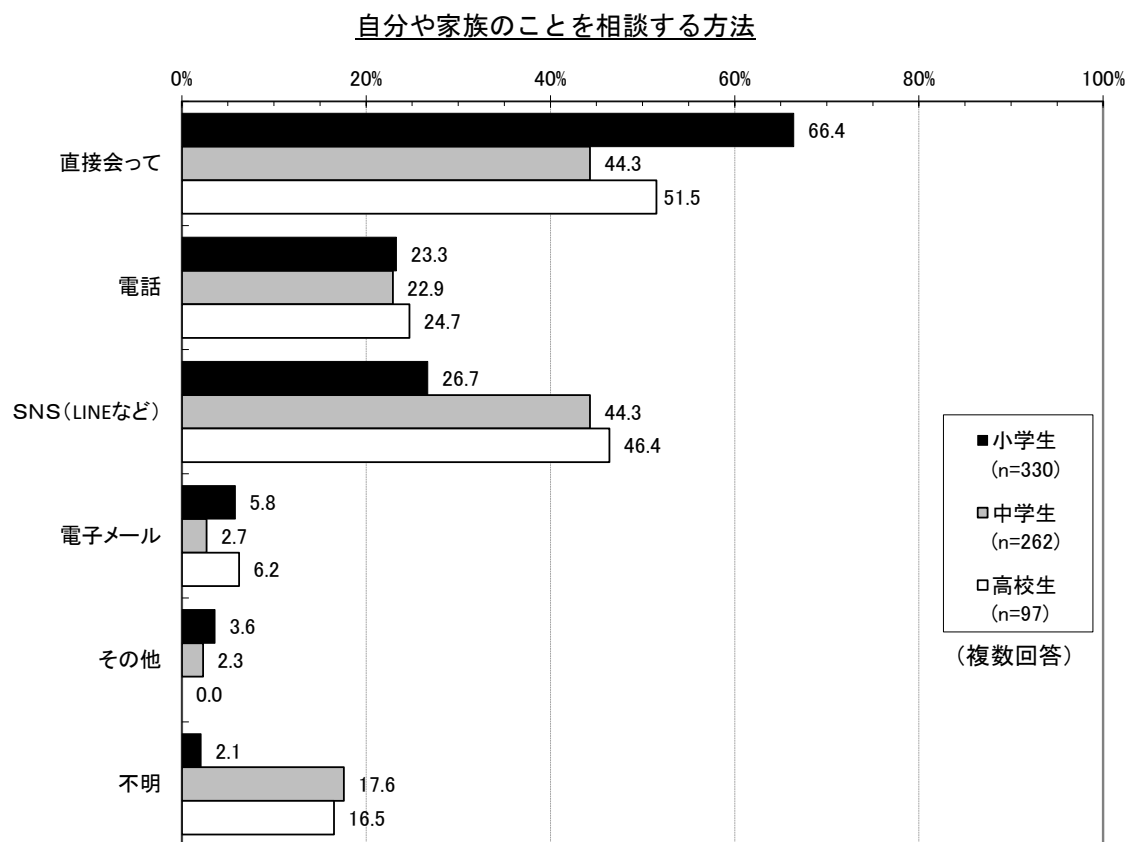
「自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい」→「自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい」

「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」→「勉強を教えてほしい」

「家庭への経済的な支援」→「お金の面で支援をしてほしい」

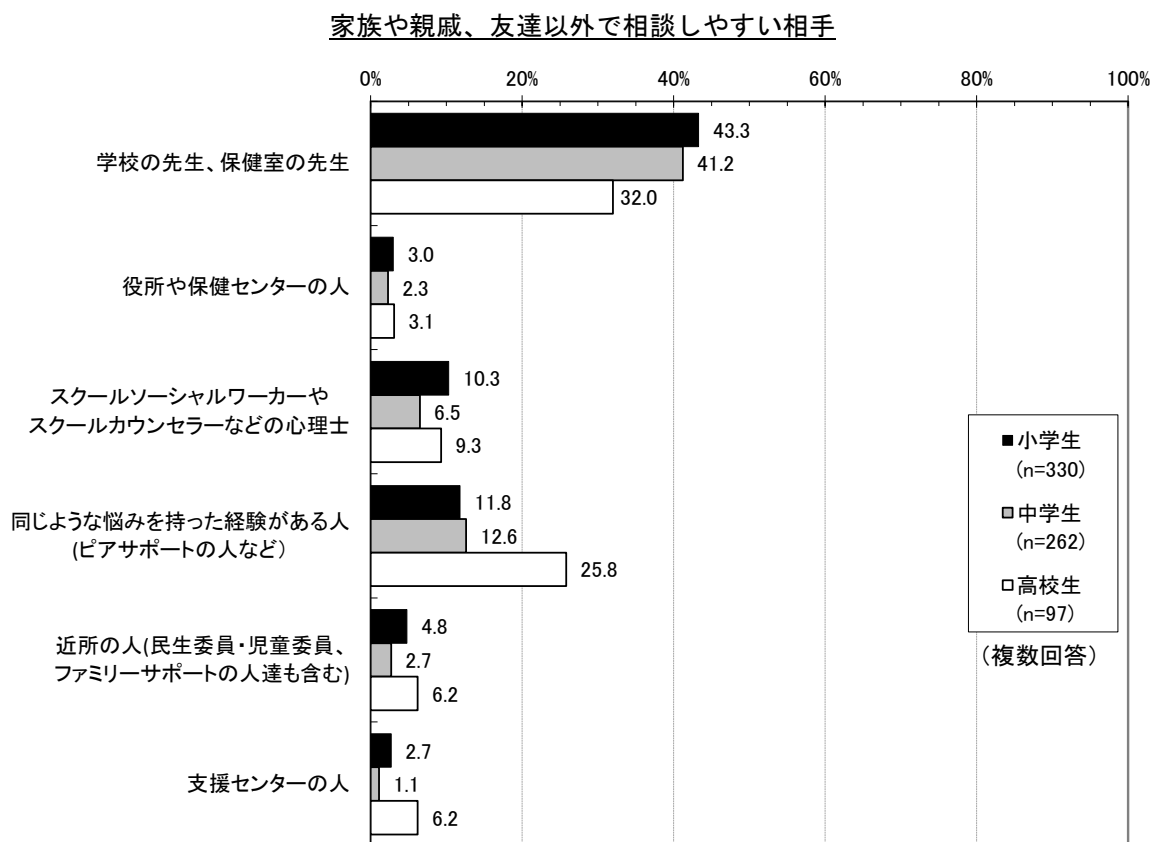
(9) 自分や家族のことを相談する方法

自分や家族のことを相談する方法について尋ねたところ、小学生、高校生は「直接会って」が最も多く、小学生では6割を大きく超えています。中学生は「直接会って」と「SNS（LINEなど）」が同率となっています。



(10) 家族や親戚、友達以外で相談しやすい相手

家族や親戚、友達以外で相談しやすい相手について尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「学校の先生、保健室の先生」が最も多くなっています。このほか、高校生は「同じような悩みを持った経験がある人(ピアサポートの人など)」が25.8%と多くなっています。



※小学生は上記の表現からわかりやすい表現に変更している。

「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの心理士」→「スクールカウンセラー」

「同じような悩みを持った経験がある人(ピアサポートの人など)」→「同じようにお世話をしたことがある人」

「近所の人(民生委員・児童委員、ファミリーサポートの人達も含む)」→「近所の人」

(11) ヤングケアラーという自覚

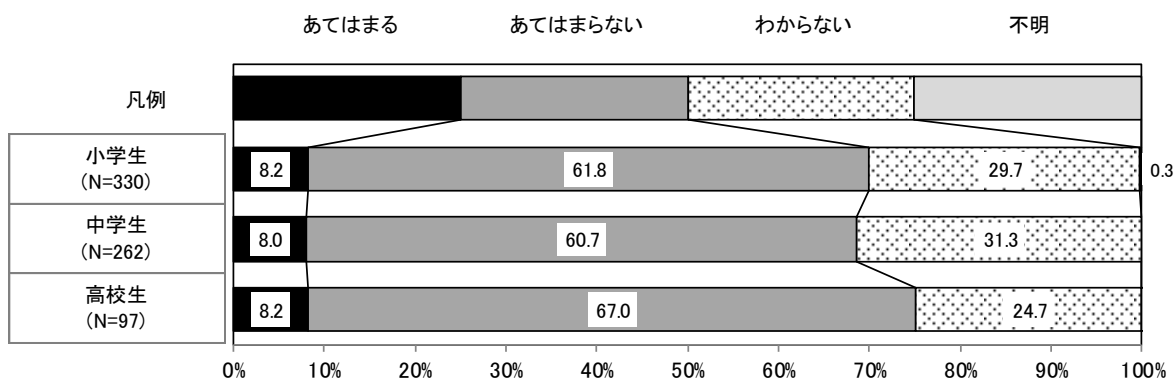
「ヤングケアラー」の説明文を掲げたうえで、自分がヤングケアラーに当てはまるかどうか尋ねたところ、「あてはまる」は小学生で2.2%、中学生で1.8%、高校生で1.6%でした。

このうち、お世話をしている家族がいる小・中・高校生では、小学生、高校生が8.2%、中学生が8.0%となっています。

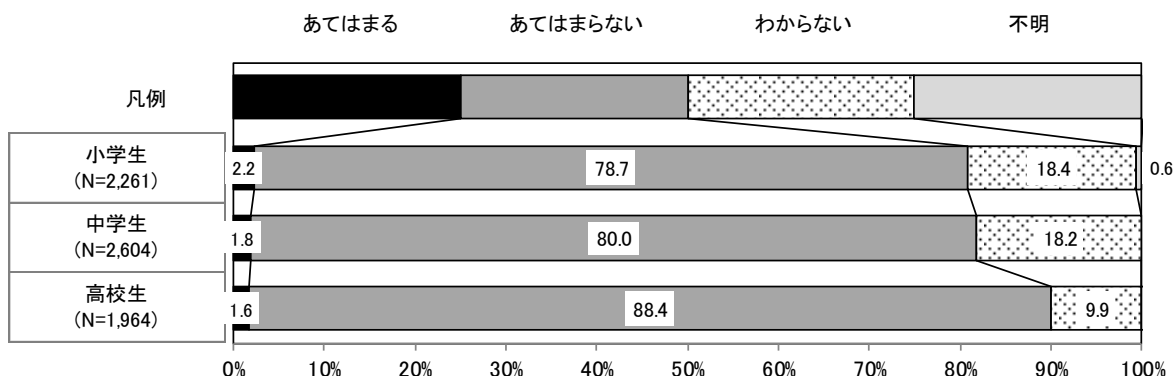
【ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、こども自身がやりたいことができないなど、こども自身の権利が守られていないと思われるこども」のことをいいます。】



ヤングケアラーという自覚（お世話する家族がいる場合）



ヤングケアラーという自覚（小・中・高校生全員）



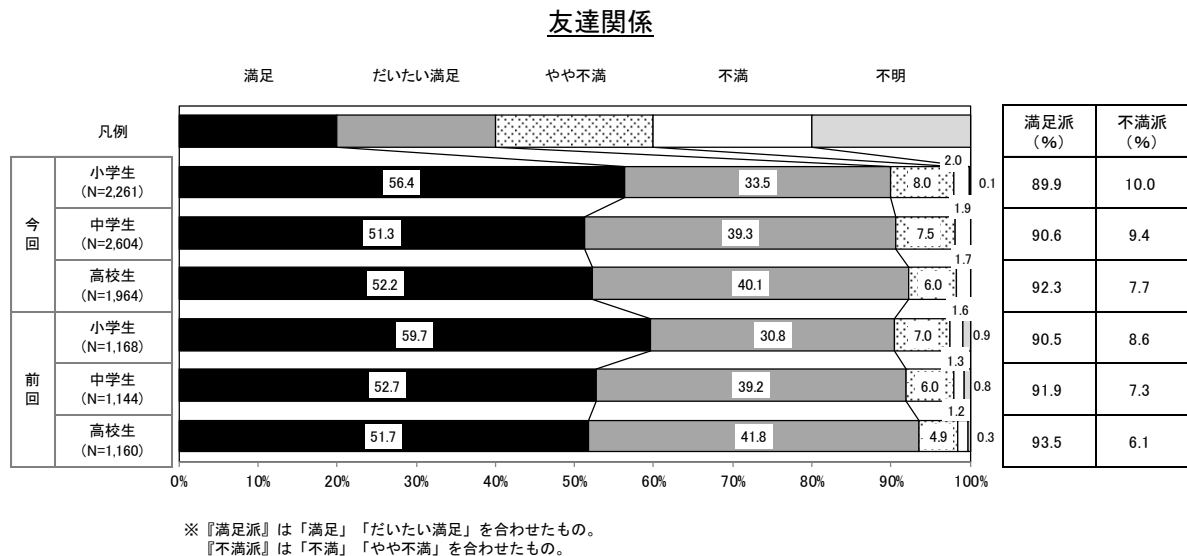
5. 学校生活

(1) 学校生活の満足度

① 友達関係

〈友達関係〉についての満足度を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「満足」が最も多く、小学生では5割後半と中学生、高校生に比べ多くなっています。また、『満足派』は小・中・高校生ともほぼ9割を占めています。

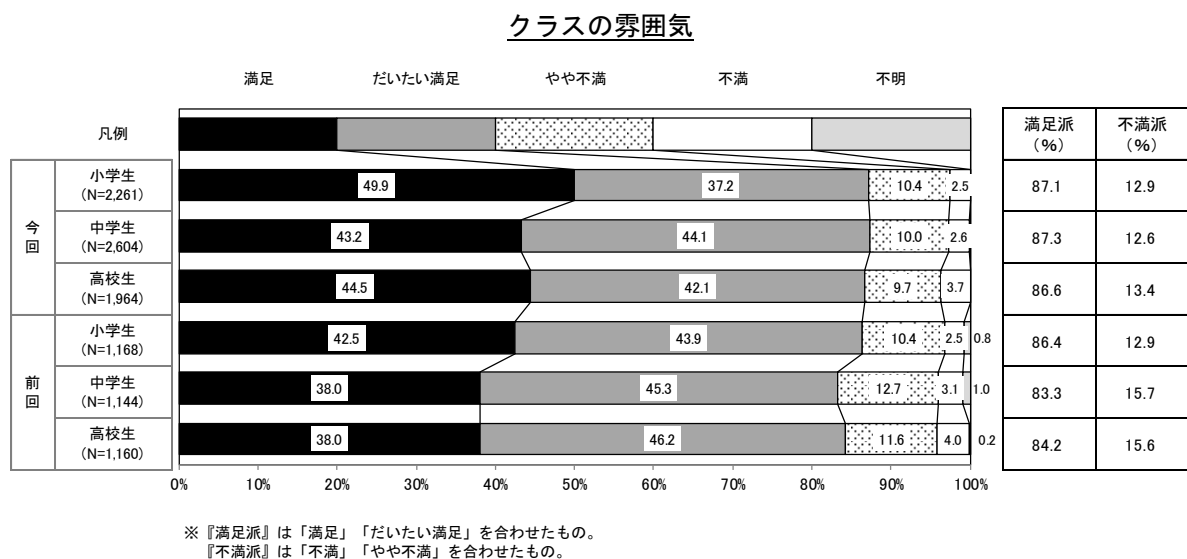
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



② クラスの雰囲気

〈クラスの雰囲気〉についての満足度を尋ねたところ、小学生、高校生で「満足」が最も多く、小・中・高校生すべてで『満足派』は8割以上を占めています。

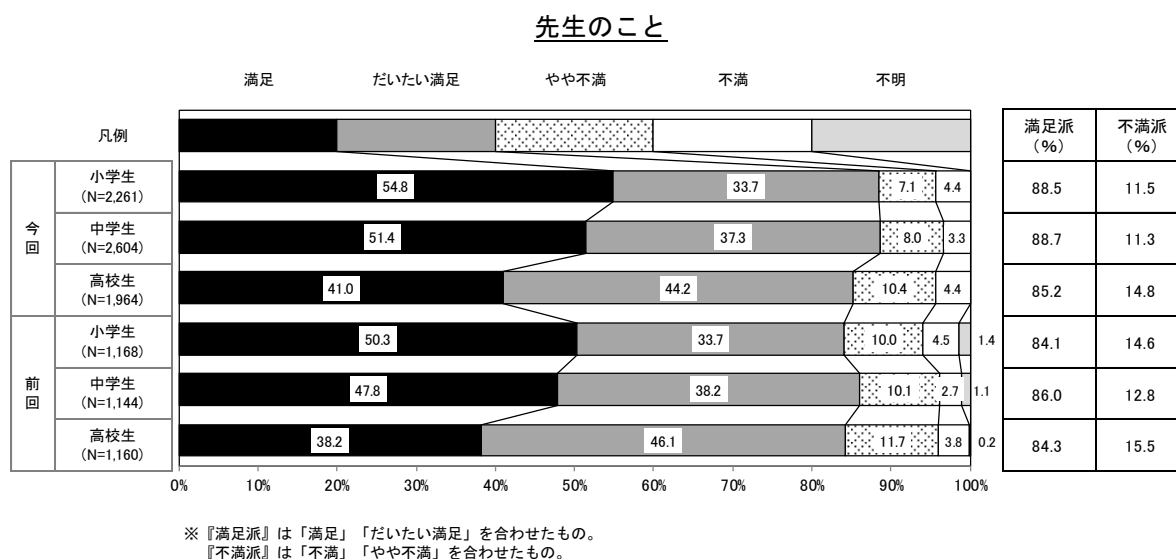
前回調査と比較すると、小学生、高校生に大きな変化はみられませんが、中学生で『不満派』が減少しています。



③先生のこと

〈先生のこと〉についての満足度を尋ねたところ、小学生、中学生では「満足」、高校生では「だいたい満足」が最も多く、小・中・高校生すべてで『満足派』は8割以上を占めています。

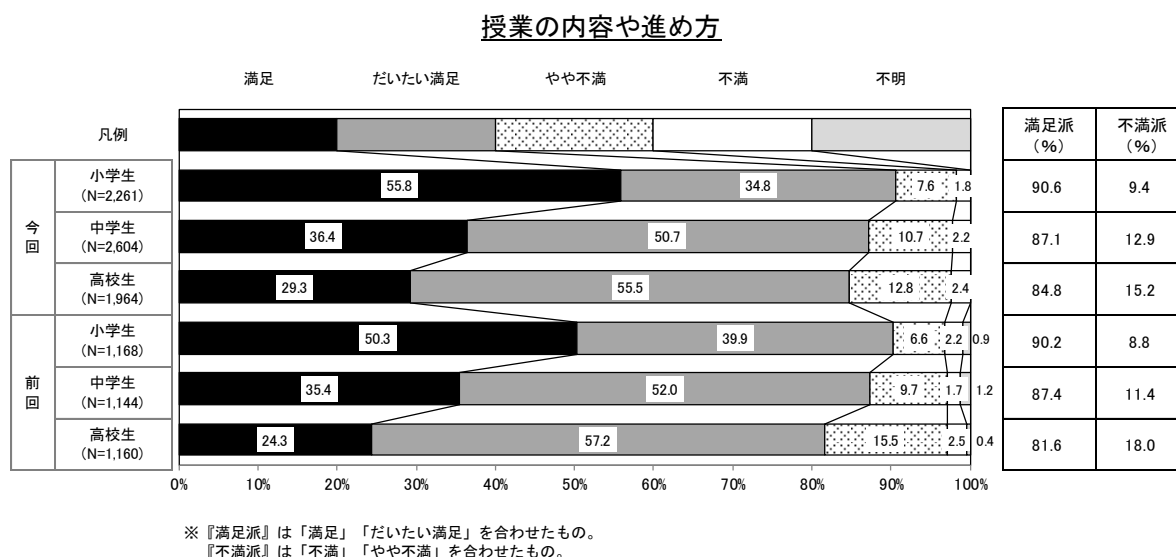
前回調査と比較すると、小学生、中学生で『満足派』が増加しています。



④授業の内容や進め方

〈授業の内容や進め方〉についての満足度を尋ねたところ、小学生では「満足」、中学生、高校生では「だいたい満足」が最も多く、『満足派』は小学生で9割、中学生、高校生で8割以上を占めています。

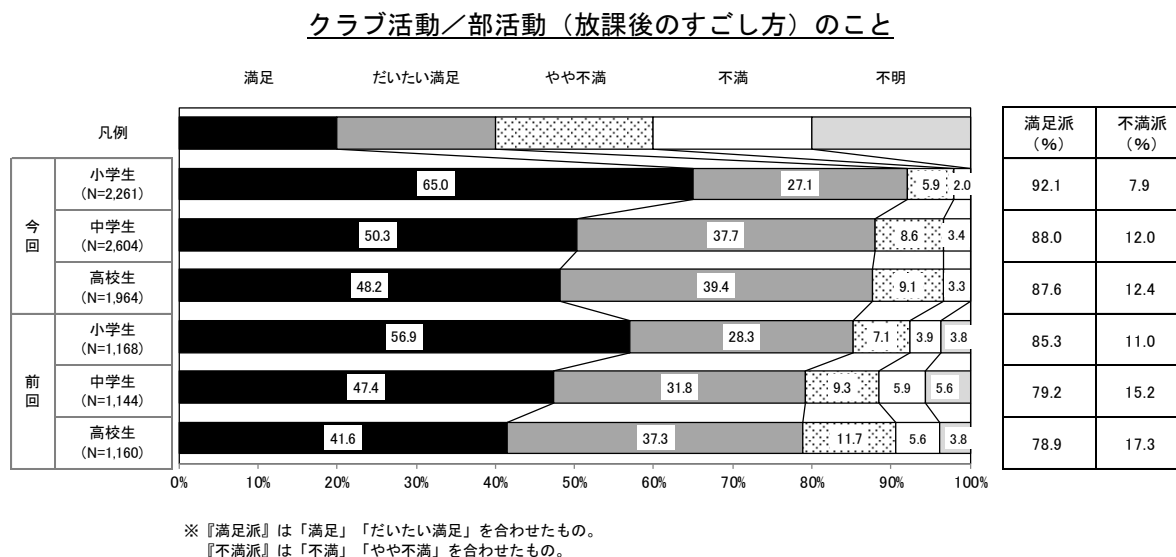
前回調査と比較すると、高校生で『満足派』が減少しています。



⑤クラブ活動／部活動（放課後の過ごし方）のこと

〈クラブ活動／部活動（放課後の過ごし方）のこと〉についての満足度を尋ねたところ、小・中・高校生で「満足」が最も多く、『満足派』は小学生で9割を超え、中学生、高校生で8割台後半を占めています。

前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに『満足派』が増加し、『不満派』が減少しています。



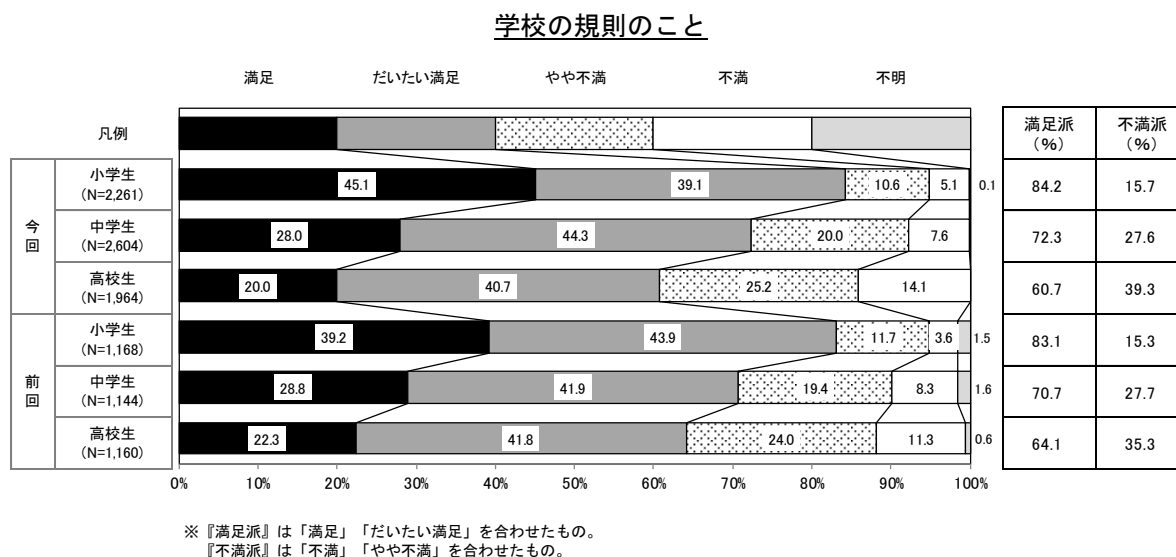
※小学生は上記の表現からわかりやすい表現に変更している。

「クラブ活動／部活動（放課後の過ごし方）のこと」→「クラブ活動のこと」

⑥学校の規則のこと

〈学校の規則のこと〉についての満足度を尋ねたところ、小学生で「満足」が最も多く、中学生、高校生は「だいたい満足」が最も多くなっています。『満足派』は小学生で8割台半ば、中学生で7割台前半、高校生で6割を占めています。

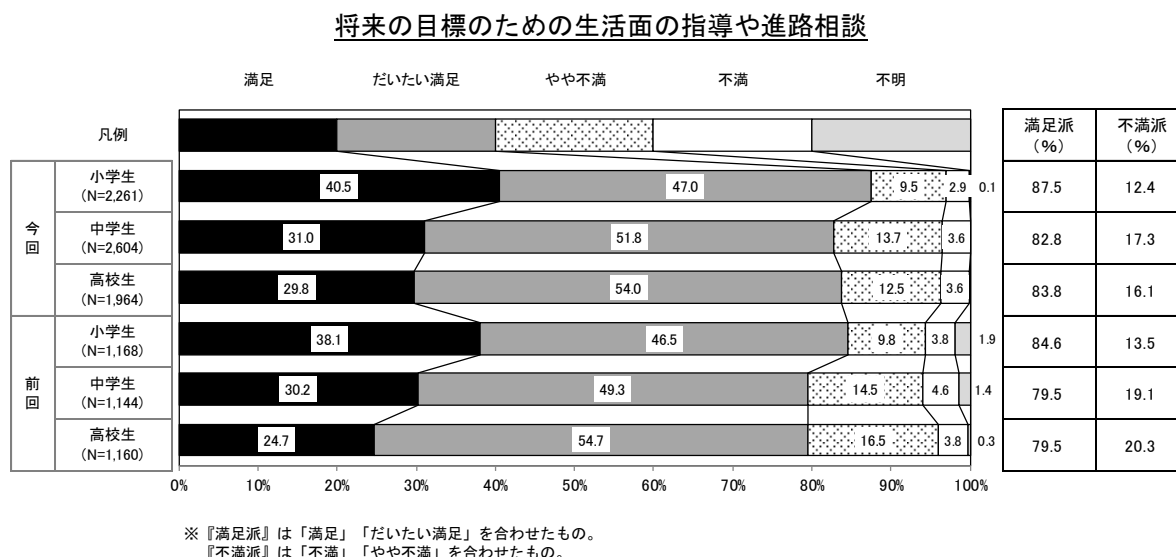
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑦将来の目標のための生活面の指導や進路相談

〈将来の目標のための生活面の指導や進路相談〉についての満足度を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「だいたい満足」が最も多く、『満足派』は小学生で8割台半ば、中学生、高校生で8割台前半を占めています。

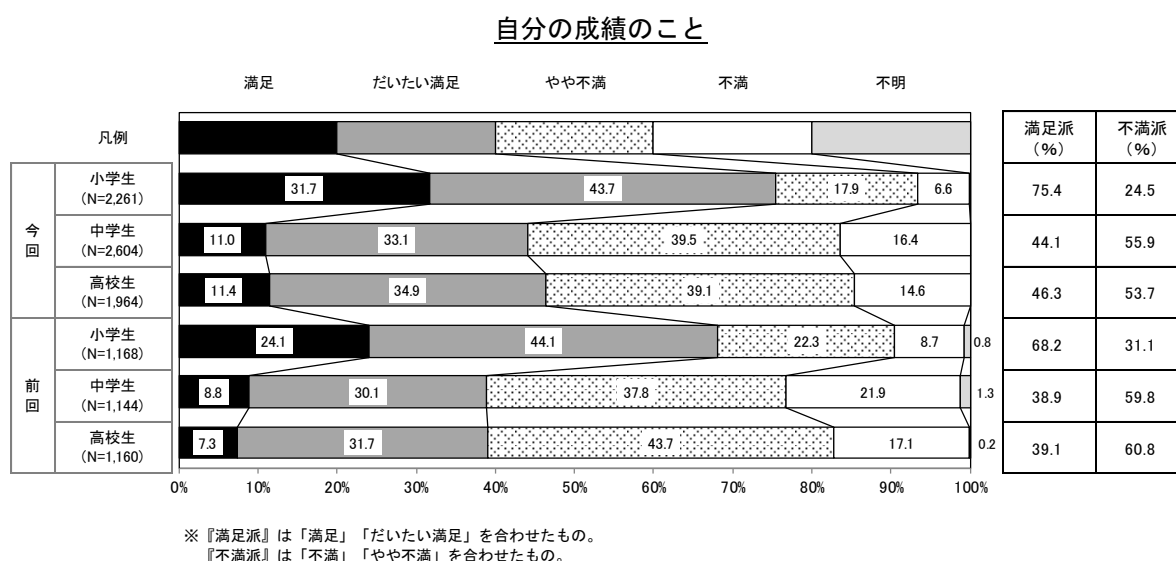
前回調査と比較すると、高校生で「満足」が増加しており、『満足派』も増加しています。



⑧自分の成績のこと

〈自分の成績のこと〉についての満足度を尋ねたところ、小学生では「だいたい満足」、中学生、高校生では「やや不満」が最も多く、小学生は『満足派』が7割台半ばを占めているのに対して、中学生、高校生は『不満派』が5割を超えています。

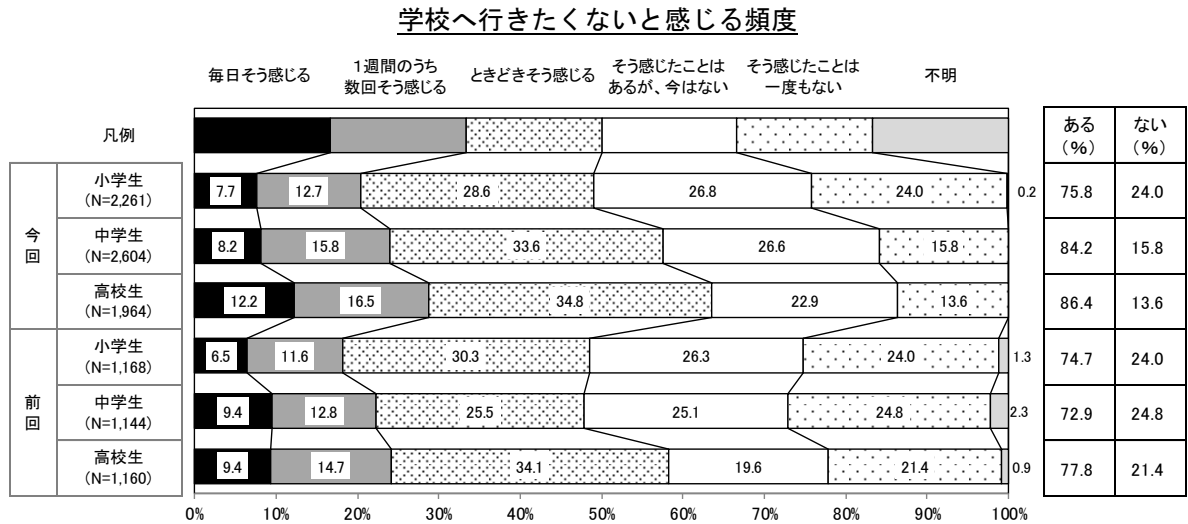
前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに『満足派』が大きく増加し、小学生で7.2ポイント、中学生で5.2ポイント、高校生で7.2ポイント増加しています。



(2) 学校へ行きたくないと感じる頻度

学校へ行きたくないと感じる頻度について尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「ときどきそう感じる」が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、中学生、高校生で『ある』が大幅に増加し、中学生で 11.3 ポイント増加、高校生で 8.6 ポイント増加しています。



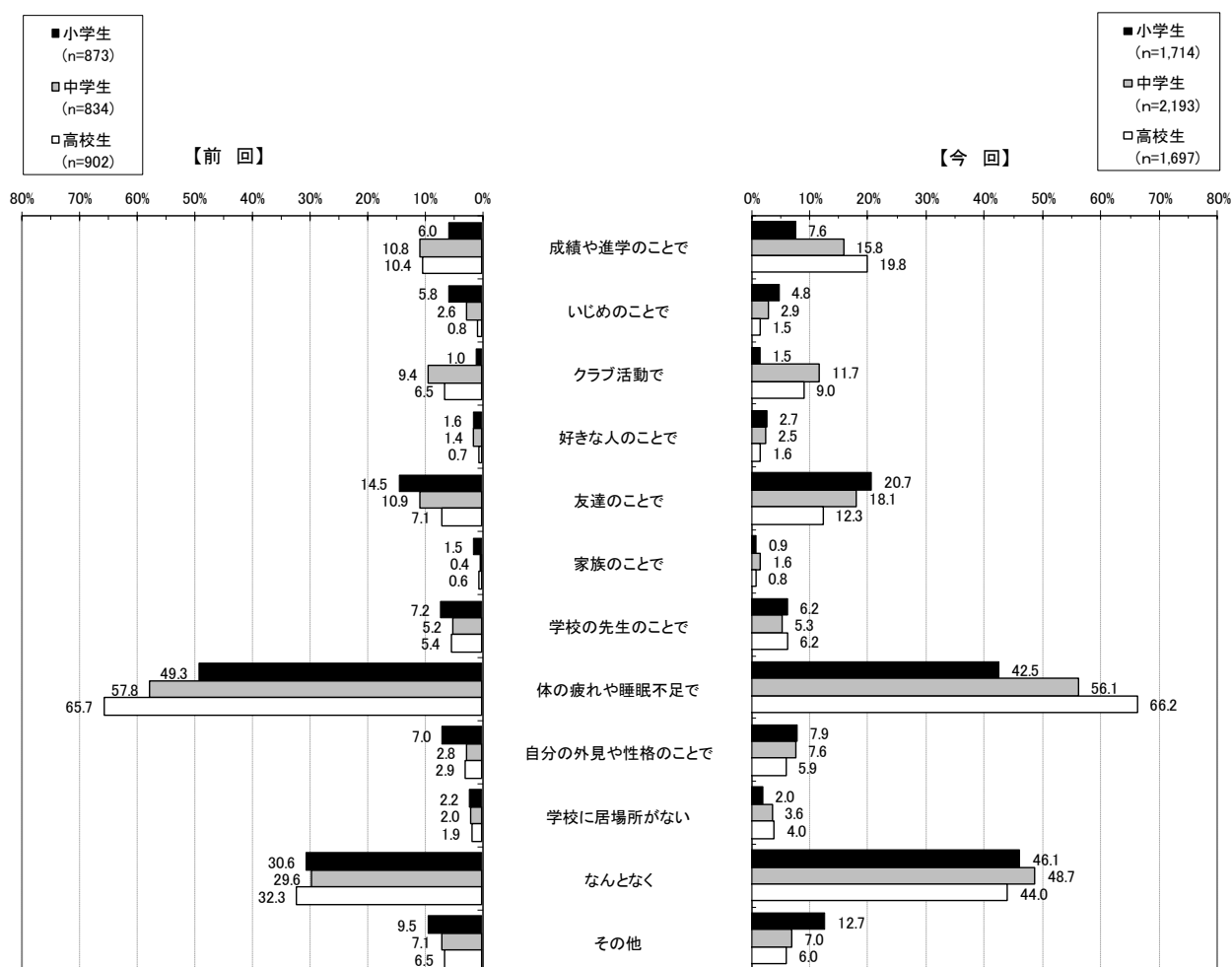
※『ある』は「毎日そう感じる」「1週間のうち数回そう感じる」「ときどきそう感じる」「そう感じたことはあるが、今はない」を合わせたもの。
『ない』は「そう感じたことは一度もない」の回答。

(3) 学校へ行きたくないと感じた理由

学校へ行きたくないと感じたことがある人に、その理由について尋ねたところ、小学生で「なんとなく」が最も多く、中学生、高校生で「体の疲れや睡眠不足で」が最も多くなっています。「成績や進学のこと」、「体の疲れや睡眠不足で」は年齢が上がるにつれて多くなる傾向がみられます。「前回調査と比較すると、小学生では「友達のことで」、「なんとなく」が増加し、「体の疲れや睡眠不足で」は大きく減少しています。

中学生、高校生は「成績や進学のこと」、「友達のことで」、「なんとなく」が増加していますが「体の疲れや睡眠不足で」に大きな変化はありません。

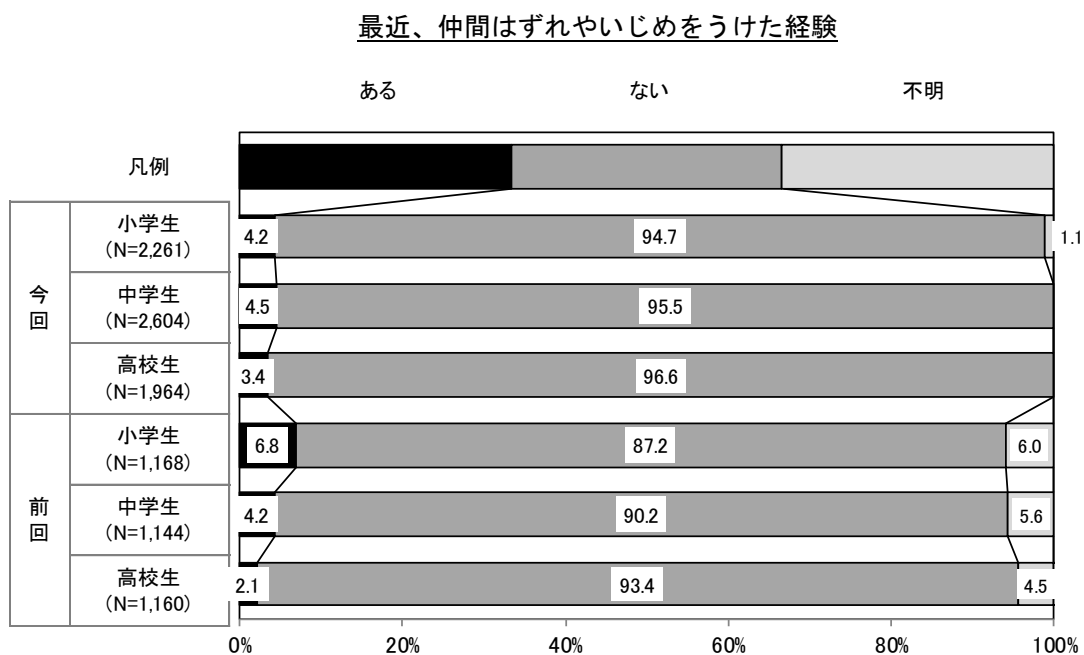
学校へ行きたくないと感じた理由



(4) 最近、仲間はずれやいじめをうけた経験

最近、仲間はずれやいじめをうけた経験があるかについて尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「ない」が大半を占めています。

前回調査と比較すると、小学生では「ある」が減少し、「ない」が増加しています。

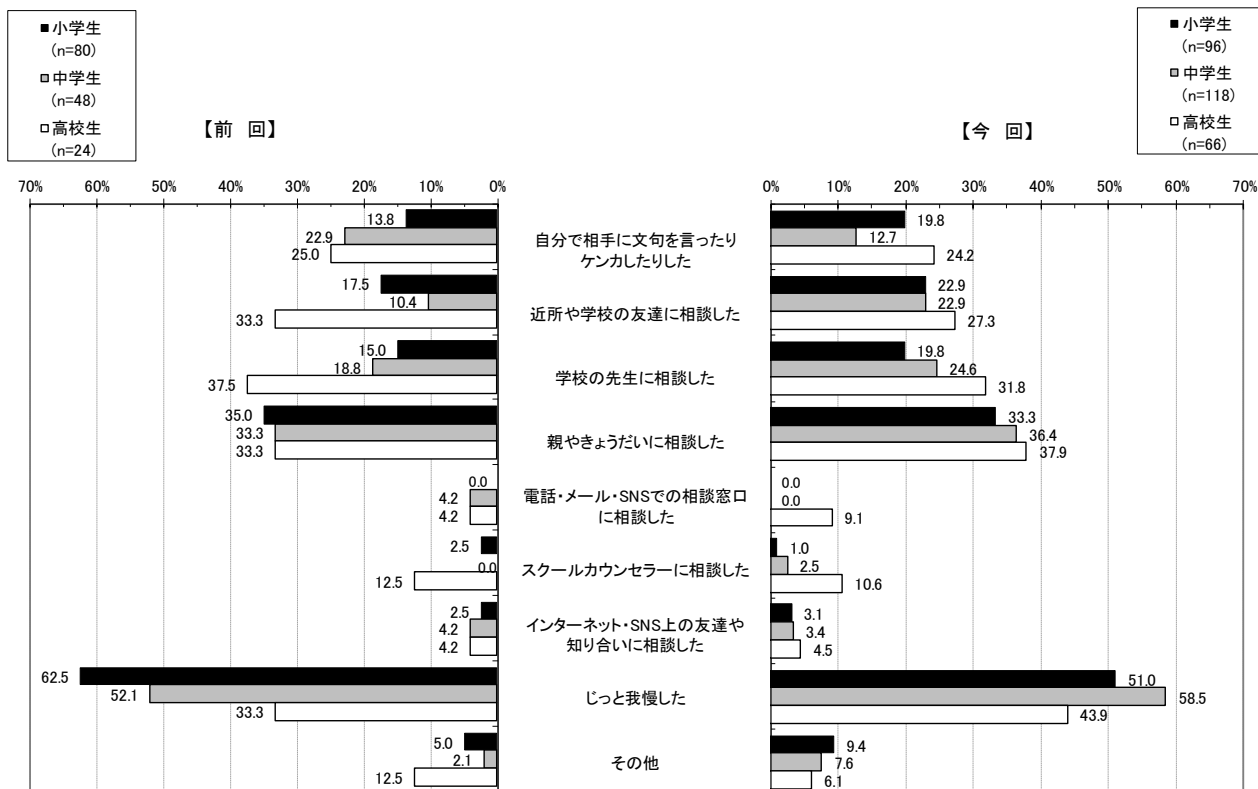


(5) 仲間はずれやいじめを受けたときの対処

仲間はずれやいじめを受けた経験がある人に、仲間はずれやいじめを受けたときの対処方法について尋ねたところ、小・中・高校生ともに「じっと我慢した」が最も多くなっており、「学校の先生に相談した」、「親やきょうだいに相談した」は年齢が上がるほど多くなっています。

前回調査と比較しても、大きな変化はありません。

仲間はずれやいじめを受けたときの対処



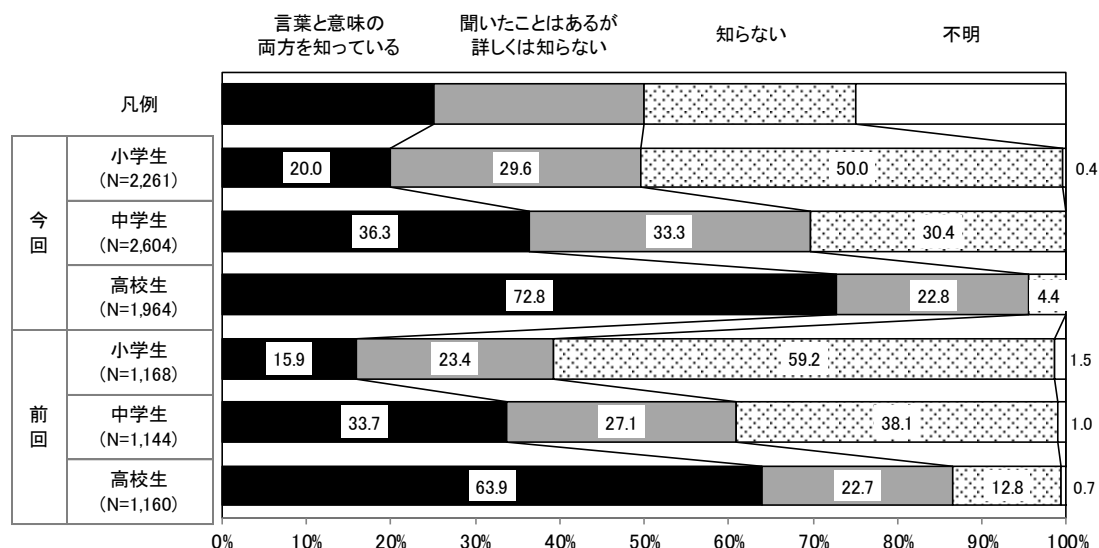
6. 多様な性について

(1) L G B T（性的少数者を表す総称の一つ）の認知状況

L G B T（性的少数者を表す総称の一つ）という言葉を知っているか尋ねたところ、小学生では「言葉と意味の両方を知っている」が2割で、年齢が上がるにつれて多くなり、高校生は7割を超えています。

前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに認知度が高まっており、今回、小学生の認知度はほぼ5割に達しています。

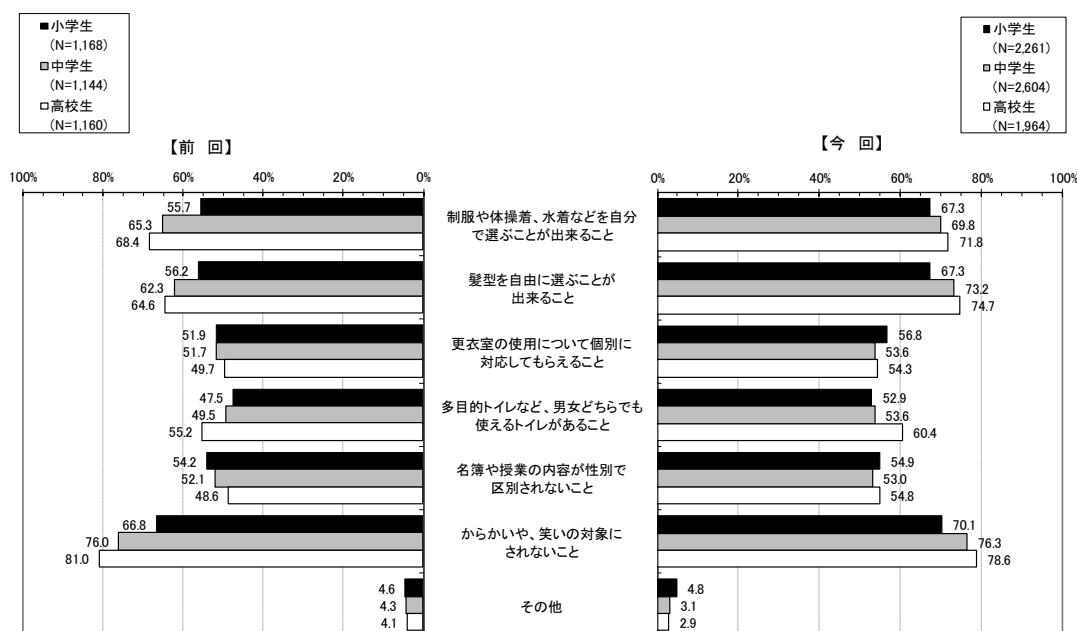
L G B Tについての認知状況



(2) L G B Tの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なこと

小・中・高校生すべてで「からかいや、笑いの対象にされないこと」が最も多く、7割を超えています。前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに、「からかいや、笑いの対象にされないこと」を除く全てが増加しています。

L G B Tの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なこと



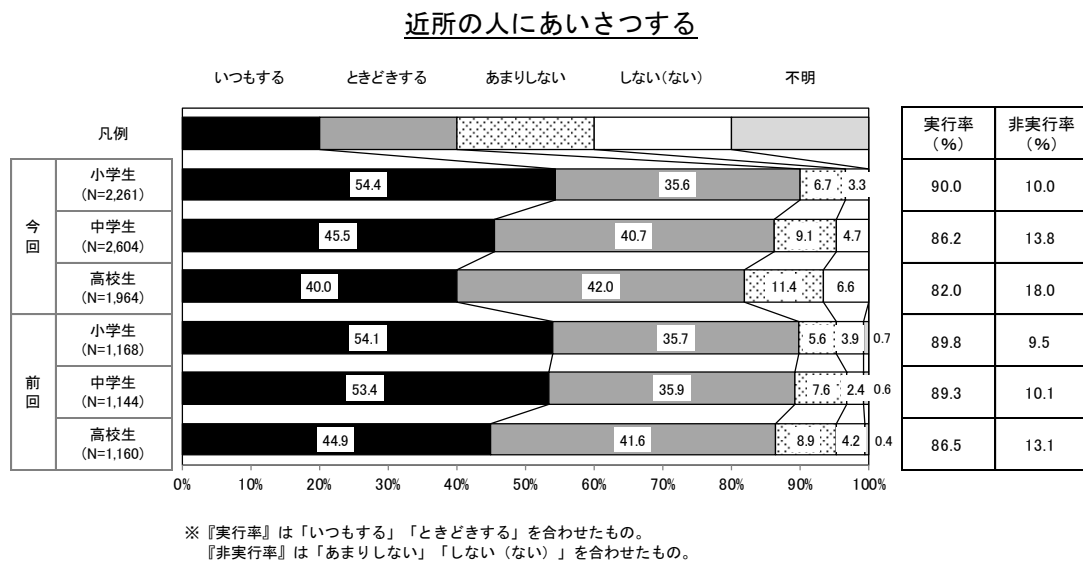
7. 地域の活動について

(1) 地域社会とのかかわり

①近所の人にあいさつする

〈近所の人にあいさつする〉かどうか尋ねたところ、小学生、中学生で「いつもする」が最も多くなっており、高校生で「ときどきする」が最も多くなっています。また、小学生の『実行率』は9割を占めていますが、中学生、高校生と年齢が上がるにつれて、少しずつ『実行率』は低下しています。

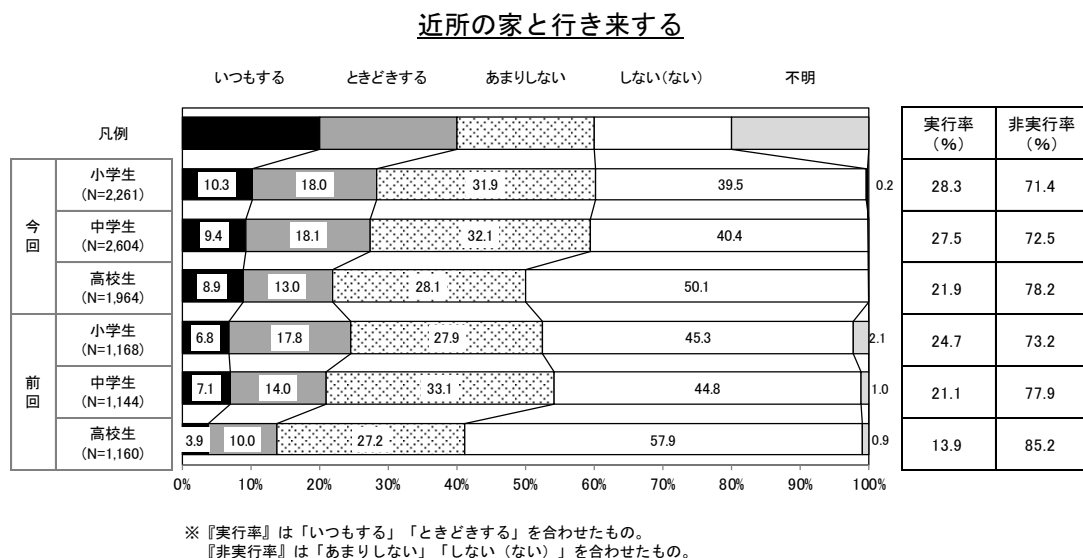
前回調査と比較すると、中学生、高校生で「いつもする」が減少したため、『実行率』が低下しています。小学生では大きな変化はありません。



②近所の家と行き来する

〈近所の家と行き来する〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「しない(ない)」が最も多く、次いで「あまりしない」となっています。また、小・中・高校生とも『非実行率』が『実行率』を大きく上回り、高校生は7割台後半を占めています。

前回調査と比較すると、中学生、高校生で「しない(ない)」が減少したため、『非実行率』も低下しています。小学生では大きな変化はありません。

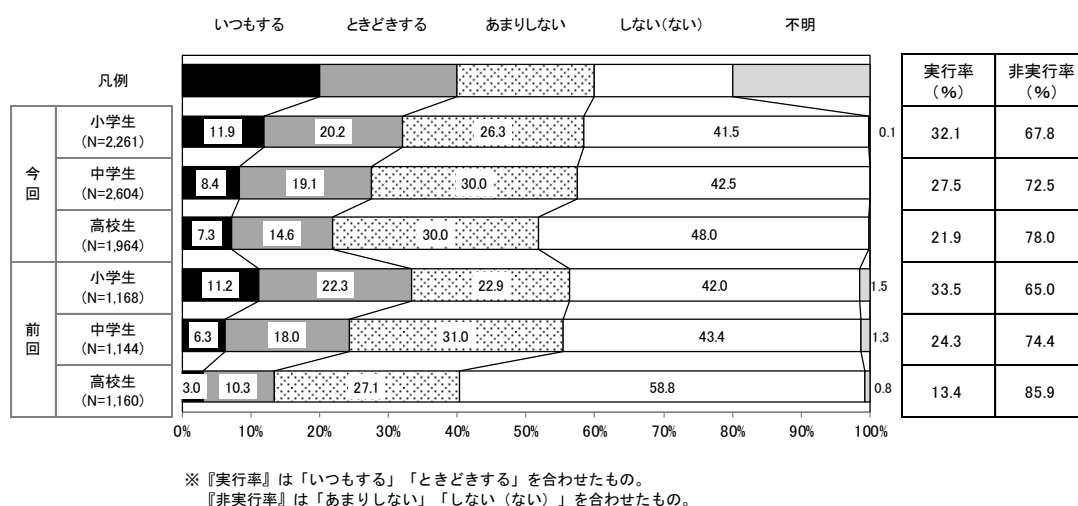


③地域や家のまわりの共同清掃作業に参加する

〈地域や家のまわりの共同清掃作業に参加する〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「しない（ない）」が最も多く、次いで「あまりしない」となっています。また、小・中・高校生とも『非実行率』が『実行率』を大きく上回り、高校生は7割台後半を占めています。

前回調査と比較すると、高校生で「しない（ない）」が大きく減少したため、『非実行率』も低下しています。小学生、中学生では大きな変化はありません。

地域や家のまわりの共同清掃作業に参加する

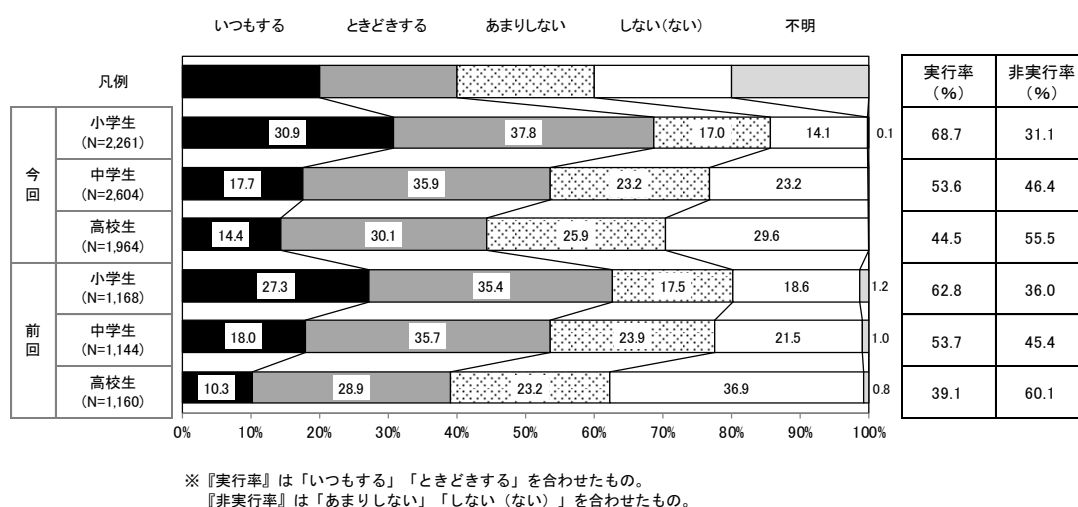


④地元のお祭りやスポーツ・レクリエーションに参加する

〈地元のお祭りやスポーツ・レクリエーションに参加する〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生ともに「ときどきする」が最も多くなっています。また、『実行率』は年齢が上がるほど低く、高校生は小学生に比べ24.2ポイントも低くなっています。

前回調査と比較すると、小学生、高校生で『実行率』が上昇しています。

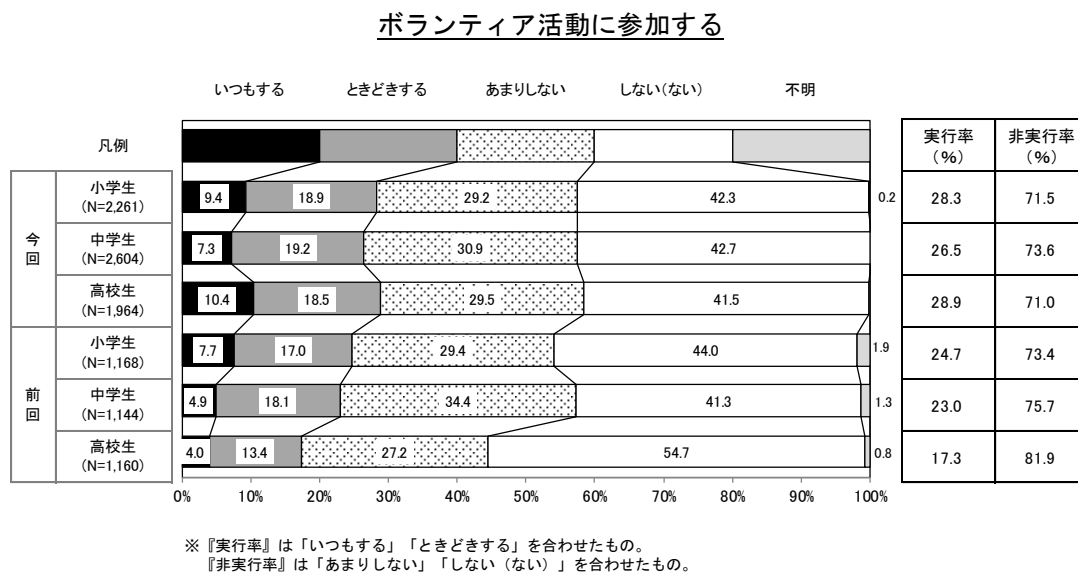
地元のお祭りやスポーツ・レクリエーションに参加する



⑤ ボランティア活動に参加する

〈ボランティア活動に参加する〉かどうか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「しない（ない）」が最も多く、次いで「あまりしない」となっています。また、小・中・高校生とも『非実行率』が『実行率』を大きく上回り、7割を超えています。

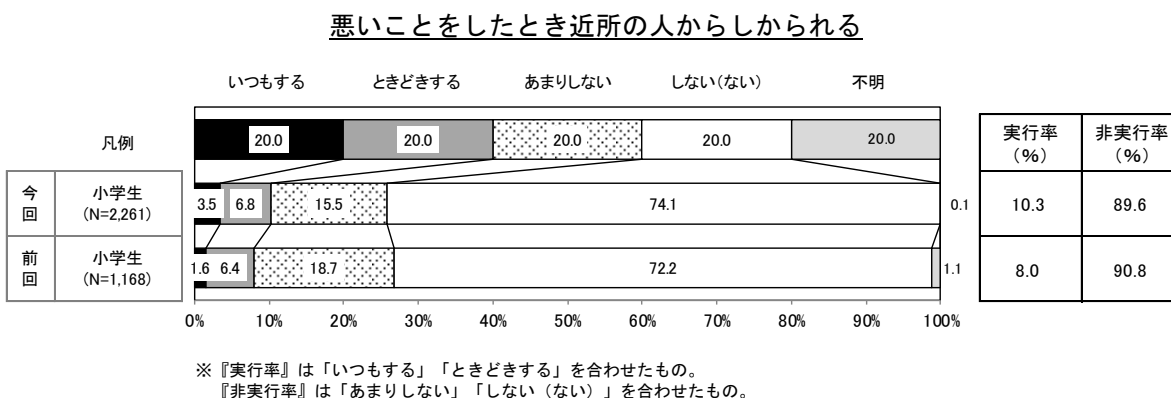
前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに『実行率』が上昇しており、特に高校生の『実行率』は11.6ポイント増加しています。



⑥ 悪いことをしたとき近所の人からしかられる（今回小学生のみの設問）

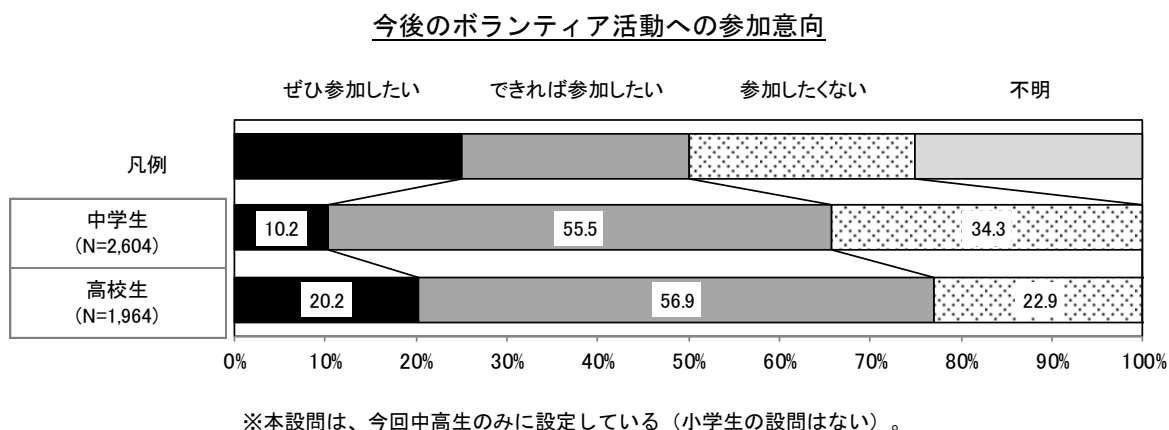
〈悪いことをしたとき近所の人からしかられる〉かどうか尋ねたところ、小学生は「しない（ない）」が最も多く、次いで「あまりしない」となっています。

前回調査と比較すると、小学生の『実行率』はやや上昇しています。



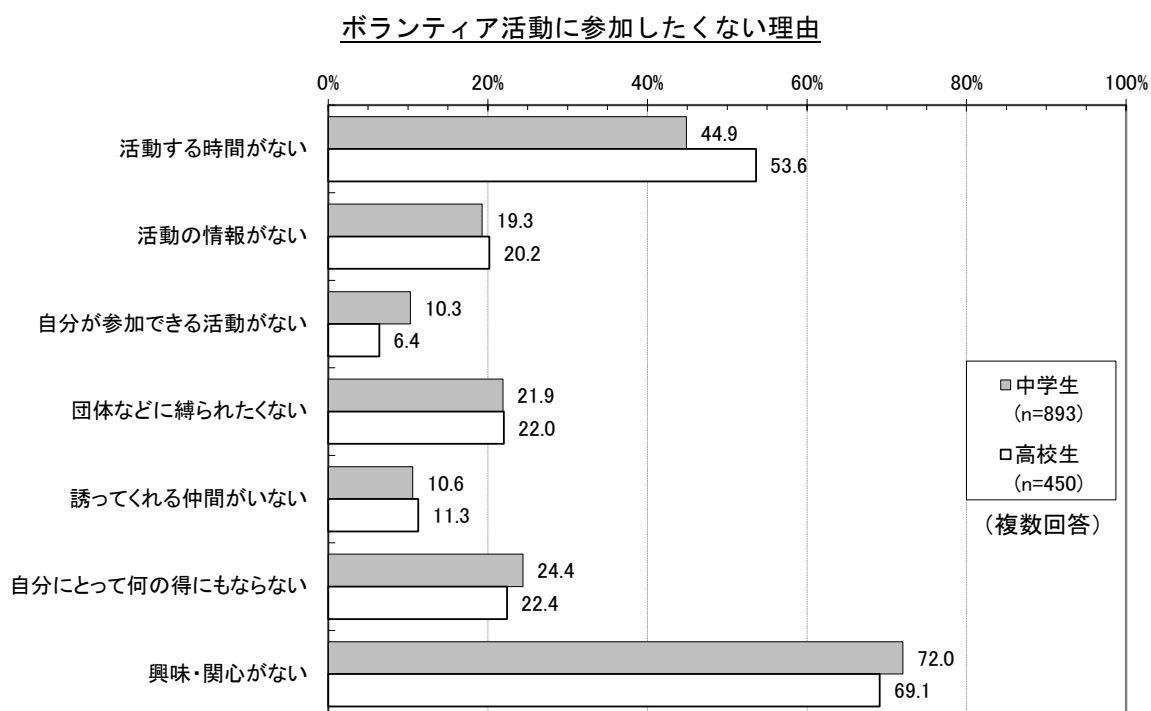
(2) 今後のボランティア活動への参加意向（中・高校生のための設問）

今後、ボランティア活動に参加したいかどうかについて尋ねたところ、中学生に比べて高校生で参加意向が高く、高校生では「ぜひ参加したい」が2割を超えています。



(3) ボランティア活動に参加したくない理由

ボランティア活動に参加したくない理由について尋ねたところ、中学生、高校生ともに「興味・関心がない」が最も多くなっています。次いで、「活動する時間がない」が続いており、高校生では「活動する時間がない」が5割台前半で、中学生を8.7ポイント上回っています。

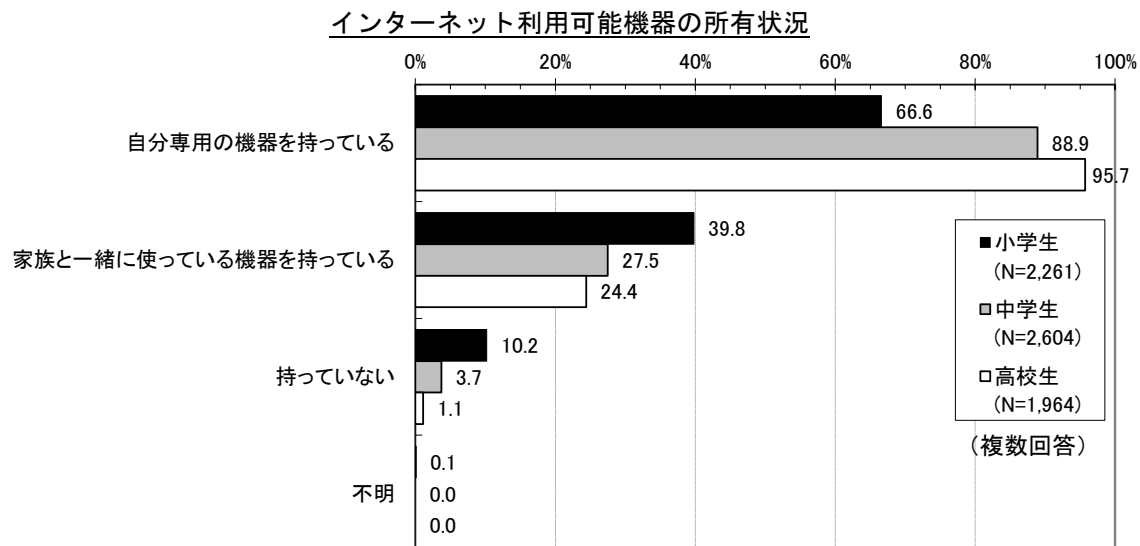


8. インターネットの利用について

(1) インターネット利用可能機器の所有状況

インターネットが利用できる機器の所有状況について尋ねたところ、年齢が上がるほど「自分専用の機器を持っている」が多くなっています。

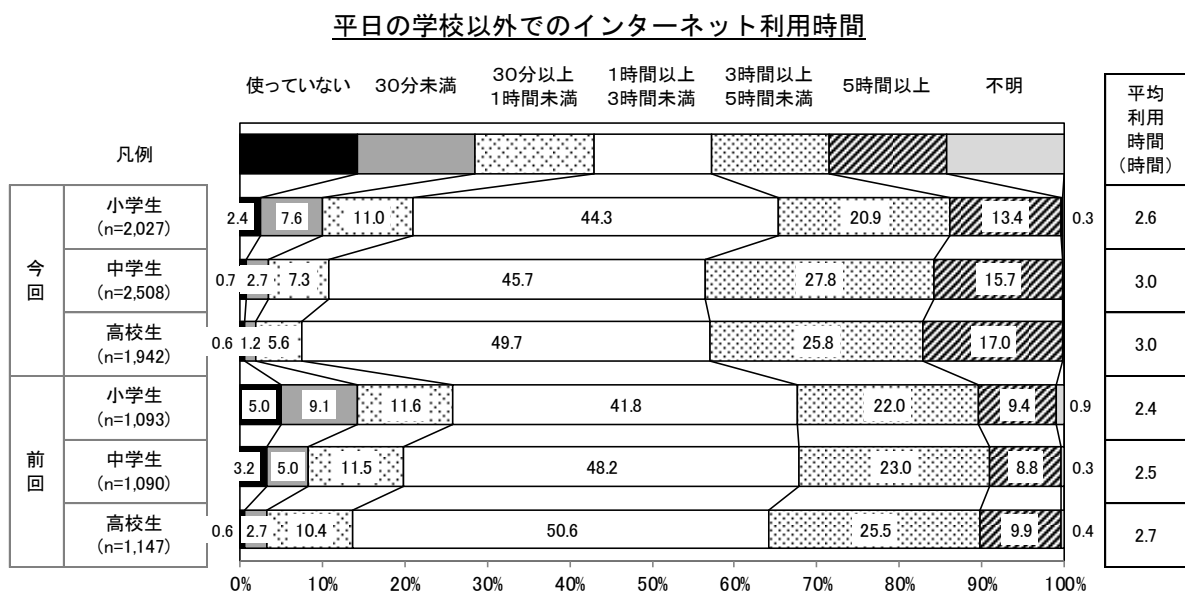
「自分専用の機器を持っている」は、小学生で6割台後半、中学生で8割台後半、高校生で9割台後半を占めています。



(2) 平日の学校以外でのインターネット利用時間

インターネットを利用できる機器を所有している人に、平日の学校以外でのインターネット利用時間を尋ねたところ、小学生は中学生、高校生に比べて30分未満の短時間利用が多くなっています。中学生、高校生の利用状況はほぼ同程度で、平日3時間以上の利用者が4割を超えています。

前回調査と比較すると、『平均利用時間』は小・中・高校生ともに増加しており、1時間未満という短時間利用者の割合が大幅に減少しています。



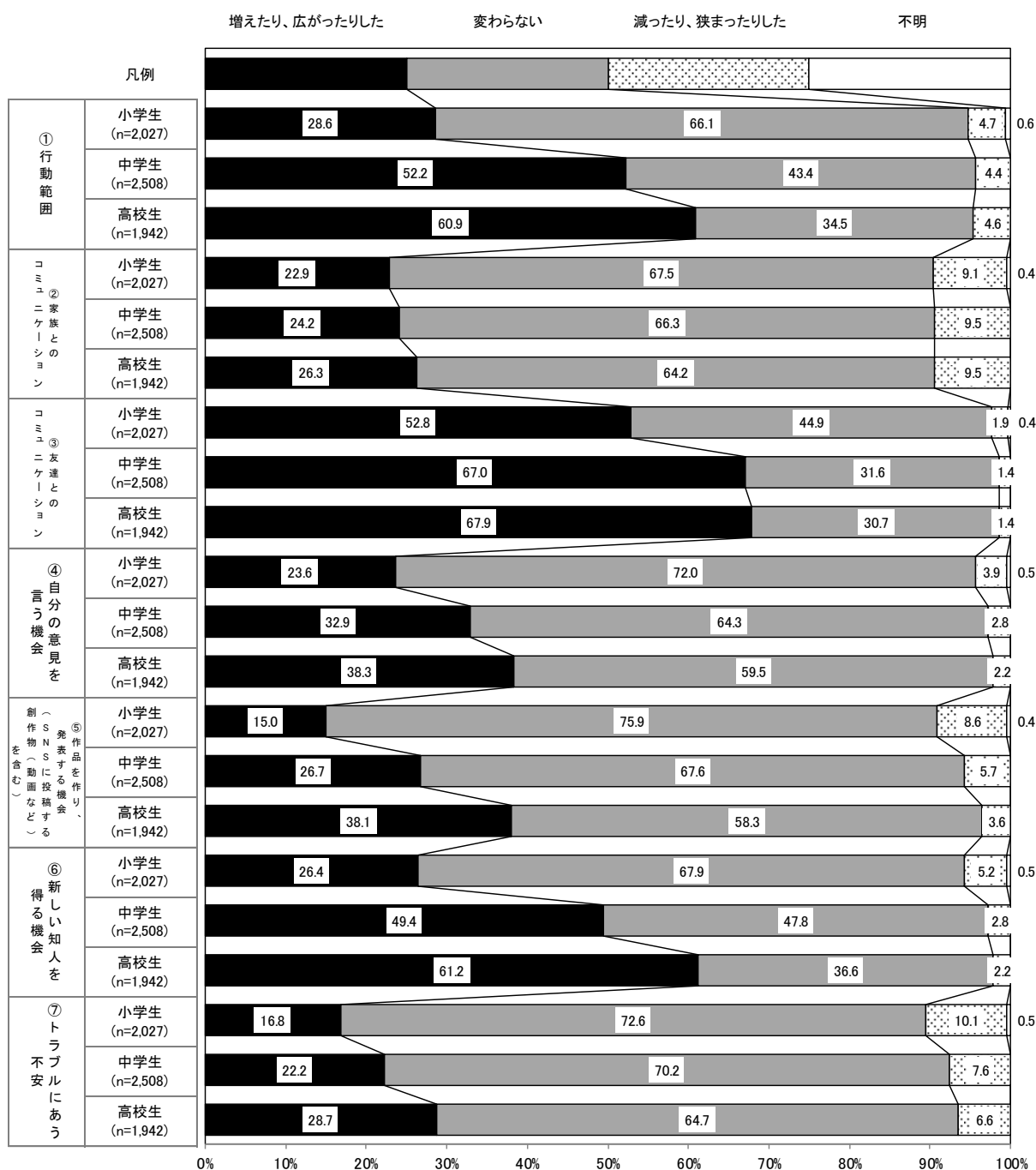
※『平均利用時間』は「使っていない」が0時間、「30分未満」が0.5時間、「30分以上1時間未満」が0.75時間、「1時間以上3時間未満」が2時間、「3時間以上5時間未満」が4時間、「5時間以上」は5.5時間で設定。

(3) インターネットを利用するようになってから変化したこと

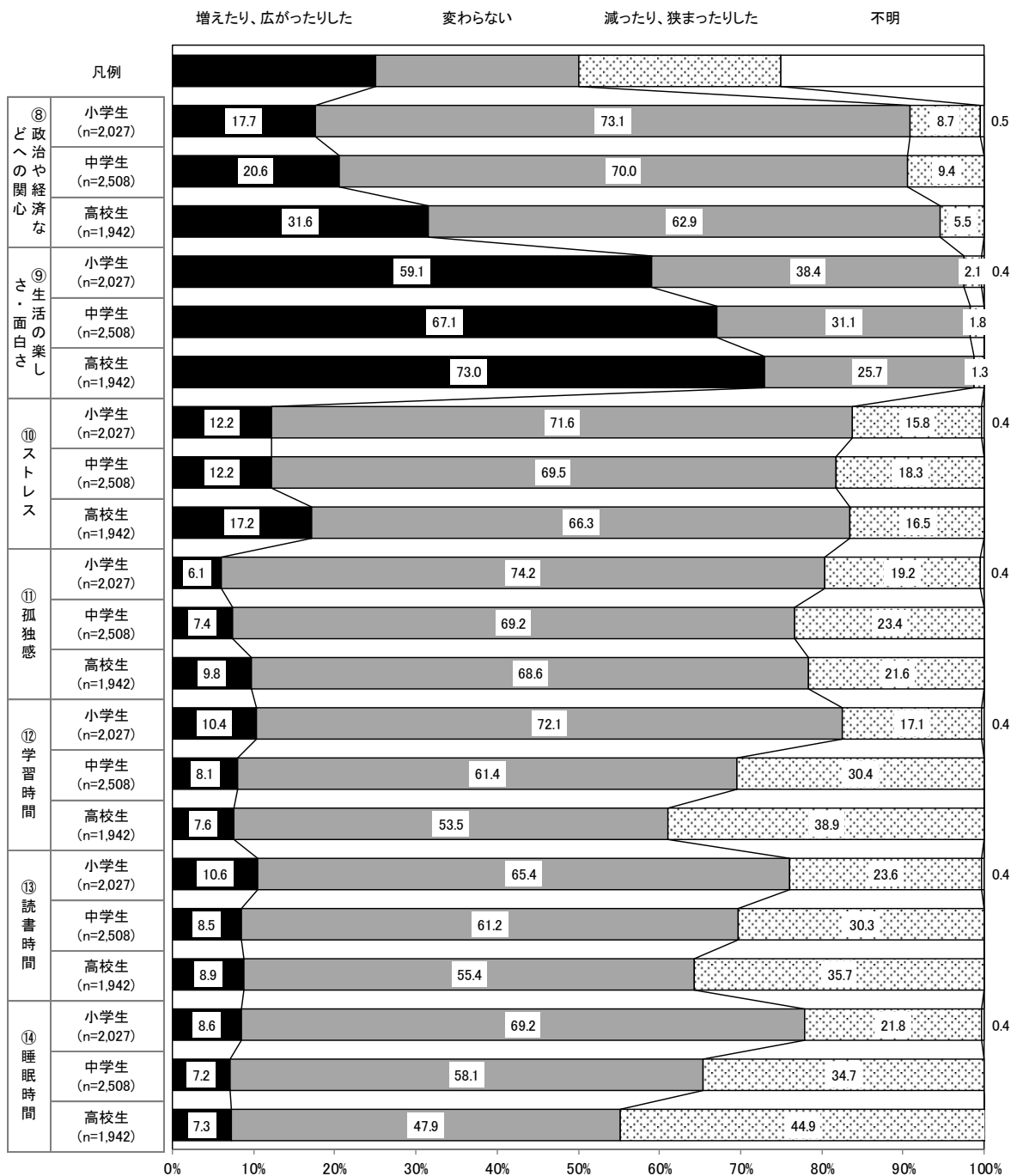
インターネットを利用できる機器を所有している人に、インターネットを利用するようになってから変化したことを尋ねたところ、大半の項目は「変わらない」が半数以上を占めていますが、〈⑨生活の楽しさ・面白さ〉は、小・中・高校生すべてで「増えたり、広がったりした」が最も多くなっています。中学生、高校生では〈③友達とのコミュニケーション〉〈⑥新しい知人を得る機会〉で「増えたり、広がったりした」が多くなっています。

ほとんどの項目で、年齢が上がるにつれて「増えたり、広がったりした」が高くなる傾向がみられますが、〈③友達とのコミュニケーション〉、〈⑪「ストレス」〉では小学生と中・高校生の間で「増えたり、広がったりした」に大きな差が開いています。

インターネットを利用するようになってから変化したこと



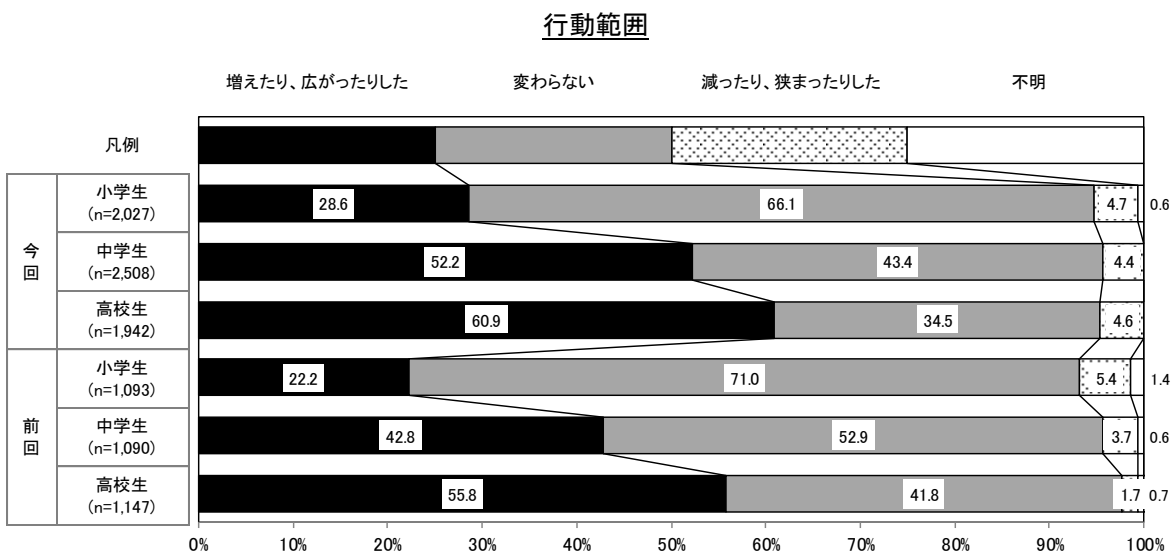
インターネットを利用するようになってから変化したこと



①行動範囲

インターネット利用による〈行動範囲〉の変化を尋ねたところ、小学生では「変わらない」が最も多く、中学生、高校生では「増えたり、広がったりした」が最も多くなっています。「増えたり、広がったりした」は年齢が上がるにつれて増加しています。

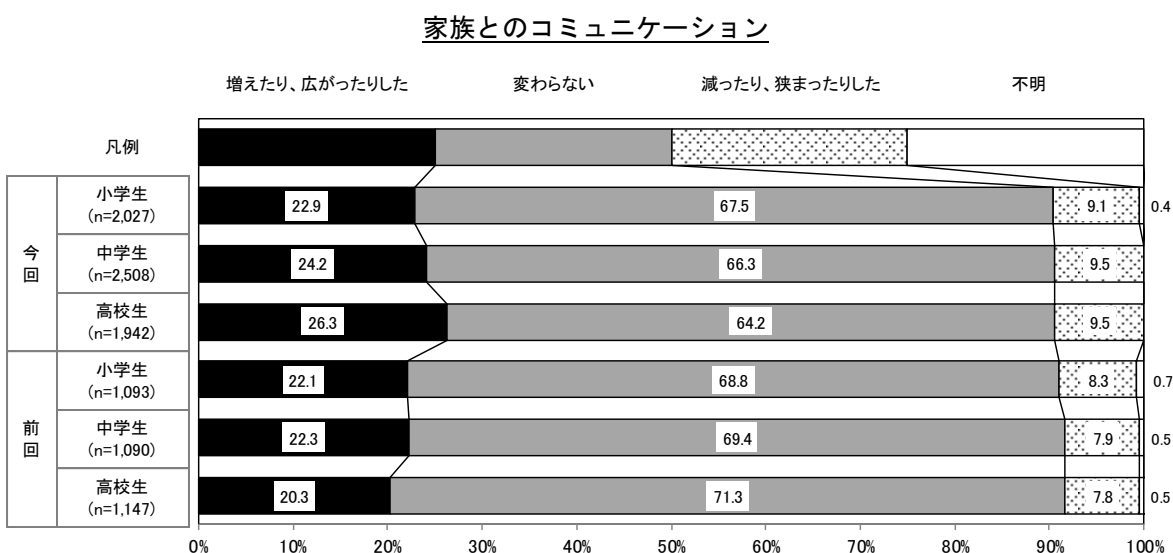
前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに「増えたり、広がったりした」が大幅に増加しています。



②家族とのコミュニケーション

インターネット利用による〈家族とのコミュニケーション〉の変化を尋ねたところ、「変わらない」が最も多く、6割を超えています。年齢間で大きな差はありません。

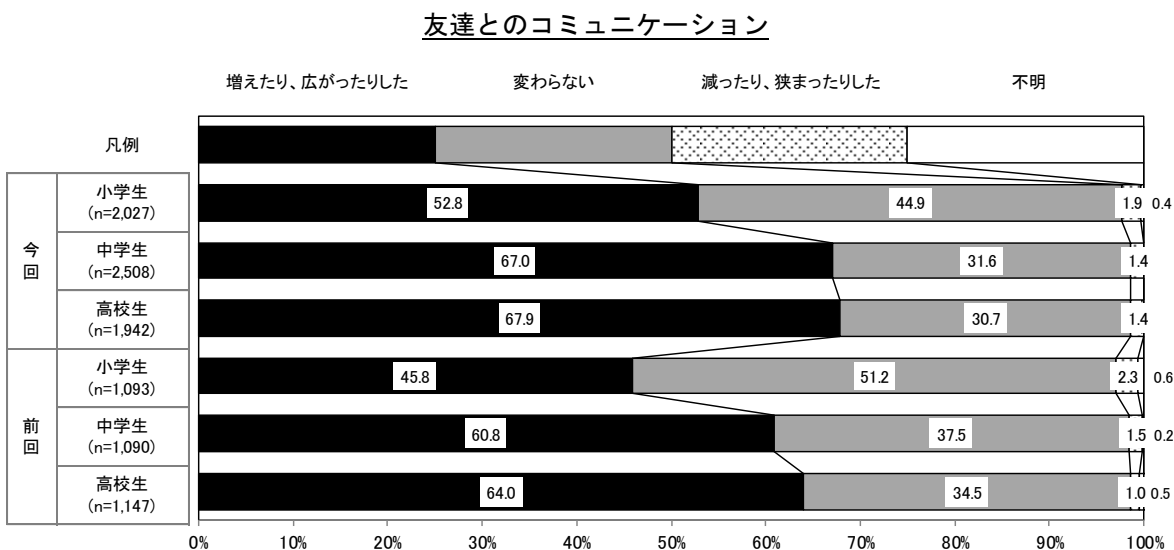
前回調査と比較すると、高校生で「増えたり、広がったりした」が増加しています。



③友達とのコミュニケーション

インターネット利用による〈友達とのコミュニケーション〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生ともに「増えたり、広がったりした」が最も多くなっています。

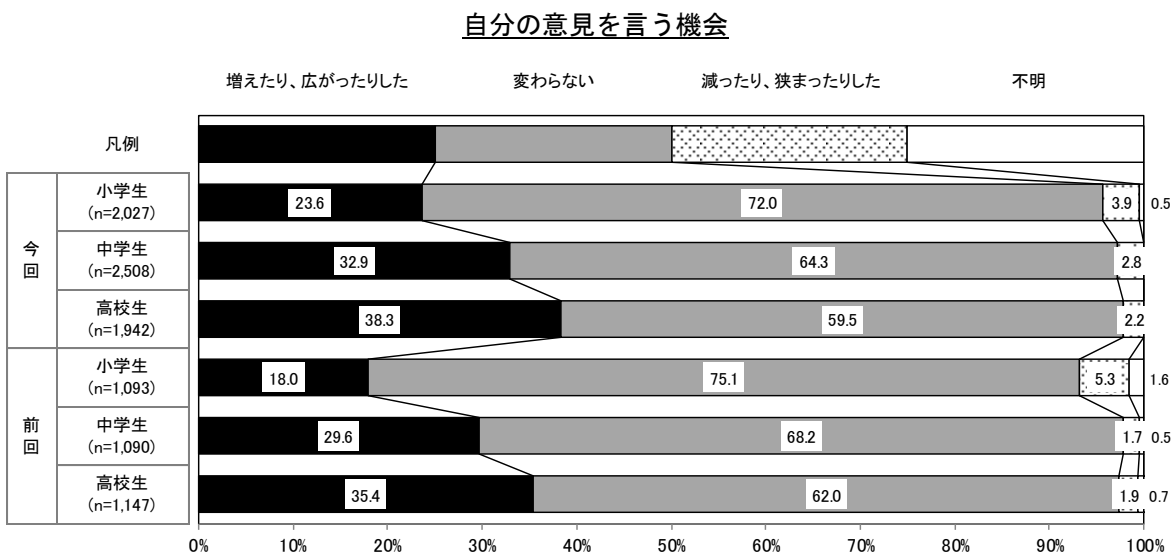
前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに「増えたり、広がったりした」が増加しています。



④自分の意見を言う機会

インターネット利用による〈自分の意見を言う機会〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。「増えたり、広がったりした」は年齢が上がるにつれて増加しており、高校生では3割台後半を占めています。

前回調査と比較すると、小学生で「増えたり、広がったりした」が増加しています。

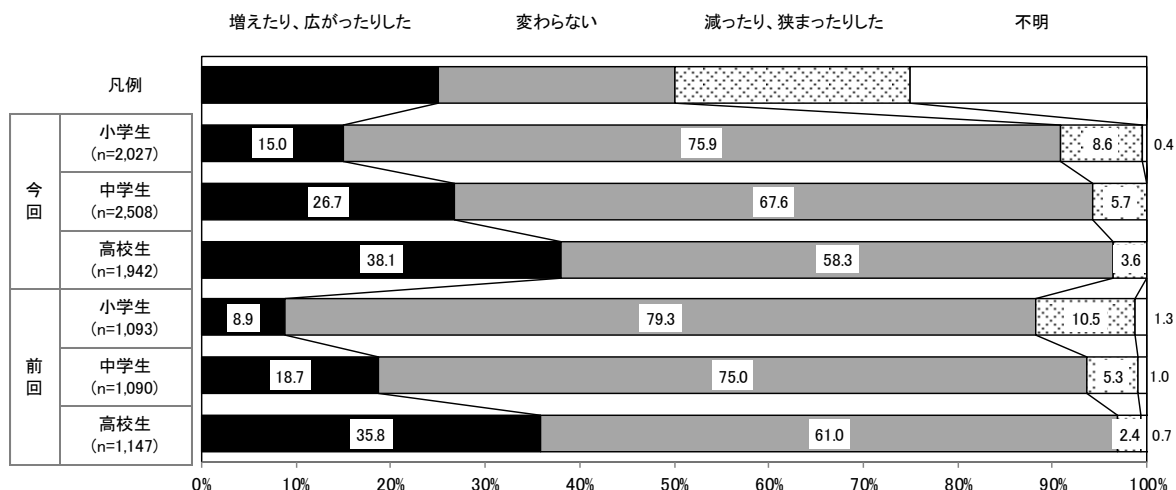


⑤作品を作り、発表する機会（SNSに投稿する創作物（動画など）を含む）

インターネット利用による〈作品を作り、発表する機会（SNSに投稿する創作物（動画など）を含む）〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。「増えたり、広がったりした」は年齢が上がるにつれて増加しており、高校生では3割台後半を占めています。

前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに「増えたり、広がったりした」が増加しています。

作品を作り、発表する機会（SNSに投稿する創作物（動画など）を含む）

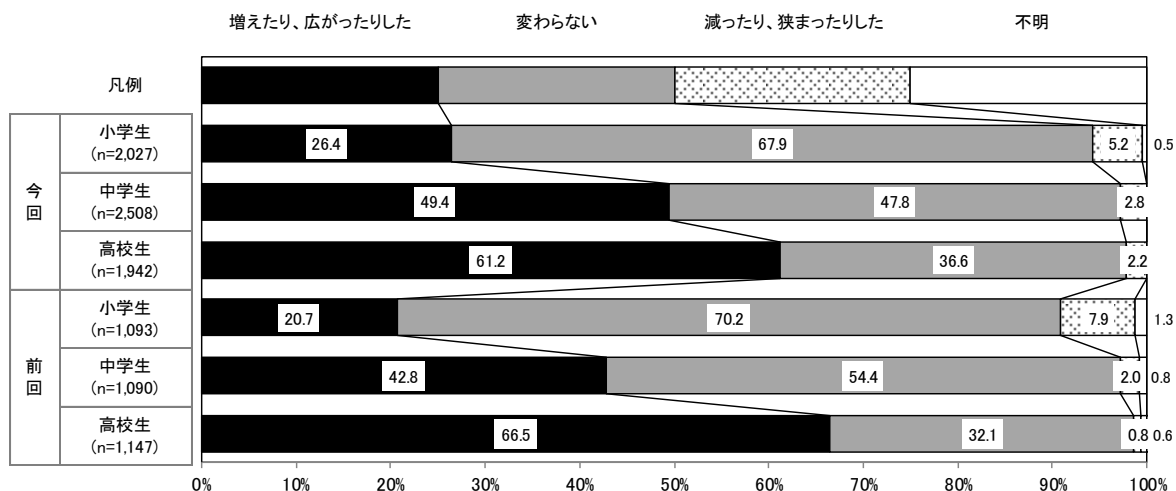


⑥新しい知人を得る機会

インターネット利用による〈新しい知人を得る機会〉の変化を尋ねたところ、小学生では「変わらない」が最も多く、中学生、高校生では「増えたり、広がったりした」が最も多くなっています。「増えたり、広がったりした」は年齢が上がるにつれて増加しており、高校生では6割台前半を占めています。

前回調査と比較すると、小学生、中学生で「増えたり、広がったりした」が増加しています。一方、高校生で「増えたり、広がったりした」が減少しています。

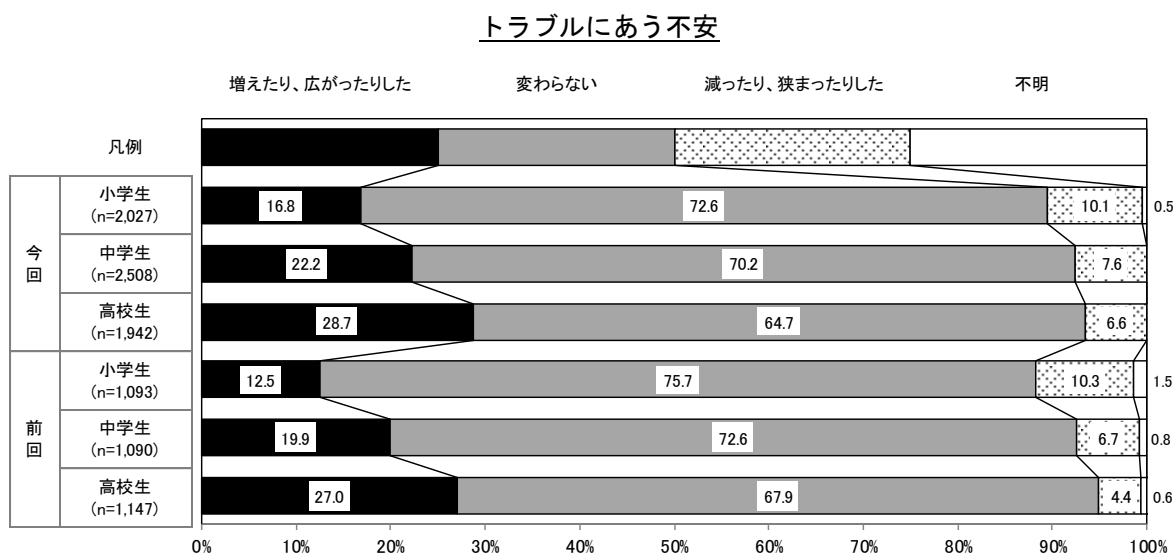
新しい知人を得る機会



⑦トラブルにあらう不安

インターネット利用による〈トラブルにあらう不安〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。「増えたり、広がったりした」は年齢が上がるにつれて増加しています。

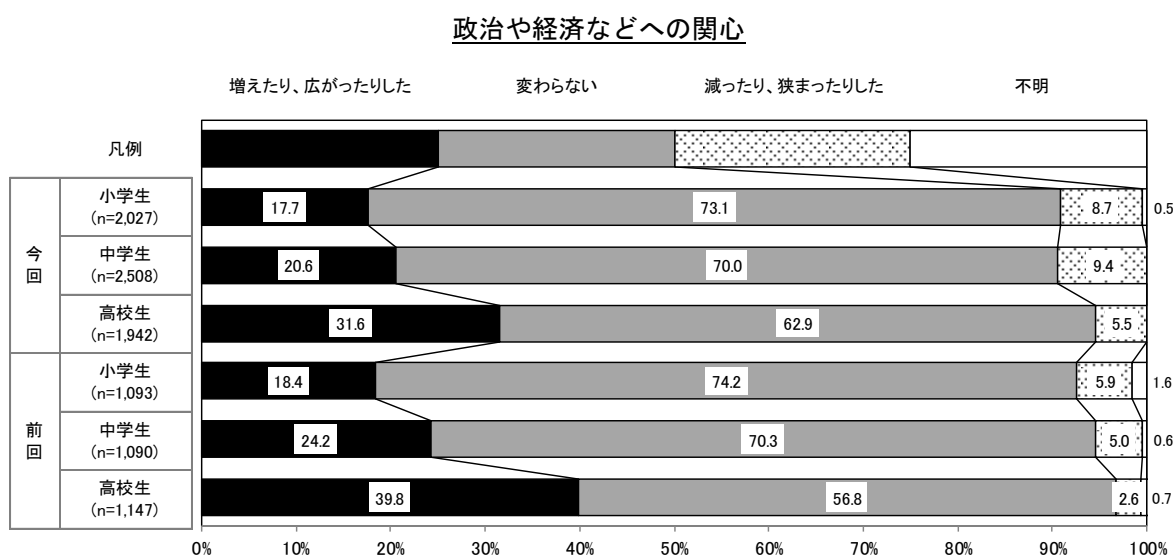
前回調査と比較すると、小学生で「増えたり、広がったりした」が増加しています。



⑧政治や経済などへの関心

インターネット利用による〈政治や経済などへの関心〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。「増えたり、広がったりした」は年齢が上がるにつれて増加し、高校生で約3割を占めています。

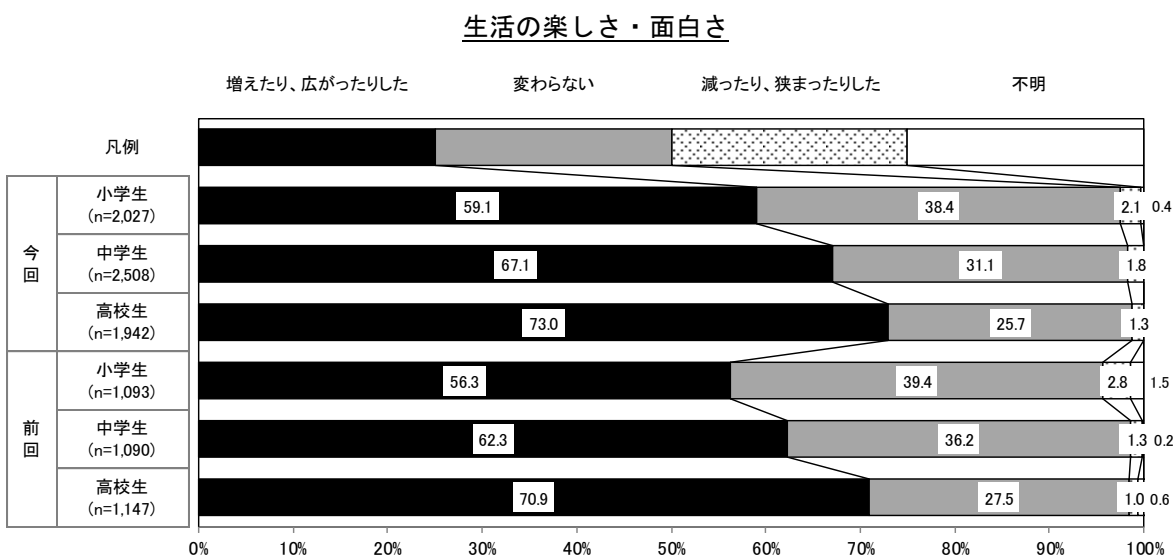
前回調査と比較すると、中学生、高校生で「増えたり、広がったりした」が減少しています。



⑨生活の楽しさ・面白さ

インターネット利用による〈生活の楽しさ・面白さ〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「増えたり、広がったりした」が最も多くなっています。「増えたり、広がったりした」は年齢が上がるにつれて増加し、高校生で7割台前半を占めています。

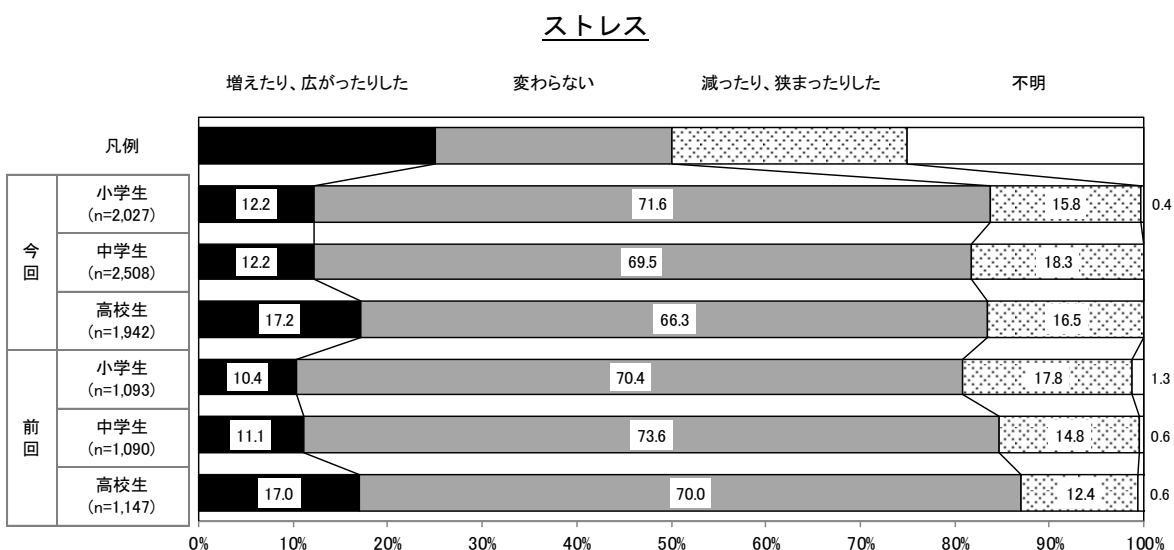
前回調査と比較すると、中学生で「増えたり、広がったりした」が増加しています。



⑩ストレス

インターネット利用による〈ストレス〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。年齢間で大きな差異はありません。

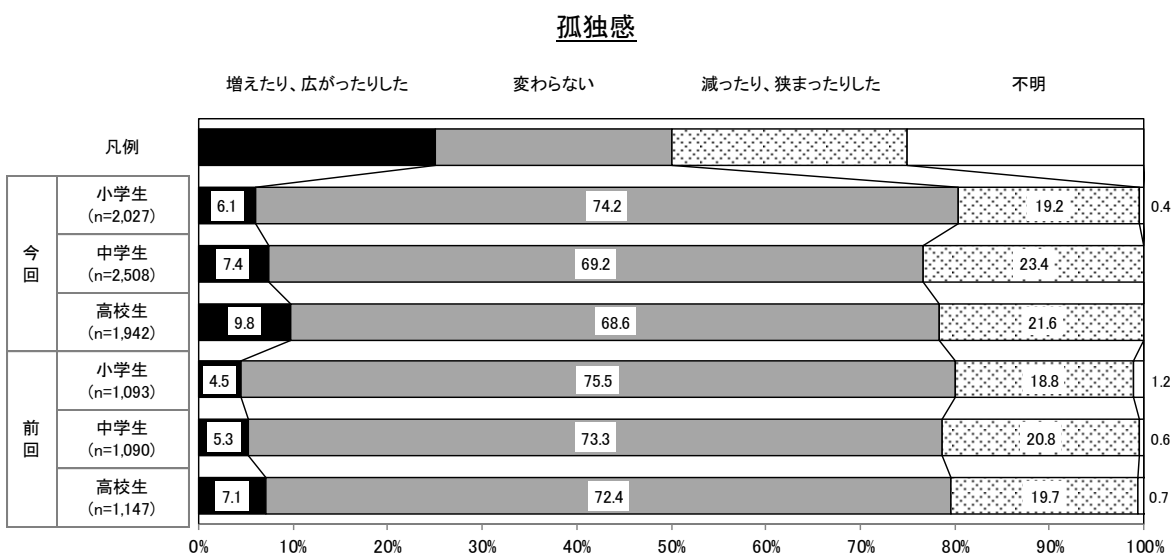
前回調査と比較すると、中学生、高校生で「変わらない」が減少、「減ったり、狭まったりした」が増加しています。



⑪孤独感

インターネット利用による〈孤独感〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。年齢間で大きな差異はありません。

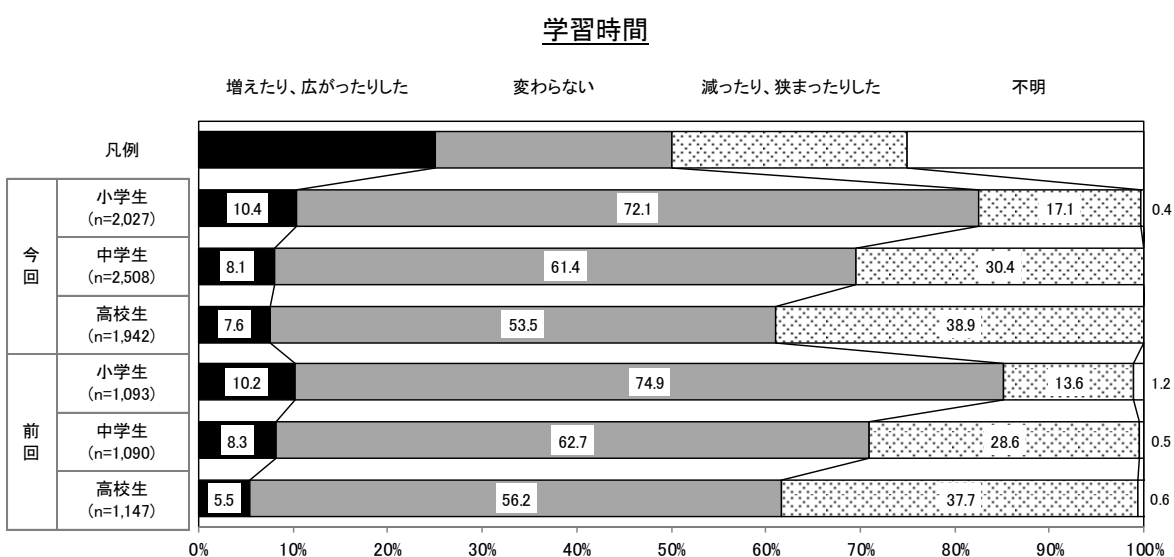
前回調査と比較すると、中・高校生で「変わらない」が減少し、「増えたり、広がったりした」がやや増加しています。



⑫学習時間

インターネット利用による〈学習時間〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。「減ったり、狭まったりした」は年齢が上がるにつれて増加し、高校生で4割弱を占めています。

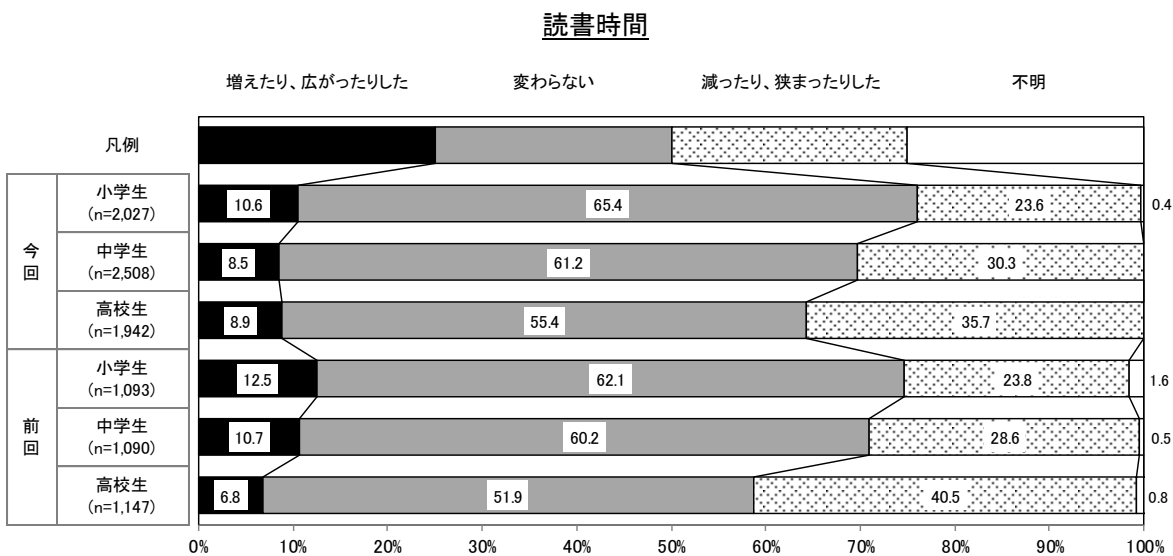
前回調査と比較すると、小学生で「減ったり、狭まったりした」が増加し、高校生で「増えたり、広がったりした」がやや増加しています。



⑬読書時間

インターネット利用による〈読書時間〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。「減ったり、狭まったりした」は年齢が上がるにつれて増加し、高校生で3割半ばを占めています。

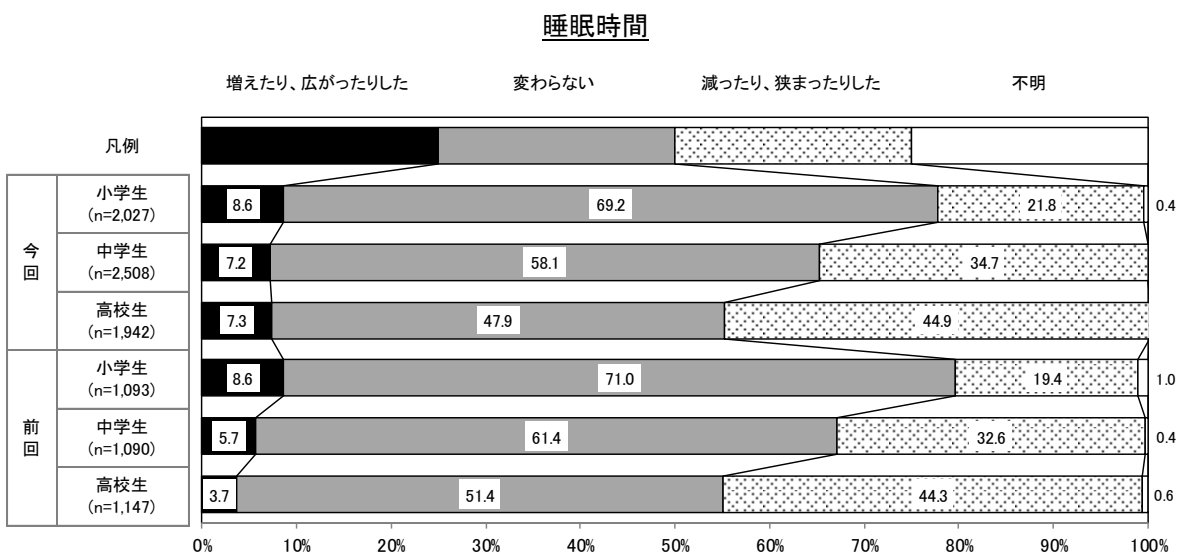
前回調査と比較すると、特に高校生で「減ったり、狭まったりした」が減少しています。



⑭睡眠時間

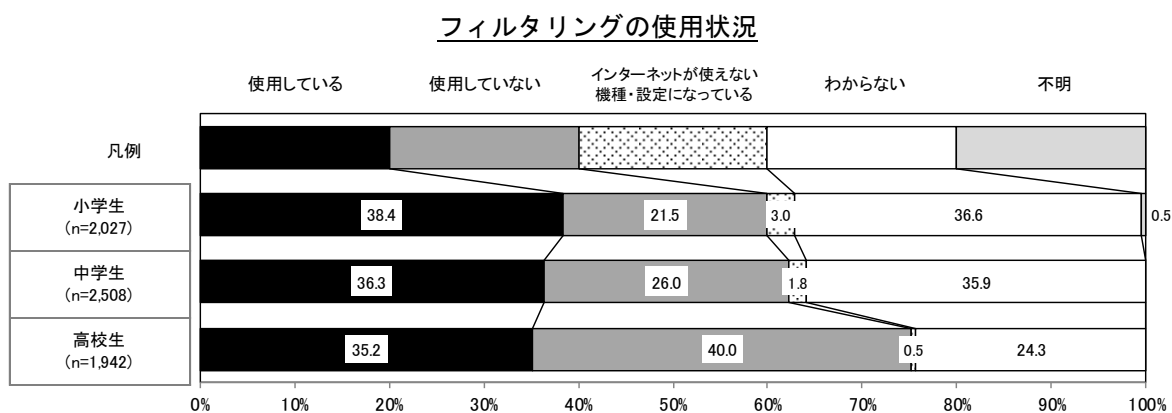
インターネット利用による〈睡眠時間〉の変化を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「変わらない」が最も多くなっています。「減ったり、狭まったりした」は年齢が上がるにつれて増加し、高校生で4割台半ばを占めています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(4) フィルタリングの使用状況

インターネットを利用できる機器を所有している人に、フィルタリングの使用状況を尋ねたところ、小学生、中学生は「使用している」が最も多くなっており、高校生は「使用していない」が最も多くなっています。

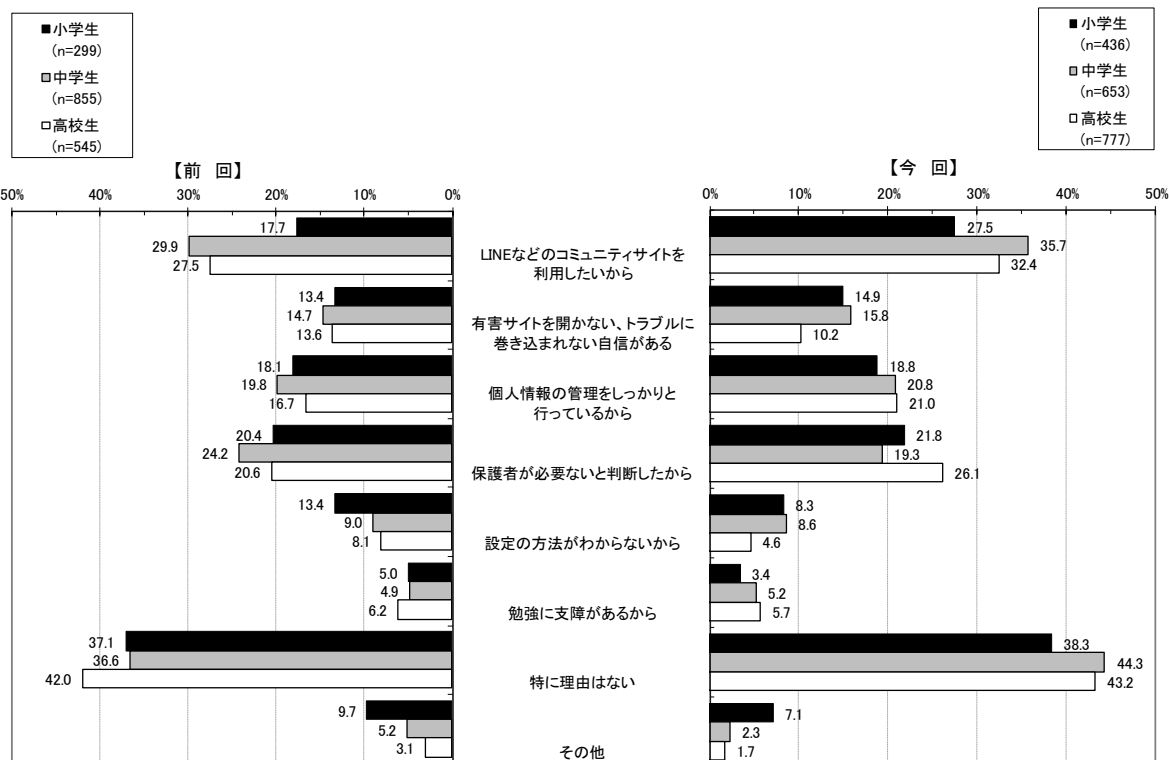


(5) フィルタリングを使用していない理由

フィルタリングを使用していない人に、その理由を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「特に理由はない」が最も多く、次いで「LINEなどのコミュニティサイトを利用したいから」が多くなっています。

前回調査と比較すると、小学生、中学生で「LINEなどのコミュニティサイトを利用したいから」が増加しています。また、高校生で「保護者が必要ないと判断したから」が増加しています。

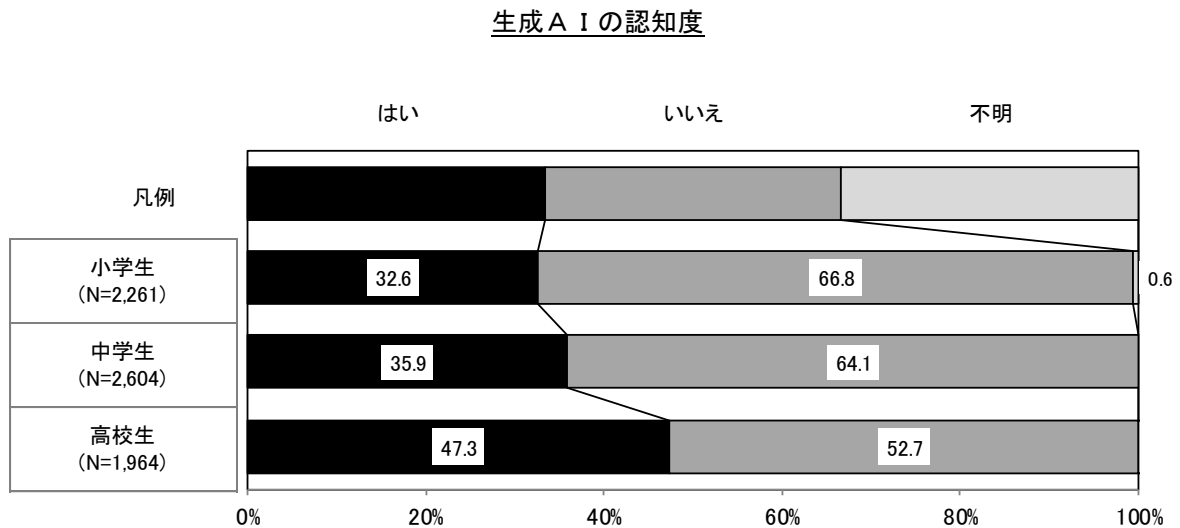
フィルタリングを使用していない理由



9. 生成A Iについて

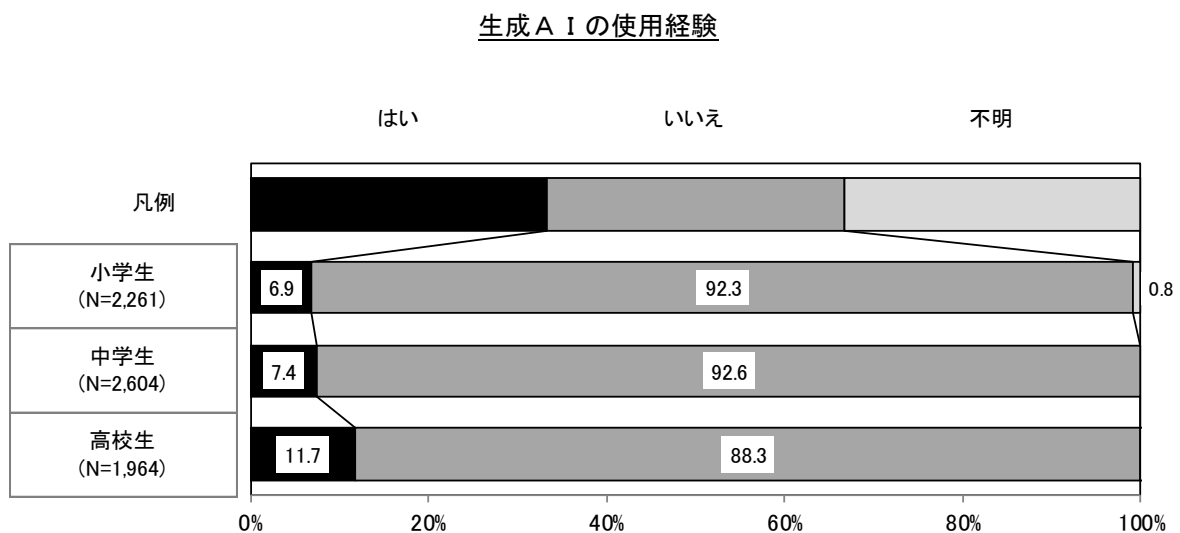
(1) 生成A Iの認知度

生成A Iという言葉を知っているか尋ねたところ、小学生、中学生で「はい」が3割前半～3割台半ば、高校生で「はい」が4割台後半となっており、年齢が上がるとともに認知度も高くなる傾向があります。



(2) 生成A Iの使用経験

生成A Iを使ったことがあるか尋ねたところ、小学生で「はい」が6.9%、中学生で「はい」が7.4%、高校生で「はい」が11.7%となっています。



(3) 生成A I を使った内容（自由記述）

生成A I を使ったことがある人に、具体的に何をしているのかを自記入方法で回答してもらいました。

中学生、高校生は「イラストを描く、画像生成」が多く、小学生は「調べもの、勉強」が多くなっています。

また、高校生は小学生、中学生に比べて「C h a t G P T」、「文章作成」、「語学関係（英文作成、翻訳など）」に多く利用している傾向がみられます。

生成A I を使った内容

内容	小学生	中学生	高校生
Chat GPTを使った	8	9	25
Siri、Alexaを使った	17	6	6
アイデア出し	1	6	5
イラストを描く、画像生成	28	60	64
ゲーム（将棋など含む）	3	8	2
語学関係（英文作成、翻訳など）	－	2	10
作曲（歌を作る）	－	2	－
調べもの、勉強	32	42	27
動画作成	2	2	3
文章作成	2	18	30
話す、遊んでみたなど	14	7	14
合計	107	162	186

※「Chat GPT」を使った目的（内容）に記入がある場合は、内容で分類

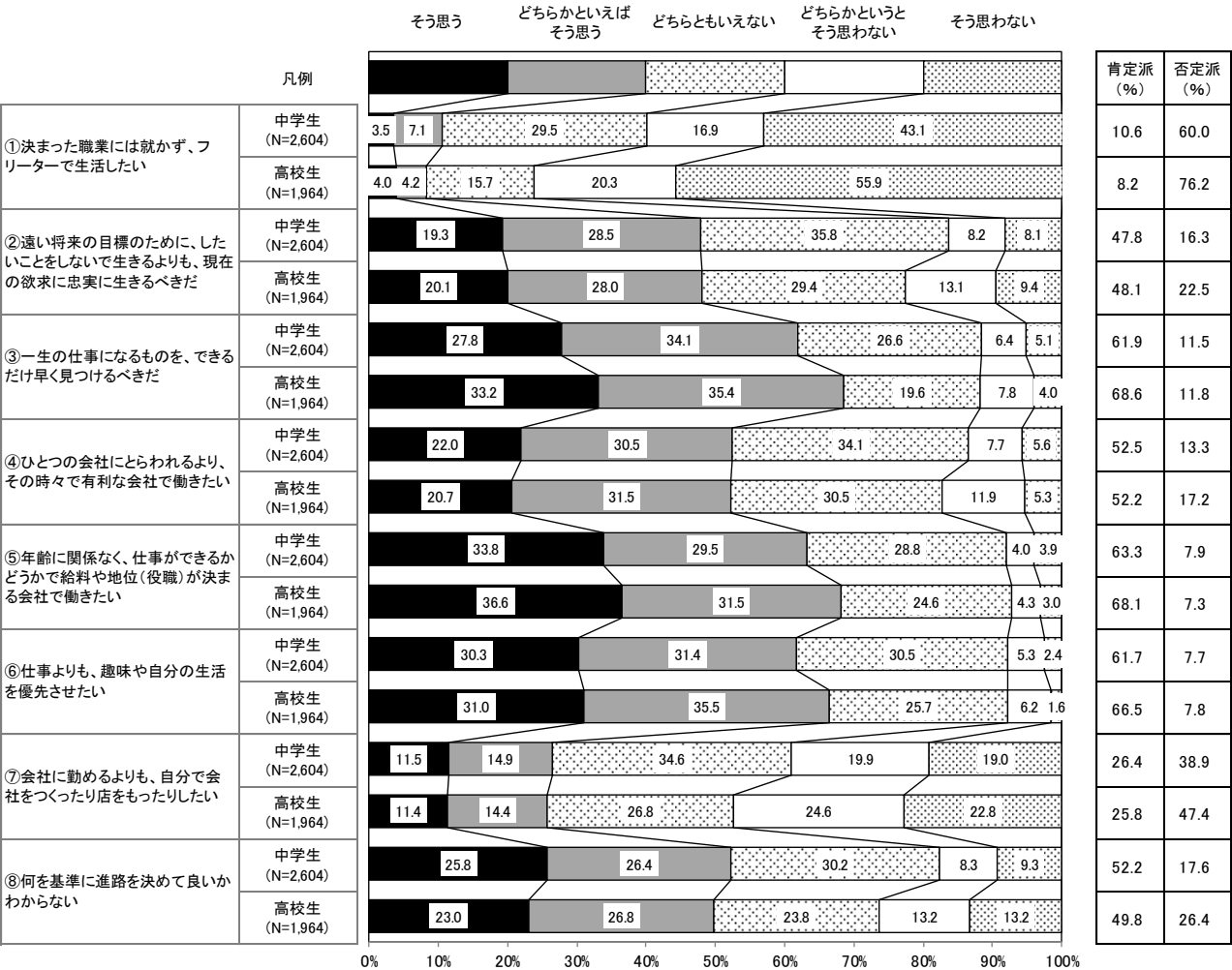
10. 進路選択について

(1) 将来の職業生活について考えていること

将来の職業生活について考えていることを尋ねたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定派』は、中学生で〈⑤年齢に関係なく、仕事ができるかどうかで給料や地位（役職）が決まる会社で働きたい〉が最も多く、次いで〈③一生の仕事になるものを、できるだけ早く見つけるべきだ〉、〈⑥仕事よりも、趣味や自分の生活を優先させたい〉が6割台前半となっています。高校生では〈③一生の仕事になるものを、できるだけ早く見つけるべきだ〉、〈⑤年齢に関係なく、仕事ができるかどうかで給料や地位（役職）が決まる会社で働きたい〉が6割台後半で最も多く、〈⑥仕事よりも、趣味や自分の生活を優先させたい〉が6割台半ばとなっています。

一方、〈①決まった職業には就かず、フリーターで生活したい〉の『肯定派』は1割前後で最も低く、〈⑦会社に勤めるよりも、自分で会社をつくったり店をもったりしたい〉の『肯定派』も2割台半ばにとどまっています。

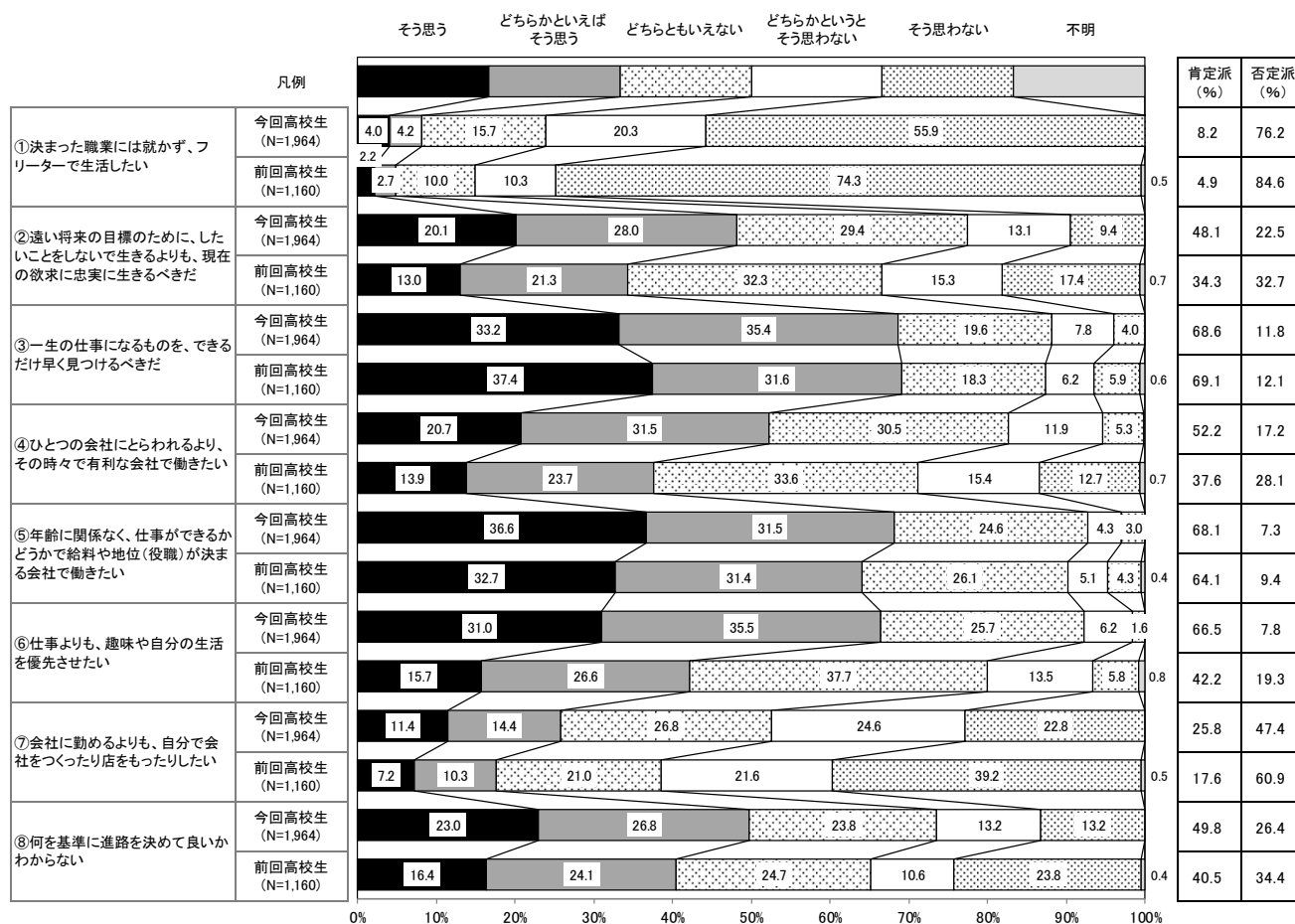
将来の職業生活について考えていること



※『肯定派』は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。
『否定派』は「どちらかというとそう思わない」「そう思わない」を合わせたもの。

前回調査（高校生）と比較すると、〈②遠い将来の目標のために、したいことをしないで生きるよりも、現在の欲求に忠実に生きるべきだ〉、〈④ひとつの会社にとらわれるより、その時々で有利な会社で働きたい〉、〈⑥仕事よりも、趣味や自分の生活を優先させたい〉、〈⑧何を基準に進路を決めて良いかわからない〉で増加傾向がみられます。

将来の職業生活について考えていること



※『肯定派』は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。
『否定派』は「どちらかというと思わない」「そう思わない」を合わせたもの。

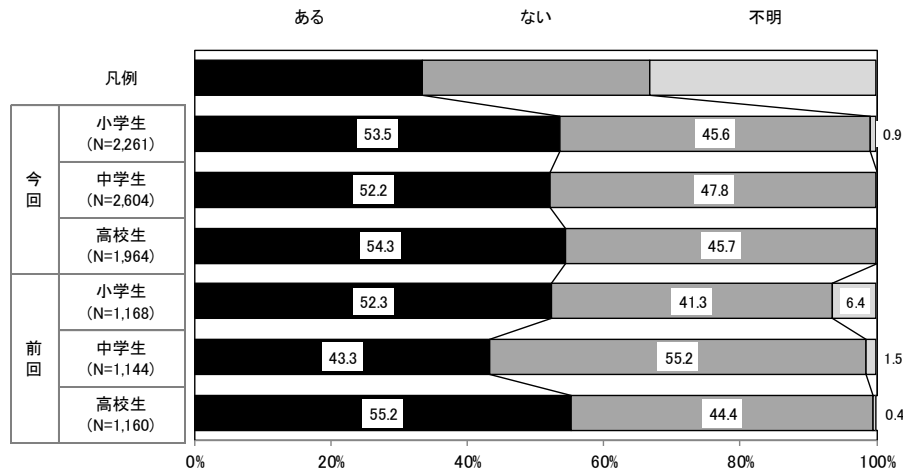
11. 国際化について

(1) 海外の人たちとの交流経験

海外の人たちとの交流経験について尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「ある」が「ない」を上回っており、大きな違いはみられません。

前回調査と比較すると、中学生で「ある」が5割を超え、8.9ポイント増加しています。

海外の人たちとの交流経験

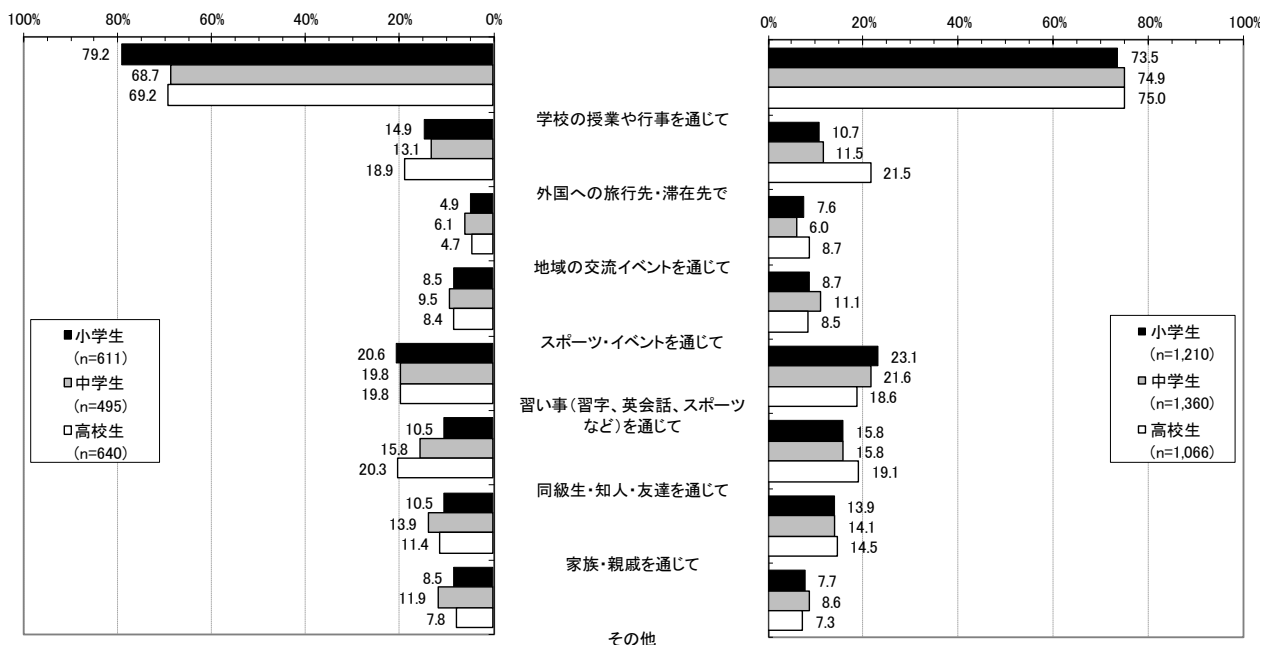


(2) 海外の人たちとの交流機会

海外の人たちとの交流経験がある人に、その交流機会を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「学校の授業や行事を通じて」が最も多く、それ以外の交流機会との差が大きくなっています。

前回調査と比較すると、小学生で「学校の授業や行事を通じて」、「外国への旅行先・滞在先で」が減少し、「同級生・知人・友人を通じて」、「家族・親戚を通じて」が増加しています。中学生、高校生では「学校の授業や行事を通じて」が増加しており、中学生で6.2ポイント、高校生で5.8ポイント増加しています。

海外の人たちとの交流機会

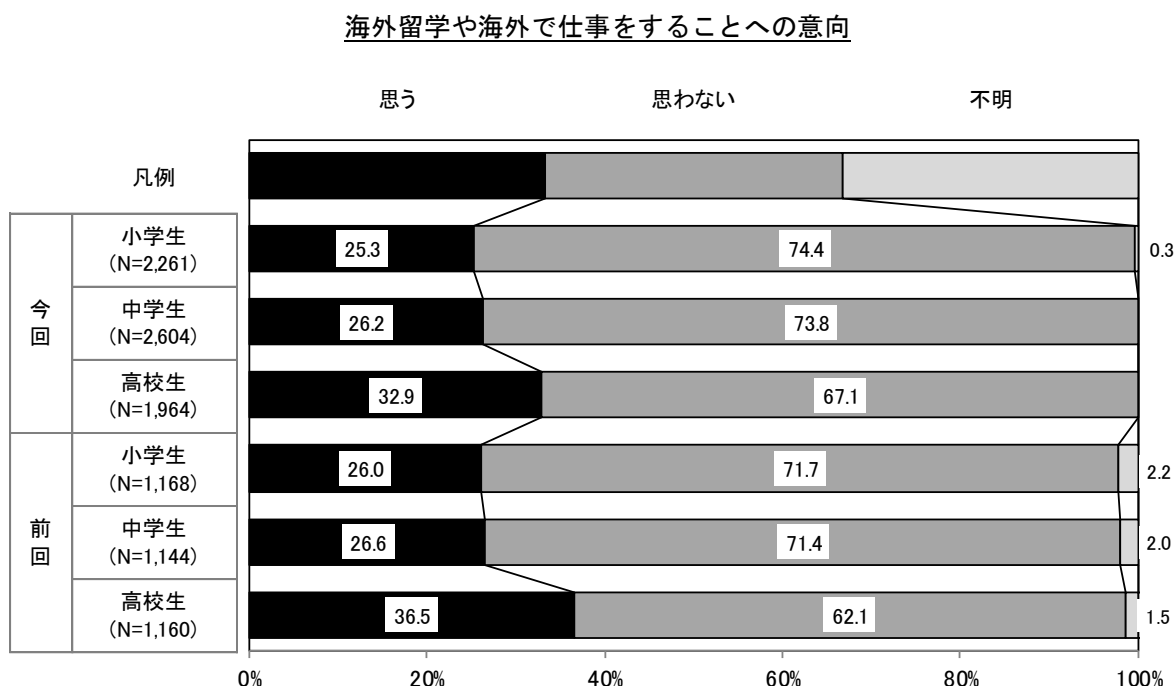


※小学生の表現は一部中高生と異なっている。
「習い事(習字、英会話、スポーツなど)を通じて」→「習い事を通じて」

(3) 海外留学や海外で仕事をする事への意向

海外に出て留学や仕事をしたいかどうか意向を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「思わない」が「思う」を上回っています。

前回調査と比較すると、高校生で「思う」が減少し、「思わない」が増加しています。



(4) 海外に出てやってみたいこと（自由記述）

海外に出て留学や仕事をしたいと回答した人に、海外に出てみたいことを自記入方式で回答してもらいました。

小学生は「スポーツの選手など」、「やりたい仕事や職業に就く」が、中学生は「文化交流」、「観光や旅行、遊び」、高校生は「やりたい仕事や職業に就く」が多くなっています。

海外に出てやってみたいこと

内容	小学生	中学生	高校生
やりたい仕事や職業に就く	108	82	120
住みたい、生活してみたい	17	23	34
文化交流	70	91	76
視野や見聞を広げたい	6	40	31
スポーツ(サッカー、バスケ、野球など)の選手など	109	61	8
外国語習得	54	56	52
勉強や留学	40	54	38
観光や旅行、遊び	51	90	51
コミュニケーション(会話する、ふれあいなど)をとる	54	89	93
合計	509	586	503

(5) 海外留学や海外で仕事をしたいと思わない理由

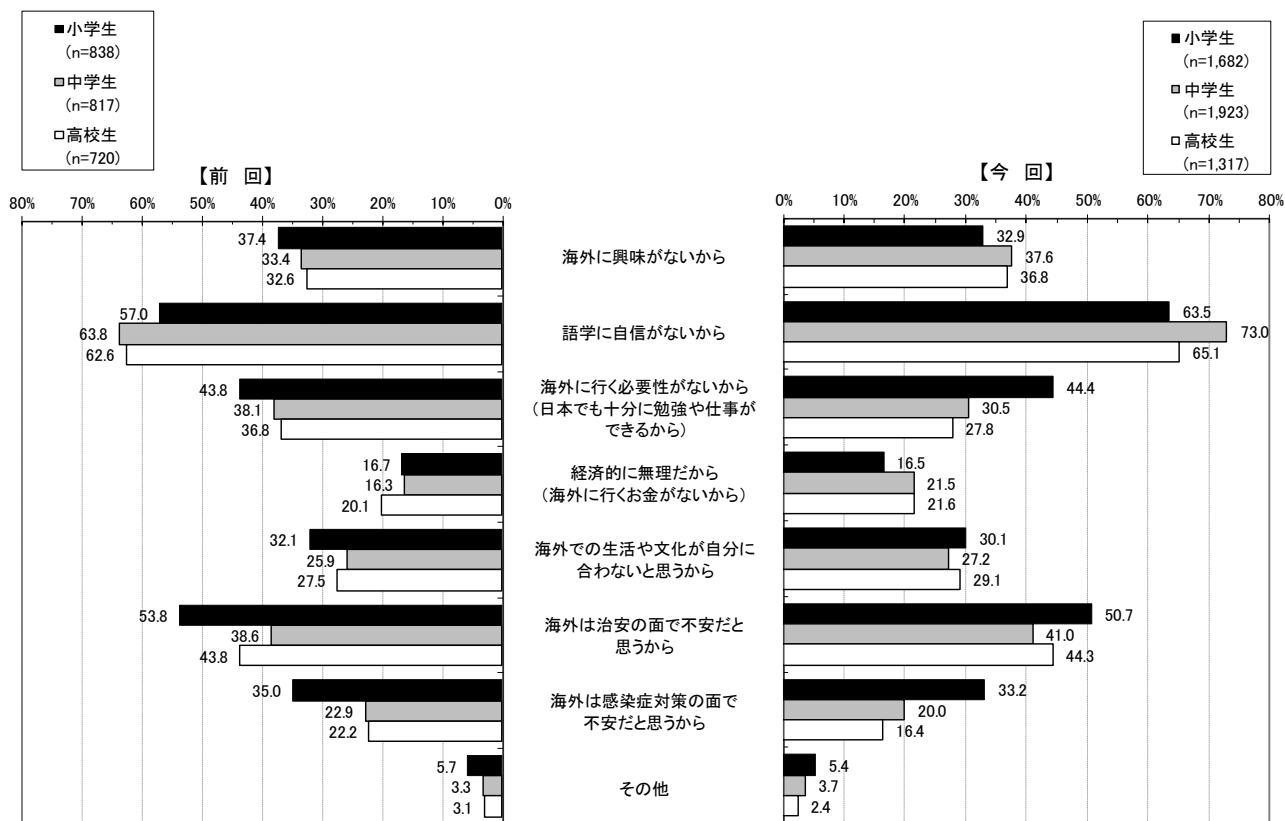
海外に出て留学や仕事をしたいと思わない人に、その理由を尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「語学に自信がないから」が最も多くなっています。

現在、新型コロナによる渡航制限は解除されていますが、小学生は「海外は感染症対策の面で不安だと思うから」が3割を超えています。「海外は感染症対策の面で不安だと思うから」は中学生で2割、高校生で1割台半ばと、年齢が上がるとともに低下する傾向がみられます。

前回調査と比較すると、小学生は、「海外に興味がないから」が減少し、「語学に自信がないから」が増加しています。中学生では「海外に興味がないから」、「語学に自信がないから」、「経済的に無理だから（海外に行くお金がないから）」が増加し、「海外に行く必要性がない（日本でも十分に勉強や仕事ができる）」が減少しています。

高校生では、「海外に行く必要性がない（日本でも十分に勉強や仕事ができる）」、「海外は感染症対策の面で不安だと思うから」が減少しています。

海外留学や海外で仕事をしたいと思わない理由



※小学生の表現は一部中高校生と異なっているが、集計上、中・高校生の回答の表現に合わせている。

中・高校生では「海外は治安の面で不安だと思うから」→小学生では「海外は治安の面で不安だと思う（安全かどうかかわからない）」が回答の選択肢。

中・高校生では「海外は感染症対策の面で不安だと思うから」→小学生では「海外は医療や衛生面で不安を感じるから」が回答の選択肢

1 2. 規範意識について

(1) 小・中・高校生としての規範意識

小・中・高校生としての規範意識を尋ねたところ、いずれの行為についても「とても悪い」と「やや悪い」を合わせた『悪い』が6割を超えています。年齢が上がるにつれて、〈①タバコを吸うこと〉、〈②酒を飲むこと〉、〈⑦深夜（午後11時以降）に外出すること〉で『悪い』が低くなる傾向がみられます。

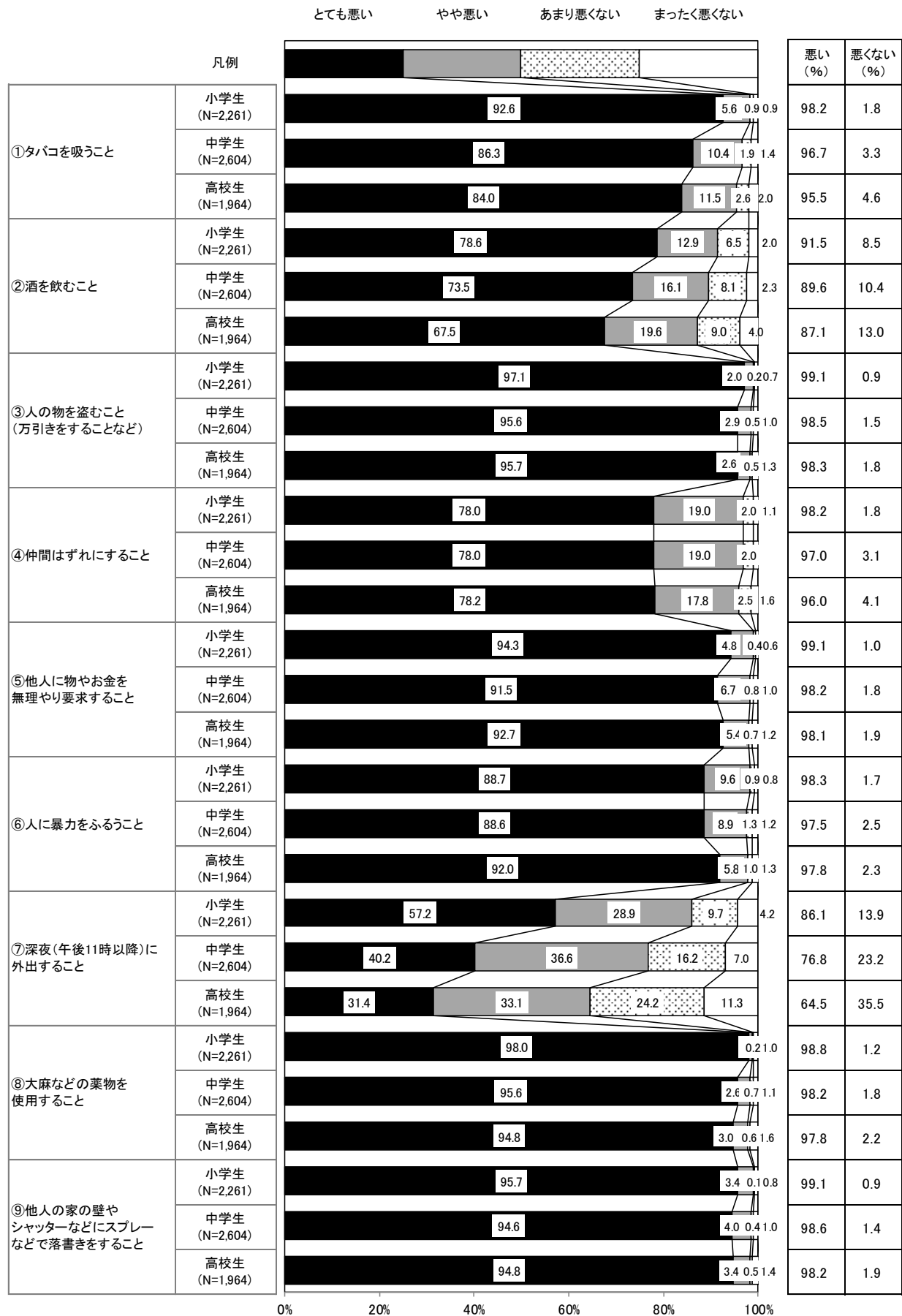
特に、高校生では〈⑦深夜（午後11時以降）に外出すること〉で『悪い』は6割台半ばとなっており、小学生を21.6ポイント、中学生を12.3ポイント下回っています。

(2) 中・高校生としての規範意識

中・高校生としての規範意識を尋ねたところ、いずれの行為についても「とても悪い」と「やや悪い」を合わせた『悪い』が半数を超えています。また、〈⑬匿名でSNSで誹謗中傷すること〉は、中・高校生で大きな違いはなく、『悪い』が9割台後半となっています。

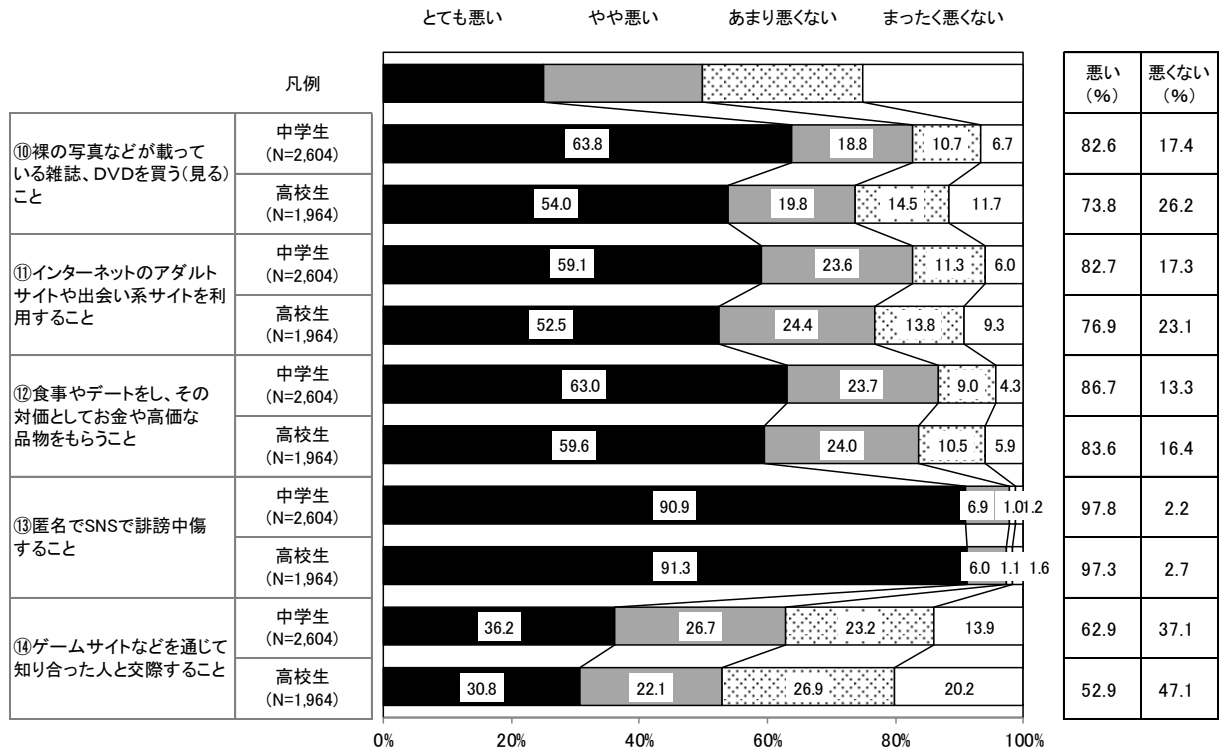
高校生は、〈⑭ゲームサイトなどを通じて知り合った人と交際すること〉で、『悪い』が中学生を10.0ポイント上回っています。

小・中・高校生としての規範意識



※『悪い』は「とても悪い」「やや悪い」を合わせたもの。
『悪くない』は「あまり悪くない」「まったく悪くない」を合わせたもの。

中・高校生としての規範意識

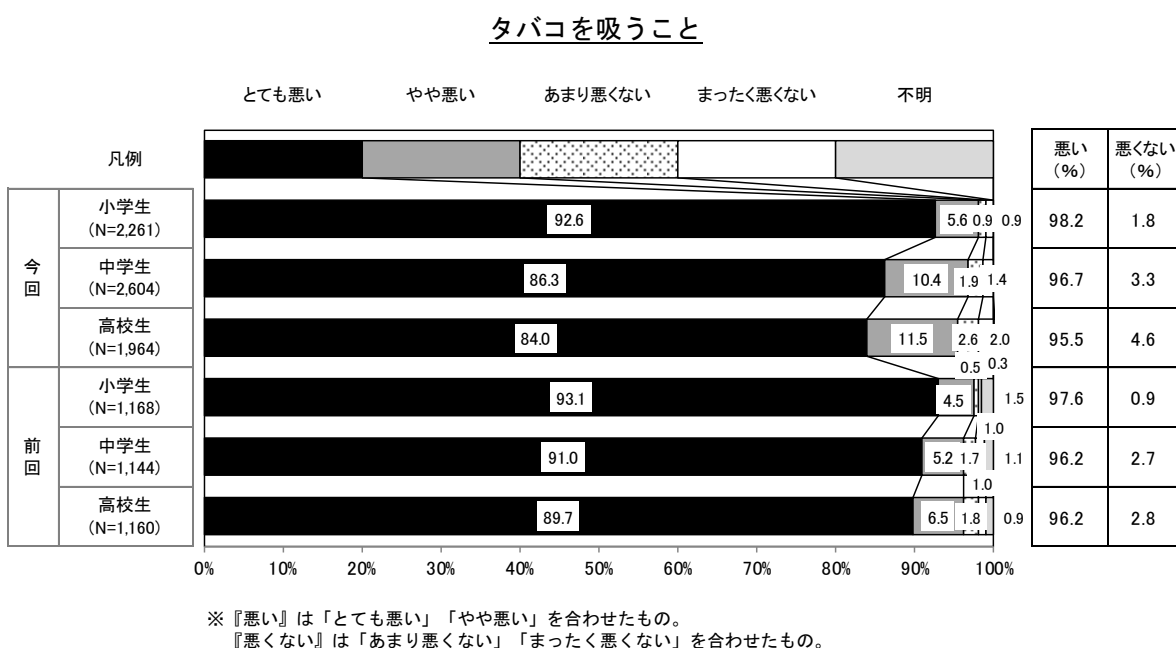


※『悪い』は「とても悪い」「やや悪い」を合わせたもの。
『悪くない』は「あまり悪くない」「まったく悪くない」を合わせたもの。

①タバコを吸うこと

〈タバコを吸うこと〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が大半を占めています。また、『悪い』は年齢に関わらず9割台後半となっています。

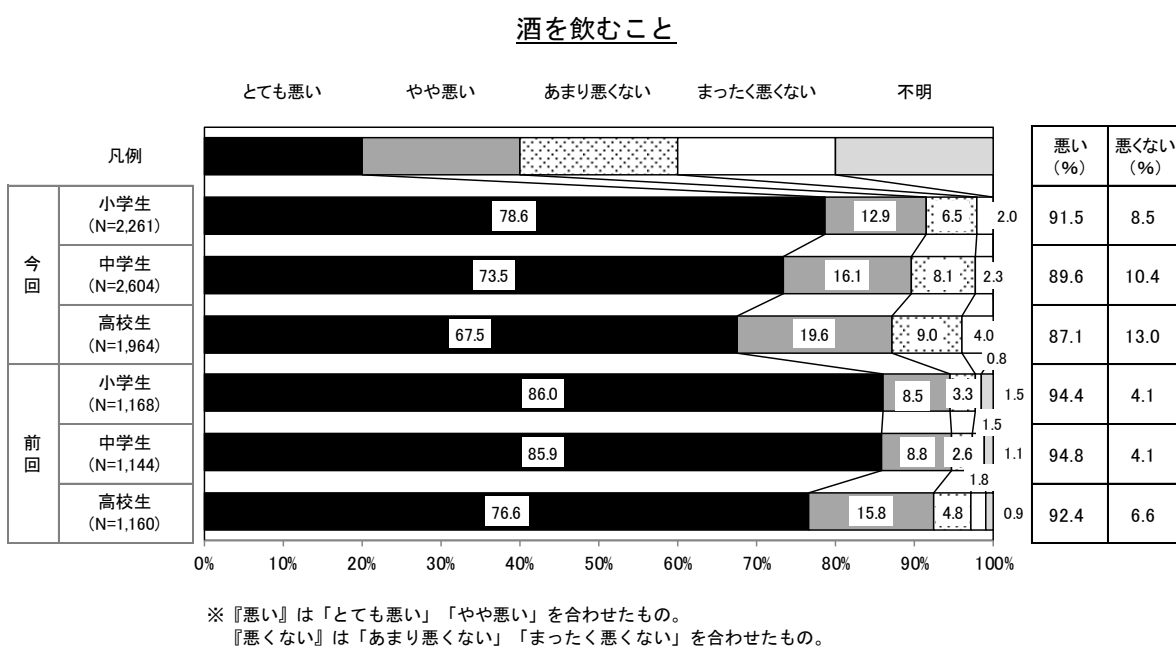
前回調査と比較すると、中・高校生で「とても悪い」が減少しています。



②酒を飲むこと

〈酒を飲むこと〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が6割台後半～7割台後半を占めていますが、年齢が上がるにつれてその割合が少なくなっています。

前回調査と比較すると、小・中・高校生とも「とても悪い」が大幅に減少しています。

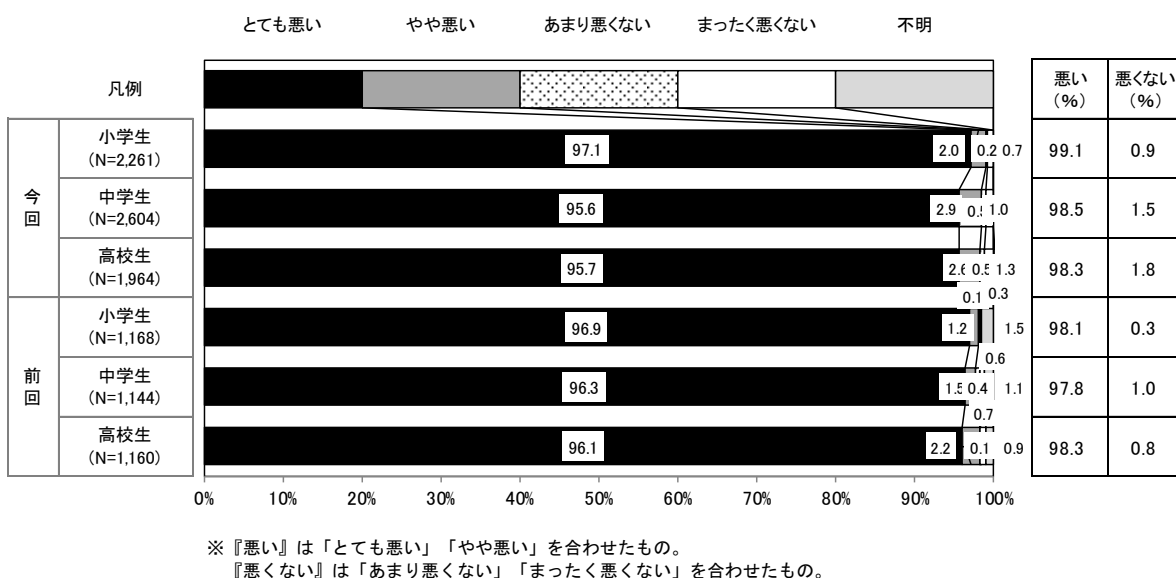


③人の物を盗むこと（万引きすることなど）

〈人の物を盗むこと（万引きすることなど）〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が大半を占めており、『悪い』は年齢に関わらず9割台後半となっています。

前回調査と比較すると、中学生で「やや悪い」が増加しています。

人の物を盗むこと（万引きすることなど）

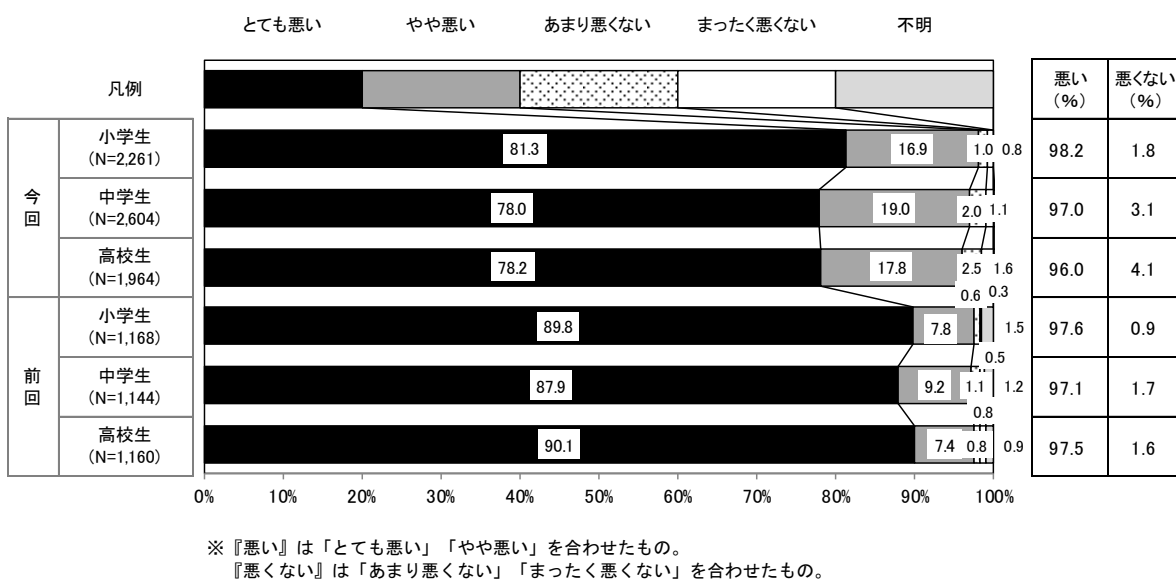


④仲間はずれにすること

〈仲間はずれにすること〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が8割前後を占めており、『悪い』は年齢に関わらず9割台後半となっています。

前回調査と比較すると、小・中・高校生とも「とても悪い」が減少し、「やや悪い」が増加しています。

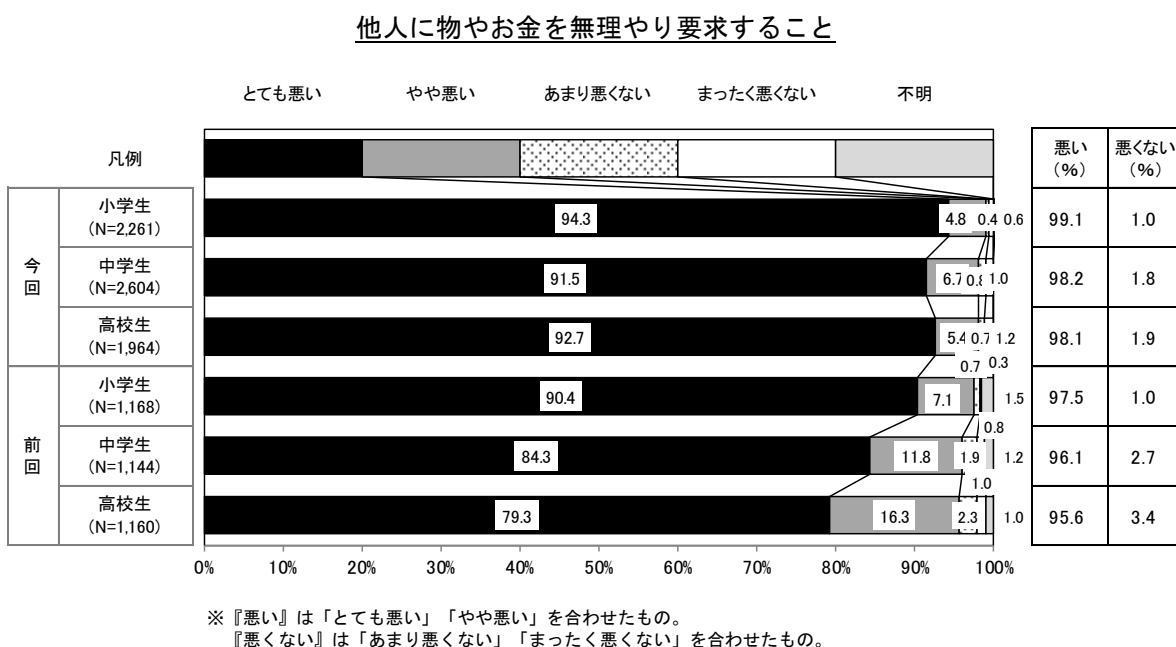
仲間はずれにすること



⑤他人に物やお金を無理やり要求すること

〈他人に物やお金を無理やり要求すること〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が9割を超えています。また、『悪い』は年齢に関わらず9割台後半となっています。

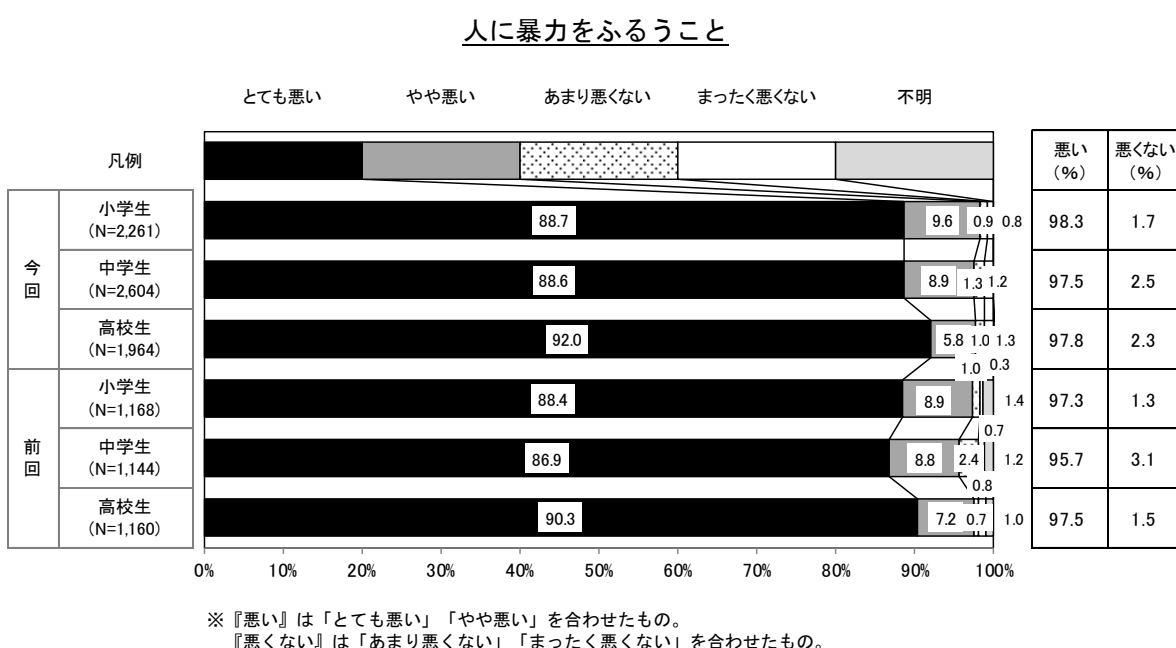
前回調査と比較すると、小・中・高校生とも「とても悪い」が増加しており、特に中学生で7.2ポイント、高校生で13.4ポイント増加しています。



⑥人に暴力をふるうこと

〈人に暴力をふるうこと〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が9割前後を占めており、『悪い』は年齢に関わらず9割台後半となっています。

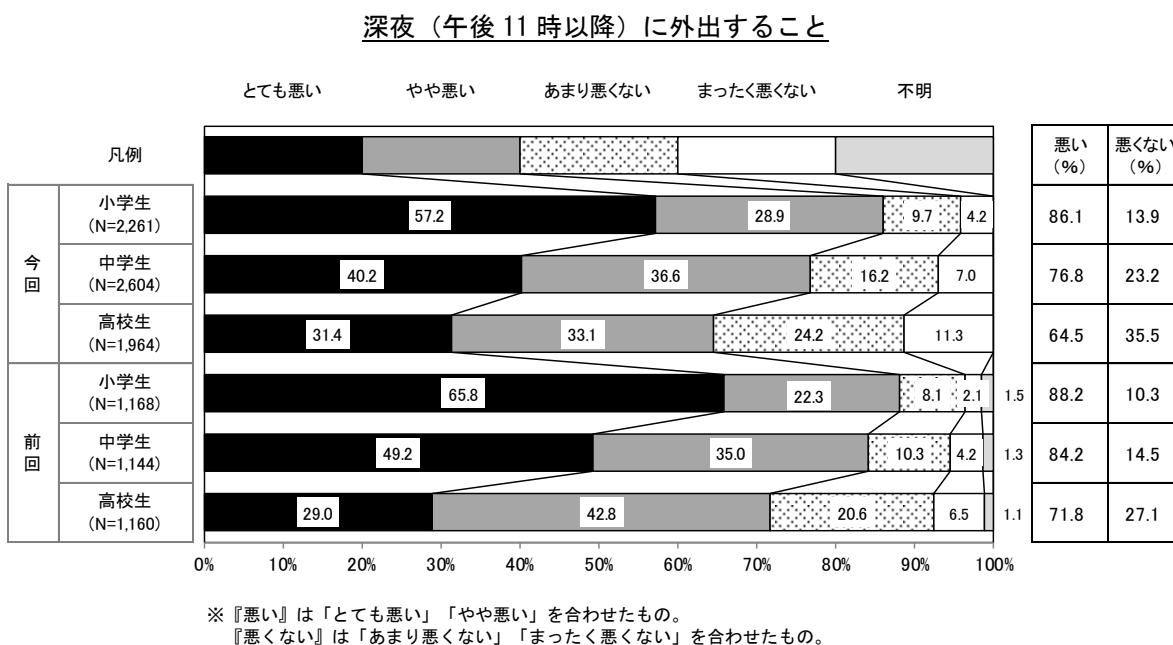
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑦深夜（午後 11 時以降）に外出すること

〈深夜（午後 11 時以降）に外出すること〉をどう思うか尋ねたところ、小学生、中学生では「とても悪い」、高校生では「やや悪い」が最も多く、年齢による意識の差がみられます。同様に、年齢が上がるにつれて『悪い』が少なくなり、高校生は小学生と比べ 21.6 ポイント低くなっています。

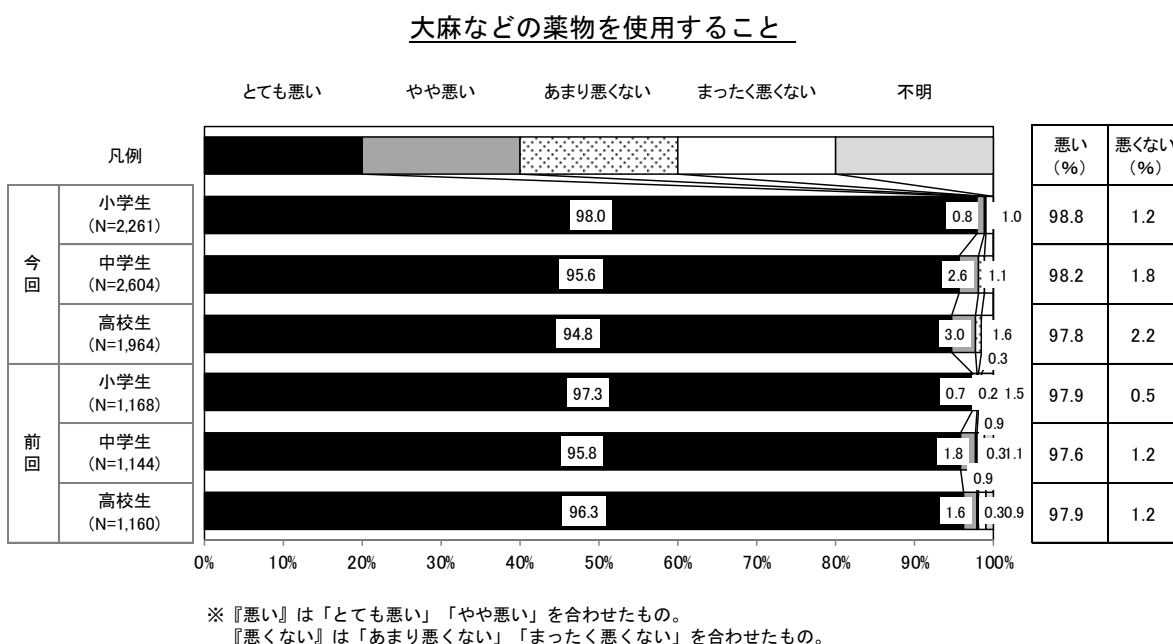
前回調査と比較すると、小・中・高校生ともに『悪くない』が増加しています。



⑧大麻などの薬物を使用すること

〈大麻などの薬物を使用すること〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が大半を占めており、『悪い』は年齢に関わらず 9 割台後半となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

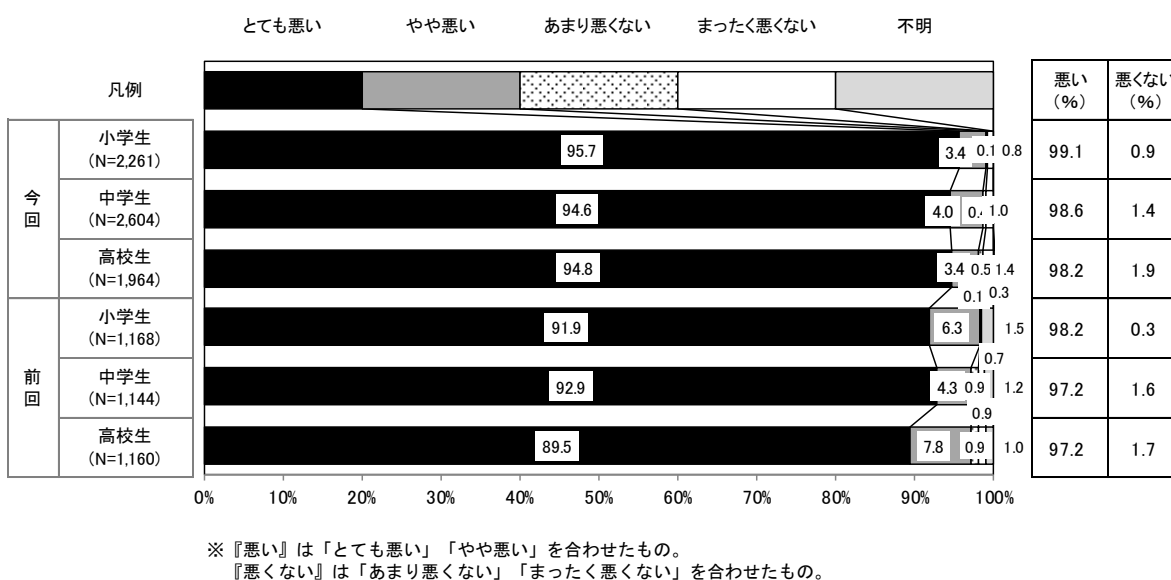


⑨他人の家や壁やシャッターなどにスプレーなどで落書きをすること

〈他人の家や壁やシャッターなどにスプレーなどで落書きをすること〉をどう思うか尋ねたところ、小・中・高校生すべてで「とても悪い」が大半を占めており、『悪い』は年齢に関わらず9割台後半となっています。

前回調査と比較すると、小学生、高校生で「とても悪い」が増加しています。

他人の家や壁やシャッターなどにスプレーなどで落書きをすること

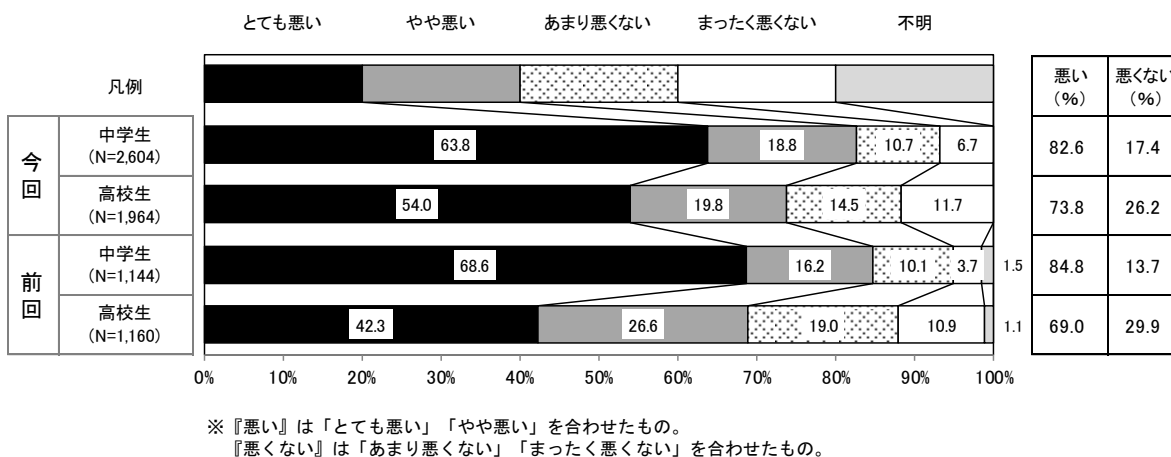


⑩裸の写真などが載っている雑誌・DVDなどを買う（見る）こと（中・高校生のみ）

〈裸の写真などが載っている雑誌・DVDなどを買う（見る）こと〉をどう思うか尋ねたところ、中学生、高校生ともに「とても悪い」が最も多く、中学生は高校生に比べて「とても悪い」が9.8ポイント多くなっています。また、『悪い』は中学生は8割台前半、高校生は7割台前半を占めています。

前回調査と比較すると、「とても悪い」は中学生で減少、高校生で増加しています。

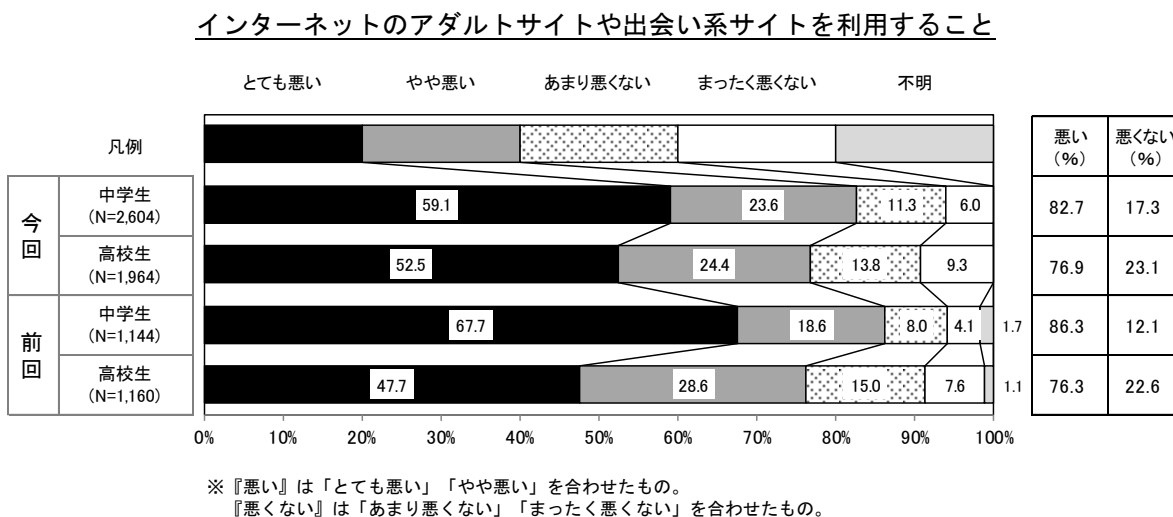
裸の写真などが載っている雑誌・DVDなどを買う（見る）こと



⑪インターネットのアダルトサイトや出会い系サイトを利用すること（中・高校生のみ）

〈インターネットのアダルトサイトや出会い系サイトを利用すること〉をどう思うか尋ねたところ、中学生、高校生ともに「とても悪い」が最も多く、また、『悪い』は中学生で8割台前半、高校生で7割台後半を占めています。

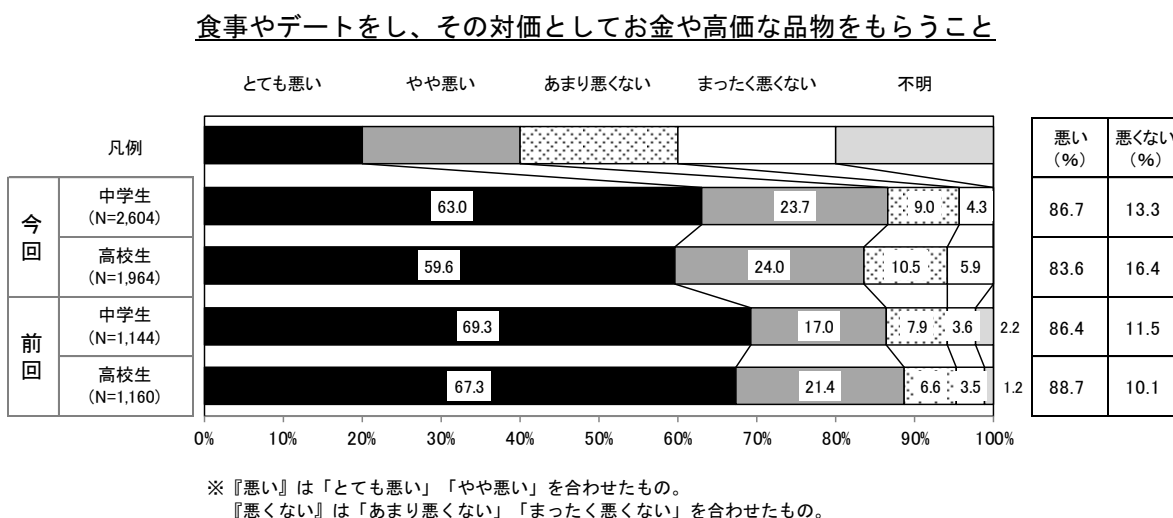
前回調査と比較すると、中学生で「とても悪い」が8.6ポイント減少した一方、高校生では「とても悪い」が4.8ポイント増加しています。



⑫食事やデートをし、その対価としてお金や高価な品物をもらうこと（中・高校生のみ）

〈食事やデートをし、その対価としてお金や高価な品物をもらうこと〉をどう思うか尋ねたところ、中学生、高校生とも「とても悪い」が最も多く、6割前後を占めています。また、『悪い』は中学生で8割台後半、高校生が8割台前半を占めています。

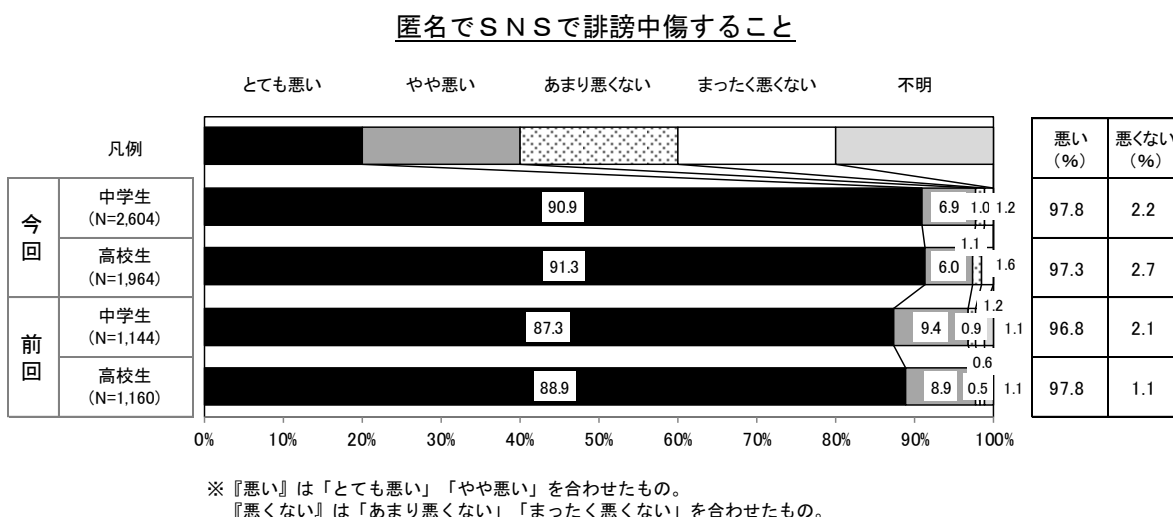
前回調査と比較すると、中学生で「とても悪い」が6.3ポイント、高校生で「とても悪い」が7.7ポイント減少しています。



⑬匿名でSNSで誹謗中傷すること（中・高校生のみ）

〈匿名でSNSで誹謗中傷すること〉をどう思うか尋ねたところ、中学生、高校生とも「とても悪い」が最も多く、9割を占めています。また、『悪い』は中学生、高校生とも9割台後半を占めています。

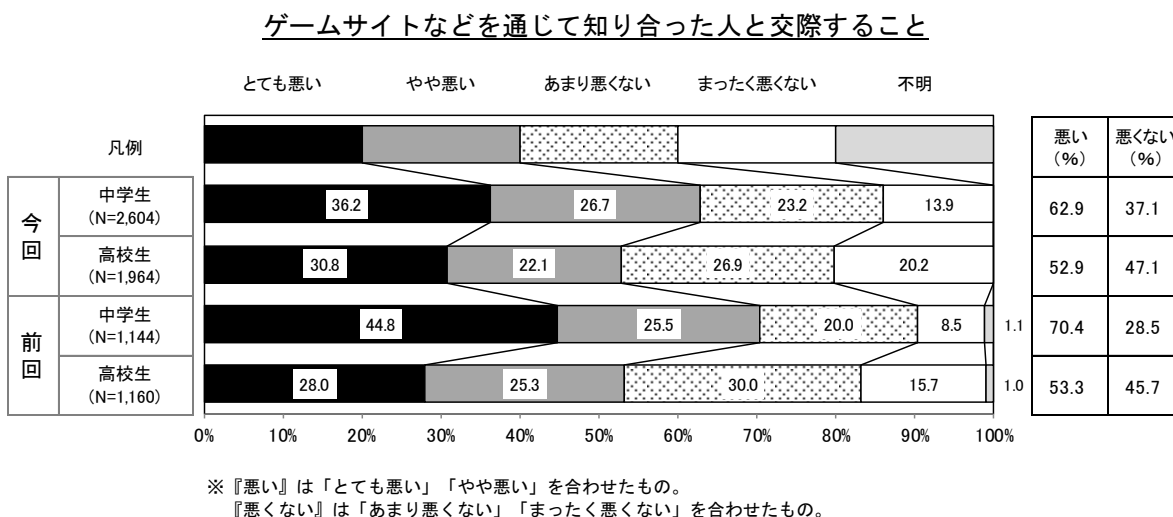
前回調査と比較すると、中・高校生ともに「とても悪い」が増加しています。



⑭ゲームサイトなどを通じて知り合った人と交際すること（中・高校生のみ）

〈ゲームサイトなどを通じて知り合った人と交際すること〉をどう思うか尋ねたところ、中学生、高校生ともに「とても悪い」が最も多くなっています。また、『悪い』は中学生で6割台前半、高校生で5割台前半で、高校生では『悪い』と『悪くない』がかなり近接しています。

前回調査と比較すると、中学生で「とても悪い」が8.6ポイント減少しています。



B. 青少年の調査結果の〈日常の行動と過去の生活体験〉、〈家族のお世話をする頻度・時間と子どもの状況〉〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係

1. 〈日常の行動と過去の生活体験〉との関係

日常の行動を『規範意識』『主体性』『人間関係』『探求心』にかかわる設問、過去の生活体験を『自然体験』『自然観察』『アウトドア体験』『他人とのかかわり』『ボランティア』にかかわる設問に区分し、相関関係についてみてみました。

相関関係があるという意味は、日常の行動で当てはまると回答した人と過去の生活体験がある・ないと回答した人、当てはまらないと回答した人と過去の生活体験がある・ないと回答した人の間で、明らかな差があるということです。

小・中・高校生とも『自然体験』と「人の話をきちんと聞く」「ルールを守って行動する」「周りの人に迷惑をかけずに行動する」などの『規範意識』ではほとんど相関関係がみられなかったものの、それ以外のほぼすべての項目で、日常の行動と過去の生活体験には強い相関関係がみられます。

小学生の〈日常の行動と過去の生活体験〉の相関係数表は以下の通りです。

〈日常の行動と過去の生活体験〉との関係（小学生）

		規範意識			主体性				人間関係				探求心				主体性	規範意識	
日常生活の行動		①人の話をきちんと聞く	②ルールを守って行動する	③周りの人に迷惑をかけずに行動する	④自分でできることは自分でする	⑤困った時でも前向きに取り組む	⑥自分の思ったことをはっきりと言う	⑦自分から進んでやる	⑧先のことを考えて、自分の計画を立てる	⑨手助けしている人がいたとき	⑩友達や仲間と協力してやる	⑪相手の立場になって考える	⑫誰とでも協力してグループ活動をする	⑬わからないことを調べる	⑭国や地域の政治や選挙について関心がある	⑮実験や観察で新たな発見をすることに興味がある	⑯日本以外の国や地域の文化に関心がある	⑰自ら進んで考え行動する	⑱家であいさつをする
過去の生活体験																			
自然体験	①チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえた	-0.03	-0.03	-0.03	0.01	0.08	0.09	0.01	-0.01	0.06	-0.02	-0.05	0.03	0.05	0.04	0.15	0.05	0.05	0.05
	②海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりした	0.01	0.00	0.03	0.02	0.07	0.08	0.05	0.05	0.09	0.07	0.01	0.08	0.08	0.10	0.16	0.09	0.11	0.10
	③大きな木に登った	-0.03	-0.04	-0.05	0.03	0.09	0.12	0.05	0.02	0.08	0.04	-0.03	0.04	0.03	0.04	0.09	0.05	0.08	0.07
	④ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登った	0.01	0.03	0.04	0.03	0.07	0.06	0.11	0.08	0.05	0.05	0.04	0.05	0.09	0.11	0.11	0.12	0.12	0.11
自然観察	⑤太陽が昇るところや沈むところを見た	0.05	0.04	0.05	0.06	0.11	0.10	0.12	0.12	0.10	0.02	0.09	0.09	0.10	0.12	0.19	0.18	0.16	0.12
	⑥夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見た	0.09	0.10	0.05	0.06	0.11	0.05	0.13	0.12	0.17	0.07	0.11	0.11	0.12	0.16	0.20	0.23	0.16	0.12
	⑦野鳥を見たり、鳴く声を聞いた	0.08	0.06	0.03	0.09	0.10	0.06	0.09	0.10	0.12	0.08	0.09	0.10	0.07	0.12	0.18	0.19	0.13	0.13
アウトドア体験	⑧海や川で泳いだ	0.01	0.04	0.04	0.07	0.09	0.09	0.08	0.07	0.11	0.07	0.05	0.06	0.03	0.04	0.09	0.11	0.10	0.10
	⑨キャンプをした	0.04	0.02	0.03	0.03	0.06	0.06	0.06	0.05	0.07	0.05	0.05	0.05	0.03	0.06	0.07	0.09	0.08	0.09
	⑩ナイフや包丁で果物の皮をむいたり野菜を切った	0.07	0.08	0.08	0.15	0.09	0.06	0.14	0.09	0.18	0.10	0.12	0.13	0.09	0.06	0.09	0.13	0.12	0.12
	⑪タオルやぞうきを絞った	0.04	0.07	0.04	0.07	0.05	0.01	0.08	0.06	0.10	0.06	0.07	0.10	0.07	0.02	0.05	0.07	0.03	0.11
か他人との関わり	⑫いじめやケンカをやめさせたり、注意した	0.16	0.16	0.14	0.17	0.22	0.21	0.24	0.24	0.33	0.38	0.24	0.26	0.20	0.20	0.19	0.19	0.27	0.14
	⑬外国の人と交流したり一緒に生活したりした	0.04	0.05	0.04	0.04	0.10	0.12	0.13	0.12	0.09	0.06	0.09	0.06	0.10	0.14	0.10	0.20	0.17	0.07
	⑭お墓参りをした	0.03	0.04	0.08	0.03	0.10	0.10	0.07	0.05	0.10	0.06	0.06	0.08	0.07	0.07	0.07	0.10	0.11	0.13
ボランティア	⑮体の不自由な人、困っている人等の手助け	0.10	0.10	0.09	0.07	0.16	0.13	0.14	0.14	0.30	0.15	0.16	0.14	0.10	0.16	0.13	0.18	0.26	0.17
	⑯道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりした	0.13	0.11	0.11	0.14	0.18	0.12	0.18	0.18	0.24	0.18	0.17	0.17	0.20	0.23	0.23	0.22	0.31	0.16
	⑰⑱以外のボランティア活動に参加した	0.09	0.06	0.09	0.06	0.12	0.13	0.14	0.16	0.14	0.10	0.11	0.10	0.15	0.21	0.14	0.19	0.25	0.08
「一定の相関あり」と判定された組合せ(件)		11	12	9	10	17	16	16	15	17	14	14	15	14	15	17	17	16	17

小学生の〈日常の行動と過去の生活体験〉のうち、「①人の話をきちんと聞く」と「①チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえた」で相関関係はありません。

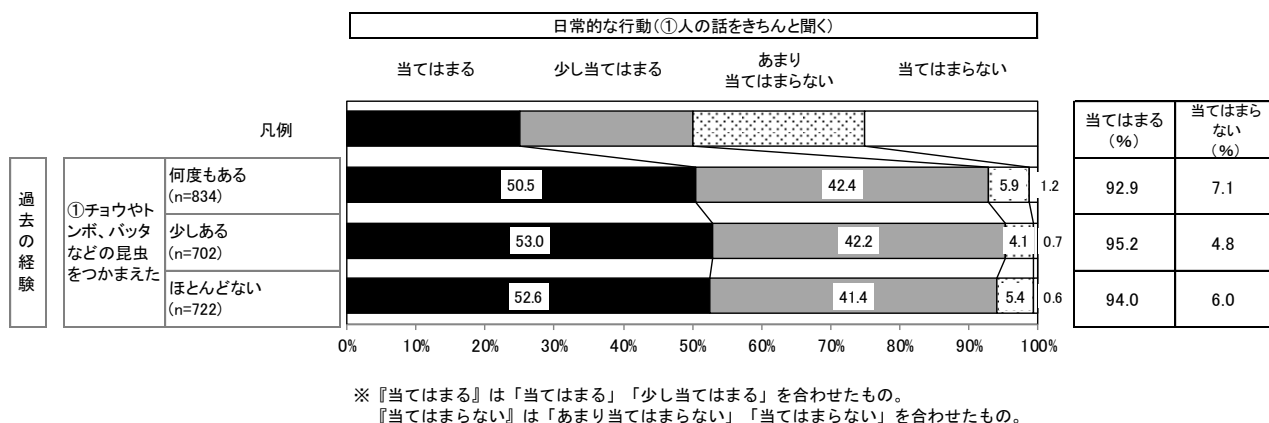
「①人の話をきちんと聞く」と「⑨キャンプをした」は一定の相関ありとなっています。

「①人の話をきちんと聞く」と「⑥夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」、「⑫いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」、「⑯道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりしたこと」は強い相関関係があります。

相関関係の一例として、これらの結果をグラフで表現しました。

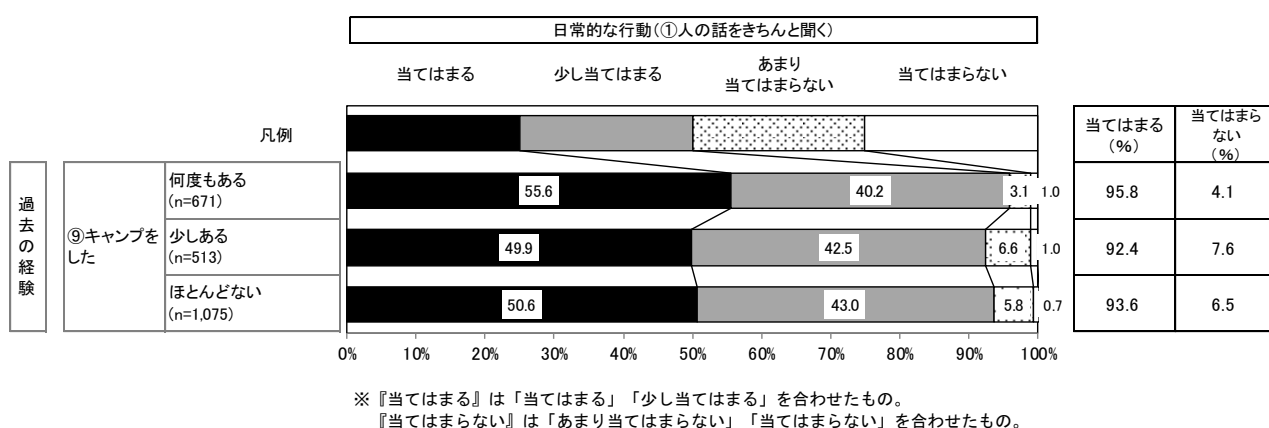
「①人の話をきちんと聞く」と「①チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえた」は、日常の行動と過去の経験の有無で大きな差はありません。

「①人の話をきちんと聞く」と「①チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえた」の関係（小学生）



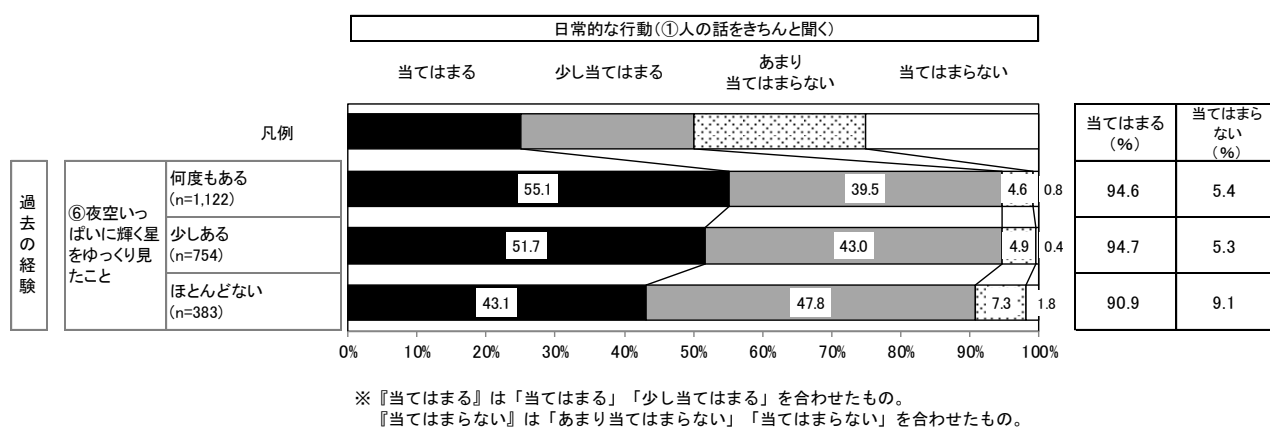
「①人の話をきちんと聞く」と「⑨キャンプをした」では、日常の行動の実行度と過去の経験で「何度もある」と「少しある」、「ほとんどない」の間でやや差がみられます。

「①人の話をきちんと聞く」と「⑨キャンプをした」の関係（小学生）

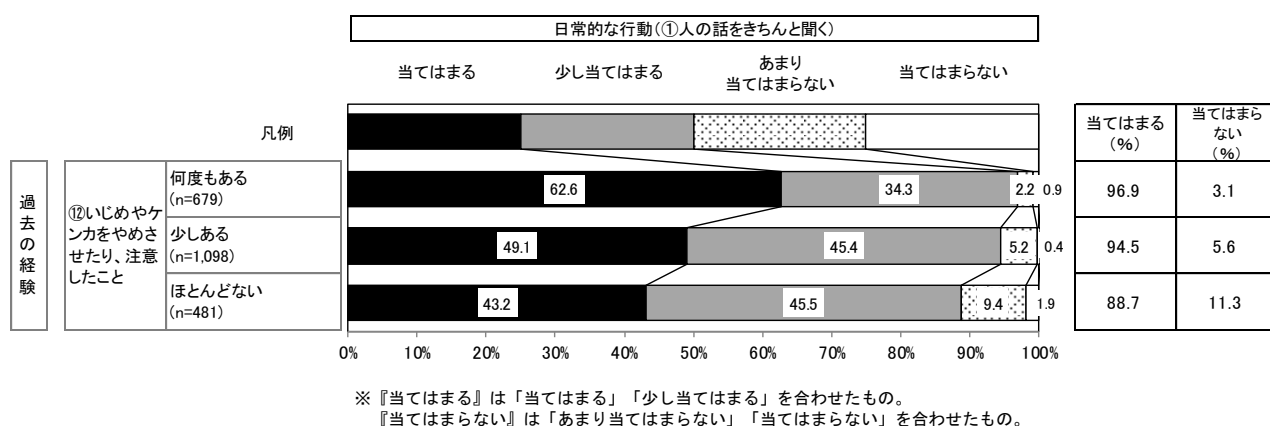


「①人の話をきちんと聞く」と「⑥夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」、「⑫いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」、「⑯道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりしたこと」では、日常の行動の実行度と過去の経験の有無で大きな差がみられます。

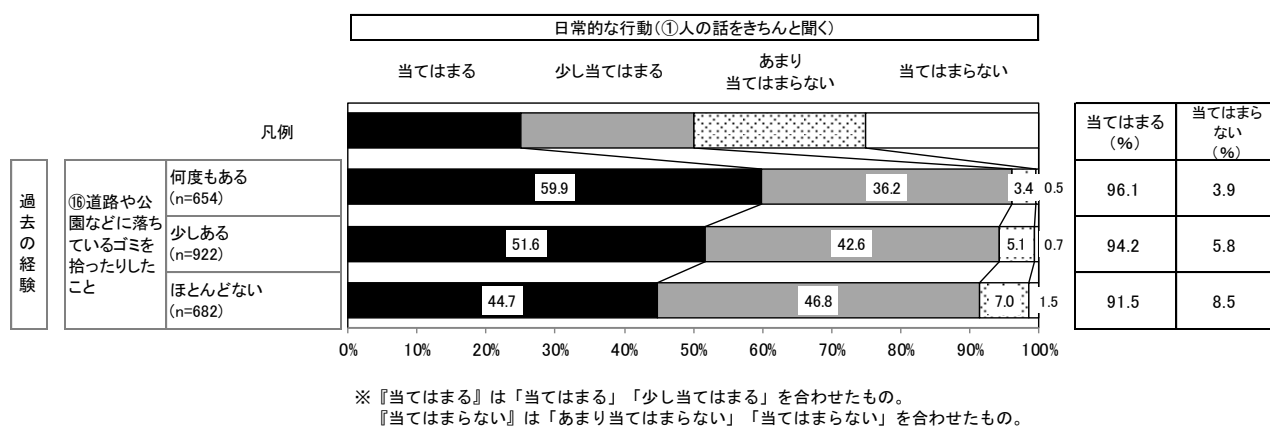
「①人の話をきちんと聞く」と「⑥夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」の関係（小学生）



「①人の話をきちんと聞く」と「⑫いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」の関係（小学生）



「①人の話をきちんと聞く」と「⑯道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりしたこと」の関係（小学生）



中学生の〈日常の行動と過去の生活体験〉の相関係数表は以下の通りです。

中学生は、『自然体験』の有無と『規範意識』の「②ルールを守って行動する」は一定の相関がみられますが、『人間関係』の「相手の立場になって考える」は相関なしとなっています。

〈日常の行動と過去の生活体験〉との関係（中学生）

		規範意識			主体性				人間関係				探求心				主体性	規範意識	
日常生活の行動		① 人の話をきちんと聞く	② ルールを守って行動する	③ 周りの人に迷惑をかけず行動する	④ 自分でできることは自分です	⑤ 困った時でも前向きに取り組む	⑥ 自分の思ったことをはっきりと言う	⑦ 人から言われなくても、自分から進んでやる	⑧ 先のことを考えて、自分の計画を立てる	⑨ 困っている人がいたときに手助けする	⑩ 友達が悪いことをして、いたらやめさせる	⑪ 相手の立場になって考える	⑫ 誰とでも協力してグループ活動をする	⑬ わからないことは、そのままにしないで調べる	⑭ 国や地域の政治や選挙について関心がある	⑮ 実験や観察で新たな発見をする	⑯ 日本以外の国や地域の生活や文化に関心がある	⑰ 自ら進んで考え行動する	⑱ 家であいさつをする
過去の生活体験																			
自然体験	① チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえた	-0.03	-0.05	-0.03	-0.01	0.05	0.12	0.00	-0.02	0.02	0.00	-0.02	0.05	0.04	0.03	0.14	0.07	0.05	0.04
	② 海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりした	0.01	-0.04	-0.02	0.03	0.08	0.16	0.05	0.06	0.06	0.03	0.02	0.07	0.09	0.07	0.19	0.10	0.10	0.04
	③ 大きな木に登った	-0.01	-0.08	-0.04	0.03	0.12	0.18	0.07	0.04	0.05	0.04	0.00	0.08	0.07	0.07	0.12	0.10	0.09	0.06
	④ ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登った	0.03	0.02	0.01	0.07	0.12	0.18	0.10	0.10	0.09	0.07	0.03	0.09	0.11	0.15	0.16	0.16	0.14	0.09
自然観察	⑤ 太陽が昇るところや沈むところを見た	0.07	0.00	0.00	0.06	0.11	0.13	0.14	0.12	0.14	0.12	0.09	0.11	0.13	0.15	0.18	0.18	0.16	0.12
	⑥ 夜空いっばいに輝く星をゆくり見えた	0.10	0.05	0.04	0.12	0.12	0.13	0.11	0.11	0.17	0.14	0.12	0.13	0.13	0.10	0.16	0.16	0.13	0.15
	⑦ 野鳥を見たり、鳴く声を聞いた	0.03	0.02	0.03	0.06	0.08	0.09	0.05	0.06	0.13	0.11	0.08	0.11	0.08	0.08	0.14	0.13	0.11	0.12
アウトドア体験	⑧ 海や川で泳いだ	0.09	0.05	0.07	0.10	0.14	0.17	0.10	0.09	0.13	0.10	0.10	0.17	0.10	0.07	0.14	0.11	0.12	0.11
	⑨ キャンプをした	0.07	0.02	0.04	0.06	0.12	0.15	0.09	0.08	0.08	0.05	0.05	0.11	0.09	0.09	0.11	0.10	0.12	0.08
	⑩ ナイフや包丁で果物の皮をむいたり野菜を切った	0.12	0.05	0.07	0.14	0.11	0.14	0.15	0.11	0.18	0.14	0.11	0.16	0.10	0.07	0.10	0.11	0.10	0.14
	⑪ タオルやぞうきんを絞った	0.09	0.11	0.05	0.08	0.05	0.05	0.07	0.04	0.14	0.08	0.09	0.11	0.06	-0.01	0.06	0.05	0.04	0.11
かかたりの	⑫ いじめやケンカをやめさせたり、注意した	0.15	0.08	0.10	0.14	0.21	0.22	0.22	0.18	0.27	0.32	0.18	0.22	0.16	0.19	0.19	0.18	0.28	0.15
	⑬ 外国の人と交流したり一緒に生活したりした	0.09	0.07	0.07	0.08	0.15	0.17	0.17	0.14	0.14	0.11	0.09	0.13	0.16	0.21	0.18	0.24	0.20	0.09
	⑭ お墓参りをした	0.09	0.08	0.07	0.09	0.08	0.08	0.08	0.08	0.11	0.07	0.08	0.08	0.08	0.07	0.08	0.08	0.08	0.09
ボランティア	⑮ 体の不自由な人、困っている人等の手助け	0.18	0.11	0.11	0.17	0.22	0.19	0.23	0.19	0.32	0.24	0.22	0.22	0.18	0.20	0.19	0.21	0.29	0.19
	⑯ 道路や公園などに落ちているゴミを拾ったりした	0.17	0.11	0.07	0.15	0.20	0.15	0.21	0.17	0.27	0.23	0.19	0.21	0.20	0.21	0.22	0.22	0.30	0.20
	⑰⑱以外のボランティア活動に参加した	0.11	0.05	0.05	0.07	0.17	0.15	0.18	0.17	0.17	0.13	0.13	0.15	0.18	0.20	0.21	0.20	0.26	0.12
「一定の相関あり」と判定された組合せ(件)		12	10	10	14	17	17	16	15	16	14	13	17	16	15	17	17	17	15

高校生の〈日常の行動と過去の生活体験〉の相関係数表は以下の通りです。

高校生は、『自然体験』の有無と『規範意識』の「②ルールを守って行動する」、『自然体験』『自然観察』『アウトドア経験』の一部設問で、相関なしとなっています。

〈日常の行動と過去の生活体験〉との関係（高校生）

		規範意識			主体性				人間関係				探求心				主体性	規範意識	
日常生活の行動		①人の話をきちんと聞く	②ルールを守って行動する	③周りの人に迷惑をかけず行動する	④自分でできることは自分です	⑤困った時でも前向きに取り組む	⑥自分の思ったことをはっきりと言う	⑦人から言われなくても、自分から進んでやる	⑧先のことを考えて、自分の計画を立てる	⑨困っている人がいたときに手助けする	⑩友達が悪いことをして、いたらやめさせる	⑪相手の立場になって考える	⑫誰とでも協力してグループ活動をする	⑬わからないことは、そのままにしないで調べる	⑭国や地域の政治や選挙について関心がある	⑮実験や観察で新たな発見をする	⑯日本以外の国や地域の生活や文化に関心がある	⑰自ら進んで考え行動する	⑱家であいさつをする
過去の生活体験																			
自然体験	①チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえた	0.01	-0.01	-0.03	-0.01	0.02	0.08	0.04	0.01	0.02	0.03	0.01	0.04	0.07	0.10	0.18	0.07	0.10	0.05
	②海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりした	0.06	0.01	-0.01	0.03	0.09	0.11	0.08	0.05	0.08	0.05	0.04	0.10	0.09	0.11	0.18	0.14	0.13	0.07
	③大きな木に登った	0.03	-0.04	0.00	0.06	0.13	0.17	0.10	0.08	0.09	0.06	0.04	0.10	0.10	0.13	0.18	0.10	0.11	0.05
	④ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登った	0.05	0.02	0.03	0.06	0.15	0.15	0.12	0.12	0.10	0.09	0.05	0.11	0.09	0.16	0.17	0.15	0.17	0.07
自然観察	⑤太陽が昇るところや沈むところを見た	0.10	0.03	0.06	0.07	0.13	0.12	0.14	0.11	0.15	0.09	0.11	0.12	0.15	0.15	0.21	0.20	0.17	0.15
	⑥夜空いっばいに輝く星をゆくり見えた	0.08	0.02	0.06	0.06	0.13	0.07	0.11	0.10	0.17	0.10	0.12	0.12	0.10	0.12	0.18	0.15	0.18	0.13
	⑦野鳥を見たり、鳴く声を聞いた	0.05	0.04	0.04	0.05	0.11	0.08	0.13	0.08	0.11	0.09	0.12	0.11	0.12	0.16	0.25	0.21	0.18	0.12
アウトドア体験	⑧海や川で泳いだ	0.08	0.03	0.04	0.08	0.13	0.11	0.10	0.07	0.15	0.09	0.08	0.15	0.09	0.07	0.11	0.11	0.12	0.13
	⑨キャンプをした	0.06	0.03	0.02	0.05	0.11	0.12	0.09	0.11	0.11	0.10	0.08	0.14	0.10	0.14	0.14	0.15	0.18	0.07
	⑩ナイフや包丁で果物の皮をむいたり野菜を切った	0.07	0.06	0.06	0.09	0.11	0.07	0.11	0.10	0.14	0.10	0.10	0.11	0.07	0.10	0.10	0.12	0.11	0.11
	⑪タオルやぞうきんを絞った	0.06	0.11	0.09	0.11	0.06	-0.03	0.04	0.01	0.09	0.05	0.12	0.08	0.04	0.02	0.04	0.04	0.00	0.10
かたわりの	⑫いじめやケンカをやめさせたり、注意した	0.14	0.07	0.09	0.13	0.25	0.24	0.26	0.20	0.27	0.30	0.20	0.21	0.16	0.21	0.22	0.16	0.29	0.17
	⑬外国の人と交流したり一緒に生活したりした	0.04	0.00	0.02	0.06	0.17	0.14	0.14	0.15	0.17	0.10	0.13	0.17	0.11	0.23	0.19	0.28	0.25	0.13
	⑭お墓参りをした	0.07	0.08	0.08	0.09	0.09	0.02	0.05	0.05	0.12	0.05	0.11	0.08	0.07	0.06	0.06	0.05	0.08	0.15
ボランティア	⑮体の不自由な人、困っている人等の手助け	0.15	0.09	0.09	0.12	0.25	0.14	0.22	0.14	0.37	0.21	0.20	0.24	0.19	0.19	0.19	0.17	0.29	0.24
	⑯道路や公園などに落っているゴミを拾ったりした	0.13	0.09	0.10	0.15	0.22	0.14	0.24	0.16	0.28	0.22	0.17	0.20	0.18	0.23	0.25	0.20	0.30	0.23
	⑰⑱以外のボランティア活動に参加した	0.07	0.06	0.05	0.07	0.15	0.10	0.15	0.13	0.19	0.11	0.14	0.20	0.13	0.19	0.17	0.18	0.24	0.13
「一定の相関あり」と判定された組合せ(件)		15	7	10	15	16	15	17	15	16	16	14	16	16	16	17	17	16	17

2. 〈家族のお世話をする頻度・時間と子どもの状況〉との関係

お世話している家族がいる人のうち、お世話の頻度と時間を回答した人について、頻度・時間と子どもの状況との関係についてみました。

①お世話をする頻度・時間とお世話することでやりたくてもできないこと

お世話していることでやりたいけれどもできないことは、小・中・高校生ともに「特になし」が最も多いですが、それ以外では「自分の時間が取れない」が多くなっています。

また、お世話の頻度が高く、時間が長い区分においては、小・中・高校生のいずれでも「自分の時間が取れない」の割合が全体よりも高く、他に、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「睡眠が十分にとれない」の割合も高くなっています。

〈お世話をする頻度・時間とお世話することでやりたくてもできないこと〉との関係（小学生）

		(%)									
		標 本 数	い 学 校 に 行 き た く て も	学 校 を 遅 刻 ・ 早 退 し て し ま う	宿 題 な ど 勉 強 を す る 時 間 が な い	眠 る 時 間 が た り な い	友 達 と 遊 ぶ こ と が で き な い	習 い 事 が で き な い	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い
全体		330	1.5	2.4	10.9	7.9	7.6	1.5	13.6	0.6	73.0
お 世 話 の 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	68	2.9	1.5	13.2	4.4	4.4	－	11.8	－	79.4
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	50	－	4.0	20.0	6.0	16.0	－	24.0	－	60.0
	ほぼ毎日×7時間以上	14	－	－	14.3	14.3	35.7	－	35.7	－	50.0
	週に3～5日×3時間未満	58	3.4	3.4	10.3	6.9	5.2	－	12.1	1.7	77.6
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	6	－	－	16.7	－	－	－	16.7	－	83.3
	週に3～5日×7時間以上	4	－	－	25.0	－	－	25.0	25.0	－	25.0
	週に1～2日×3時間未満	41	－	－	4.9	4.9	2.4	2.4	7.3	－	87.8
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	14	－	－	7.1	－	7.1	－	21.4	－	78.6
	週に1～2日×7時間以上	6	－	－	16.7	33.3	－	－	16.7	16.7	50.0
	1か月に数日×3時間未満	30	－	3.3	3.3	10.0	3.3	3.3	－	－	80.0
	1か月に数日×3時間以上7時間未満	3	－	－	－	－	33.3	33.3	33.3	－	66.7
	1か月に数日×7時間以上	1	－	－	100.0	100.0	－	－	100.0	－	－

〈お世話をする頻度・時間とお世話することでやりたくてもできないこと〉との関係（中学生）

		(%)												
		標 本 数	い け な い 学 校 に 行 き た く て も	遅 刻 ・ 早 退 し て し ま う	ど う し て も 学 校 を	宿 題 を す る 時 間 が 取 れ な い	睡 眠 が 十 分 に 取 れ な い	で き な い 友 人 と 遊 ぶ こ と が	い を 得 な か つ た	部 活 や 習 い 事 が で き な い 、 も し く は 辞 め ざ る	進 路 の 変 更 を 考 え ざ る を 得 な い 、 も し く は 進 路 を 変 更 し た	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い
全体		262	0.8	2.3	7.3	7.6	7.3	7.3	1.1	-	-	12.6	-	77.5
お 世 話 す る 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	39	-	-	10.3	2.6	-	-	-	-	-	7.7	-	87.2
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	36	-	5.6	19.4	13.9	16.7	-	-	-	-	30.6	-	52.8
	ほぼ毎日×7時間以上	18	5.6	5.6	5.6	11.1	11.1	5.6	-	-	-	38.9	-	61.1
	週に3～5日×3時間未満	41	2.4	2.4	4.9	2.4	7.3	-	-	-	-	2.4	-	80.5
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	12	-	8.3	-	25.0	16.7	-	-	-	-	16.7	-	58.3
	週に3～5日×7時間以上	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	週に1～2日×3時間未満	45	-	-	-	2.2	4.4	-	-	-	-	4.4	-	88.9
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	6	-	-	-	16.7	33.3	-	-	-	-	16.7	-	66.7
	週に1～2日×7時間以上	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	1か月に数日×3時間未満	36	-	2.8	-	2.8	-	2.8	-	-	-	2.8	-	94.4
	1か月に数日×3時間以上7時間未満	4	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-	75.0
	1か月に数日×7時間以上	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0

〈お世話をする頻度・時間とお世話することでやりたくてもできないこと〉との関係（高校生）

												(%)	
		標 本 数	い け な い 学 校 に 行 き た く て も	遅 刻・早退してしま う	ど う し て も 学 校 を	宿 題 を す る 時 間 が 取 れ な い	睡 眠 が 十 分 に 取 れ な い	友 人 と 遊 ぶ こ と が で き な い	い な か っ た 部 活 や 習 い 事 が で き な い 、 も し く は 辞 め ざ る	進 路 を 変 更 し た 進 路 の 変 更 を 考 え ざ る を 得 な い 、 も し く は	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い
全体		97	3.1	2.1	7.2	14.4	10.3	-	2.1	12.4	1.0	72.2	
お 世 話 す る 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	23	4.3	-	8.7	13.0	4.3	-	-	13.0	-	73.9	
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	10	-	-	20.0	30.0	10.0	-	-	20.0	-	70.0	
	ほぼ毎日×7時間以上	11	9.1	-	18.2	9.1	27.3	-	9.1	36.4	9.1	36.4	
	週に3～5日×3時間未満	10	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-	90.0	
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	週に3～5日×7時間以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	週に1～2日×3時間未満	11	-	-	9.1	18.2	9.1	-	9.1	18.2	-	81.8	
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	3	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	33.3	
	週に1～2日×7時間以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1か月に数日×3時間未満	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	1か月に数日×3時間以上7時間未満	4	-	-	-	25.0	50.0	-	-	25.0	-	50.0	
	1か月に数日×7時間以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

②お世話をする頻度・時間と学校や周りの大人にしてほしいことや支援内容

学校や周りの大人にしてほしいことや支援内容についても、小・中・高校生ともに「特にない」が最も多いですが、それ以外では、小・中学生では、「自由に使える時間が欲しい」が、高校生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が多くなっています。

また、お世話の頻度が高く時間が長い区分においては、小・中・高校生のいずれでも「自由に使える時間が欲しい」の割合が全体よりも高く、高校生では、「自由に使える時間が欲しい」、「家族への経済的な支援」の割合も高くなっています。

〈お世話をする頻度・時間と必要な支援〉との関係（小学生）

		(%)													
		標 本 数	自 分 の こ と に つ い て 話 を 聞 い て ほ し い	家 族 に お き か る 話 に つ い て	世 話 の こ と に つ い て わ か ら い 	家 族 の 病 気 や 障 が い 、 お 世 話 の こ と に つ い て わ か ら い 	自 分 が 行 く 誰 か に 代 わ る お 世 話 を	ほ し い 部 分 を 行 く 誰 か に 代 わ る お 世 話 を	自 分 が 行 く 誰 か に 代 わ る お 世 話 を	自 分 が 行 く 誰 か に 代 わ る お 世 話 を	勉 強 を 教 え て ほ し い	お 金 の 面 で 支 援 を し て ほ し い	わ か ら な い	そ の 他	特 に な い
全体		330	10.6	2.4	0.9	1.2	2.4	15.2	11.5	7.0	4.5	0.3	63.3		
お 世 話 の 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	68	10.3	-	-	1.5	2.9	7.4	10.3	2.9	4.4	-	73.5		
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	50	16.0	2.0	2.0	-	6.0	16.0	10.0	8.0	4.0	-	60.0		
	ほぼ毎日×7時間以上	14	14.3	14.3	-	7.1	7.1	35.7	7.1	7.1	7.1	-	42.9		
	週に3～5日×3時間未満	58	6.9	1.7	-	-	-	12.1	10.3	10.3	1.7	-	69.0		
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	6	-	16.7	16.7	16.7	-	16.7	50.0	16.7	-	-	50.0		
	週に3～5日×7時間以上	4	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	-	75.0		
	週に1～2日×3時間未満	41	4.9	-	-	-	2.4	9.8	22.0	2.4	4.9	-	65.9		
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	14	28.6	-	-	-	-	14.3	7.1	-	7.1	-	64.3		
	週に1～2日×7時間以上	6	-	-	-	-	-	50.0	16.7	-	-	-	50.0		
	1か月に数日×3時間未満	30	13.3	3.3	-	-	-	16.7	6.7	13.3	-	-	66.7		
	1か月に数日×3時間以上7時間未満	3	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	66.7		
	1か月に数日×7時間以上	1	-	-	-	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-		

〈お世話をする頻度・時間と必要な支援〉との関係（中学生）

														(%)
		標 本 数	自 分 の 話 を ま の 状 況 に し て ほ し い	家 族 の お 世 話 に つ い て	家 族 の 病 気 や 障 が い 、 ケ ア の こ と な ど に つ い て わ か り や す く 説 明 し て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い	自 分 が 行 っ て ほ し い
全体		262	5.0	0.4	0.4	-	-	10.7	6.5	8.4	3.1	13.4	-	67.9
お 世 話 す る 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	39	-	-	-	-	-	7.7	7.7	5.1	-	7.7	-	76.9
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	36	2.8	-	-	-	-	22.2	5.6	8.3	2.8	8.3	-	66.7
	ほぼ毎日×7時間以上	18	-	-	-	-	-	16.7	-	5.6	5.6	16.7	-	66.7
	週に3～5日×3時間未満	41	9.8	2.4	-	-	-	9.8	4.9	7.3	4.9	17.1	-	58.5
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	12	8.3	-	-	-	-	-	-	-	8.3	16.7	-	66.7
	週に3～5日×7時間以上	3	33.3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	66.7
	週に1～2日×3時間未満	45	6.7	-	-	-	-	6.7	8.9	6.7	4.4	17.8	-	71.1
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	週に1～2日×7時間以上	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0
	1か月に数日×3時間未満	36	5.6	-	2.8	-	-	13.9	8.3	16.7	-	8.3	-	66.7
	1か月に数日×3時間以上7時間未満	4	-	-	-	-	-	-	25.0	50.0	-	-	-	50.0
	1か月に数日×7時間以上	2	50.0	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0

〈お世話をする頻度・時間と必要な支援〉との関係（高校生）

														(%)																																																		
		標 本 数	自 分 の い ま の 状 況 に し て 話 を 聞 い て ほ し い	家 族 の お 世 話 に つ い て 相 談 に の つ て ほ し い	家 族 の 病 気 や 障 が い 、 ケ ア の こ と な ど に つ い て わ か り や す く 説 明 し て ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の す べ て を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て い る お 世 話 の 一 部 を 代 わ っ て く れ い る 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 っ て

③お世話をする頻度・時間と家族や親戚、友達以外で相談しやすい相手

家族や親戚、友達以外で相談しやすい相手について、小・中・高校生ともに「学校の先生、保健室の先生」が最も多いですが、高校生では、「同じような悩みを持った経験がある人（ピアサポートの人など）」も多くなっています。

また、お世話の頻度が高く時間が長い区分においては、小・中学生ともに「同じような悩みを持った経験がある人（ピアサポートの人など）」の割合が全体よりも高くなっています。

〈お世話をする頻度・時間と相談相手〉との関係（小学生）

												(%)
		標 本 数	学 校 の 先 生 、 保 健 室 の 先 生	役 所 や 保 健 セ ン タ ー の 人	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	同 じ が あ る 人 に お 世 話 を し た	近 所 の 人	支 援 セ ン タ ー の 人	子 ど も 食 堂 の 人	（学 習 支 援 の 先 生 等） （学 校 の 外 で 勉 強 を 教 え て く れ る 先 生 等）	そ の 他	わ か ら な い
全体		330	43.3	3.0	10.3	11.8	4.8	2.7	1.5	6.4	6.4	37.3
お 世 話 の 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	68	39.7	1.5	7.4	13.2	2.9	1.5	2.9	2.9	7.4	47.1
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	50	50.0	2.0	10.0	16.0	6.0	2.0	—	4.0	8.0	32.0
	ほぼ毎日×7時間以上	14	50.0	—	14.3	42.9	—	—	—	14.3	21.4	14.3
	週に3～5日×3時間未満	58	41.4	3.4	15.5	5.2	5.2	5.2	3.4	8.6	1.7	36.2
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	6	16.7	16.7	—	16.7	16.7	—	16.7	33.3	—	50.0
	週に3～5日×7時間以上	4	75.0	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—
	週に1～2日×3時間未満	41	51.2	4.9	9.8	7.3	2.4	4.9	—	7.3	2.4	39.0
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	14	50.0	7.1	28.6	14.3	7.1	—	—	7.1	7.1	28.6
	週に1～2日×7時間以上	6	16.7	—	16.7	—	16.7	—	—	—	16.7	50.0
	1か月に数日×3時間未満	30	46.7	3.3	10.0	10.0	6.7	3.3	—	10.0	3.3	40.0
1か月に数日×3時間以上7時間未満	3	33.3	—	—	33.3	33.3	—	—	—	—	—	
1か月に数日×7時間以上	1	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	

〈お世話をする頻度・時間と相談相手〉との関係（中学生）

(%)													
		標 本 数	学 校 の 先 生 、 保 健 室 の 先 生	役 所 や 保 健 セ ン タ ー の 人	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー な ど の 心 理 士	同 じ が あ る 人 に お 世 話 を し た	近 所 の 人 （ 民 生 委 員 ・ 児 童 委 員 、 フ ァ ミ リ ー サ ポ ー ト の 人 達 も 含 む ）	支 援 セ ン タ ー の 人	子 ど も 食 堂 の 人	（ 学 習 支 援 の 先 生 等 ）	学 校 の 外 で 勉 強 を 教 え て く れ る 先 生 等	そ の 他	わ か ら な い
全体		262	41.2	2.3	6.5	12.6	2.7	1.1	-	3.4	3.4	40.8	
お 世 話 す る 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	39	48.7	5.1	10.3	10.3	5.1	-	-	2.6	-	41.0	
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	36	44.4	5.6	2.8	11.1	2.8	8.3	-	8.3	8.3	33.3	
	ほぼ毎日×7時間以上	18	38.9	-	-	22.2	5.6	-	-	-	-	50.0	
	週に3～5日×3時間未満	41	39.0	-	4.9	7.3	2.4	-	-	-	-	53.7	
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	12	16.7	-	-	25.0	-	-	-	-	8.3	50.0	
	週に3～5日×7時間以上	3	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3	
	週に1～2日×3時間未満	45	42.2	2.2	8.9	15.6	-	-	-	-	4.4	35.6	
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	6	33.3	-	16.7	-	-	-	-	-	-	50.0	
	週に1～2日×7時間以上	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1か月に数日×3時間未満	36	36.1	2.8	8.3	19.4	5.6	-	-	-	8.3	38.9	
1か月に数日×3時間以上7時間未満	4	100.0	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-		
1か月に数日×7時間以上	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-		

〈お世話をする頻度・時間と相談相手〉との関係（高校生）

												(%)			
		標 本 数	学 校 の 先 生 、 保 健 室 の 先 生	役 所 や 保 健 セ ン タ ー の 人	ラ ー な ど の 心 理 士	ス ク ー ル の 心 理 士 、 シ ャ ル ワ ン セ	ポ ー ト の 人 な ど	同 じ よ う な 悩 み を 持 っ た 人	近 所 の 人 （ 民 生 委 員 ・ 子 童 の 人 達 も 含 む ）	支 援 セ ン タ ー の 人	子 ど も 食 堂 の 人	（ 学 習 支 援 の 先 生 等 ）	学 校 の 外 で 勉 強 を 教 え て く れ る 先 生	そ の 他	わ か ら な い
全体		97	32.0	3.1	9.3	25.8	6.2	6.2	6.2	3.1	6.2	1.0	35.1		
お 世 話 す る 頻 度 × 時 間	ほぼ毎日×3時間未満	23	34.8	4.3	4.3	26.1	4.3	4.3	—	—	—	4.3	4.3	39.1	
	ほぼ毎日×3時間以上7時間未満	10	30.0	—	—	20.0	—	—	—	—	—	10.0	—	50.0	
	ほぼ毎日×7時間以上	11	36.4	—	9.1	27.3	18.2	18.2	—	—	—	9.1	—	9.1	
	週に3～5日×3時間未満	10	30.0	—	—	30.0	—	—	—	—	—	—	—	40.0	
	週に3～5日×3時間以上7時間未満	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33.3	—	66.7	
	週に3～5日×7時間以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	週に1～2日×3時間未満	11	18.2	—	18.2	45.5	9.1	—	—	—	—	—	—	36.4	
	週に1～2日×3時間以上7時間未満	3	66.7	—	—	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	
	週に1～2日×7時間以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	1か月に数日×3時間未満	14	35.7	7.1	14.3	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	—	50.0	
1か月に数日×3時間以上7時間未満	4	75.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	—	—	—	—	25.0		
1か月に数日×7時間以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

3. 〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係

小学生、中学生では、インターネット利用時間とすべての生活の変化の項目で強い相関があり、利用時間が長いほど生活の変化も大きくなっています。高校生でも「⑦トラブルにあう不安」「⑨生活の楽しさ・面白さ」で一定の相関、その他すべての項目で強い相関がみられます。

小学生、中学生はインターネットを長時間利用するほど、マイナスの影響を多く受けている傾向がみられ、高校生になるとマイナスの影響は少なくなっています。

〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（小学生）

(%)

項目	変化	標本数	使って いない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上 5時間未満	5時間以上
①行動範囲	減った、狭まった	96	4.2	4.2	6.3	30.2	21.9	33.3
②家族とのコミュニケーション	減った、狭まった	184	2.7	0.5	7.1	33.2	32.6	23.9
④自分の意見を言う機会	減った、狭まった	79	2.5	3.8	12.7	25.3	26.6	29.1
⑤作品を作り、発表する機会	減った、狭まった	174	2.3	3.4	10.9	40.2	21.8	21.3
	増えた、広がった	305	2.3	5.2	7.2	39.0	25.2	21.0
⑥新しい知人を得る機会	減った、狭まった	105	1	2.9	4.8	45.7	17.1	28.6
	増えた、広がった	536	1.5	4.5	7.1	40.1	27.6	19.2
⑦トラブルにあう不安	減った、狭まった	205	1	3.9	6.3	43.9	20.0	24.9
⑧政治や経済などへの関心	減った、狭まった	177	1.7	2.8	5.6	37.9	27.1	24.9
⑪孤独感	減った、狭まった	389	2.6	4.1	9.0	42.7	22.6	19.0
	増えた、広がった	124	4.8	1.6	4.0	43.5	23.4	22.6
⑫学習時間	減った、狭まった	346	1.4	3.2	6.4	37.0	27.5	24.6
	増えた、広がった	211	4.3	11.8	16.6	43.1	14.2	10.0
⑬読書時間	減った、狭まった	479	1	4.2	5.8	40.9	27.3	20.7
⑭睡眠時間	減った、狭まった	442	1.8	2.7	4.8	32.8	32.4	25.3

〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（中学生）

(%)

項目	変化	標本数	使って いない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上 5時間未満	5時間以上
①行動範囲	減った、狭まった	111	0.9	1.8	4.5	29.7	36.9	26.1
②家族とのコミュニケーション	減った、狭まった	239	0.4	0.8	6.7	35.6	32.2	24.3
③友達とのコミュニケーション	減った、狭まった	35	2.9	-	2.9	28.6	25.7	40.0
④自分の意見を言う機会	減った、狭まった	70	1.4	-	2.9	30.0	32.9	32.9
⑤作品を作り、発表する機会	減った、狭まった	143	-	0.7	4.9	36.4	30.8	27.3
	増えた、広がった	669	0.6	1.5	4.9	41.1	30.3	21.5
⑥新しい知人を得る機会	減った、狭まった	69	1.4	1.4	7.2	42.0	15.9	31.9
⑦トラブルにあう不安	減った、狭まった	190	1.6	1.1	5.3	41.6	24.2	26.3
⑧政治や経済などへの関心	減った、狭まった	236	0.4	2.1	5.1	32.6	33.1	26.7
⑨生活の楽しさ・面白さ	減った、狭まった	44	-	2.3	11.4	25.0	25.0	36.4
⑩ストレス	減った、狭まった	458	0.9	1.3	6.6	42.1	28.4	20.7
	増えた、広がった	307	-	2.0	5.9	41.0	28.3	22.8
⑪孤独感	増えた、広がった	185	0.5	3.2	5.9	40.0	24.9	25.4
⑫学習時間	減った、狭まった	763	0.3	0.9	3.5	42.9	32.5	19.9
⑬読書時間	減った、狭まった	761	0.1	1.3	4.7	44.4	32.7	16.7
⑭睡眠時間	減った、狭まった	870	0.2	1.3	3.7	37.6	34.5	22.8

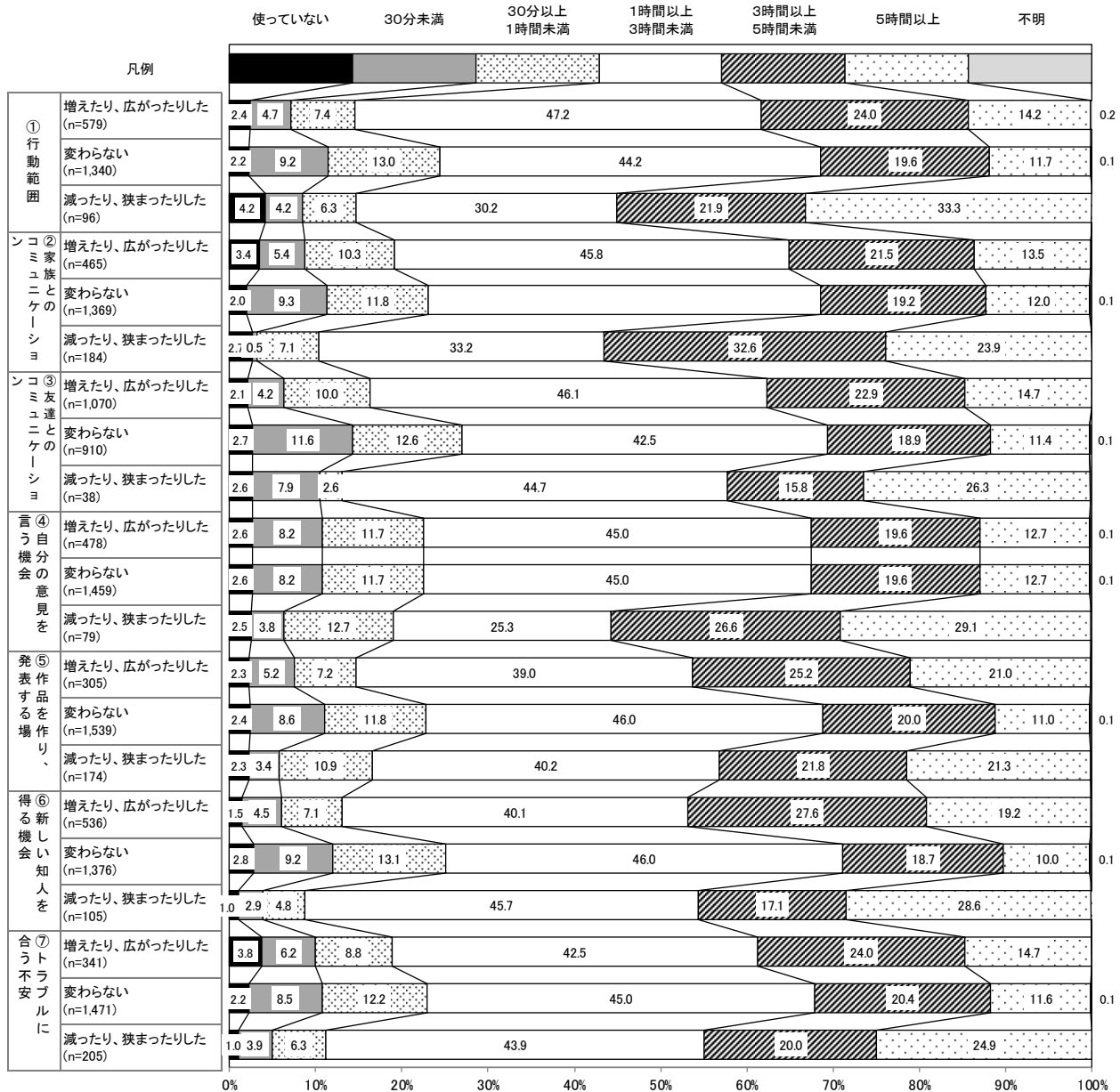
〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（高校生）

(%)

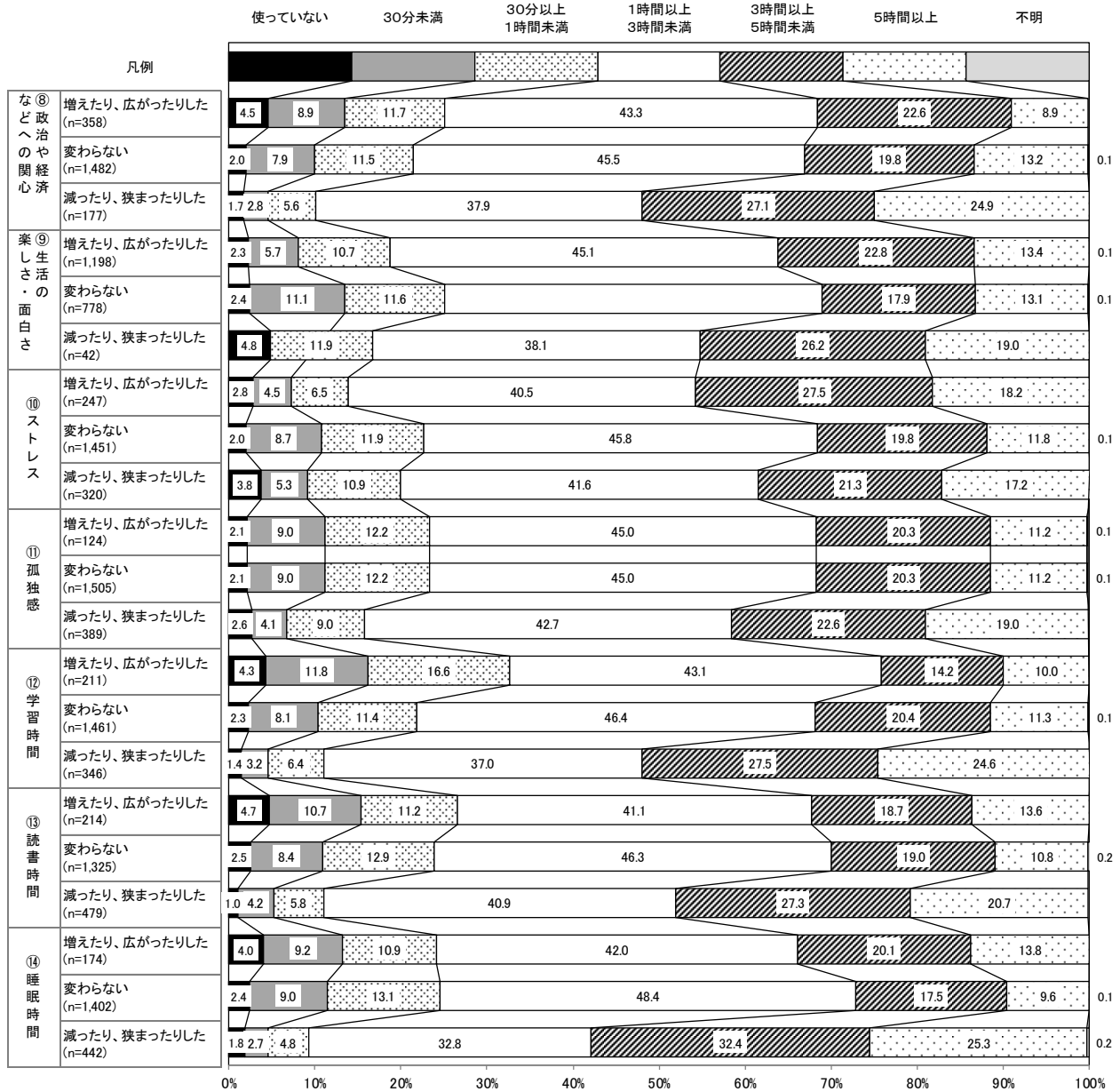
項目	変化	標本数	使って いない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上 5時間未満	5時間以上
全体		19				41	21	1
①行動範囲	減った、狭まった	89	-	-	3.4	25.8	36.0	34.8
	増えた、広がった	1183	0.6	0.8	5.0	53.5	24.7	15.5
②家族とのコミュニケーション	減った、狭まった	184	-	-	4.9	42.9	34.8	17.4
⑤作品を作り、発表する機会	減った、狭まった	70	1.4	-	4.3	41.4	18.6	34.3
⑥新しい知人を得る機会	減った、狭まった	43	-	-	4.7	39.5	23.3	32.6
⑦トラブルにあう不安	減った、狭まった	129	0.8	0.8	5.4	42.6	20.9	29.5
⑧政治や経済などへの関心	減った、狭まった	107	-	-	3.7	31.8	37.4	27.1
	増えた、広がった	613	1.1	0.8	6.4	55.3	22.8	13.5
⑨生活の楽しさ・面白さ	減った、狭まった	26	-	-	3.8	30.8	26.9	38.5

※網掛け太字は、各時間帯の中で「増えたり広がったりした」、「減ったり、狭まったりした」の回答比率が、全体比率より明らかに高いと判定された箇所。

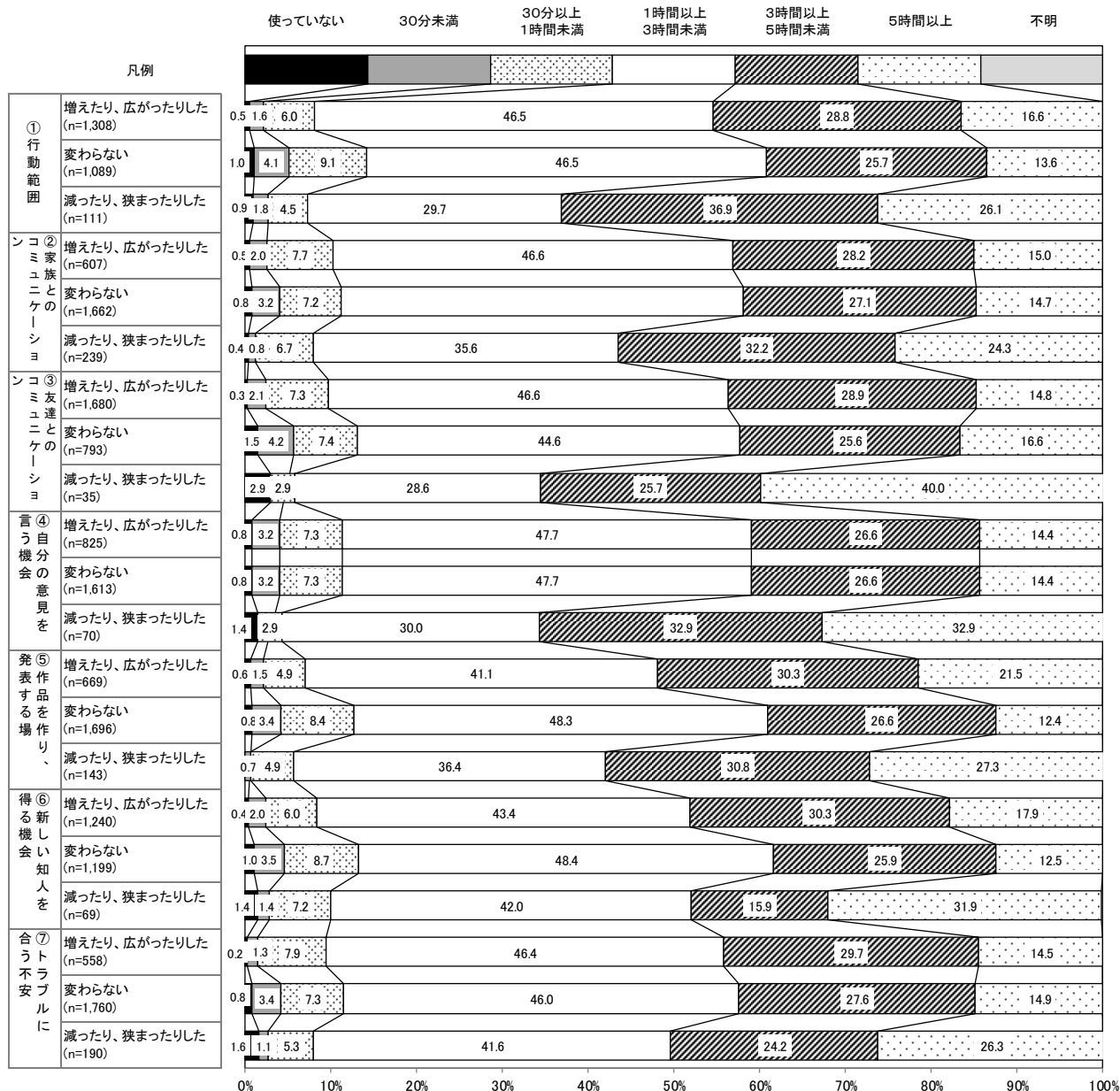
〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（小学生）



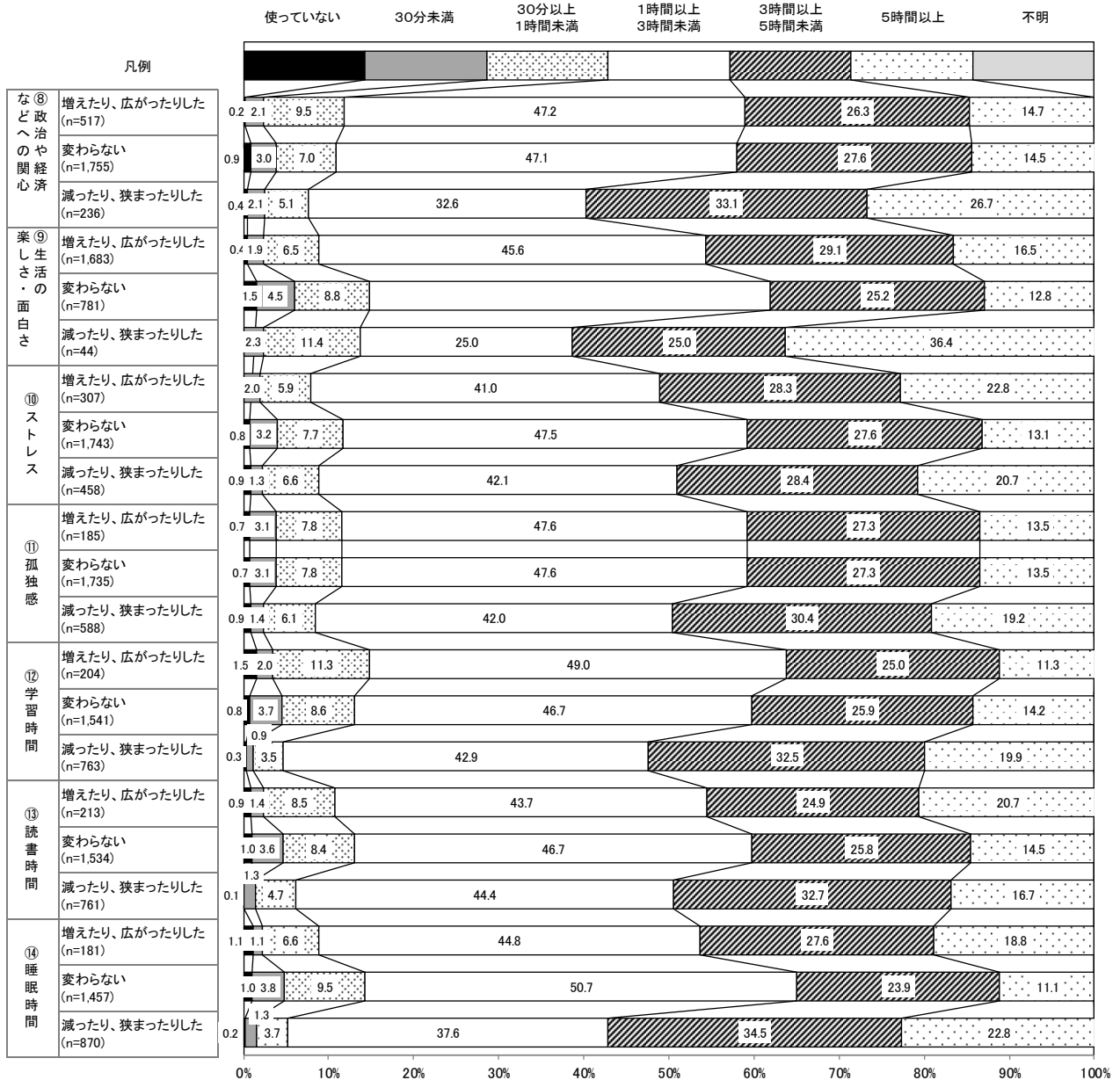
〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（小学生）



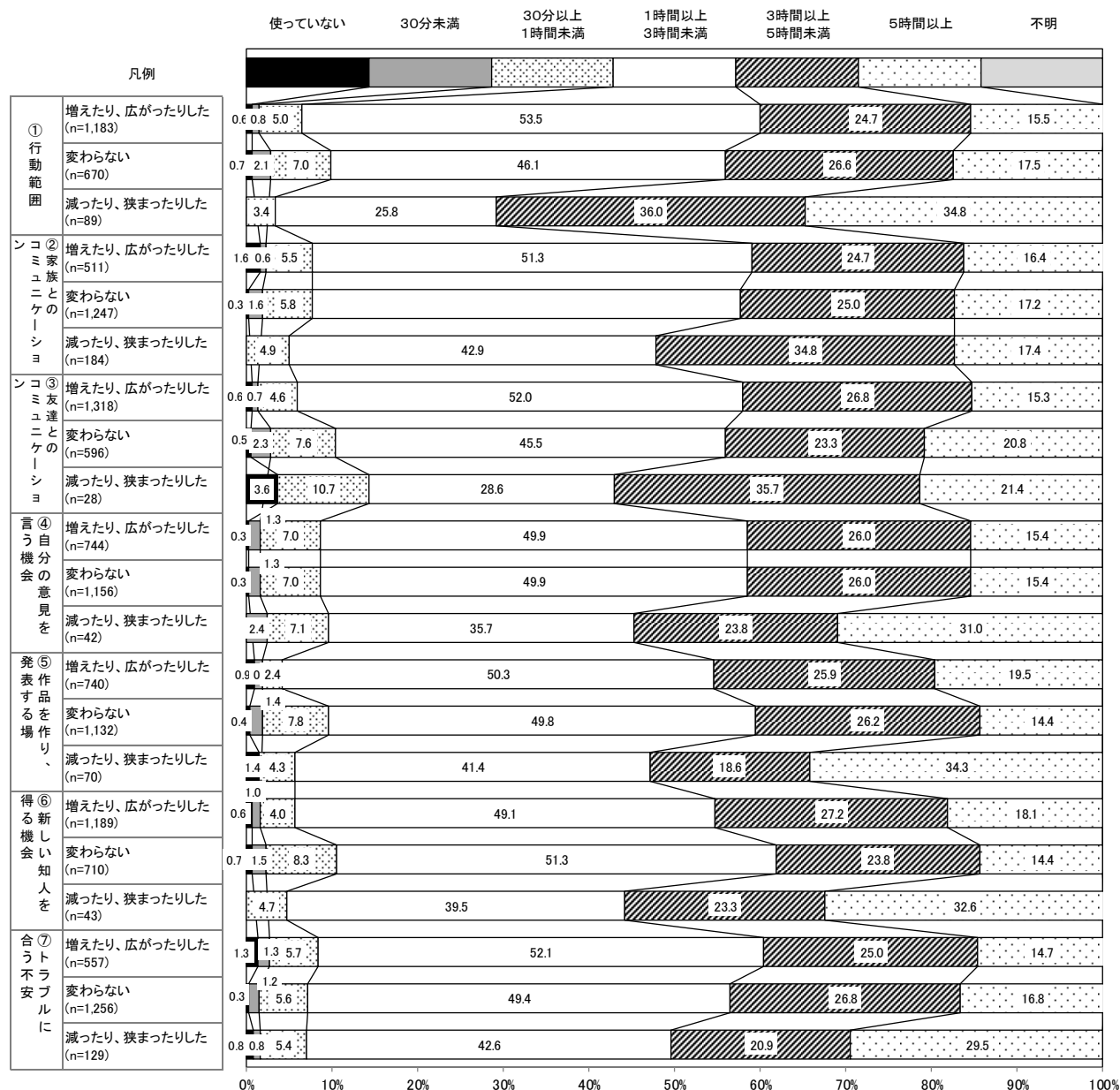
〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（中学生）



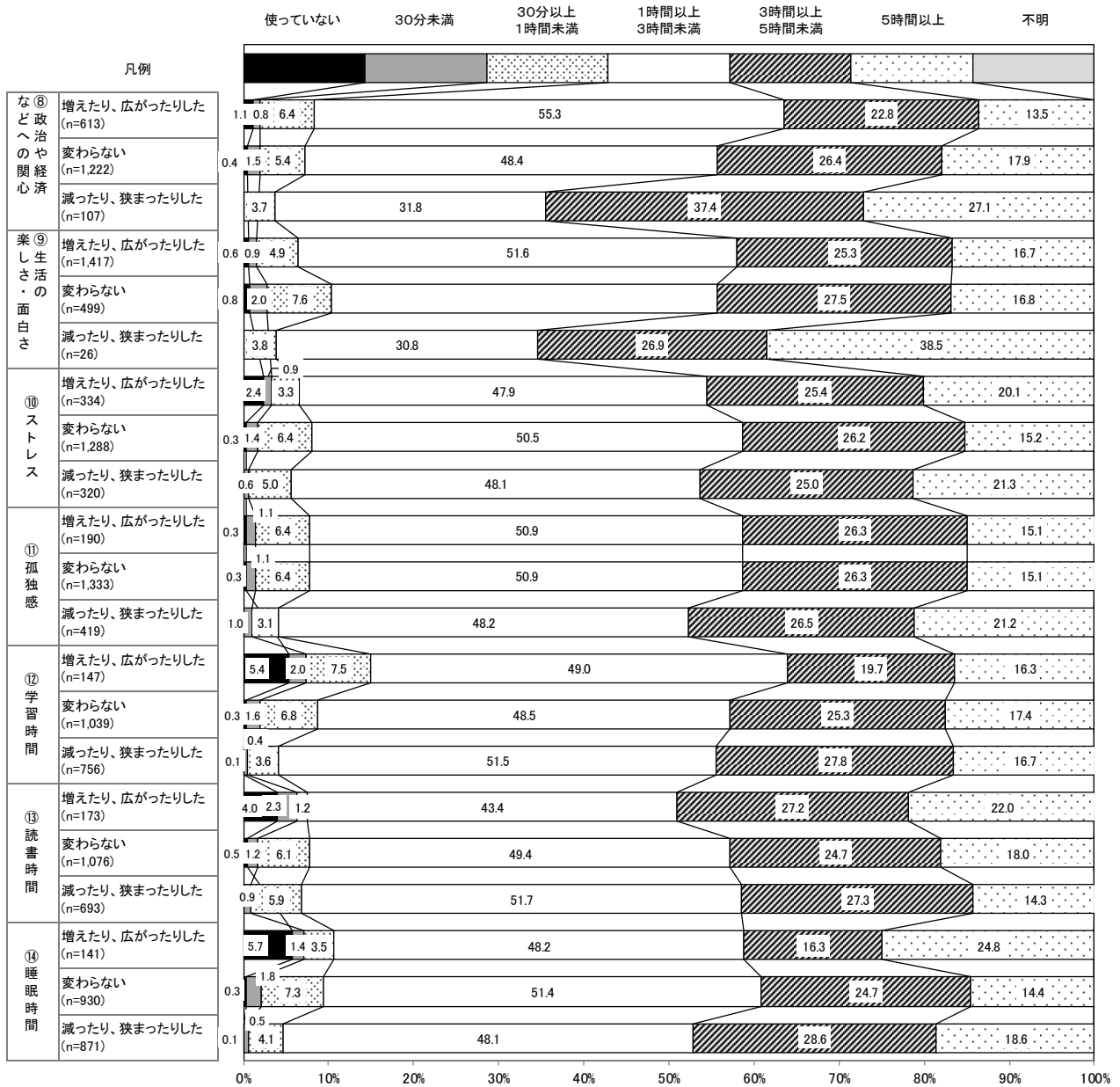
〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（中学生）



〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（高校生）



〈インターネット利用時間と生活の変化〉との関係（高校生）



第 2 部 保護者の調査結果

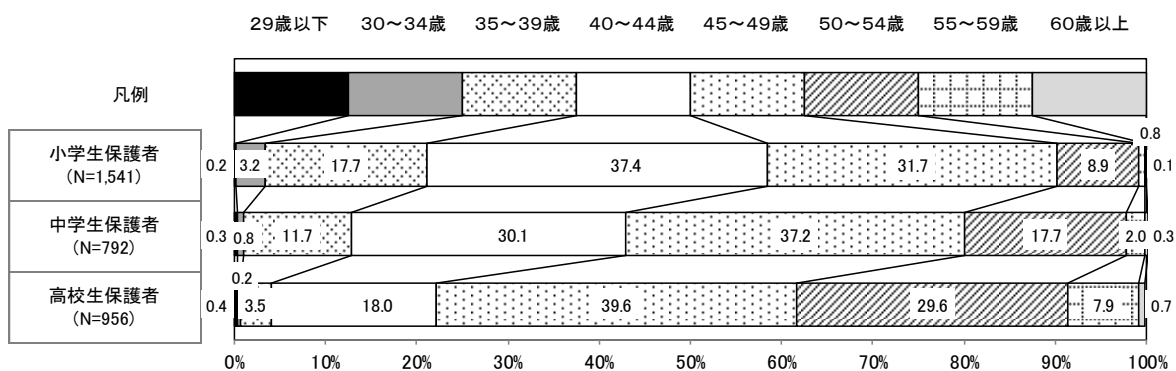
第2部 保護者の調査結果

1. 対象者属性

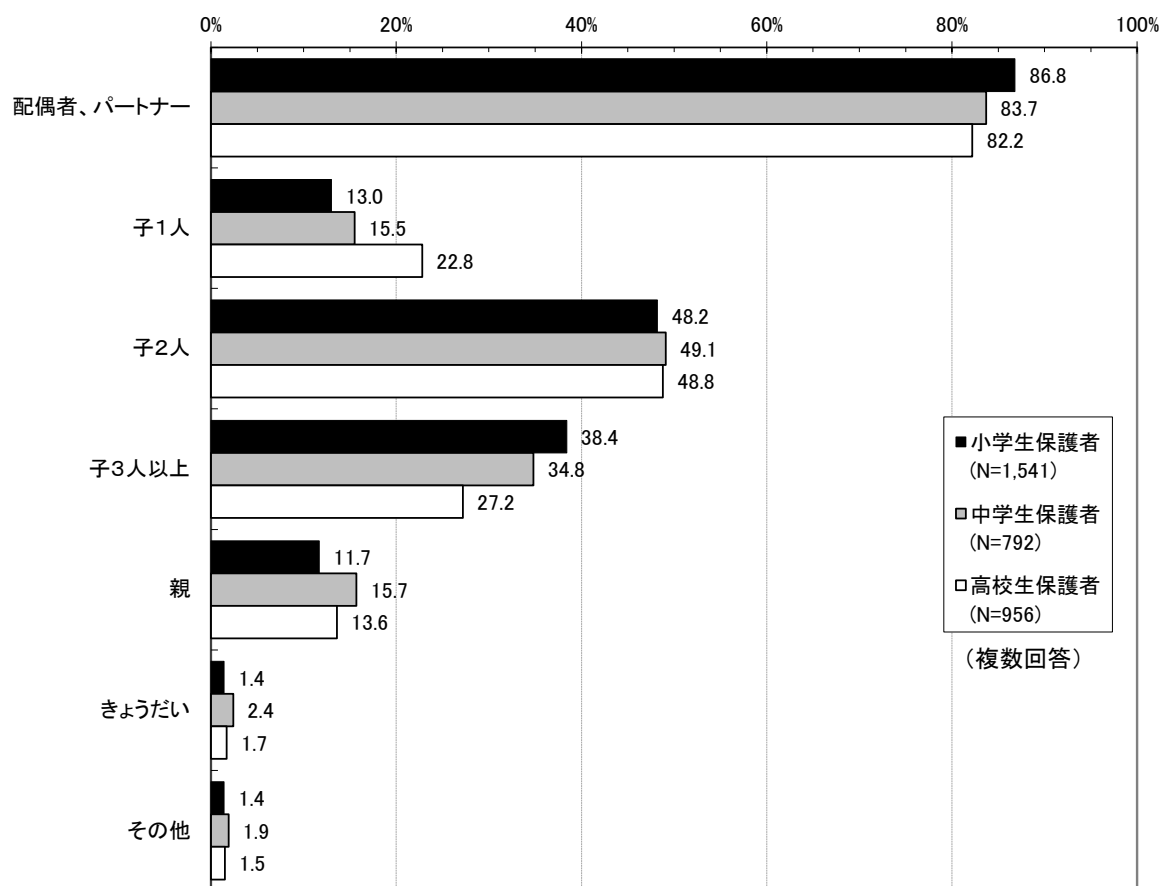
対象者の属性は、以下の通りとなっています。

		小学生保護者		中学生保護者		高校生保護者	
総数		1,541	100.0%	792	100.0%	956	100.0%
子どもとの続柄	父親	119	7.7%	55	6.9%	89	9.3%
	母親	1,419	92.1%	731	92.3%	860	90.0%
	祖父	－	－	－	－	－	－
	祖母	1	0.1%	2	0.3%	1	0.1%
	その他	2	0.1%	4	0.5%	6	0.6%
地区別	福岡市	401	26.0%	114	14.4%	317	33.2%
	福岡地区	469	30.4%	216	27.3%	218	22.8%
	北九州市	189	12.3%	115	14.5%	165	17.3%
	北九州地区	97	6.3%	60	7.6%	24	2.5%
	北筑後地区	95	6.2%	88	11.1%	31	3.2%
	南筑後地区	147	9.5%	116	14.6%	118	12.3%
	筑豊地区	90	5.8%	39	4.9%	50	5.2%
	京築地区	53	3.4%	44	5.6%	33	3.5%

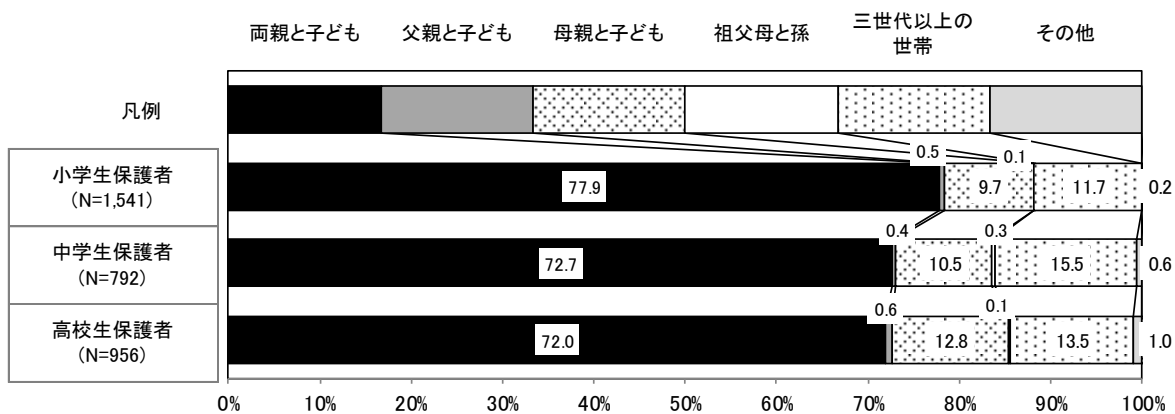
(1) 年齢



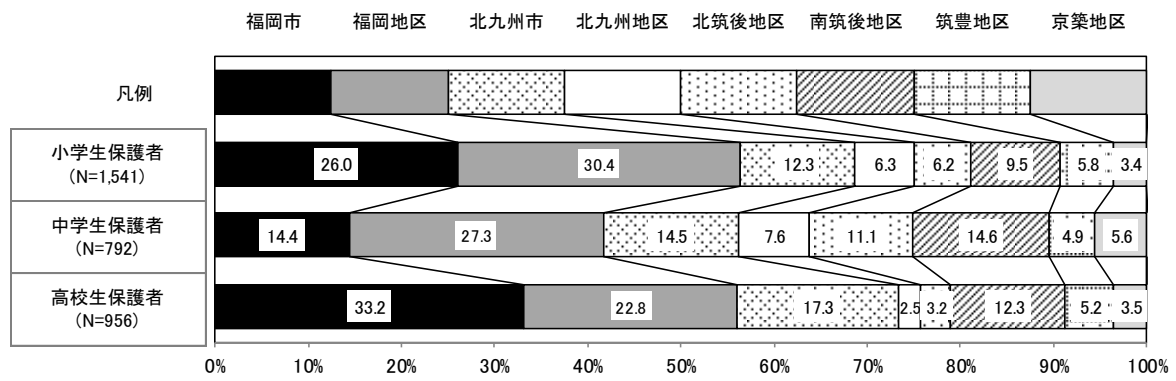
(2) 同居家族



(3) 家族構成



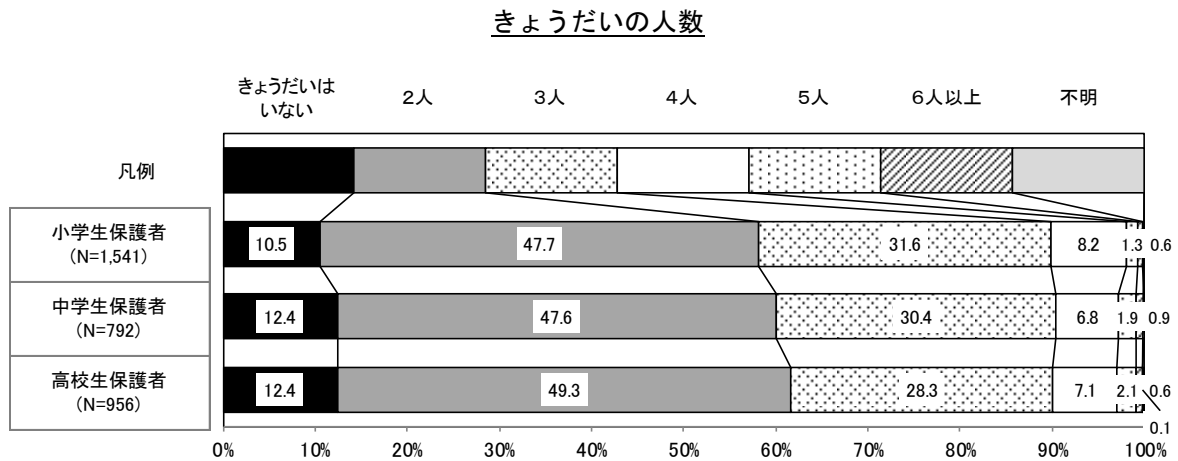
(4) 地区



2. 子どもについて

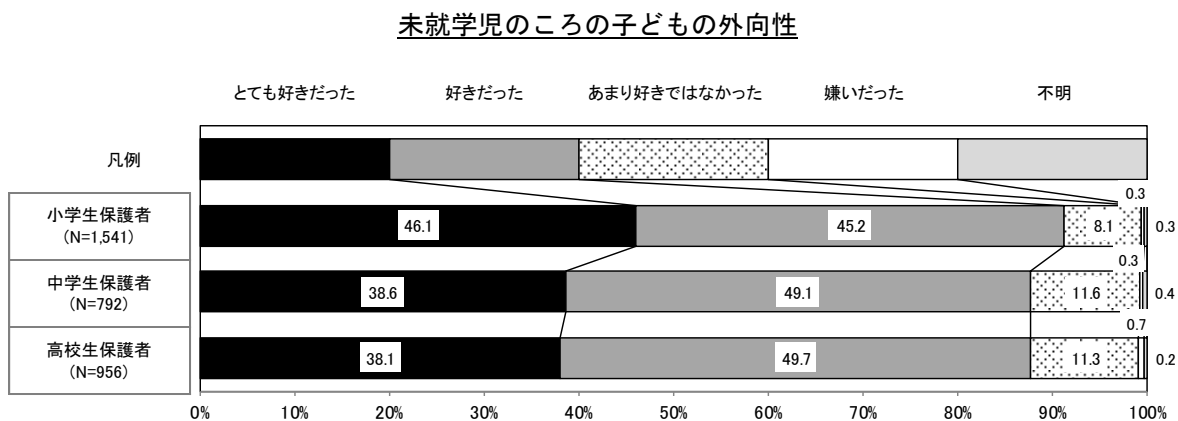
(1) きょうだいの人数

きょうだいの人数を尋ねたところ、いずれの保護者とも「2人」が4割台後半を占め最も多く、次いで「3人」となっています。なお、いずれの保護者とも「きょうだいはいない」は1割台前半となっています。



(2) 未就学時のころの子どもの外向性

小学校に入学する前、外で遊ぶことが好きだったかどうかを尋ねたところ、小学生保護者で「とても好きだった」が4割台半ばを占め最も多くなっています。中・高校生は3割台後半で、ほぼ同程度となっています。

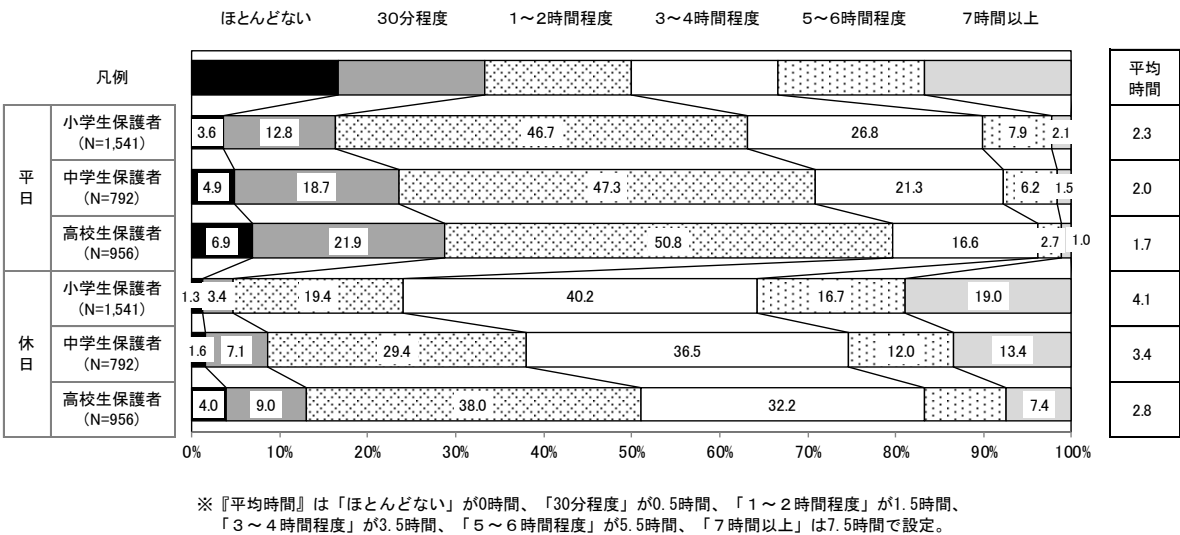


(3) 子どもと過ごす時間

子どもと過ごす時間を尋ねたところ、平日はいずれの保護者とも「1～2時間程度」が最も多く、子どもの年齢が低いほど、『平均時間』が長くなっています。

一方、休日は、いずれの保護者とも平日より『平均時間』が長くなっています。また、子どもの年齢が低いほど『平均時間』が長い傾向がみられます。

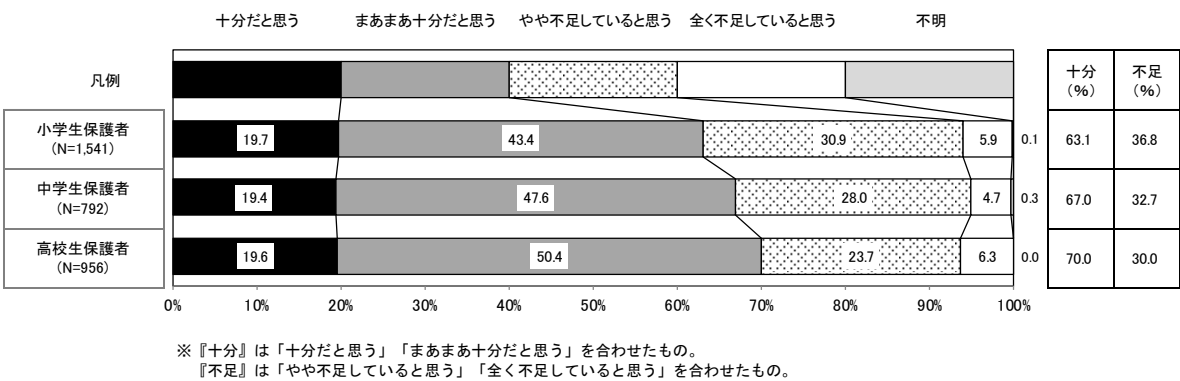
子どもと過ごす時間



(4) 子どもと過ごす時間に対する意識

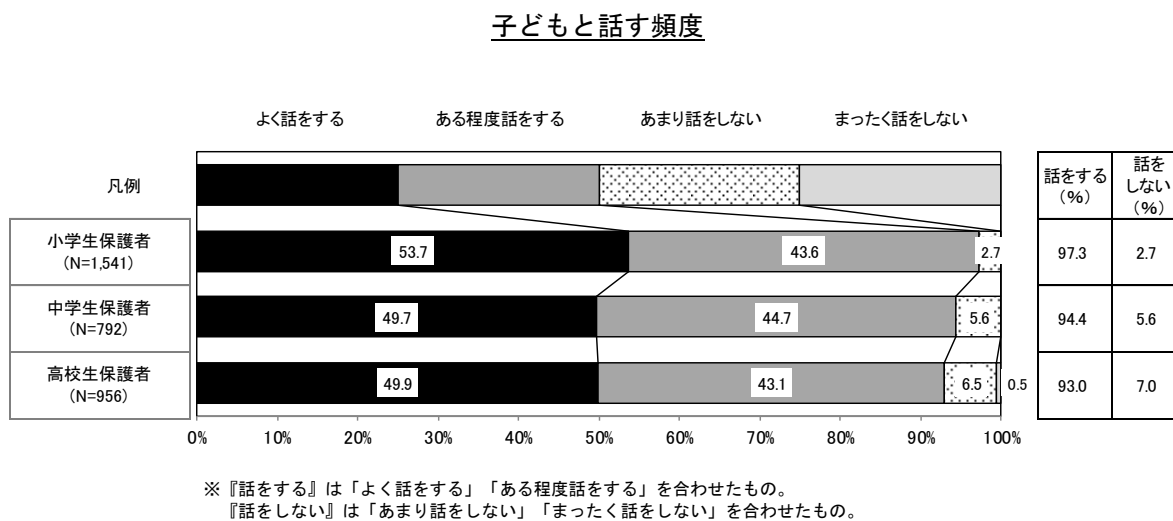
子どもと過ごす時間に対する意識を尋ねたところ、いずれの保護者とも「まあまあ十分だと思う」が最も多く、「十分だと思う」を合わせた『十分』と回答した人は6割台前半～7割となっています。

子どもと過ごす時間に対する意識



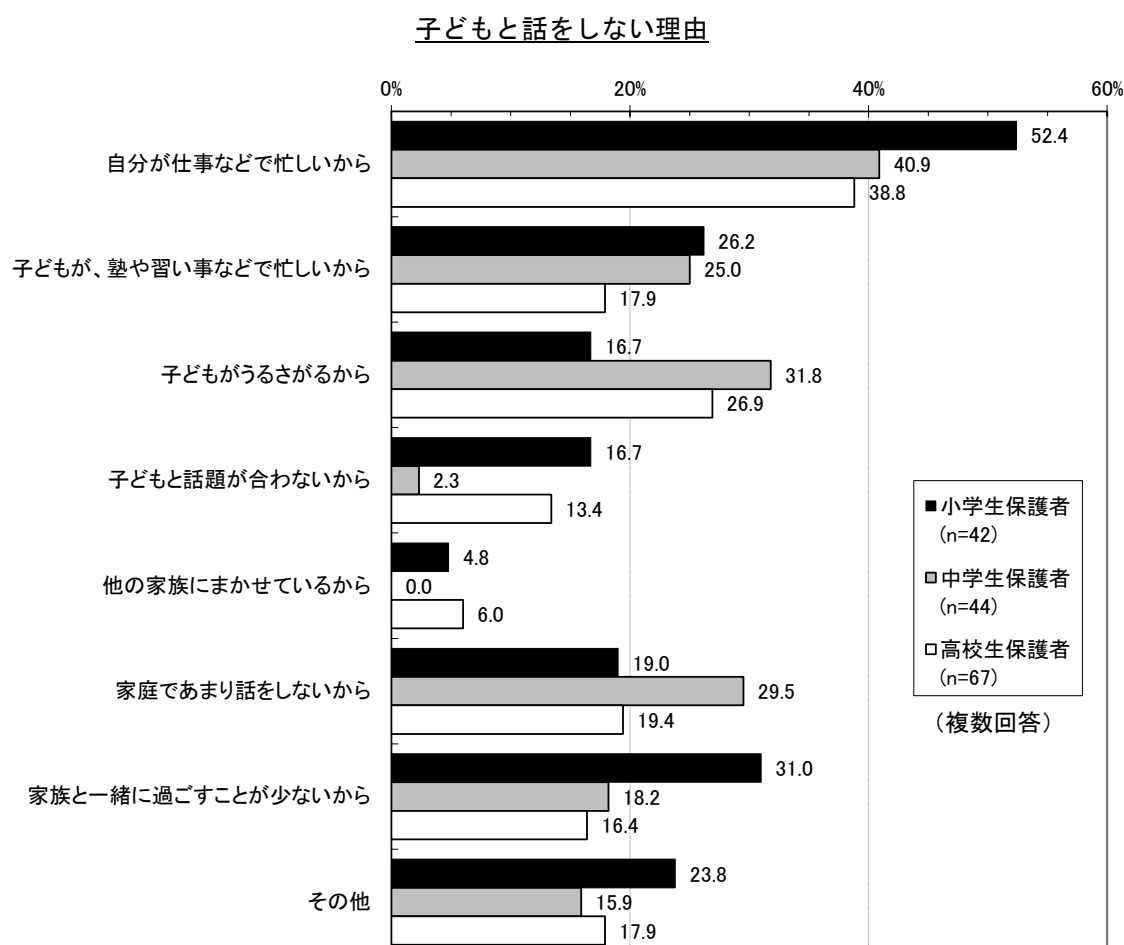
(5) 子どもと話す頻度

子どもと話す頻度を尋ねたところ、いずれの保護者とも「よく話をする」が最も多く、「ある程度話をする」を合わせた『話をする』と回答した人は9割台前半～9割台後半を占めています。



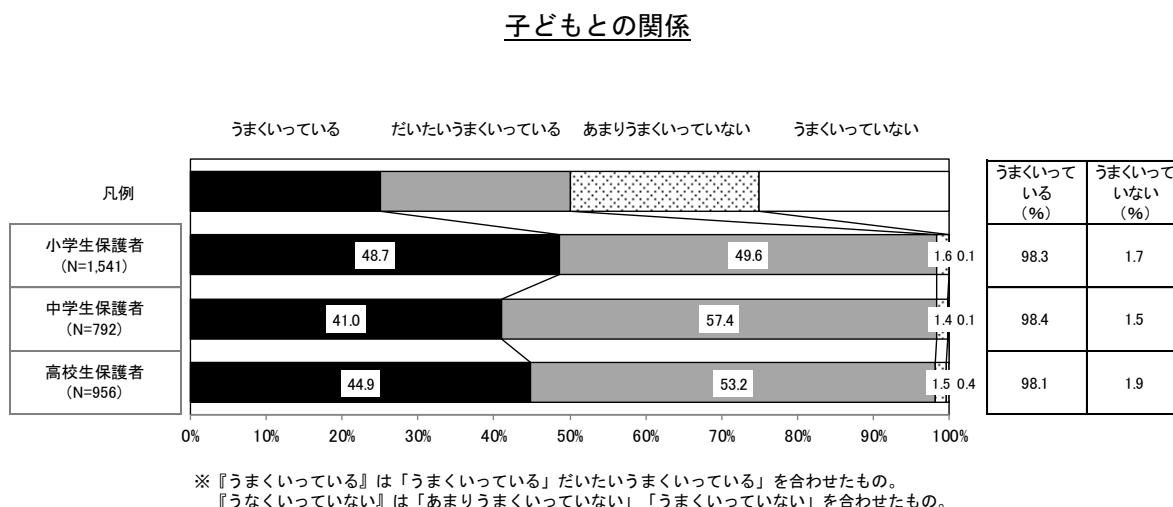
(6) 子どもと話をしない理由

子どもとの会話の頻度が少ない人に、その理由を尋ねたところ、いずれの保護者とも「自分が仕事などで忙しいから」が最も多く、特に、小学生保護者では「自分が仕事などで忙しいから」が52.4%と多くなっています。



(7) 子どもとの関係

子どもとの関係を尋ねたところ、いずれの保護者とも「だいたいうまくいっている」が最も多く、「うまくいっている」を合わせた『うまくいっている』が9割台後半を占めています。



(8) 子どもへの日ごろのしつけの態度

子どもへの日ごろのしつけの態度について尋ねたところ、「いつもそうである」と「ときどきそうである」を合わせた『肯定派』は、いずれの保護者とも〈子どもがしていることに、何にでもすぐ口を出してしまう〉が最も多くなっています。一方、〈④その時々で、子どもに違うことを言うことがある〉は『肯定派』が最も少なくなっています。

〈子どもが何かしていると、すぐ手伝ってしまう〉かどうか尋ねたところ、いずれの保護者とも「ときどきそうである」が最も多く、「いつもそうである」を合わせた『肯定派』が6割を超えています。

〈子どもがしていることに、何にでもすぐ口を出してしまう〉かどうか尋ねたところ、いずれの保護者とも「ときどきそうである」が最も多く、「いつもそうである」を合わせた『肯定派』は、高校生保護者に比べて、小・中学生保護者で多くなっています。

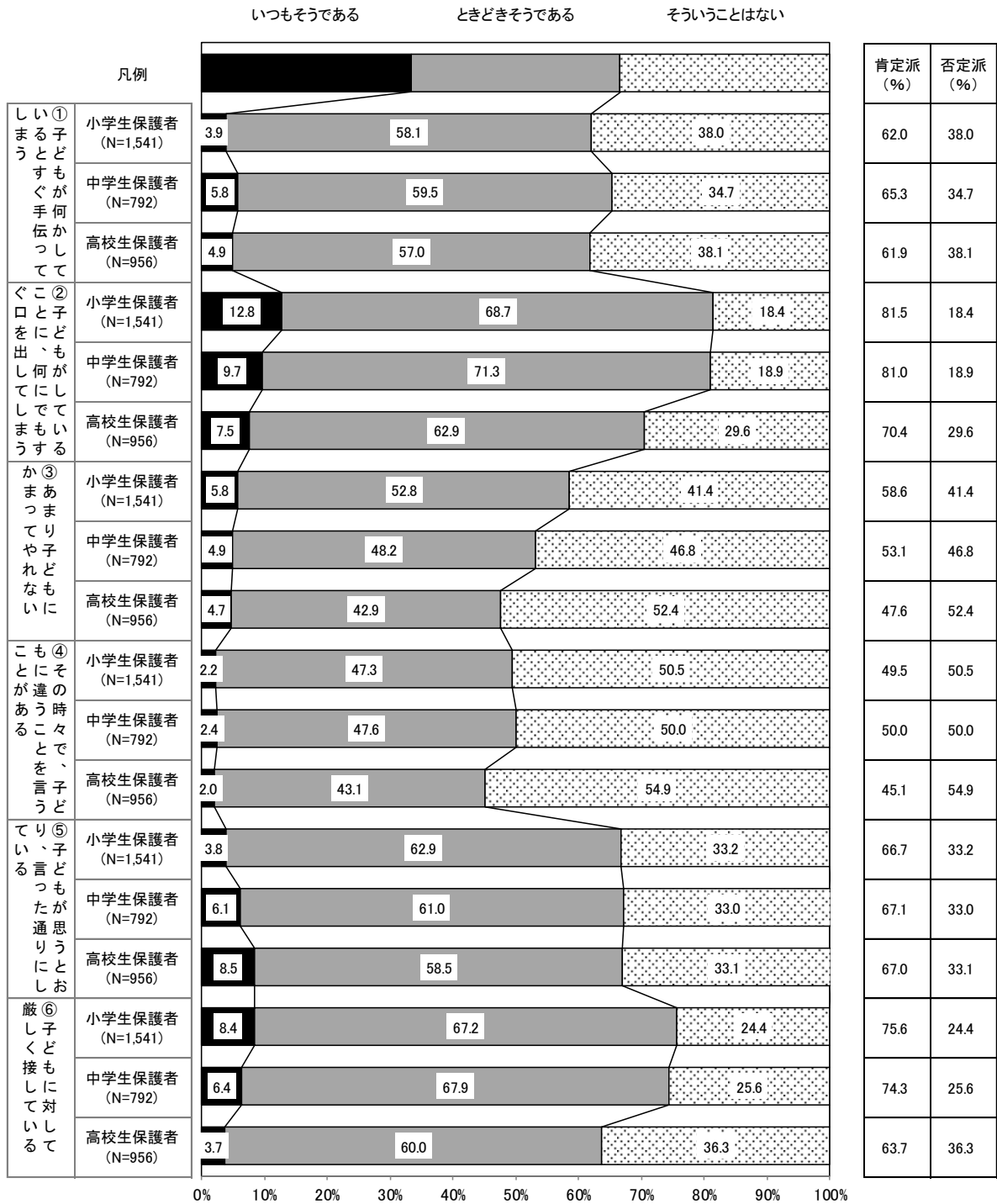
〈あまり子どもにかまってやれない〉かどうか尋ねたところ、子どもの年齢が上がるにつれて『肯定派』は減少しています。

〈その時々で、子どもに違うことを言うことがある〉かどうか尋ねたところ、小・中学生保護者では『肯定派』と『否定派』がほぼ拮抗しているのに対し、高校生保護者では『否定派』が『肯定派』を上回っています。

〈子どもが思うとおり、言ったとおりにしている〉と思うかどうか尋ねたところ、いずれの保護者とも『肯定派』が『否定派』を大きく上回っています。

〈子どもに対して厳しく接している〉と思うかどうか尋ねたところ、いずれの保護者とも「ときどきそうである」が最も多く、「いつもそうである」を合わせた『肯定派』は、高校生保護者に比べて、小・中学生保護者で多くなっています。

子どもへの日ごろのしつけの態度

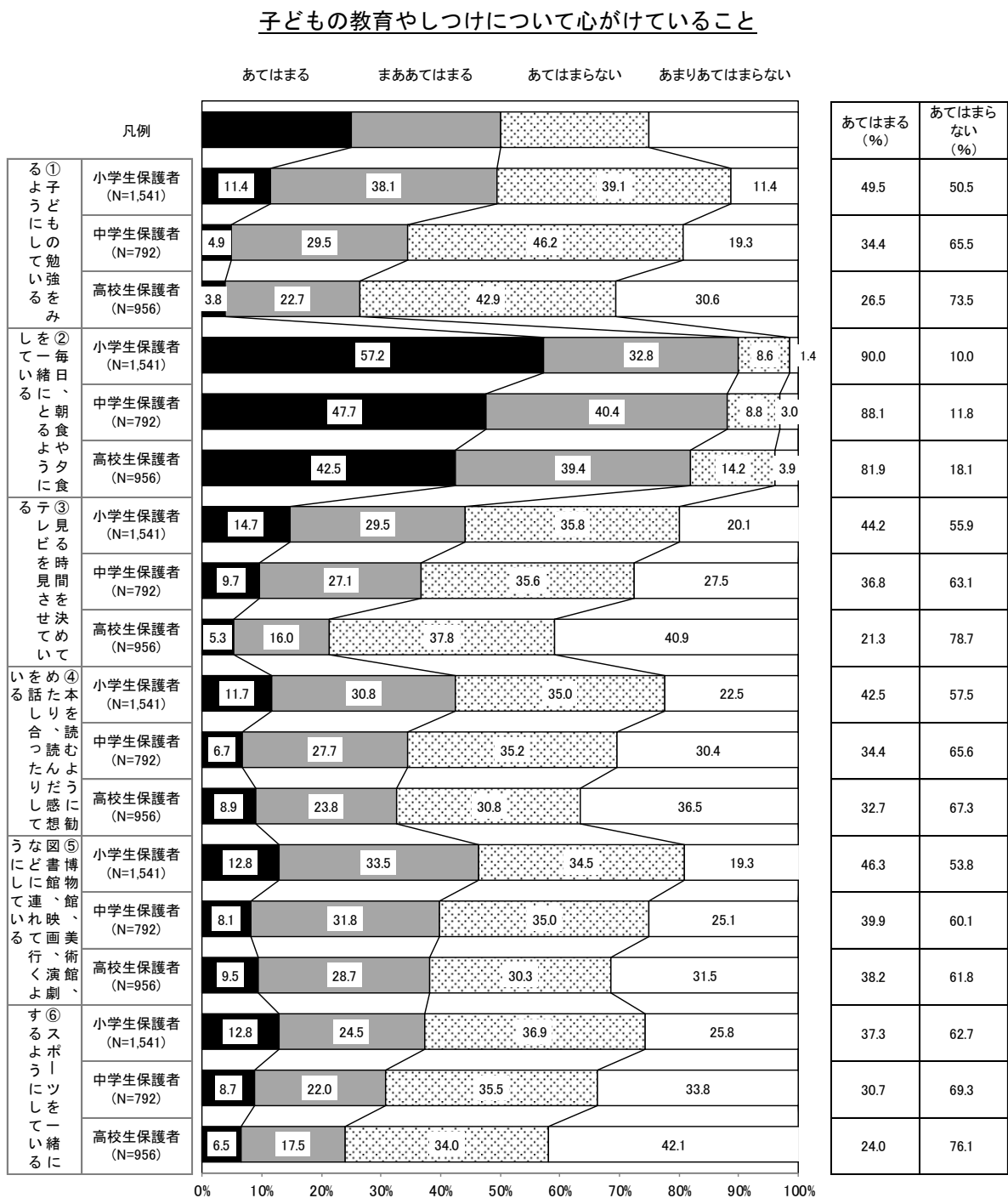


※『うまくいっている』は「うまくいっている」「だいたいうまくいっている」を合わせたもの。
『うまくいっていない』は「あまりうまくいっていない」「うまくいっていない」を合わせたもの。

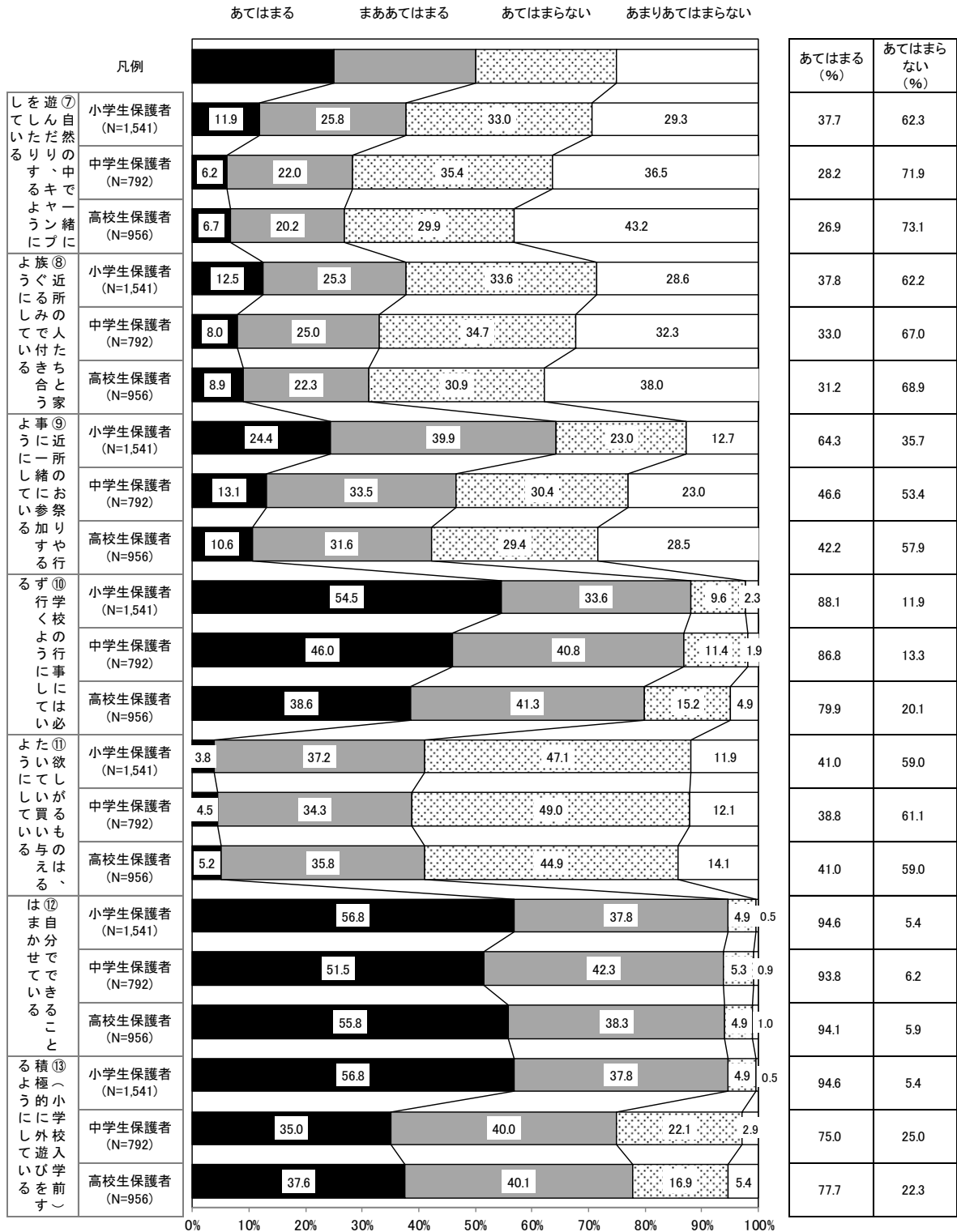
(9) 子どもの教育やしつけについて心がけていること

子どもの教育やしつけについて心がけていることを尋ねたところ、全体的に子どもの年齢が上がるほど「あてはまらない」、「あまりあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が多くなる傾向がみられます。

〈②毎日、朝食や夕食を一緒にとるようにしている〉、〈⑩学校の行事には必ず行くようにしている〉、〈⑫自分でできることはまかせている〉、〈⑬（小学校入学前）積極的に外遊びをするようにしている〉については小・中・高校生の保護者すべてで『あてはまる』が多くなっていますが、その他の大半は『あてはまらない』が『あてはまる』を上回っています。



子どもの教育やしつけについて心がけていること

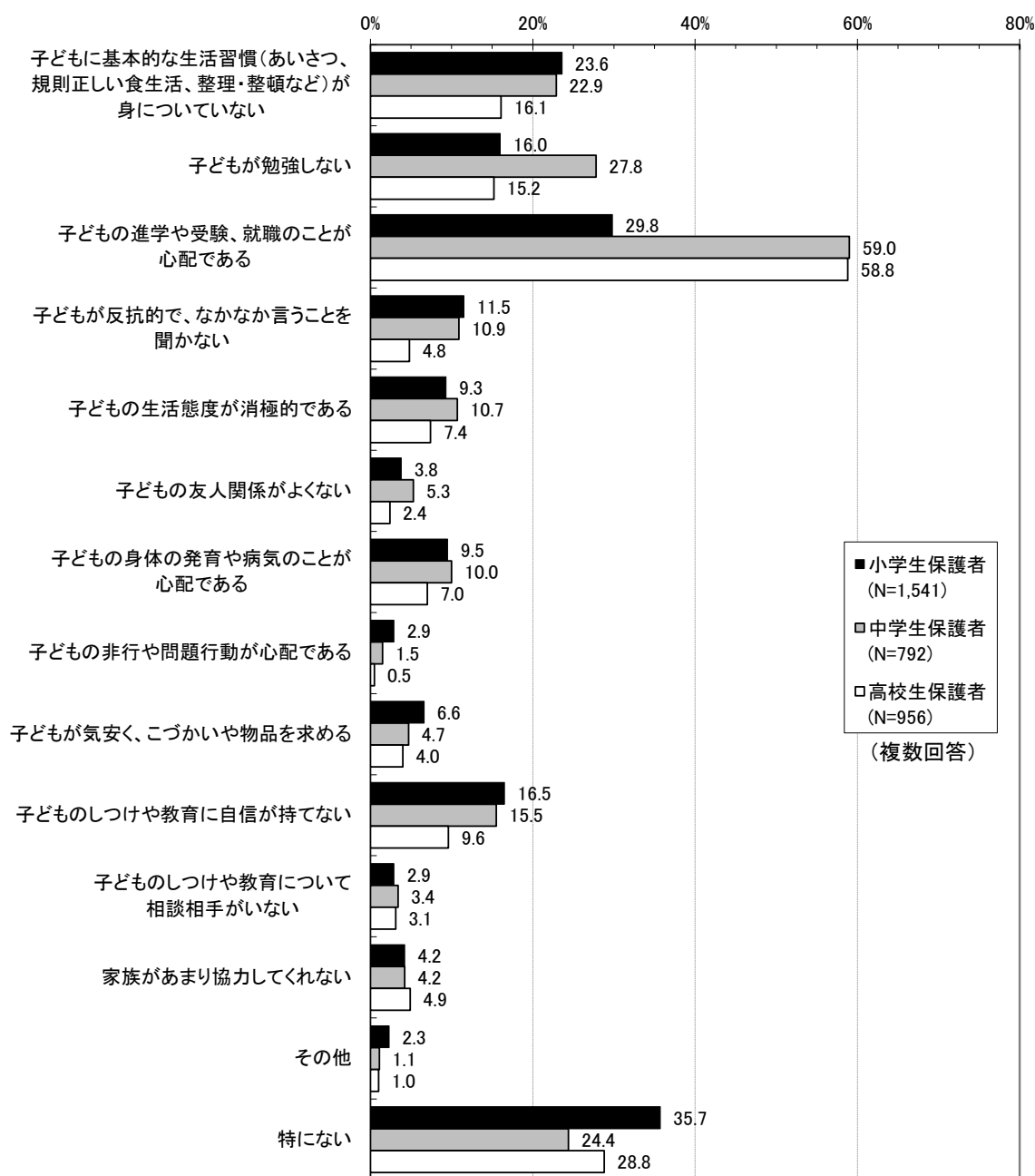


※『あてはまる』は「あてはまる」「まああてはまる」を合わせたもの。
『あてはまらない』は「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を合わせたもの。

(10) 子どものしつけや教育について悩んでいること

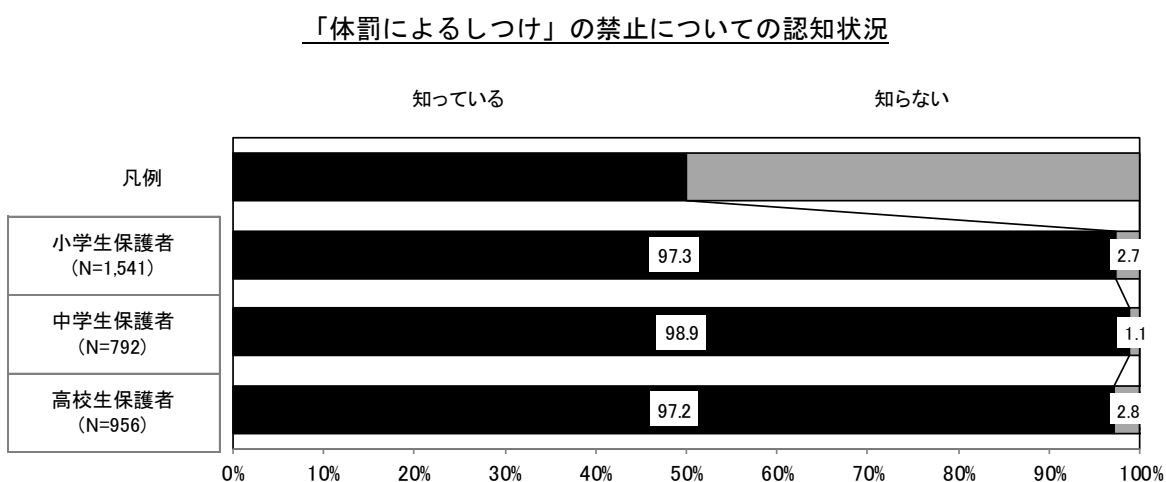
子どものしつけや教育について悩んでいることを尋ねたところ、小学生保護者では「特にない」が3割台半ばで最も多く、次いで「子どもの進学や受験、就職のことが心配である」、「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」となっています。中学生保護者では、「子どもの進学や受験、就職のことが心配である」が約6割と最も多くなっており、「子どもが勉強しない」も小学生保護者、高校生保護者と比べ多くなっています。高校生保護者では、「子どもの進学や受験、就職のことが心配である」が約6割で最も多くなっています。

子どものしつけや教育について悩んでいること



(11)「体罰によるしつけ」の禁止についての認知状況

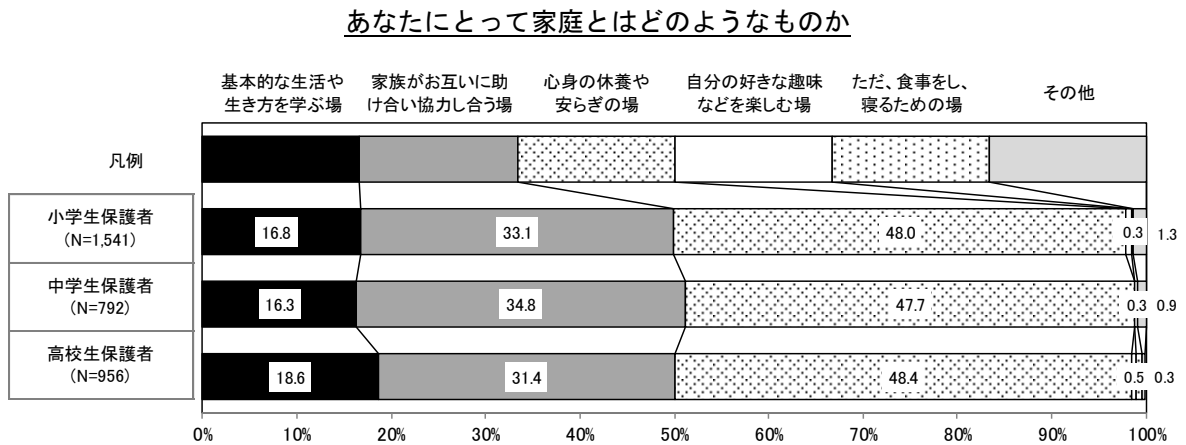
「体罰によるしつけ」が法律で禁止されていることについての認知状況を尋ねたところ、小・中・高校生の保護者すべてで9割台後半が知っていると回答し、体罰禁止の認識が浸透していることがうかがえます。



3. 家庭について

(1) 家庭観

あなたにとって家庭とはどのようなものか尋ねたところ、すべての保護者で「心身の休養や安らぎの場」が4割台後半で最も多く、子どもの年齢に関わりなく、ほぼ同様の回答傾向を示しています。

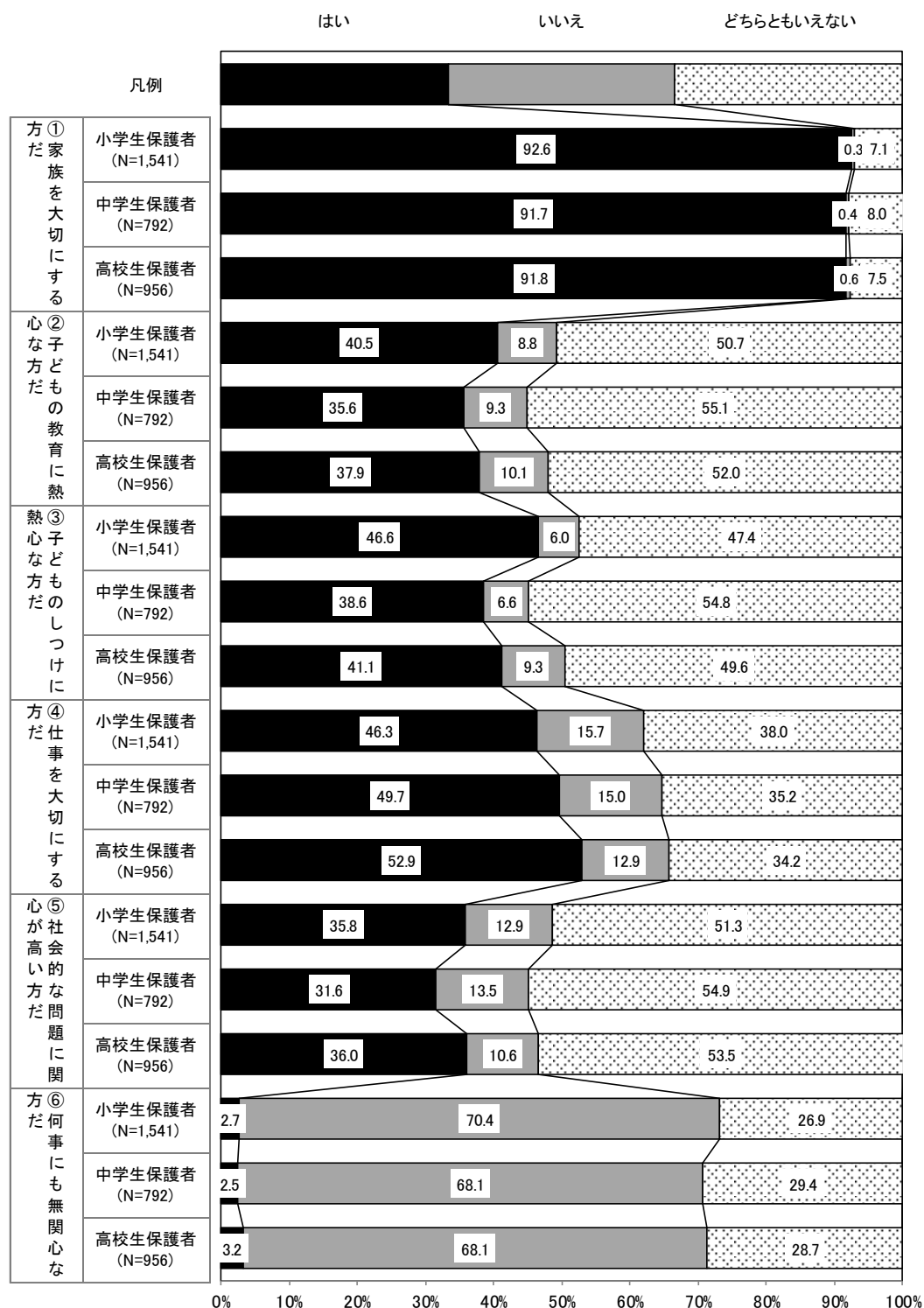


(2) 日ごろの生活態度や考え方

日ごろの生活態度や考え方について尋ねたところ、いずれの保護者とも〈①家族を大切にする方だ〉については「はい」が9割を超えています。一方、〈⑥何事にも無関心な方だ〉については「はい」はほぼなく、「いいえ」が7割前後を占めています。

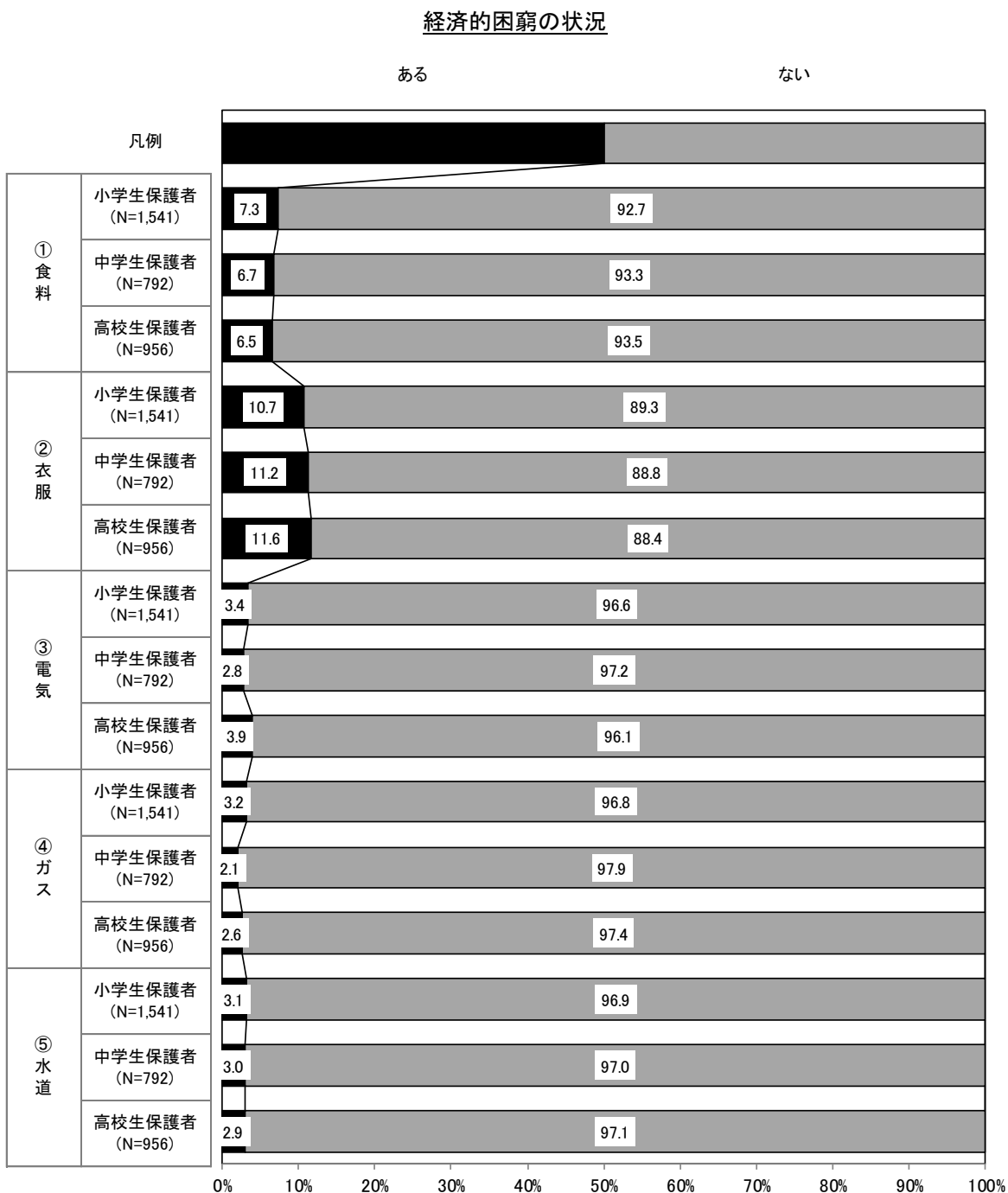
また、いずれの保護者とも〈②子どもの教育に熱心な方だ〉、〈⑤社会的な問題に関心が高い方だ〉は「どちらともいえない」が5割を超えています。中学生保護者は、小学生保護者、高校生保護者に比べて〈③子どものしつけに熱心な方だ〉で「どちらともいえない」が多くなっています。

日ごろの生活態度や考え方



(3) 経済的困窮の状況

過去1年の間に経済的な困窮により買い物や公共料金について買えなかった（払えなかった）経験の有無について尋ねたところ、〈③電気〉〈④ガス〉〈⑤水道〉については、「ある」は4%未満で、9割台半ばが「ない」と回答しています。〈①食料〉〈②衣類〉は他の項目よりも「ある」と回答した保護者が多くなっています。



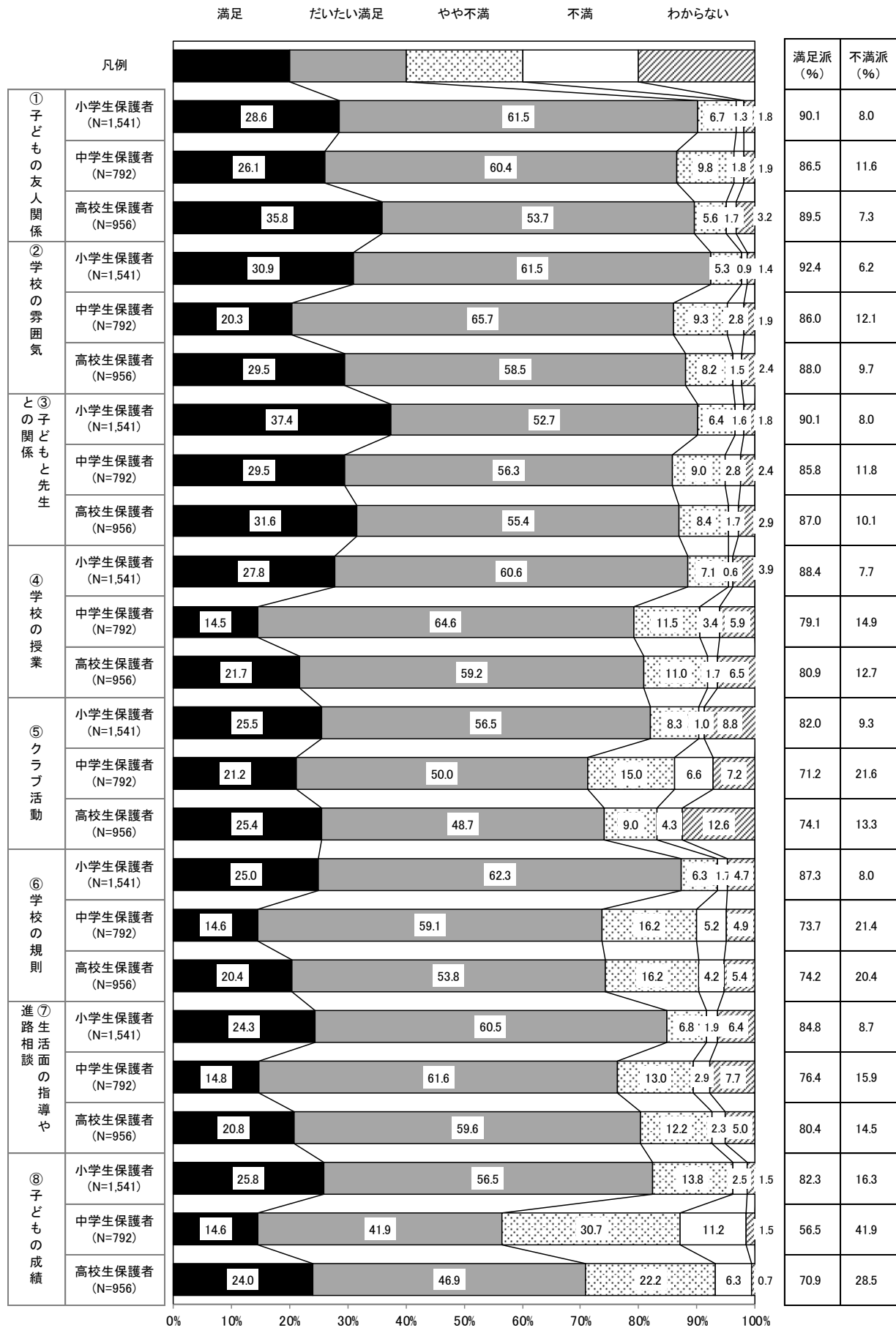
4. 学校について

(1) 学校生活の満足度

子どもが通っている学校の満足度について8つの項目を尋ねたところ、〈⑧子どもの成績〉を除く7項目についてはいずれの保護者とも「満足」と「だいたい満足」を合わせた『満足派』が『不満派』を大幅に上回っており、〈①子どもの友人関係〉、〈②学校の雰囲気〉、〈③子どもと先生との関係〉は『満足派』が8割を超えています。

〈⑧子どもの成績〉は、小学生保護者で『満足派』が『不満派』を大幅に上回っていますが、中学生保護者の『満足派』は5割台後半で、小学生、高校生に比べて低くなっています。

学校生活の満足度



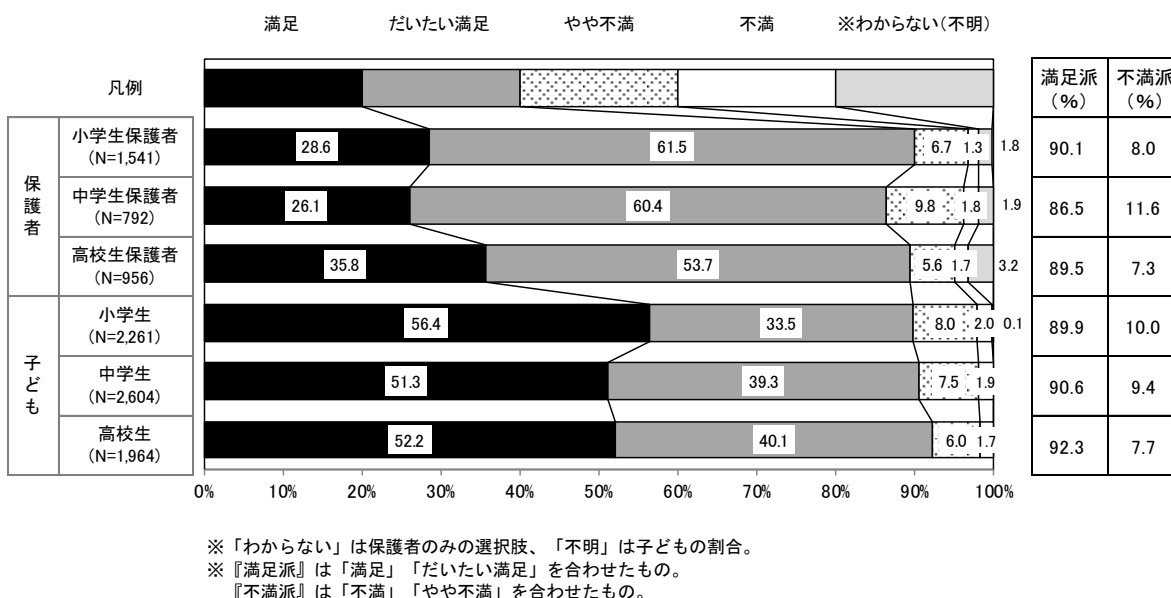
※『満足派』は「満足」「だいたい満足」を合わせたもの。
『不満派』は「やや不満」「不満」を合わせたもの。

①子どもの友人関係

〈子どもの友人関係〉について尋ねたところ、いずれの保護者とも『満足派』は8割以上を占めています。

子どもの結果と比べると、保護者の方が「満足」と回答する人の割合が大幅に低く、中学生保護者では『不満派』の割合が1割を超えています。

子どもの友人関係

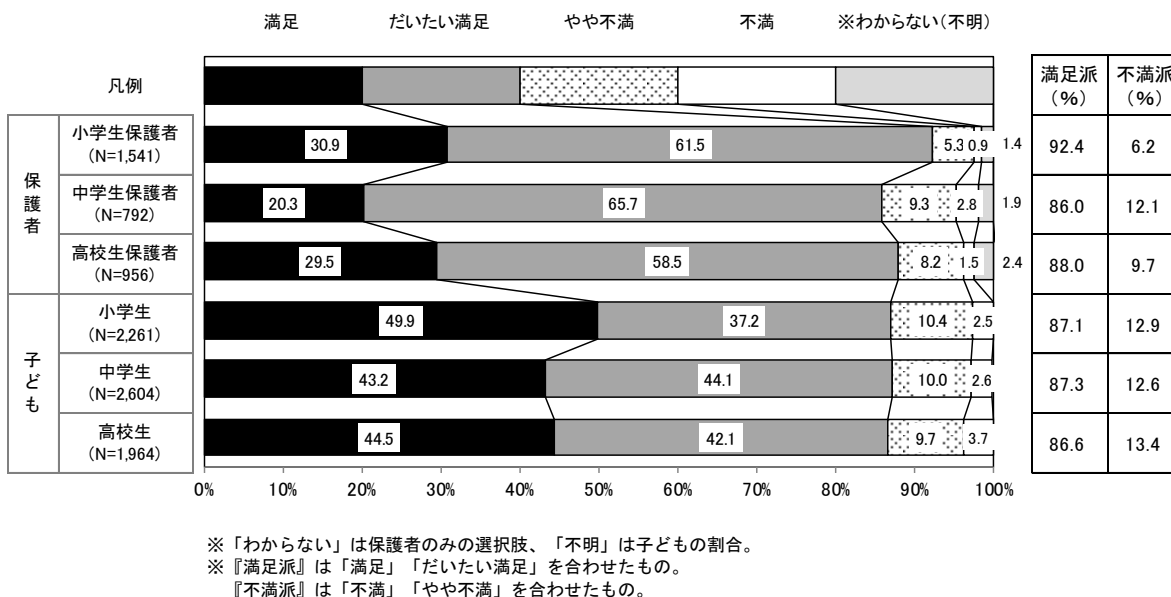


②学校の雰囲気

〈学校の雰囲気〉について尋ねたところ、いずれの保護者とも『満足派』は8割以上を占めています。

子どもの結果と比べると、保護者の方が「満足」と回答する人の割合が大幅に低くなっていますが、小学生保護者では『満足派』の割合が子どもを上回り、小学生保護者は『満足派』が92.4%となっています。

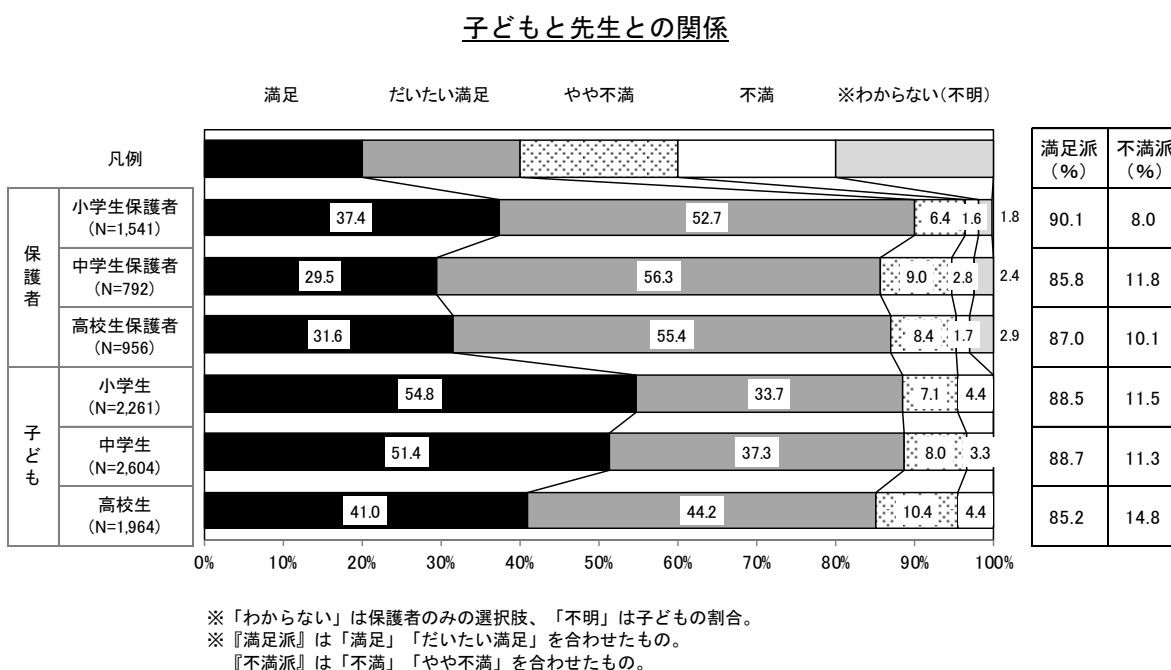
学校の雰囲気



③子どもと先生との関係

〈子どもと先生との関係〉について尋ねたところ、いずれの保護者とも『満足派』は8割台後半～9割を占めています。

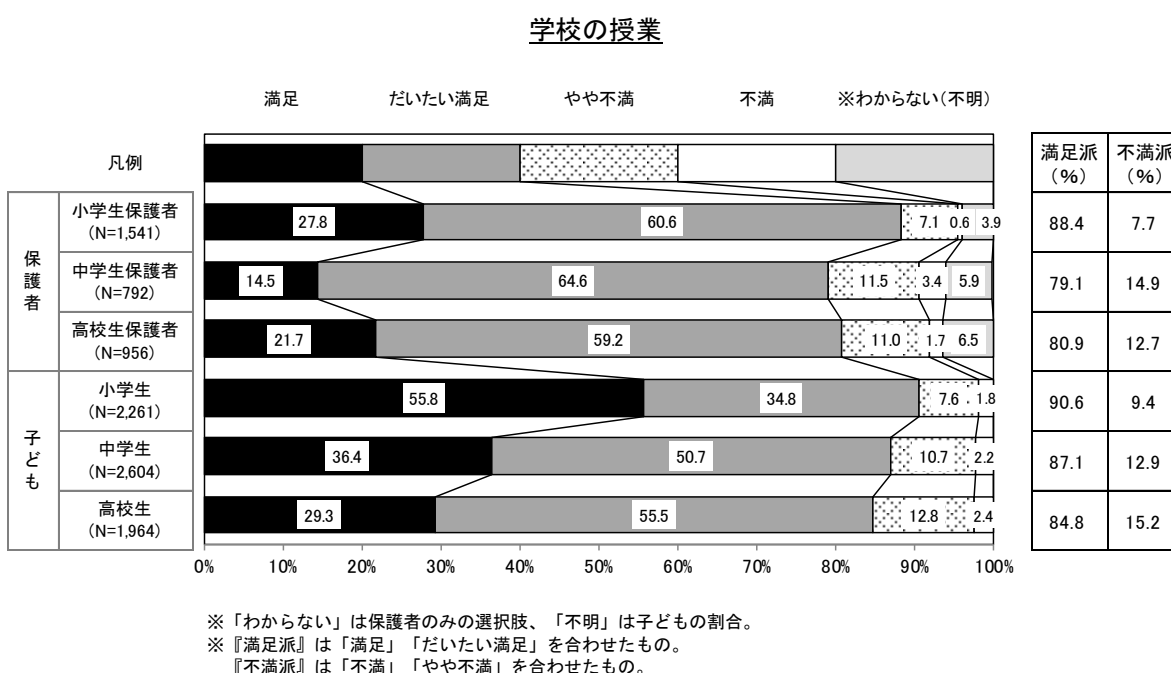
子どもの結果と比べると、保護者の方が「満足」が大幅に低くなっています。



④学校の授業

〈学校の授業〉について尋ねたところ、小学生保護者の『満足派』は8割台後半、中学生保護者、高校生保護者は約8割となっています。特に、中学生保護者では『不満派』が1割台半ばを占めています。

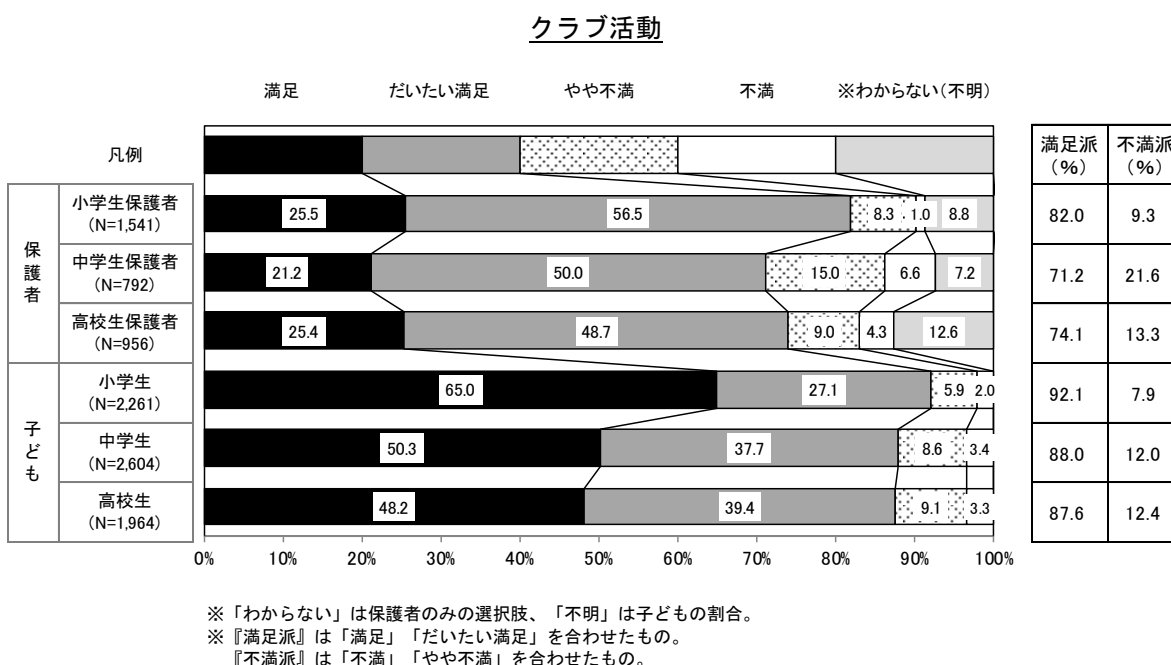
子どもの結果と比べると、『満足派』の割合は保護者の方が低くなっており、中学生保護者は子どもを8ポイント下回っています。



⑤クラブ活動

〈クラブ活動〉について尋ねたところ、小学生保護者の『満足派』は8割台前半、中学生保護者、高校生保護者は7割台前半となっています。特に、中学生保護者では『不満派』が2割強を占めています。

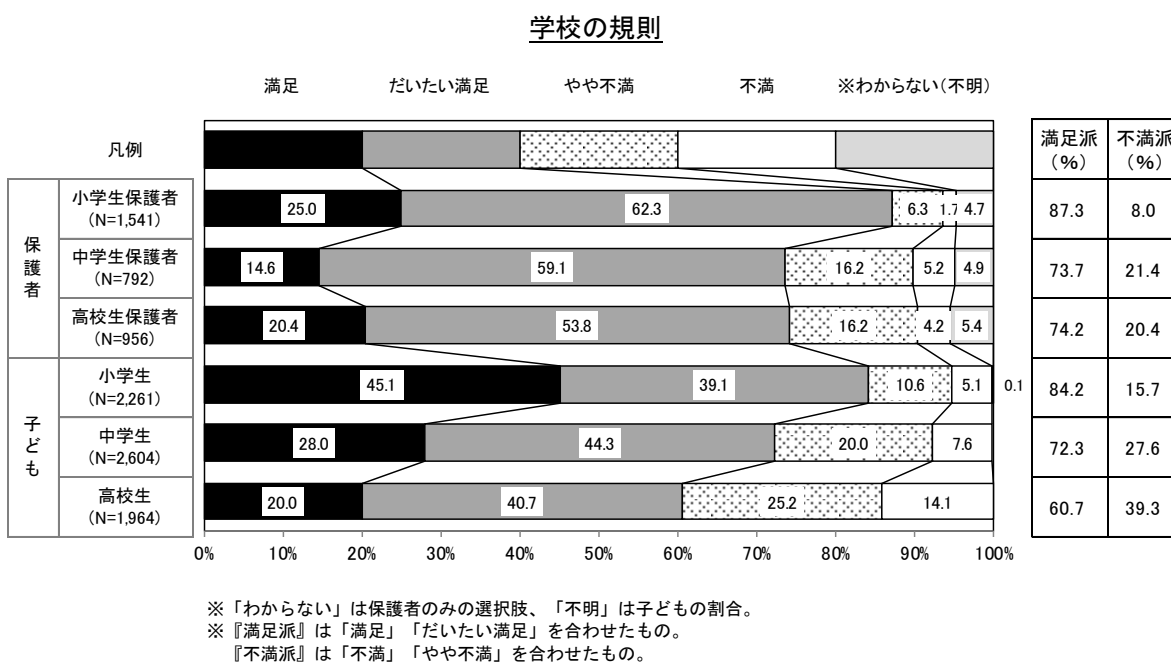
子どもの結果と比べると、『満足派』の割合は保護者の方が低くなっており、中学生保護者は子どもを16.8ポイント、高校生保護者は子どもを13.5ポイント下回っています。



⑥学校の規則

〈学校の規則〉について尋ねたところ、小学生保護者の『満足派』は8割台後半、中学生保護者、高校生保護者は7割台前半となっています。

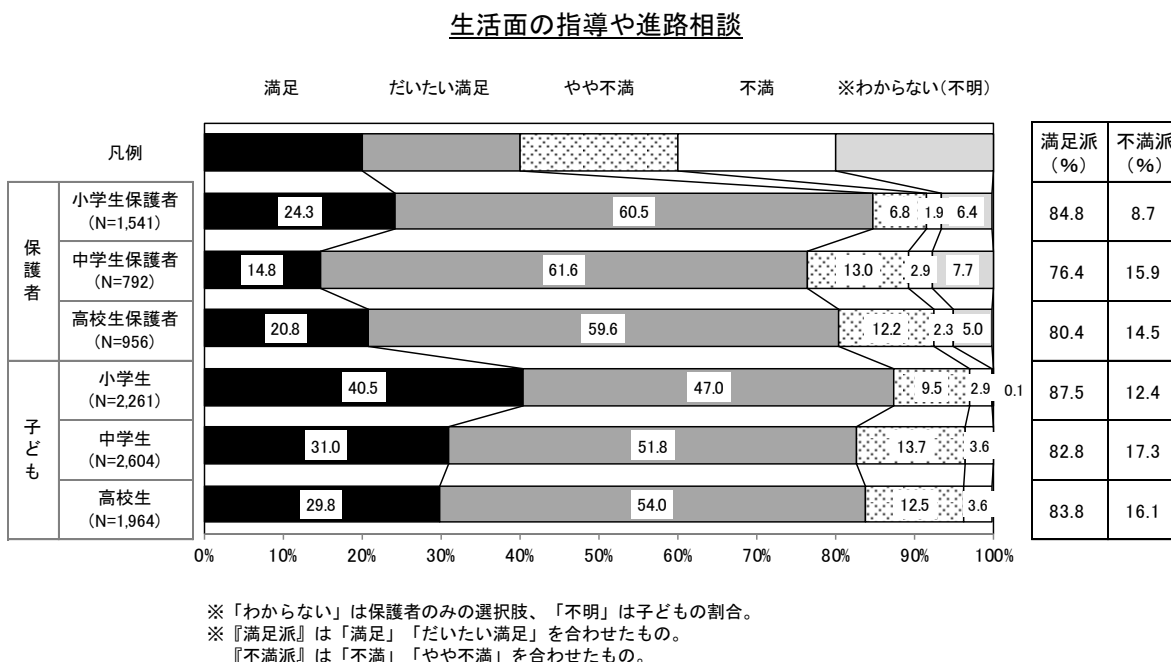
子どもの結果と比べると、『満足派』の割合は保護者の方が高く、また、高校生保護者は子どもを13.5ポイント上回っています。



⑦生活面の指導や進路相談

〈生活面の指導や進路相談〉について尋ねたところ、小学生保護者と高校生保護者の『満足派』は8割を超えており、中学生保護者は小学生保護者と高校生保護者に比べてやや低く、7割台後半となっています。

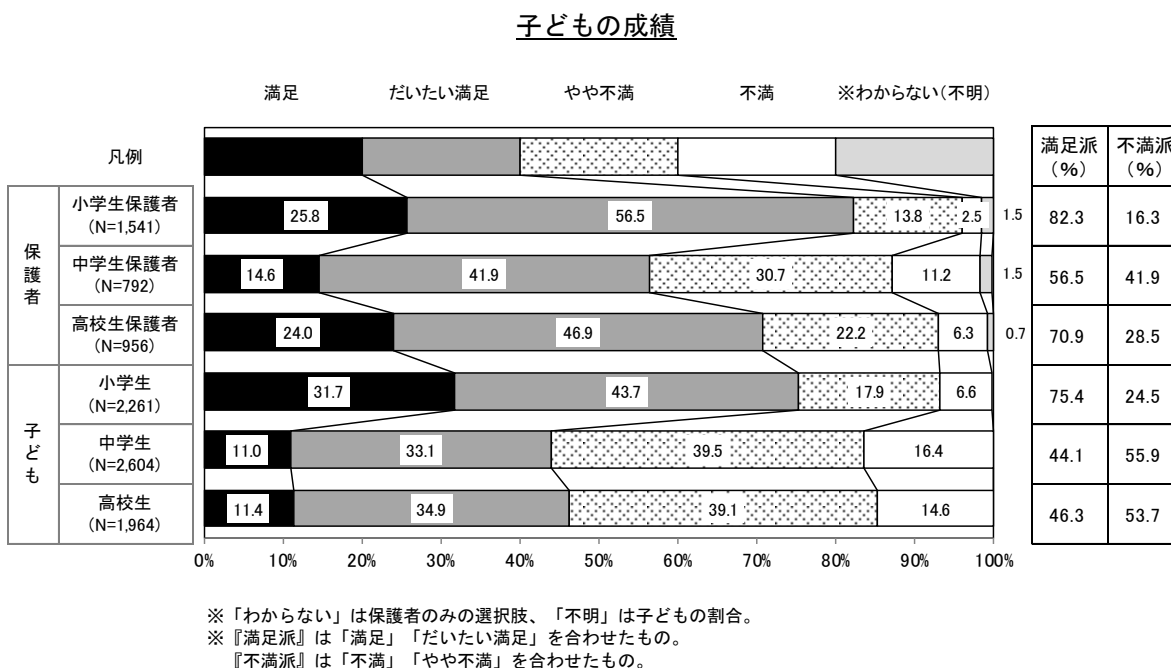
子どもの結果と比べると、『満足派』の割合は保護者の方がやや低くなっています。



⑧子どもの成績

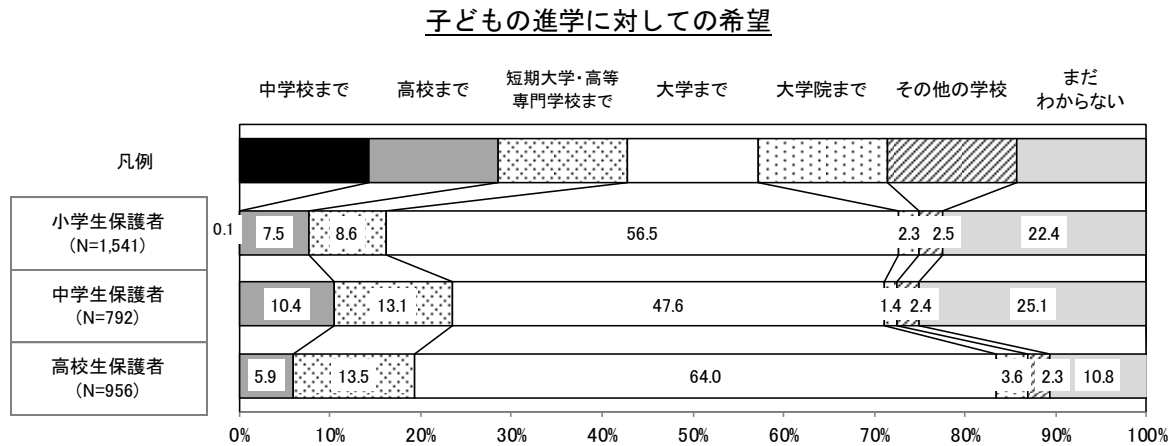
〈子どもの成績〉について尋ねたところ、小学生保護者の『満足派』は8割台前半、高校生保護者は約7割ですが、中学生保護者の『満足派』は5割台後半と低くなっています。

子どもの結果と比べると、高校生で生徒と保護者に大きな差があり、高校生保護者の『満足派』が約7割を占めているのに対し、子どもの『満足派』は4割台にとどまっています。



(2) 子どもの進学に対しての希望

子どもの進学に対しての希望を尋ねたところ、いずれの保護者とも「大学まで」が最も多く、小学生保護者で5割台後半、高校生保護者で6割台前半となっています。

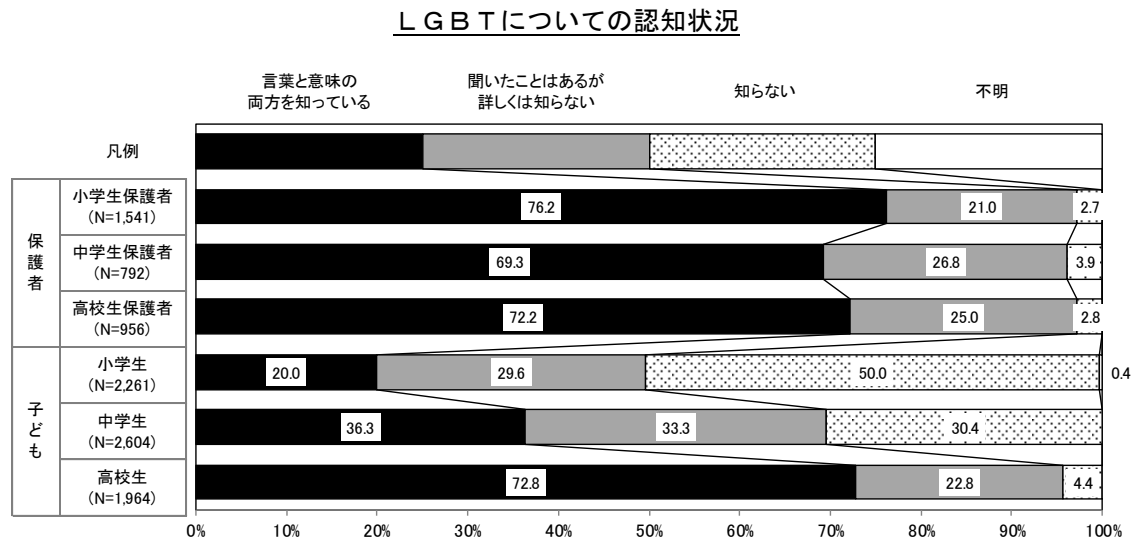


5. 多様な性について

(1) L G B T（性的少数者を表す総称の一つ）の認知状況

L G B Tについての認知状況について尋ねたところ、いずれの保護者も「言葉と意味の両方を知っている」が約7割～7割台半ばを占めています。

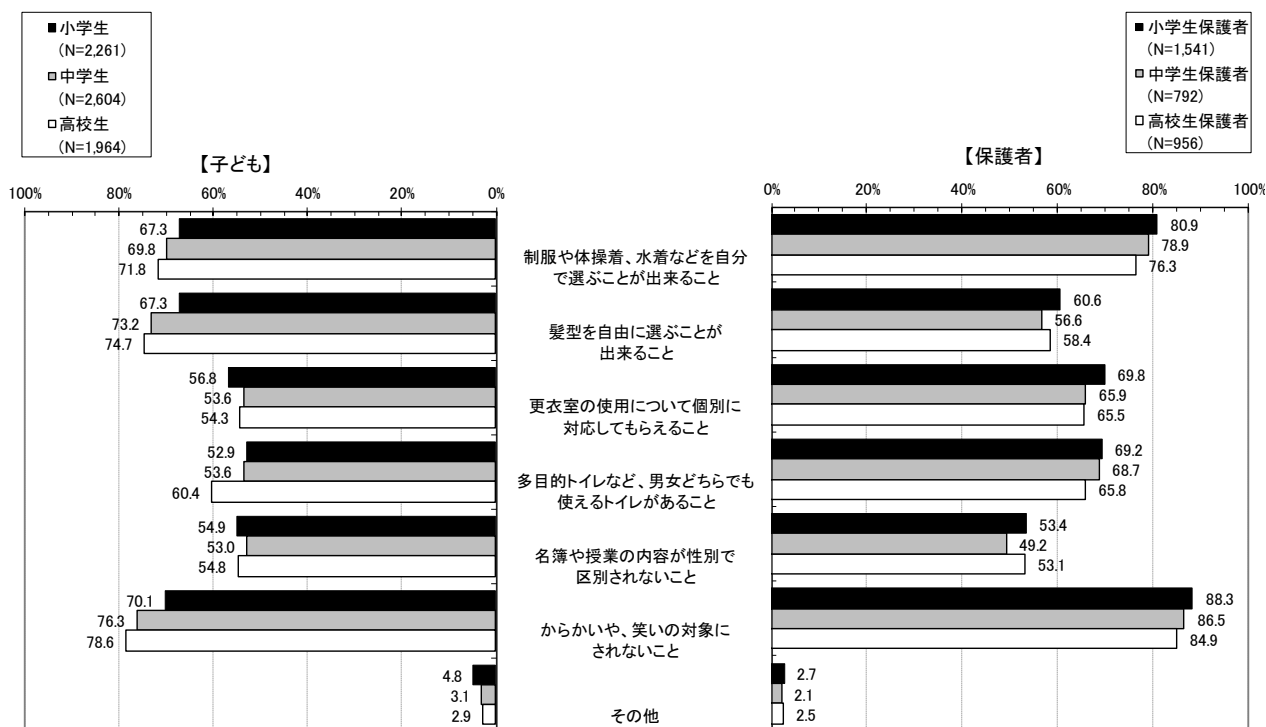
子どもの結果と比べると、小学生と中学生については保護者の方が子どもよりも認知度が高く、高校生については、子どもと保護者の認知度は同じ程度となっています。



(2) L G B Tの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なこと

L G B Tの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なことについて尋ねたところ、「からかいや、笑いの対象にされないこと」が最も多く、いずれの保護者も8割以上を占めています。次いで、「制服や体操着、水着などを自分で選ぶことが出来ること」が7割台後半～8割、「多目的トイレなど、男女どちらでも使えるトイレがあること」が6割台後半～7割弱と続いています。

L G B Tの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なこと



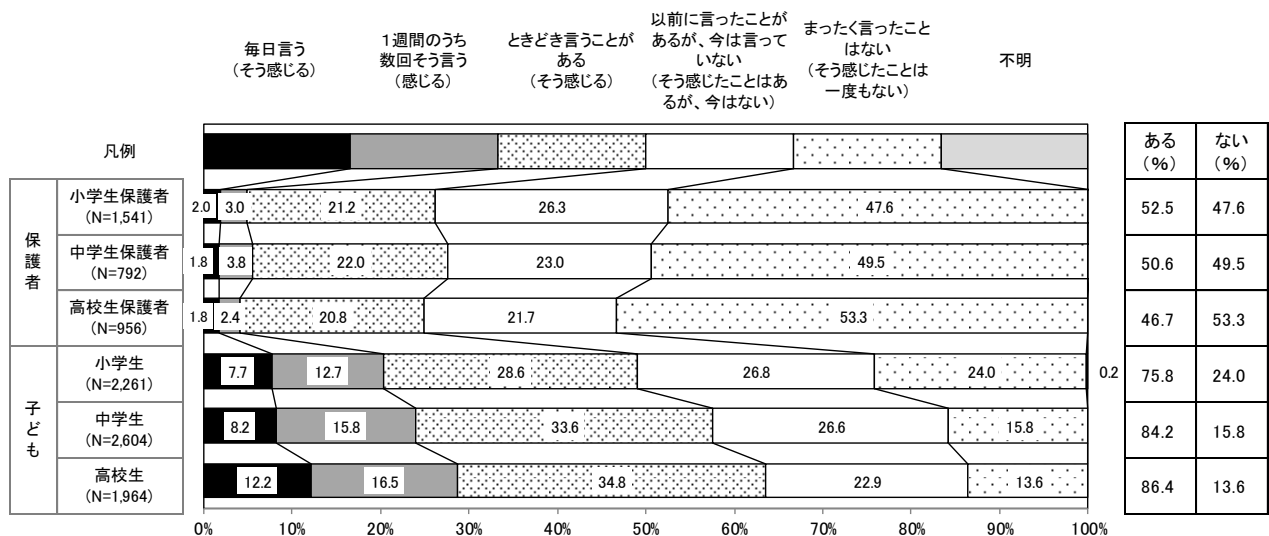
6. 不登校・いじめについて

(1) 子どもが学校に行きたくないという頻度

子どもが学校に行きたくないという頻度を尋ねたところ、「毎日言う」、「1週間のうち数回言う」、「ときどき言うことがある」、「以前に言ったことがあるが、今は言っていない」を合わせた『ある』の割合は小学生保護者で5割台前半、中学生保護者で5割、高校生保護者では4割台半ばとなっています。

子どもの結果と比べると、子どもの設問は「感じた」経験を尋ねたため、全体的に『ある』の割合が高く、保護者との差が大きくなっています。

子どもが学校に行きたくないという頻度



※選択肢の()内は子どもへの設問の際の文言。

※『ある』は「毎日そう感じる」「1週間のうち数回そう感じる」「ときどきそう感じる」「そう感じたことはあるが、今はない」を合わせたもの。

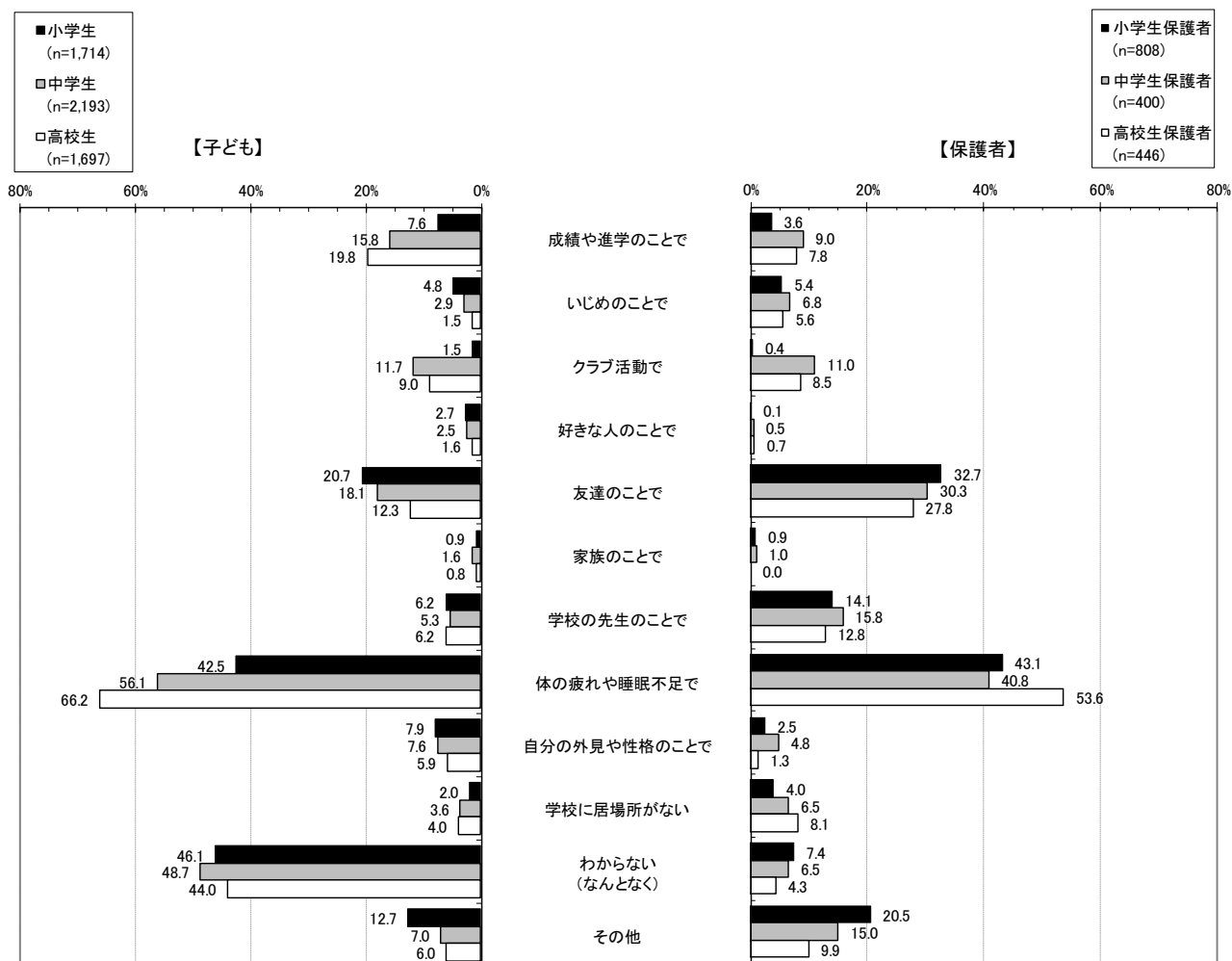
『ない』は「そう感じたことは一度もない」の回答。

(2) 子どもが学校へ行きたくないと言う理由

子どもが学校へ行きたくないと言うことがある保護者に、その理由を尋ねたところ、いずれの保護者も「体の疲れや睡眠不足で」が最も多くなっています。

子どもの結果と比べると、中学生保護者、高校生保護者は、子どもよりも「体の疲れや睡眠不足で」が大幅に少なく、「友達のことで」や「学校の先生のことで」が多くなっています。

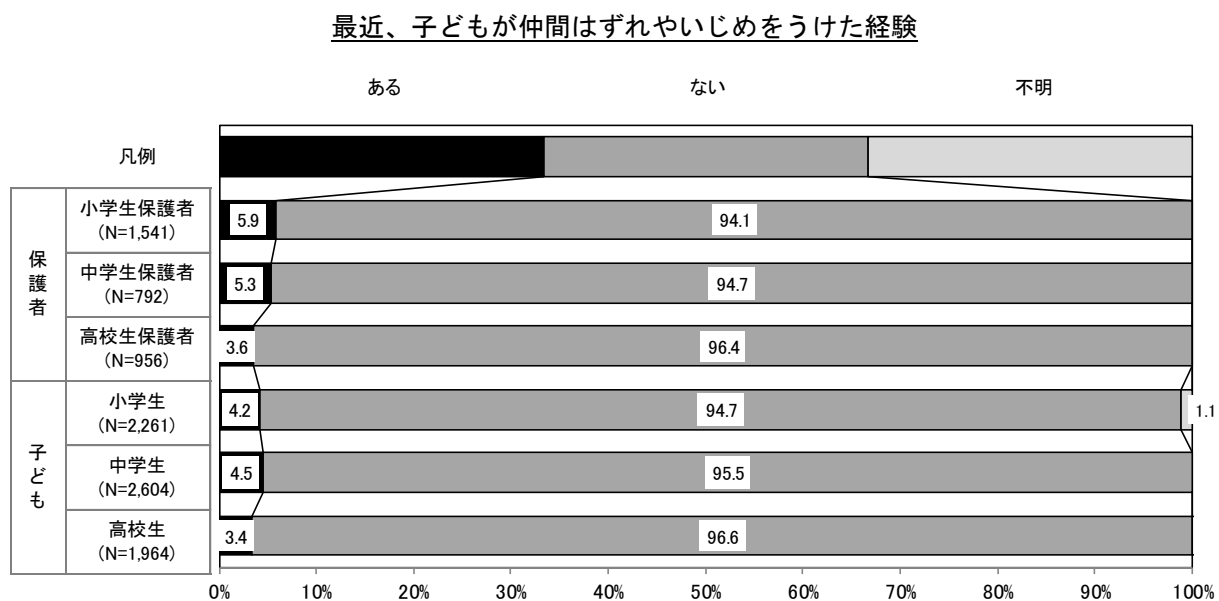
子どもが学校へ行きたくないと言う理由



(3) 最近、子どもが仲間はずれやいじめをうけた経験

最近、子どもが仲間はずれやいじめをうけた経験を尋ねたところ、いずれの保護者とも「ない」が大半を占めています。

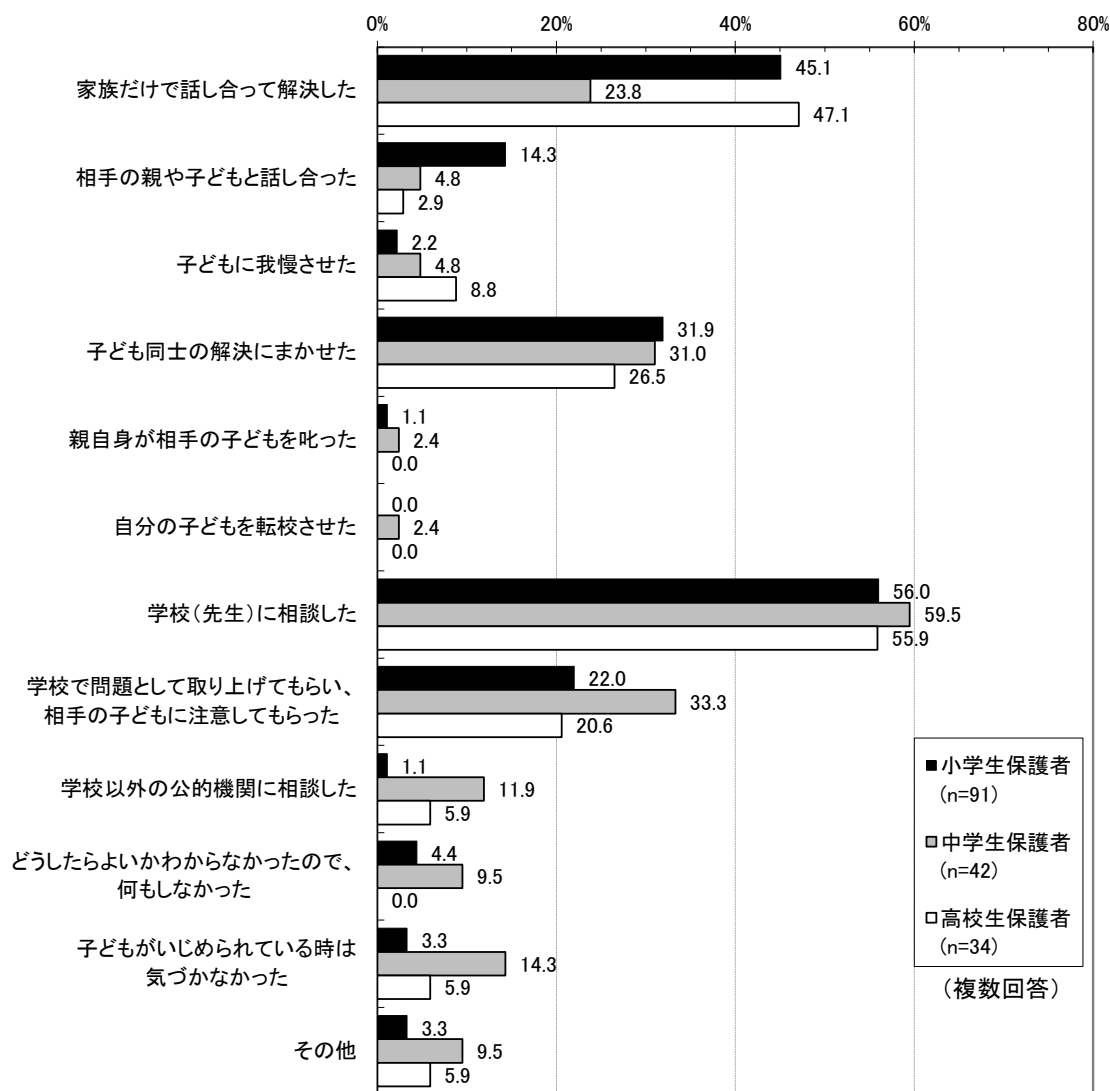
子どもの結果と比べても大きな差はありません。



(4) 子どもが仲間はずれやいじめを受けたときの対処

子どもが仲間はずれやいじめを受けたことがある保護者に、その対処方法を尋ねたところ、いずれの保護者とも「学校（先生）に相談した」が最も多くなっています。小学生保護者、高校生保護者は「家族だけで話し合って解決した」が続いていますが、中学生保護者は「学校で問題として取り上げてもらい、相手の子どもに注意してもらった」が続いています。

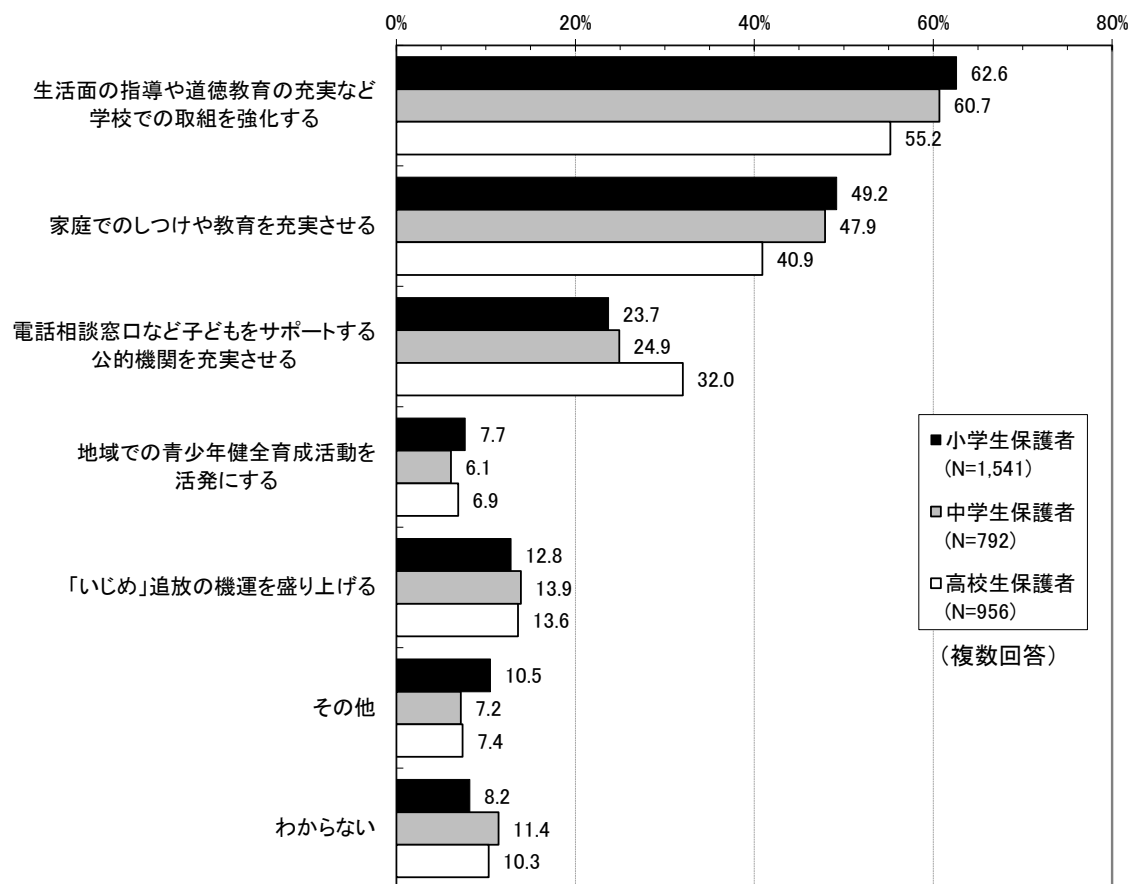
子どもが仲間はずれやいじめを受けたときの対処



(5) 学校における「いじめ問題」を解決するために必要なこと

学校における「いじめ問題」を解決するために必要なことを尋ねたところ、いずれの保護者とも「生活面の指導や道徳教育の充実など学校での取組を強化する」、「家庭でのしつけや教育を充実させる」が多くなっています。

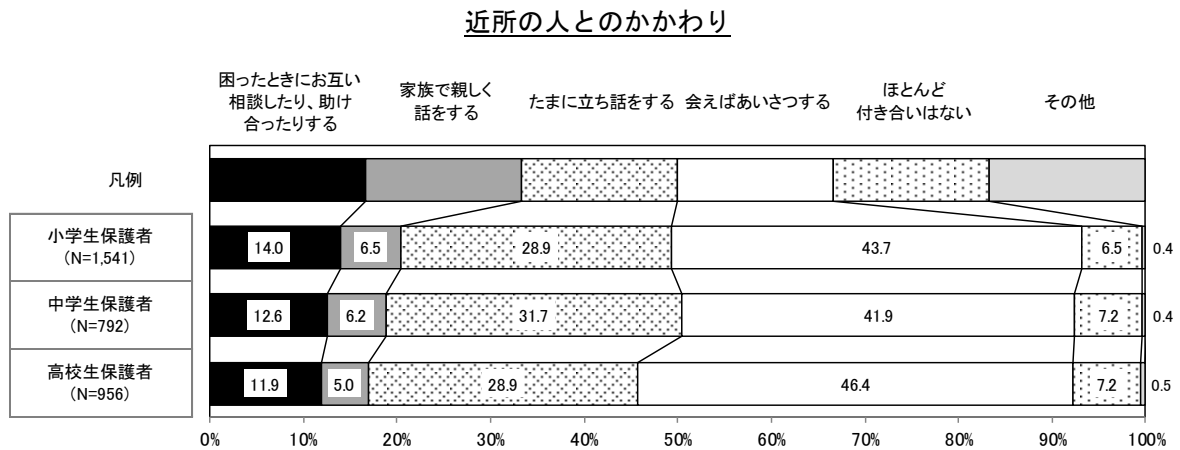
学校における「いじめ問題」を解決するために必要なこと



7. 地域社会とのかかわりやボランティア活動について

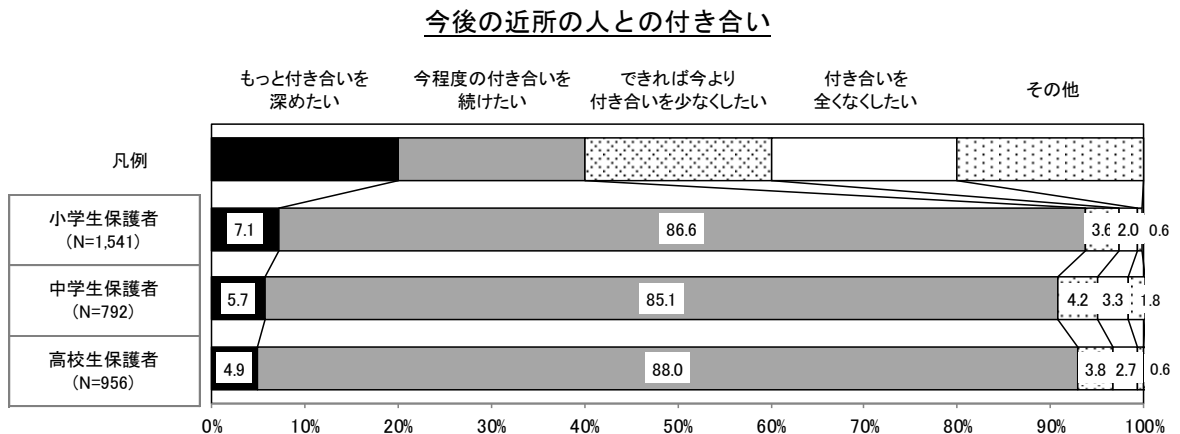
(1) 近所の人とのかかわり

近所の人とのかかわりを尋ねたところ、いずれの保護者とも「会えばあいさつする」が最も多く、次いで「たまに立ち話をする」、「困ったときにお互い相談したり、助け合ったりする」の順となっています。



(2) 今後の近所の人との付き合い

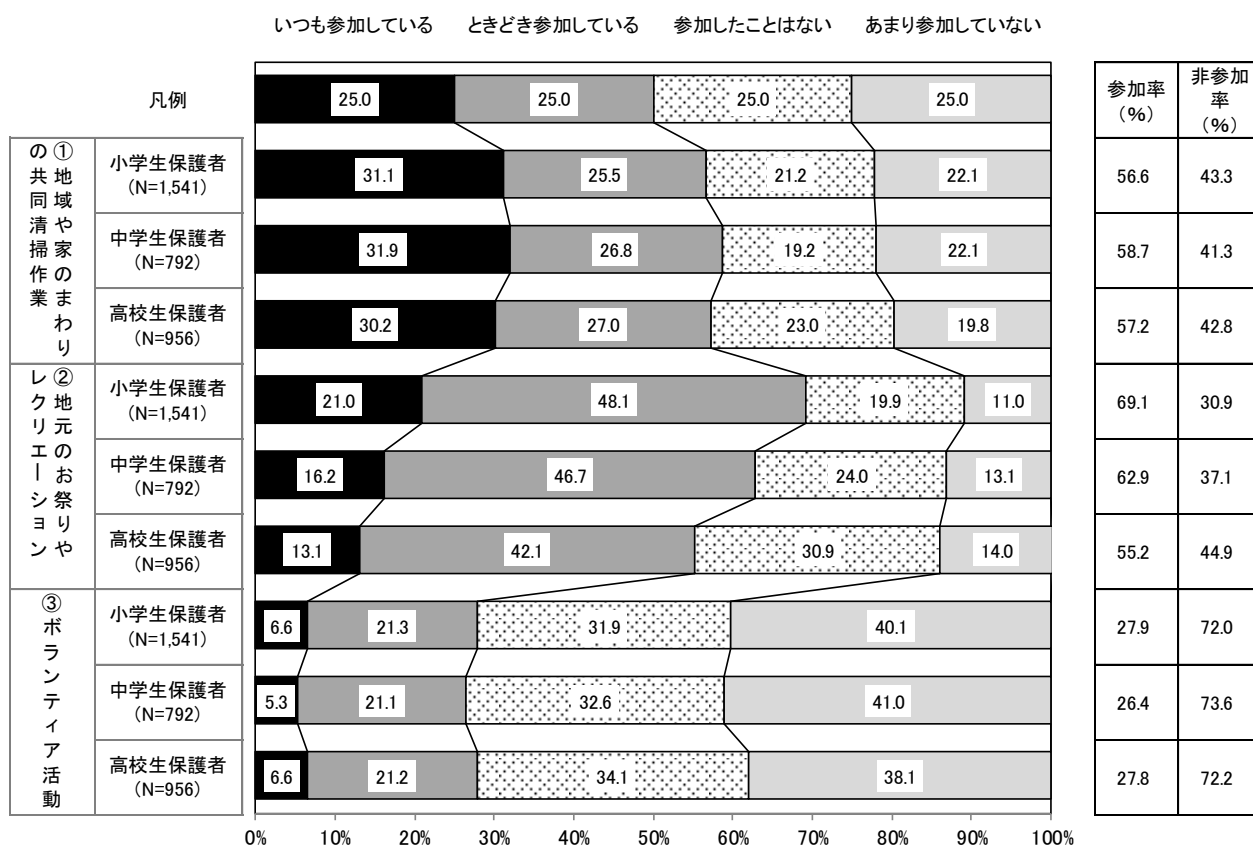
今後の近所の人との付き合いについて尋ねたところ、いずれの保護者とも「今程度の付き合いを続けたい」が8割以上を占めています。



(3) 地域活動への参加状況

地域の共同清掃作業やスポーツ・レクリエーション、ボランティア活動の参加状況を尋ねたところ、いずれの保護者も〈①地域や家のまわりの共同清掃作業〉で「いつも参加している」が最も多くなっています。〈②地元のお祭りやスポーツ・レクリエーション〉は「ときどき参加している」が最も多く、〈③ボランティア活動〉は「あまり参加していない」が最も多くなっています。〈②地元のお祭りやスポーツ・レクリエーション〉は、子どもの年齢が高くなるほど『参加率』が低くなる傾向がみられます。

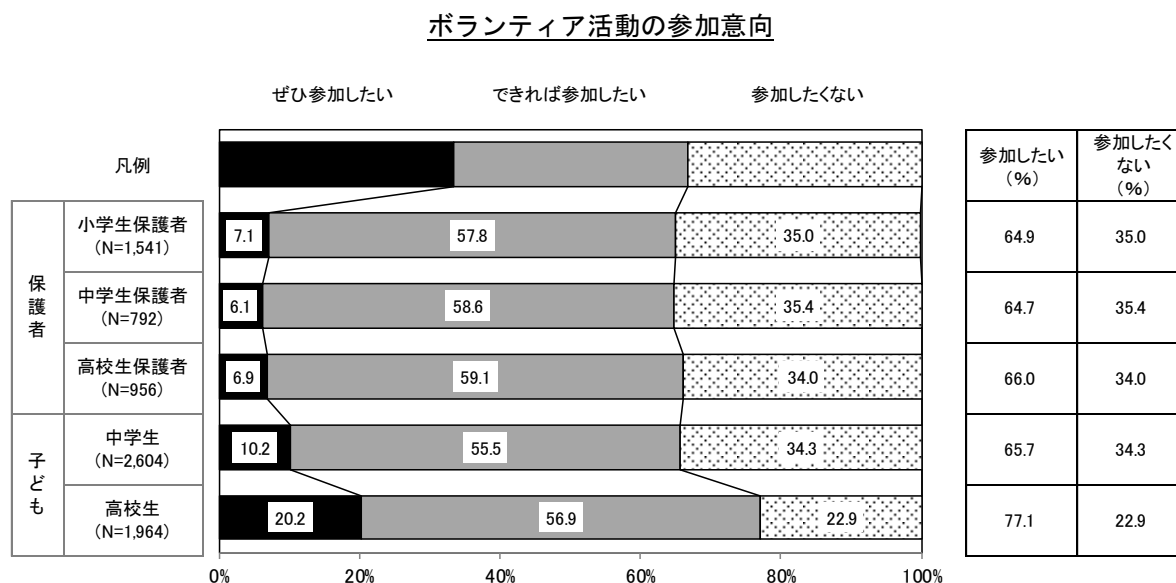
地域の共同清掃作業、スポーツ・レクリエーション、ボランティア活動の参加状況



※『参加率』は「いつも参加している」「ときどき参加している」を合わせたもの。
『非参加率』は「あまり参加していない」「参加したことはない」を合わせたもの。

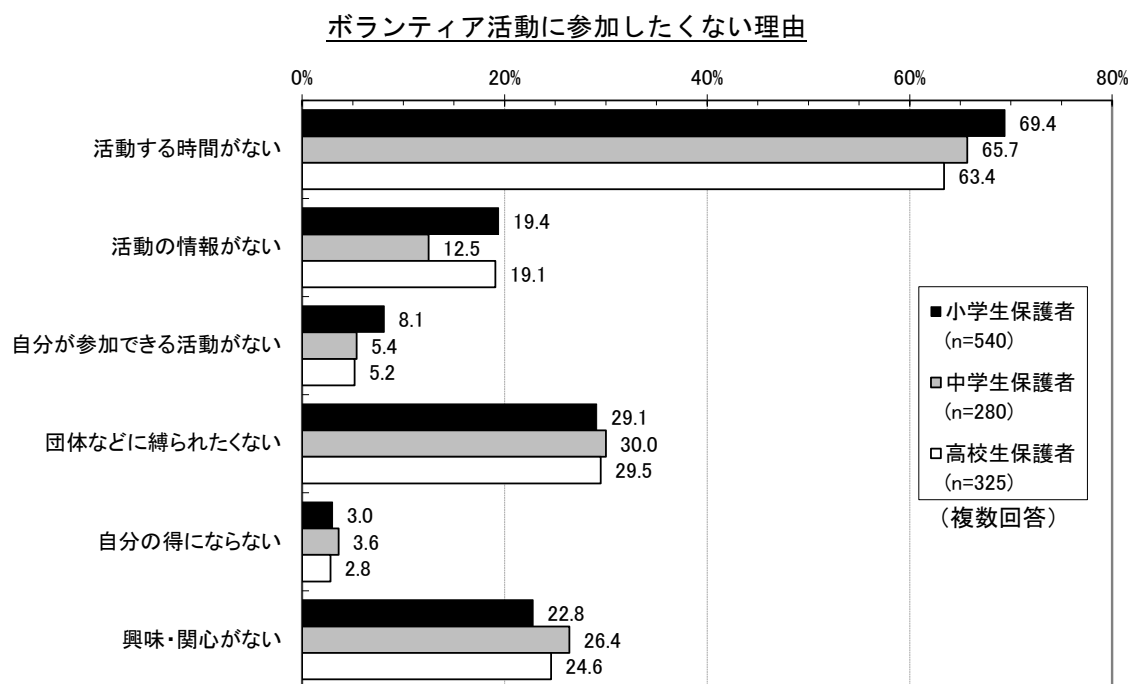
(4) ボランティア活動の参加意向

ボランティア活動の参加意向を尋ねたところ、いずれの保護者とも「できれば参加したい」が最も多く、5割台後半となっています。



(5) ボランティア活動に参加したくない理由

ボランティア活動に参加したくない保護者に、その理由を尋ねたところ、いずれの保護者とも「活動する時間がない」が最も多く、6割を超えています。

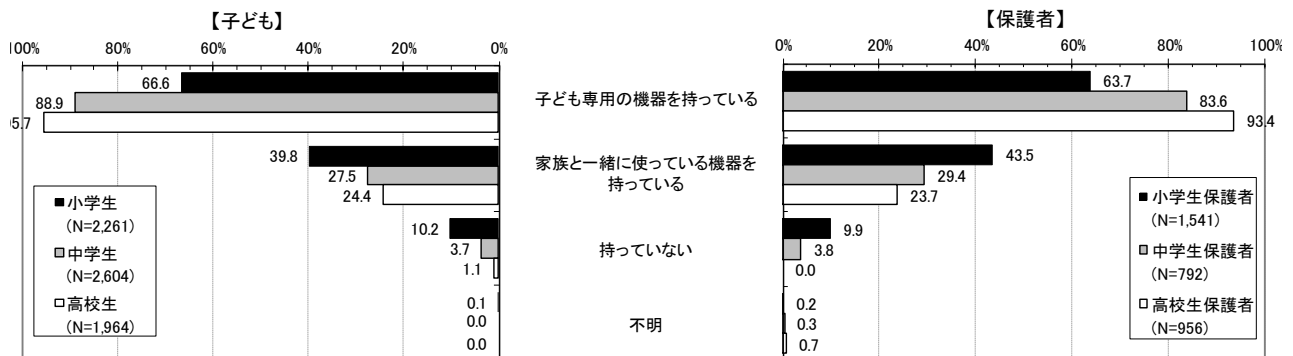


8. メディア・コミュニケーションについて

(1) 子どものインターネット利用可能機器の所有状況

子どものインターネットが利用できる機器の所有状況を尋ねたところ、いずれの保護者でも「子ども専用の機器を持っている」が最も多く、子どもと保護者の認識に大きなズレは見られません。

子どものインターネット利用可能機器の所有状況

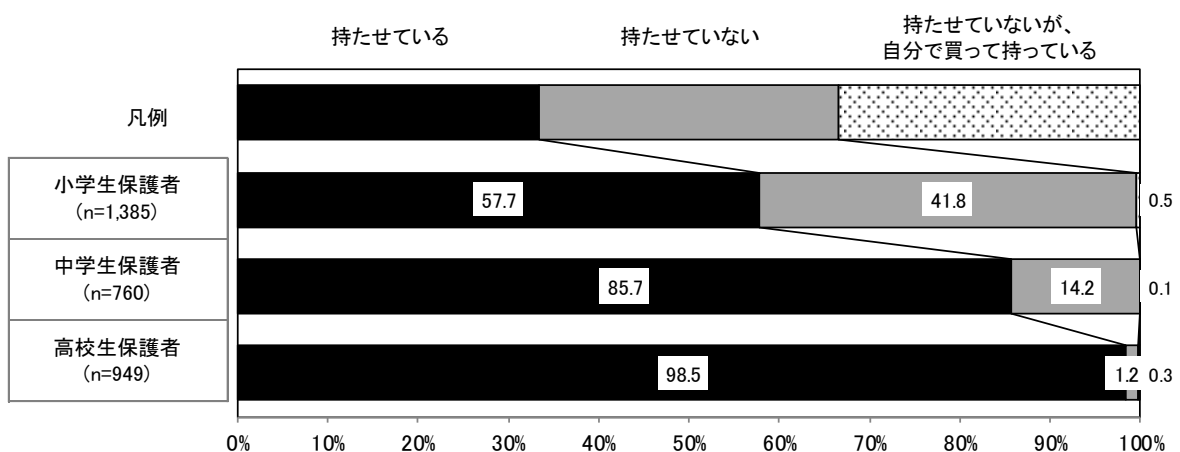


(2) 子どものスマートフォンの保有状況

子どものスマートフォンの保有状況では、中学生保護者で8割台半ば、高校生保護者ではほぼ全員がスマートフォンを保有しています。

小学生保護者の子どものスマートフォンの保有状況は5割台後半で、「持たせていない」が4割強となっています。

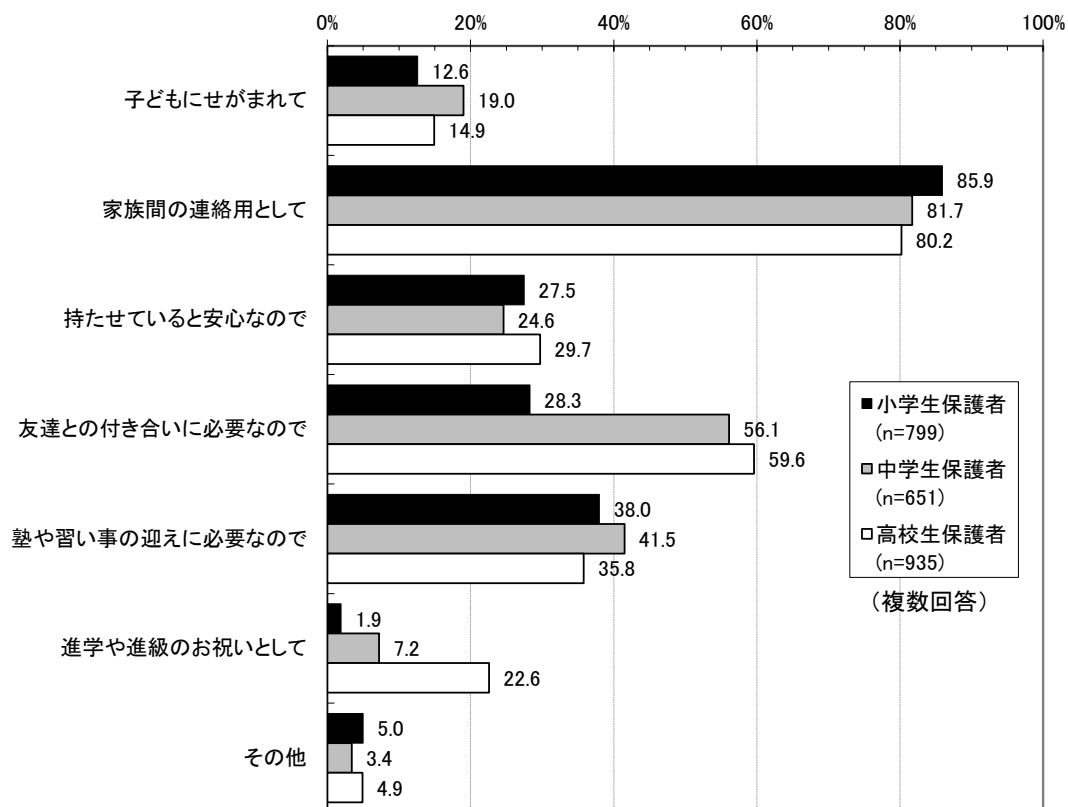
子どものスマートフォンの保有状況



(3) 子どもにスマートフォンを持たせた理由

子どもが自分専用のスマートフォンを持っていると回答した保護者に、持たせた理由を尋ねたところ、いずれの保護者とも「家族間の連絡用として」が最も多くなっています。次いで、小学生保護者では「塾や習い事の迎えに必要なので」、中学生保護者、高校生保護者では「友達との付き合いに必要なので」が多くなっています。

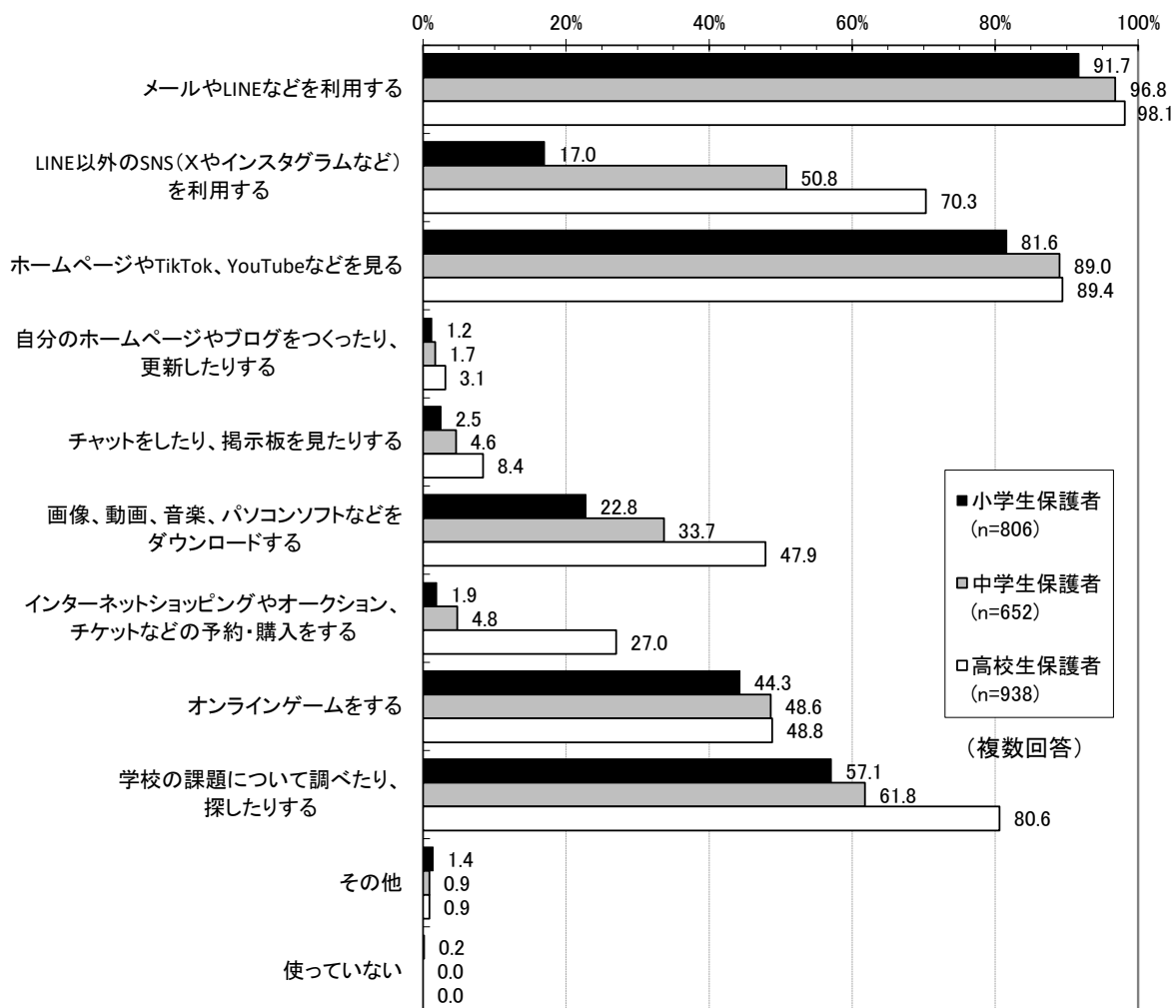
子どもにスマートフォンを持たせた理由



(4) 子どものインターネット利用状況

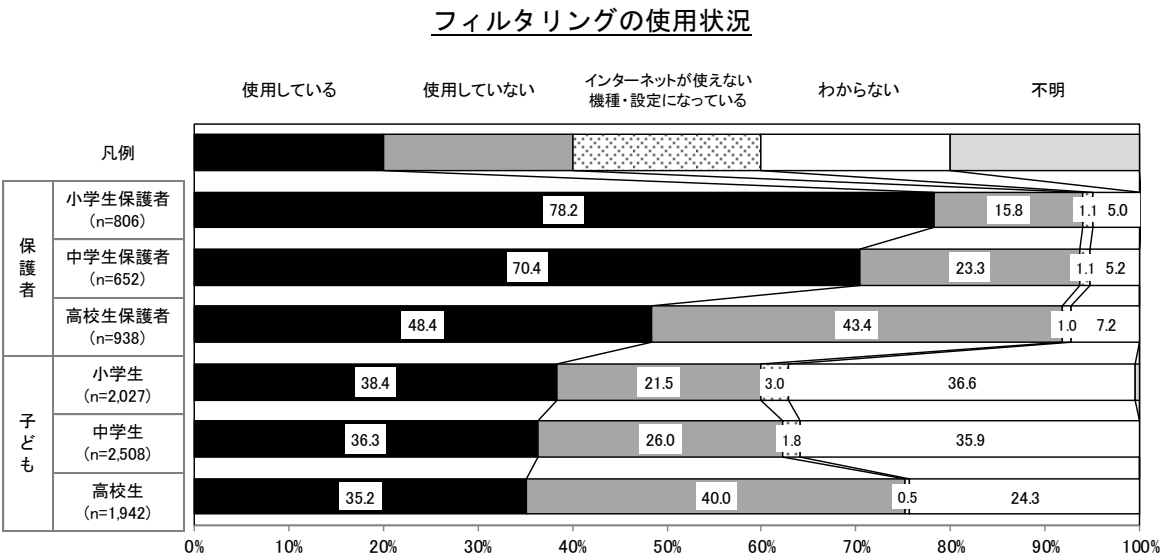
子どもがインターネットを利用できる機器を所有している保護者に、子どものインターネットの利用状況を尋ねたところ、いずれの保護者とも「メールやLINEなどを利用する」が最も多く、9割を超えています。次いで「ホームページやTikTok、YouTubeなどを見る」、「学校の課題について調べたり、探したりする」となっています。また、高校生保護者では「学校の課題について調べたり、探したりする」が8割に上っており、小学生保護者、中学生保護者に比べてかなり高くなっています。

子どものインターネット利用状況



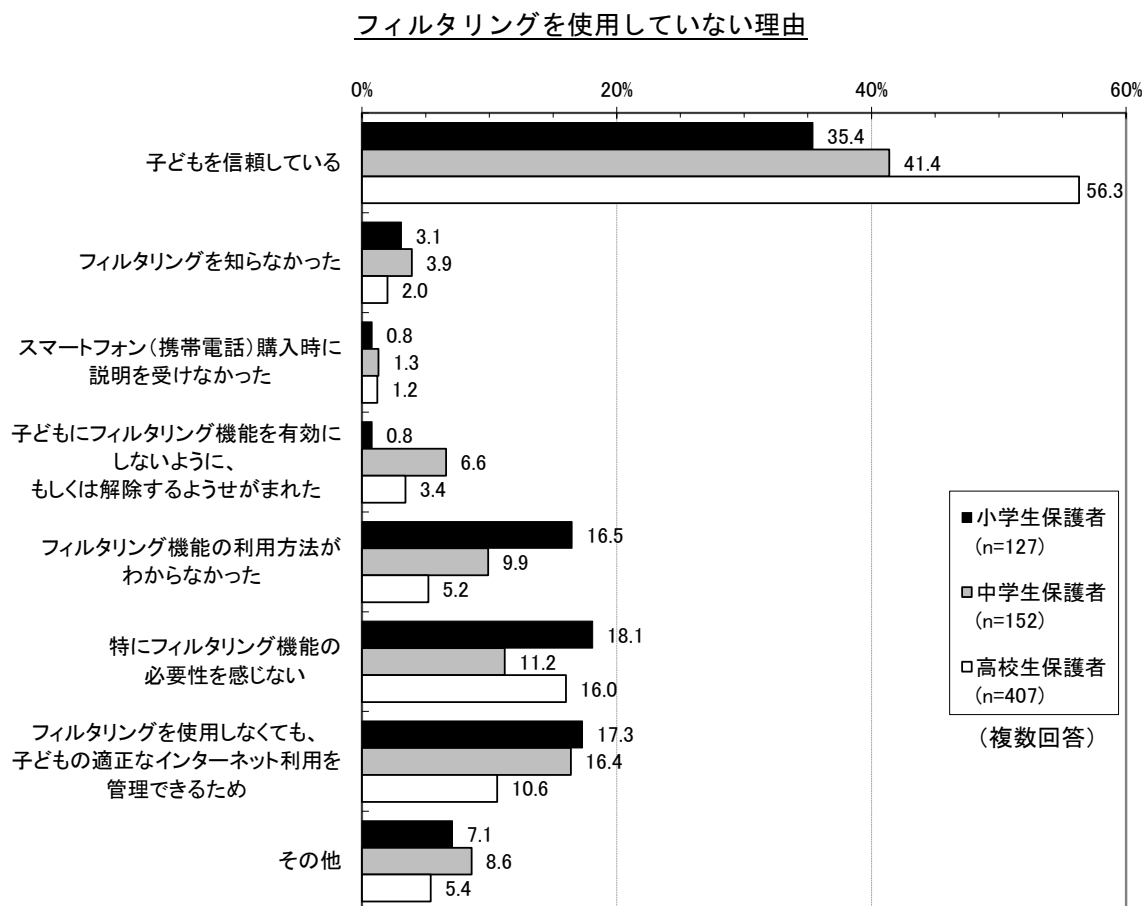
(5) フィルタリングの使用状況

子どもがインターネットを利用できる機器を所有している保護者に、フィルタリングの使用状況を尋ねたところ、いずれの保護者とも「使用している」が「使用していない」を上回っています。



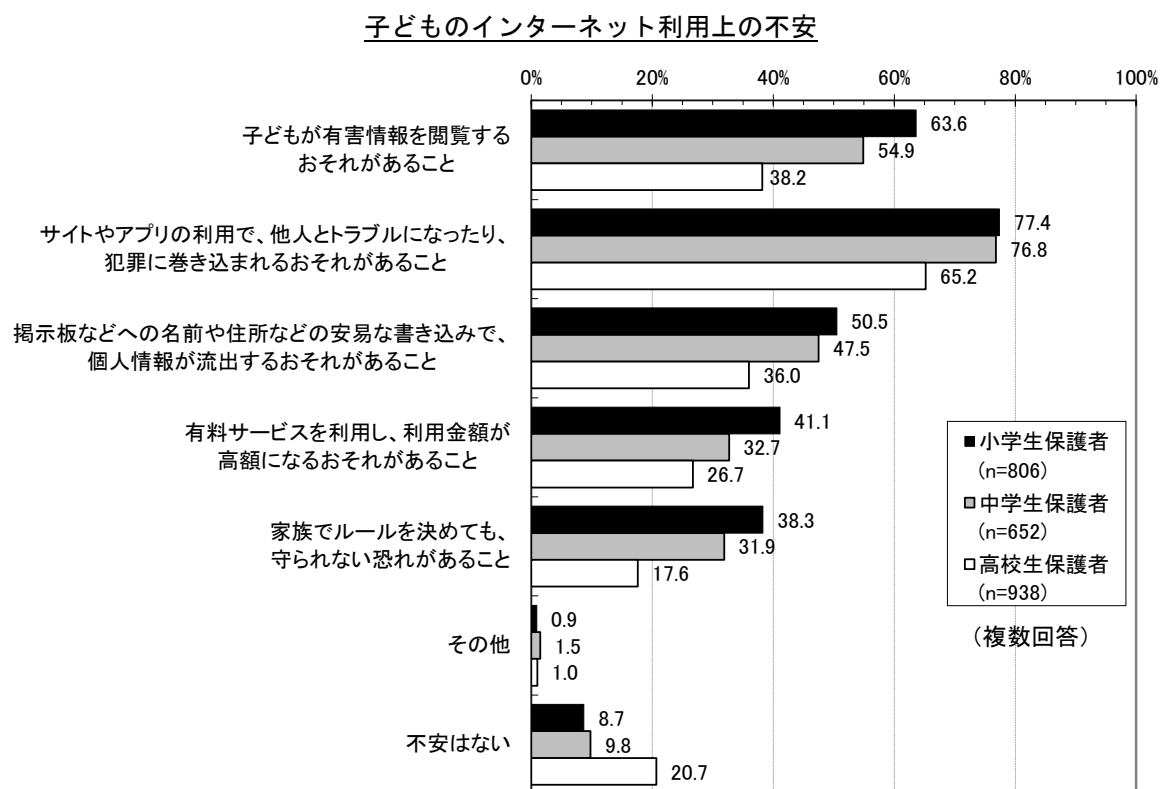
(6) フィルタリングを使用していない理由

子どもがインターネットを利用できる機器を所有している保護者に、フィルタリングを使用していない理由を尋ねたところ、いずれの保護者でも「子どもを信頼している」が最も多くなっています。「フィルタリング機能の利用方法がわからなかった」は子どもの年齢が上がるとともに低くなっています。



(7) 子どものインターネット利用上の不安

子どもがインターネットを利用できる機器を所有している保護者に、インターネット使用に関して不安を感じていることを尋ねたところ、いずれの保護者とも「サイトやアプリの利用で、他人とトラブルになったり、犯罪に巻き込まれるおそれがあること」が6割台後半～7割台後半で最も多くなっています。次いで、「子どもが有害情報を閲覧するおそれがあること」が多く、小学生保護者では6割台前半、中学生保護者で5割台半ばとなっています。また、小学生保護者はどの項目も中学生保護者、高校生保護者よりも高い割合となっており、「不安はない」は小学生保護者、中学生保護者では1割未満、高校生保護者では約2割となっています。

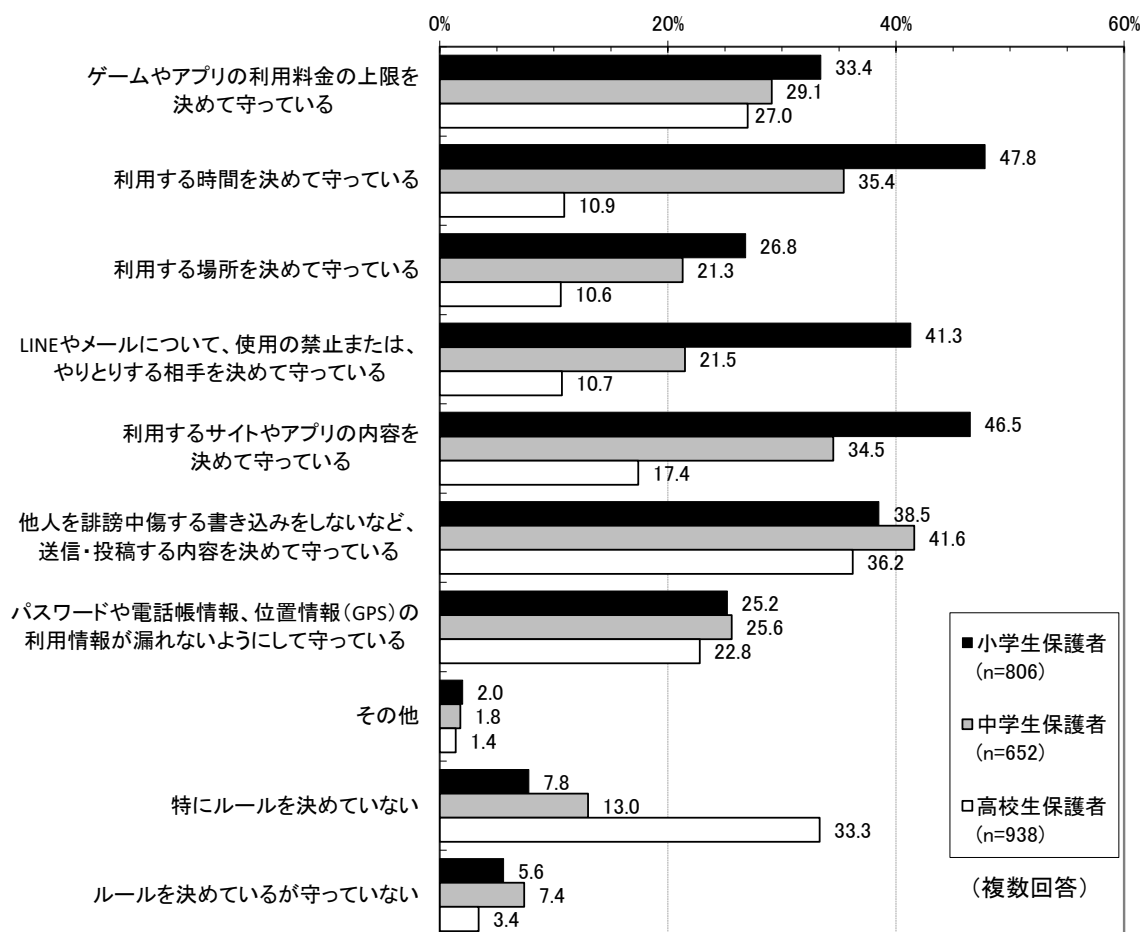


(8) インターネット利用上の家庭のルール

子どもがインターネットを利用できる機器を所有している保護者に、インターネット利用上の家庭のルールのうち、実際に守っているルールを尋ねたところ、小学生保護者は「利用する時間を決めて守っている」、中学生保護者、高校生保護者では「他人を誹謗中傷する書き込みをしないなど、送信・投稿する内容を決めて守っている」が最も多くなっています。

一方、「特にルールを決めていない」は年齢が上がるほど多くなり、高校生保護者では3割台前半となっています。

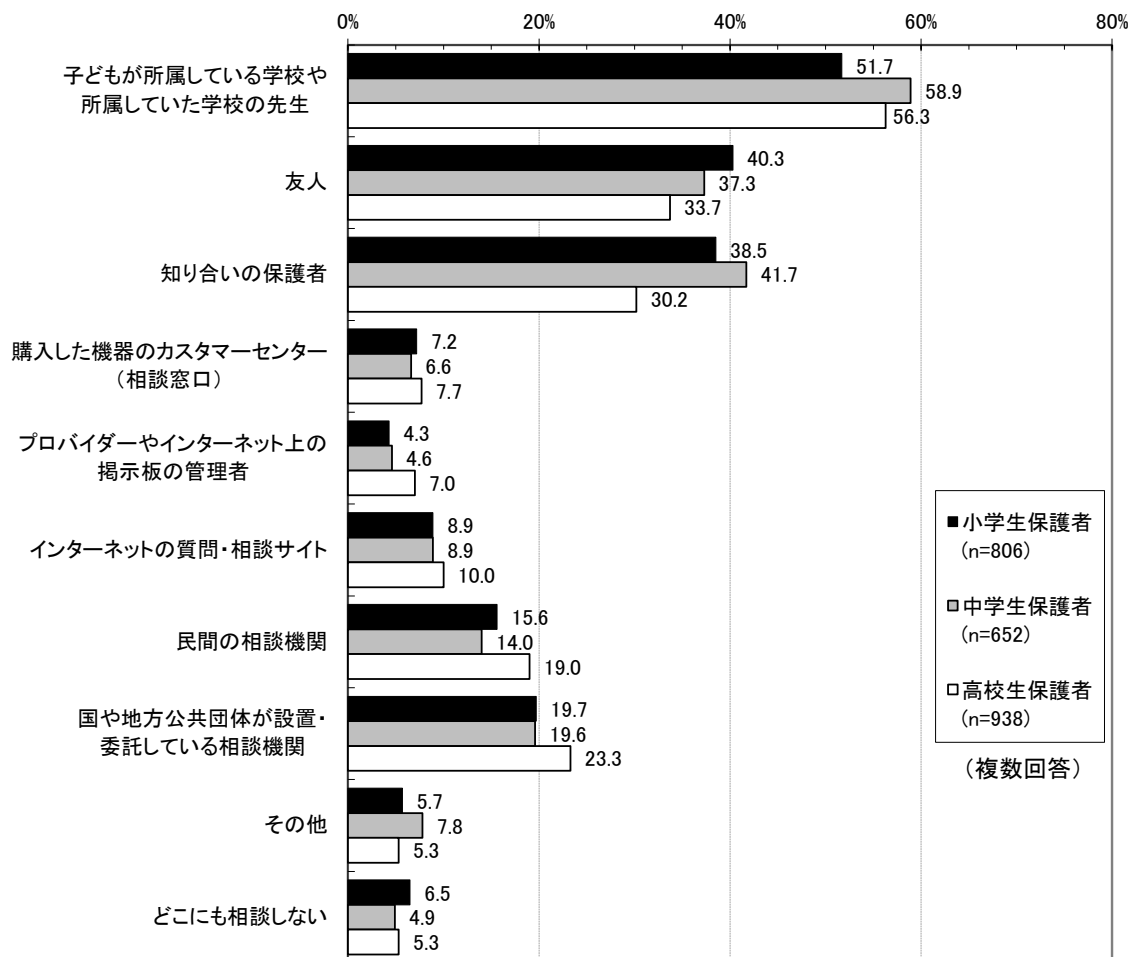
インターネット利用上の家庭のルール



(9) 子どものインターネット利用についての相談先

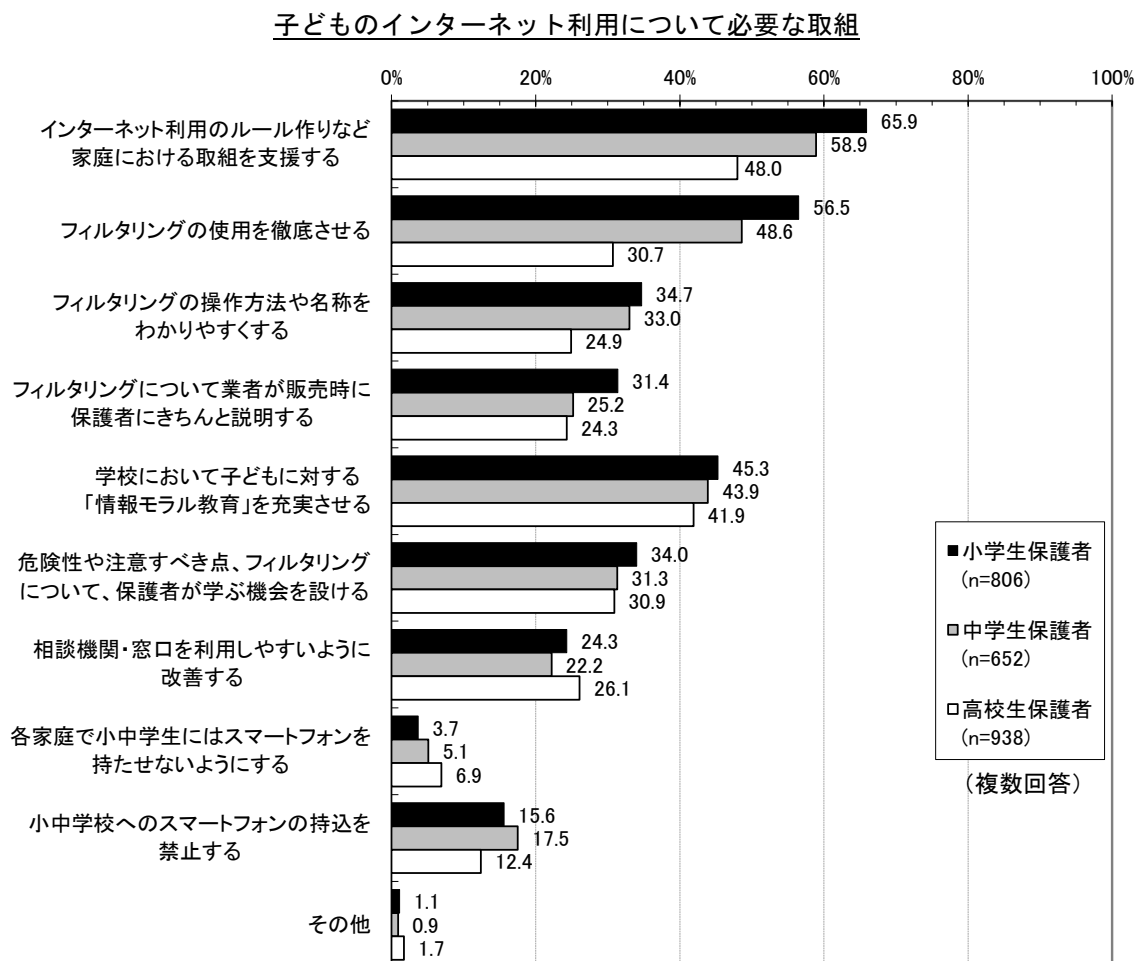
子どもがインターネットを利用できる機器を所有している保護者に、インターネットを利用して、嫌がらせやトラブルなど困ったことがあった際の相談先を尋ねたところ、いずれの保護者とも「子どもが所属している学校や所属していた学校の先生」が最も多くなっています。次いで、「友人」、「知り合いの保護者」が多くなっています。

子どものインターネット利用についての相談先



(10) 子どものインターネット利用について必要な取組

子どもがインターネットを利用できる機器を所有している保護者に、子どものインターネット利用について必要な取組を尋ねたところ、いずれの保護者とも「インターネット利用のルール作りなど、家庭における取組を支援する」が最も多く、次いで小学生保護者、中学生保護者では「フィルタリングの使用を徹底させる」、高校生保護者では「学校において子どもに対する「情報モラル教育」を充実させる」となっています。

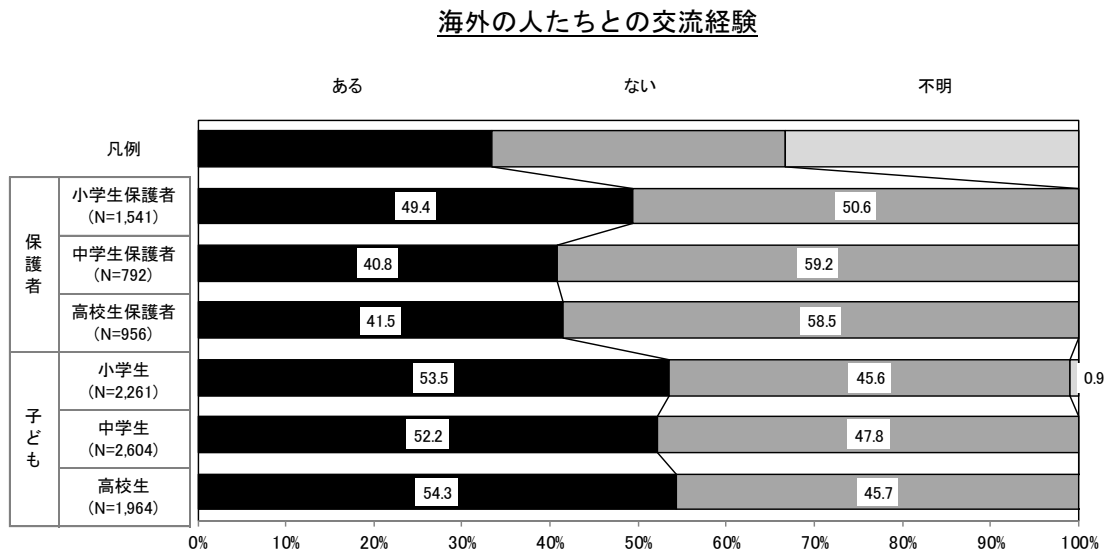


9. 国際化について

(1) 海外の人たちとの交流経験

海外の人たちとの交流経験を尋ねたところ、小学生保護者は「ある」と「ない」がほぼ5割で拮抗しています。中学生保護者、高校生保護者で「ある」は4割前後です。

子どもの結果と比べると、保護者の方が子どもに比べ「ある」の割合が低くなっています。



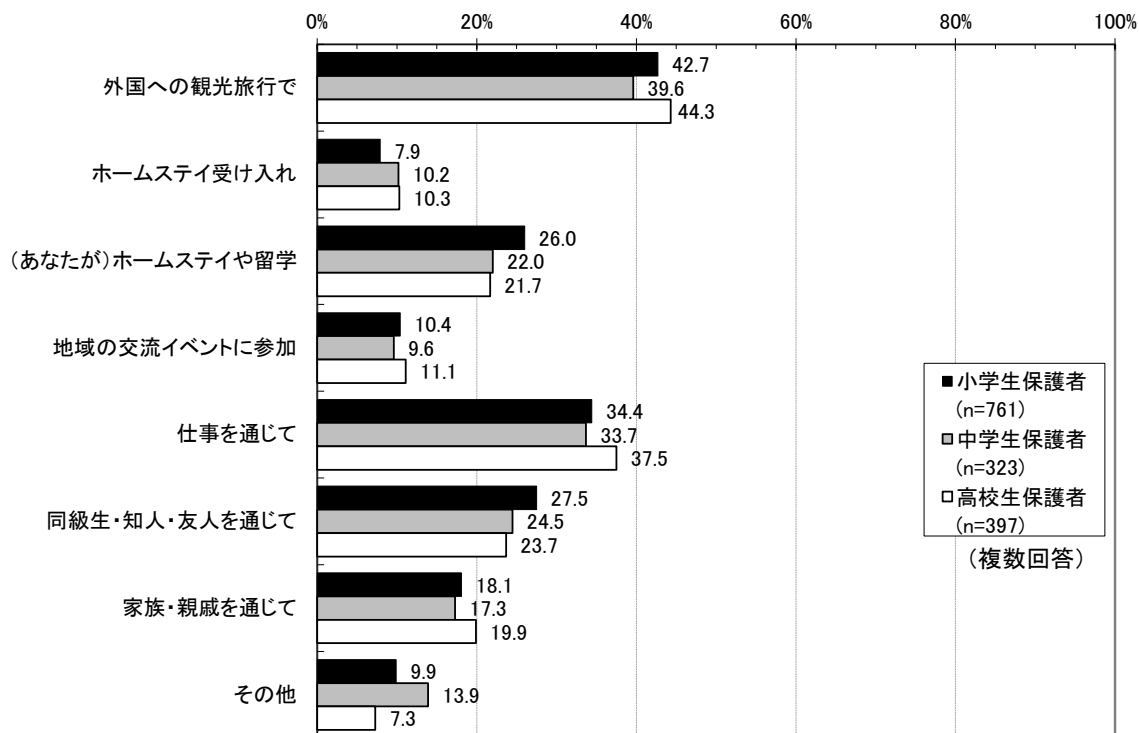
(2) 海外の人たちとの交流機会

海外の人たちとの交流経験がある人に、その交流機会を尋ねたところ、いずれの保護者とも「外国への観光旅行で」が最も多くなっています。

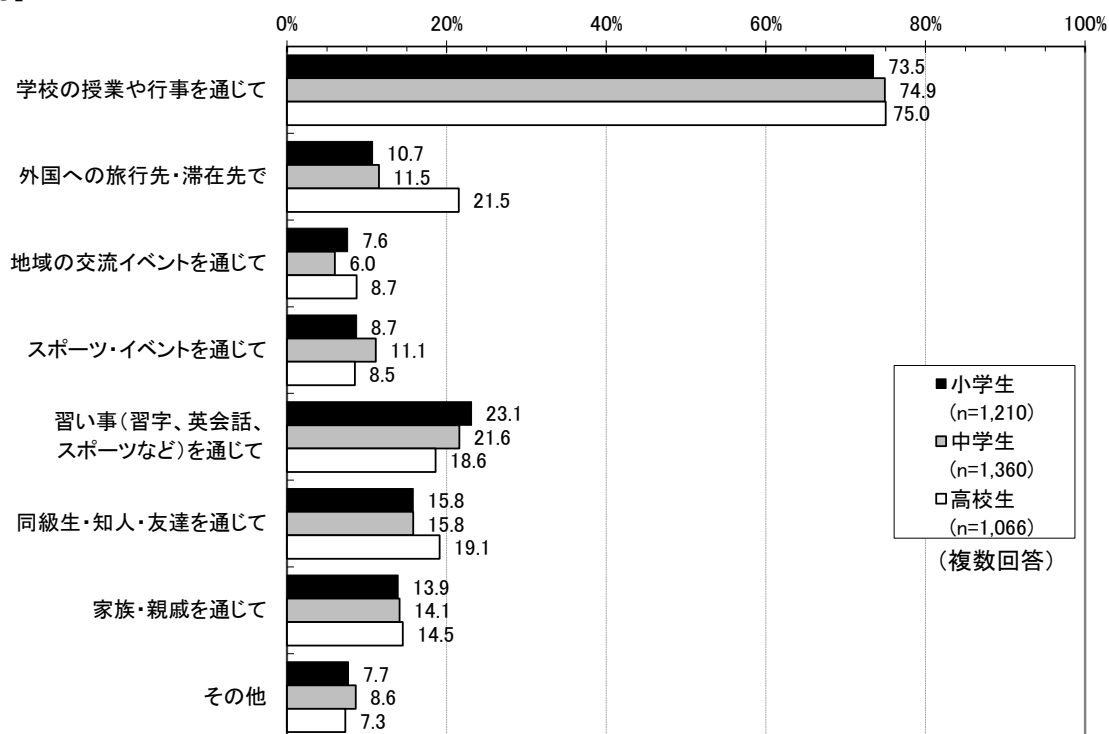
子どもの結果と比べると、子どもと保護者の設問の選択肢は異なりますが、子どもは、小・中・高校生すべてで「学校の授業や行事を通じて」が最も多くなっています。

海外の人たちとの交流機会

【保護者】



【子ども】



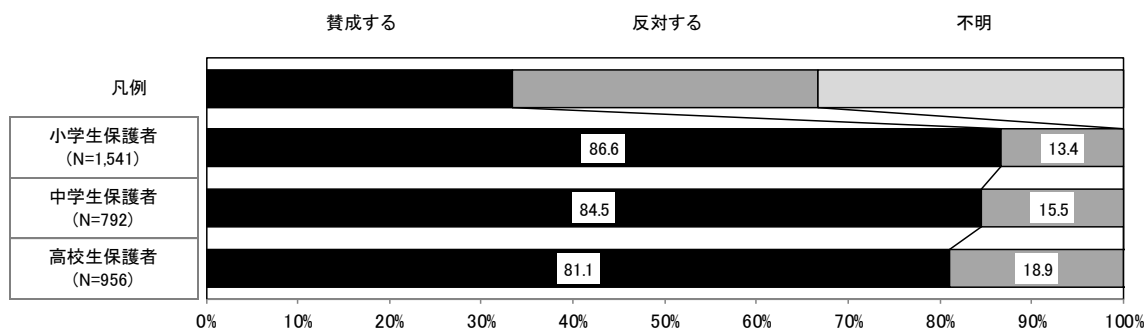
(3) 子どもが海外留学や海外で仕事をする事への賛否

子どもが海外留学や海外で仕事をする事への賛否を尋ねたところ、いずれの保護者とも「賛成する」が8割を超えています。

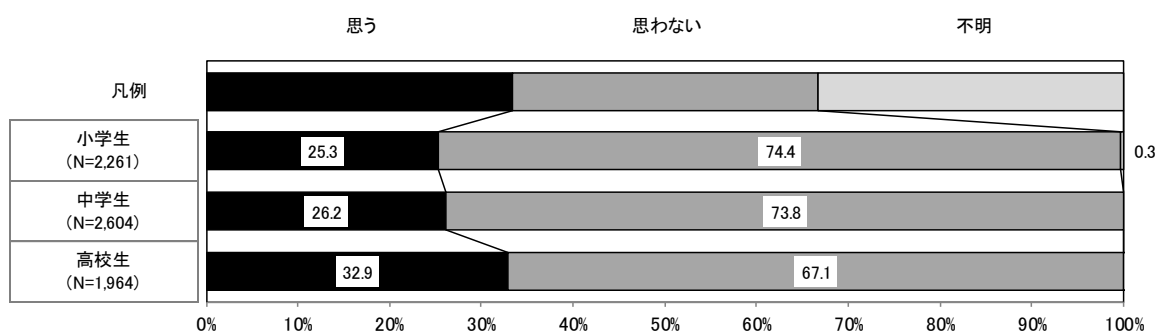
子どもの結果と比べると、子どもの設問は意向を尋ねるものであったため、一概には言えませんが、子どもは海外留学や仕事をしたいと思うかについて、「思わない」が、6割台後半～7割台半ばを占めています。

子どもが海外留学や海外で仕事をする事への賛否

【保護者】



【子ども】



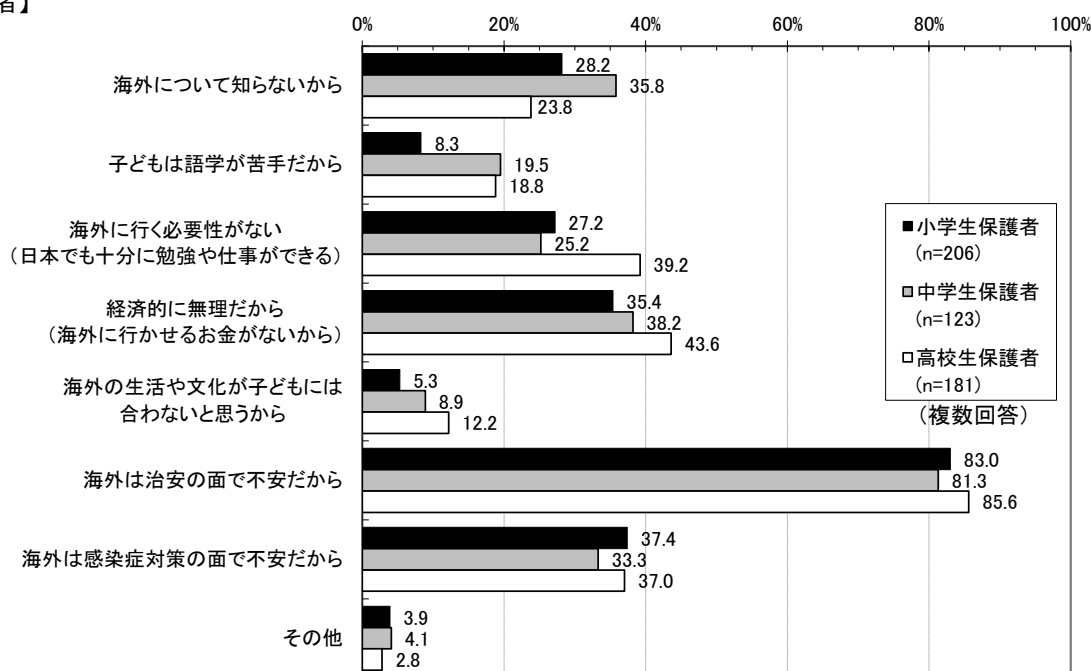
(4) 子どもに海外留学や海外で仕事をしてほしくない理由

子どもが海外留学や海外で仕事をしてほしくない保護者に、その理由を尋ねたところ、いずれの保護者とも「海外は治安の面で不安だから」が8割を超え、最も多くなっています。次いで、小学生保護者で「海外は感染症対策の面で不安だから」、中学生保護者、高校生保護者で「経済的に無理だから（海外に行かせるお金がないから）」が多くなっており、高校生保護者では「経済的に無理だから（海外に行かせるお金がないから）」が4割台前半となっています。また、「子どもは語学が苦手だから」は小学生保護者と比べて中学生保護者、高校生保護者で多くなっています。

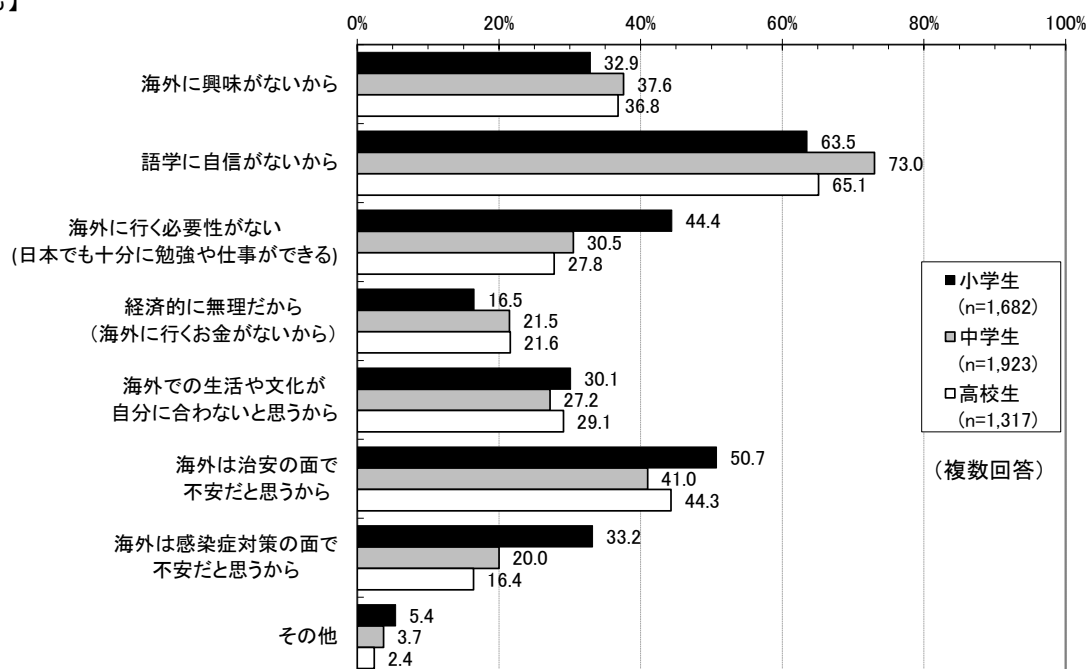
子どもの結果と比べると、子どもと保護者の設問の選択肢は異なりますが、子どもは「語学に自信がないから」が小・中・高校生すべてで最も多くなっています。

子どもに海外留学や海外で仕事をしてほしくない理由

【保護者】



【子ども】

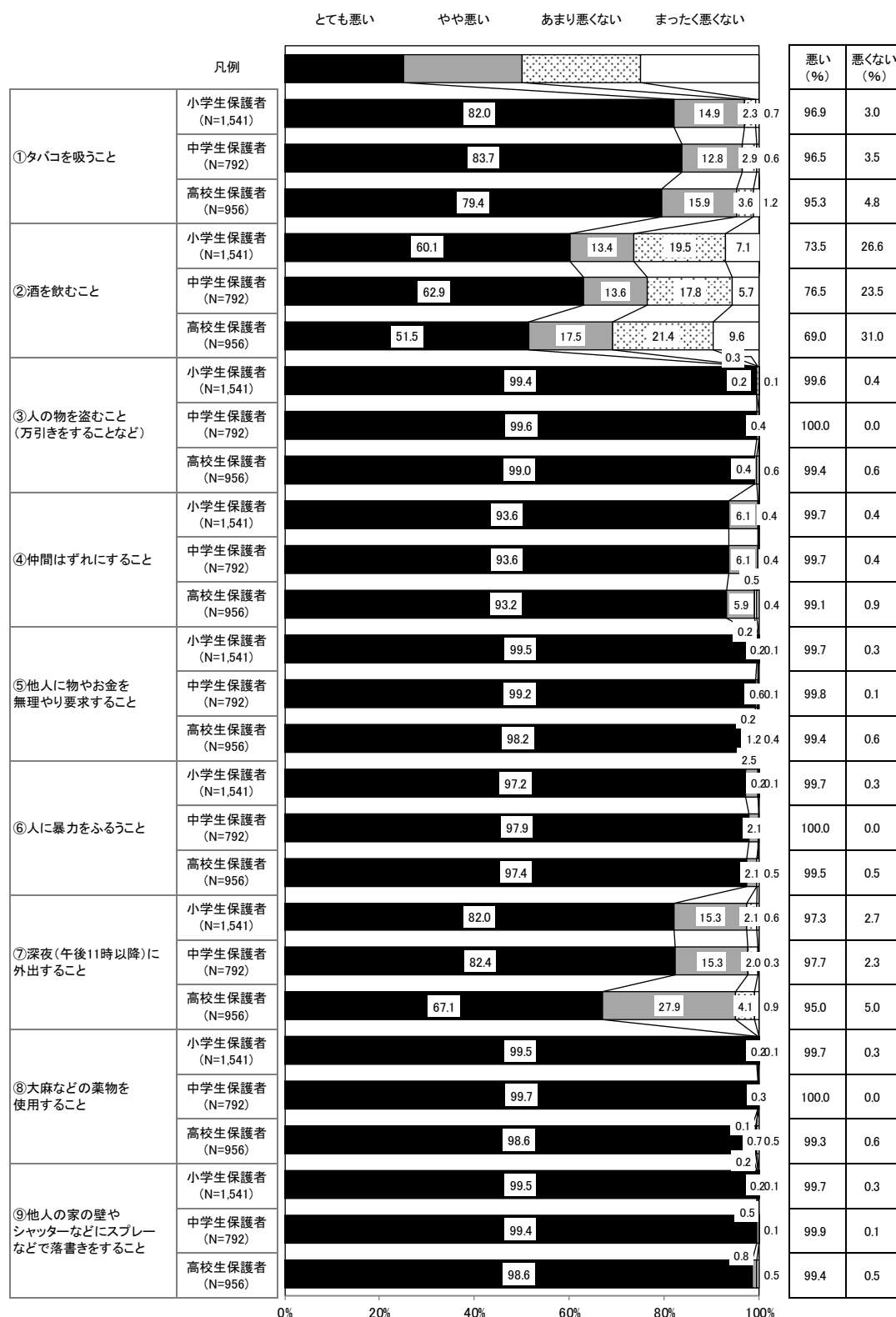


10. 規範意識について

(1) 小・中・高校生の行為に対する規範意識

小・中・高校生の行為に対する規範意識について尋ねたところ、ほぼすべての行為で「とても悪い」と「やや悪い」を合算した『悪い』は9割以上を占めていますが、〈②酒を飲むこと〉では、すべての保護者で『悪くない』が2割台半ば～3割ほどみられます。

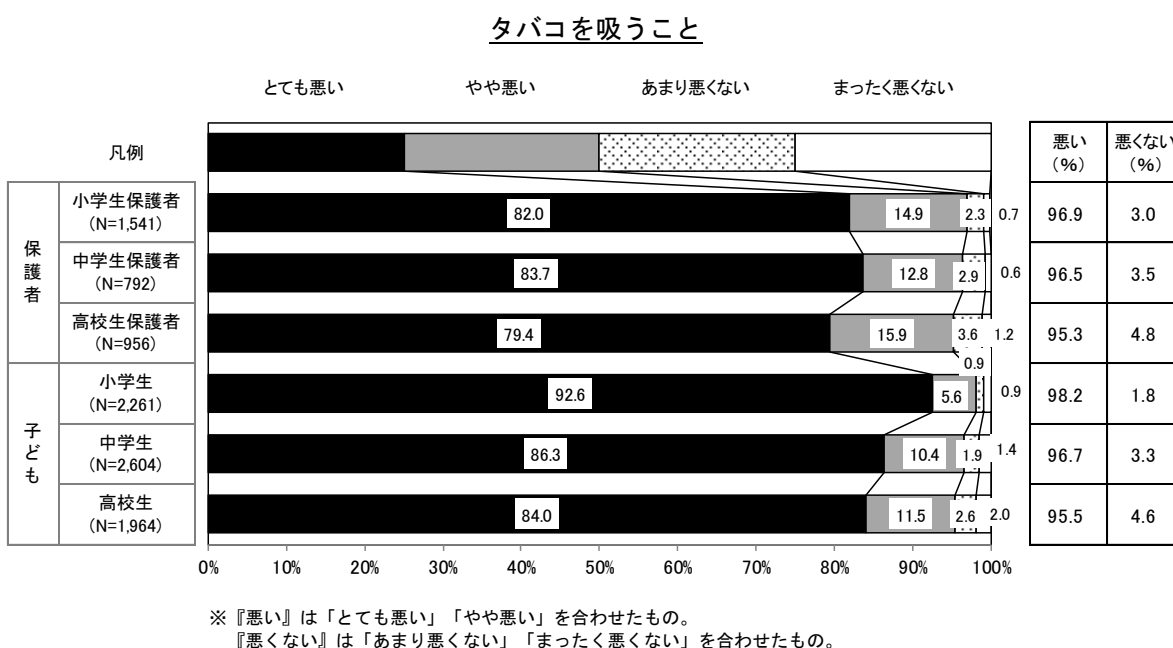
小・中・高校生の行為に対する規範意識



①（タバコを吸うこと）

〈タバコを吸うこと〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも「とても悪い」が約8割～8割台前半、『悪い』は9割台後半となっています。

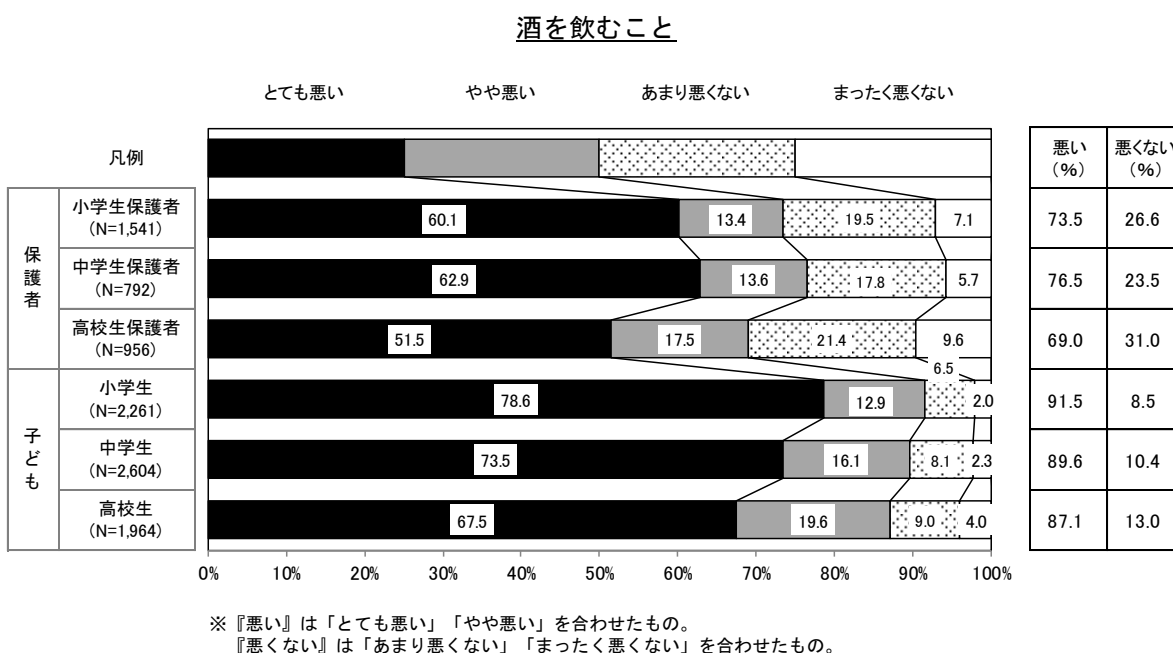
子どもの結果と比べると、ほぼ同様の傾向を示しています。



②（酒を飲むこと）

〈酒を飲むこと〉をどう思うか尋ねたところ「とても悪い」は、小学生保護者、中学生保護者で6割前後、高校生保護者で5割強となっており、中学生保護者は高校生保護者に比べて『悪い』が多くなっています。

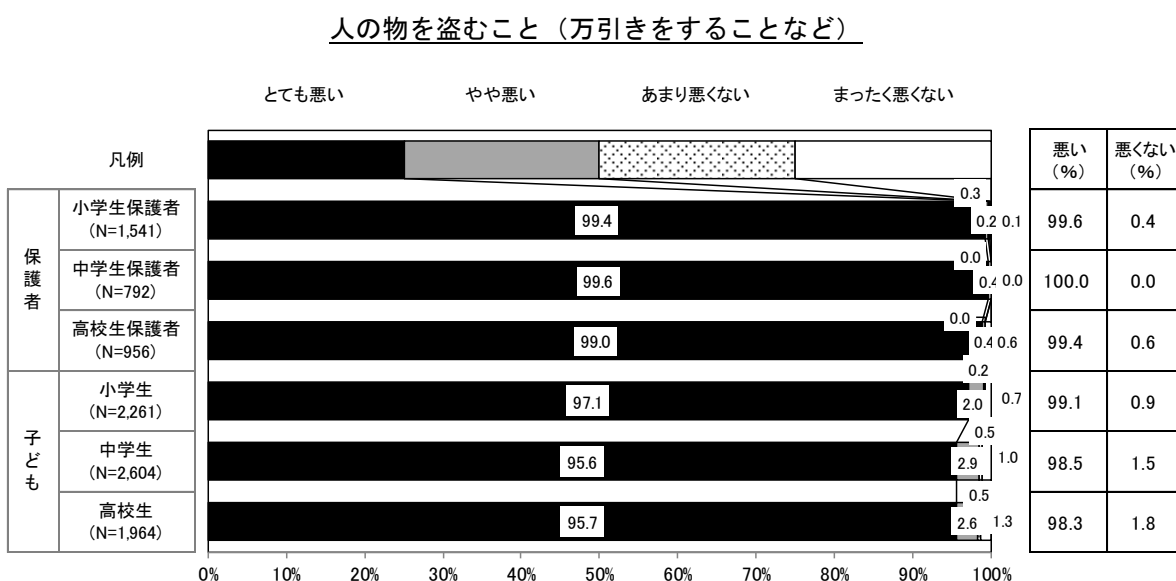
子どもの結果と比べると、保護者の方が「とても悪い」がかなり少なくなっています。



③人の物を盗むこと（万引きをすることなど）

〈人の物を盗むこと（万引きをすることなど）〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも『悪い』がほとんどを占めています。

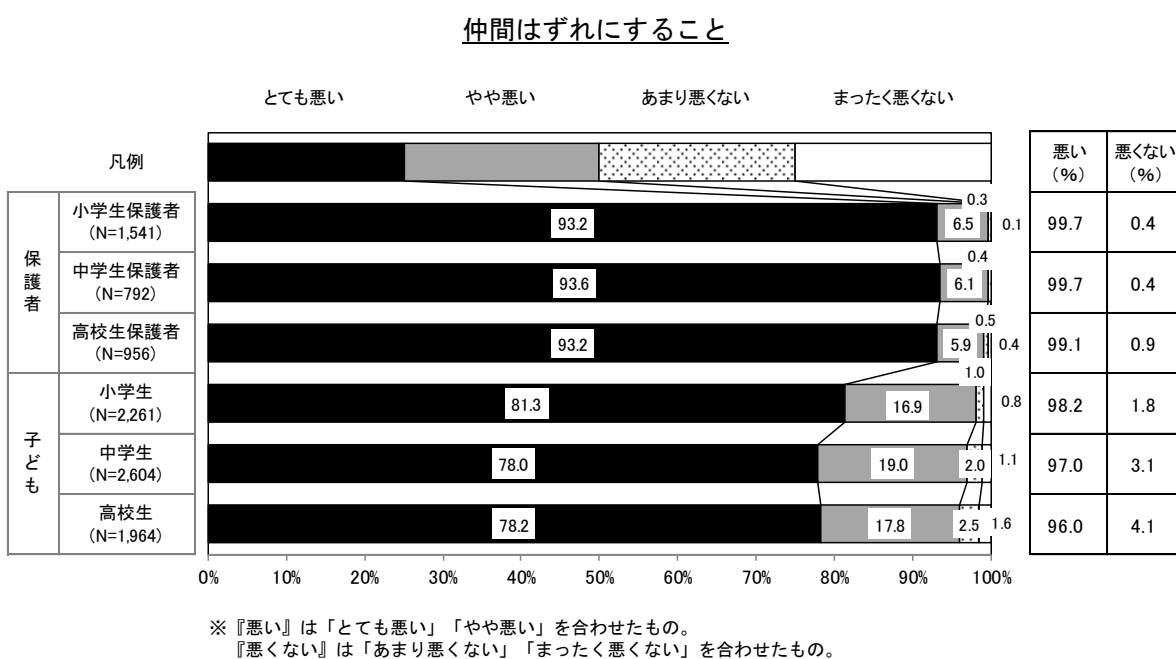
子どもの結果と比べると、ほぼ同様の傾向を示しています。



④仲間はずれにすること

〈仲間はずれにすること〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも『悪い』がほとんどを占めています。

子どもの結果と比べると、保護者の方が「とても悪い」がやや多くなっています。

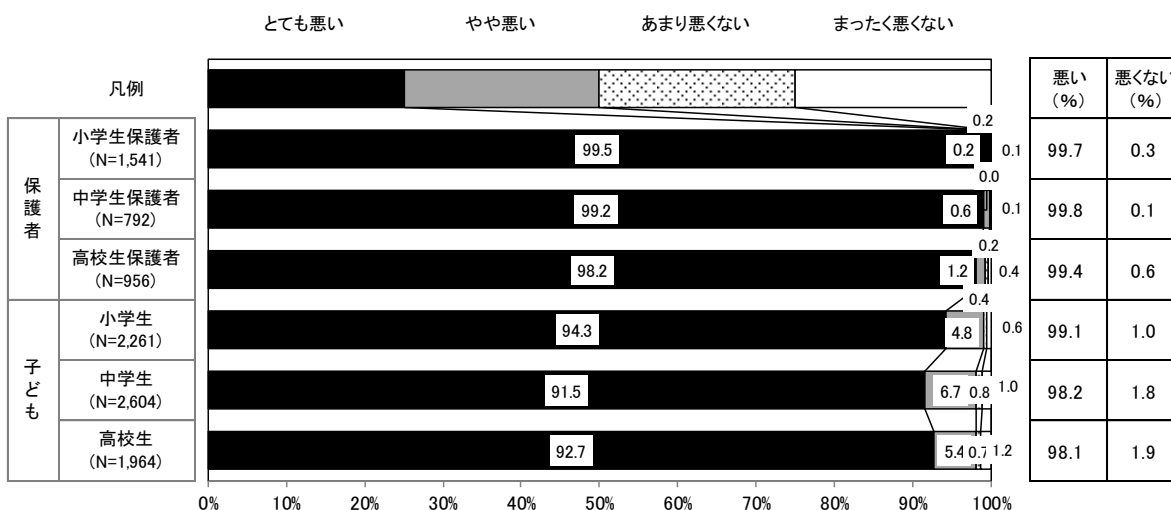


⑤他人に物やお金を無理やり要求すること

〈他人に物やお金を無理やり要求すること〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも『悪い』がほとんどを占めています。

子どもの結果と比べても大きな違いはありません。

他人に物やお金を無理やり要求すること



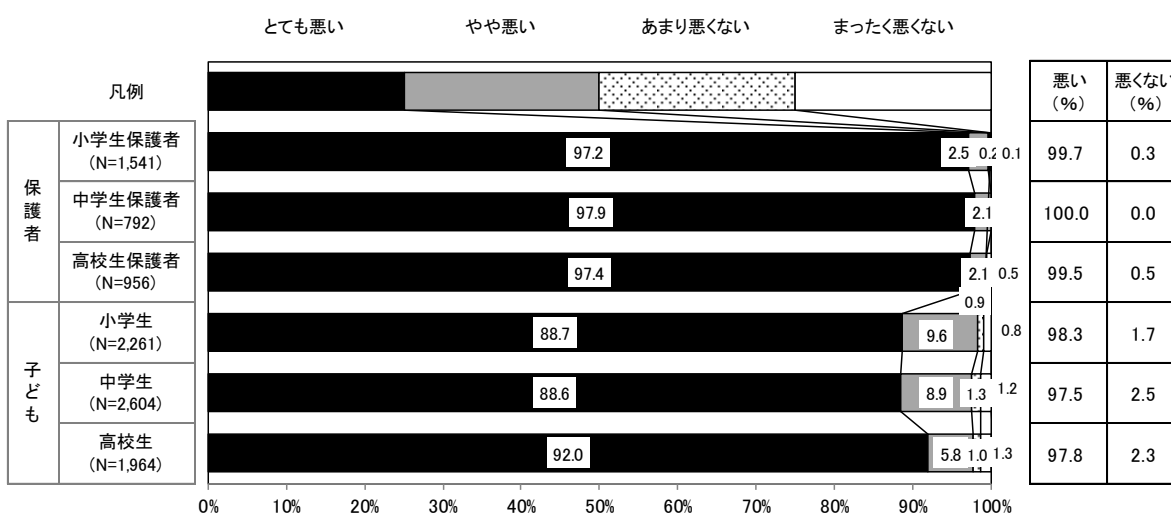
※『悪い』は「とても悪い」「やや悪い」を合わせたもの。
『悪くない』は「あまり悪くない」「まったく悪くない」を合わせたもの。

⑥人に暴力をふるうこと

〈人に暴力をふるうこと〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも『悪い』がほとんどを占めています。

子どもの結果と比べると、保護者の方が「とても悪い」が多くなっています。

人に暴力をふるうこと



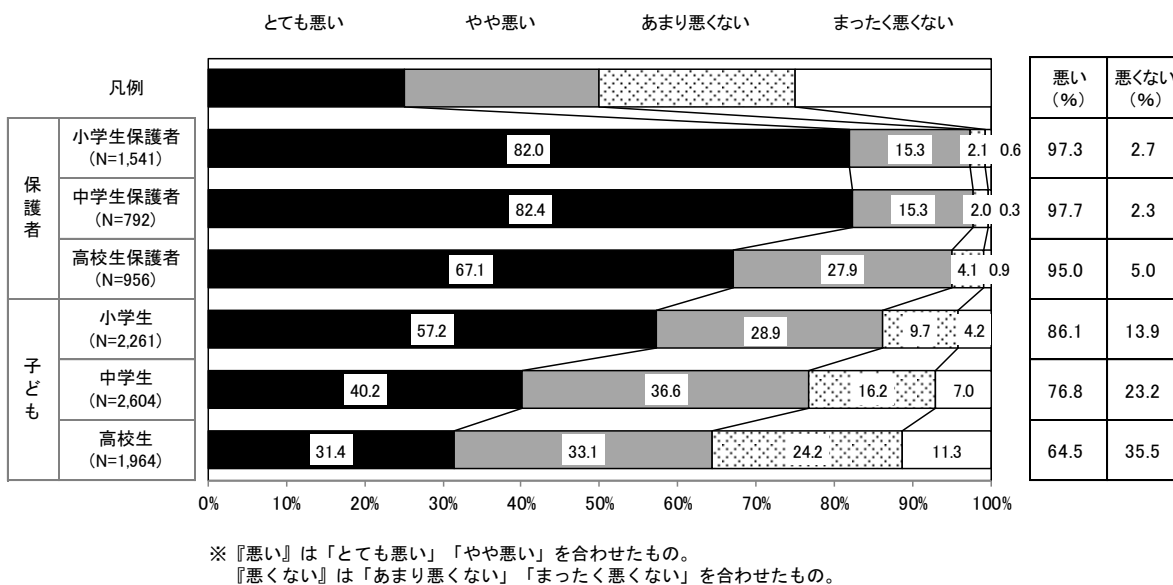
※『悪い』は「とても悪い」「やや悪い」を合わせたもの。
『悪くない』は「あまり悪くない」「まったく悪くない」を合わせたもの。

⑦深夜（午後 11 時以降）に外出すること

〈深夜（午後 11 時以降）に外出すること〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも『悪い』が 9 割台後半を占めています。

子どもの結果と比べると、小・中・高校生すべてで保護者の方が『悪い』が大幅に多くなっています。

深夜（午後 11 時以降）に外出すること

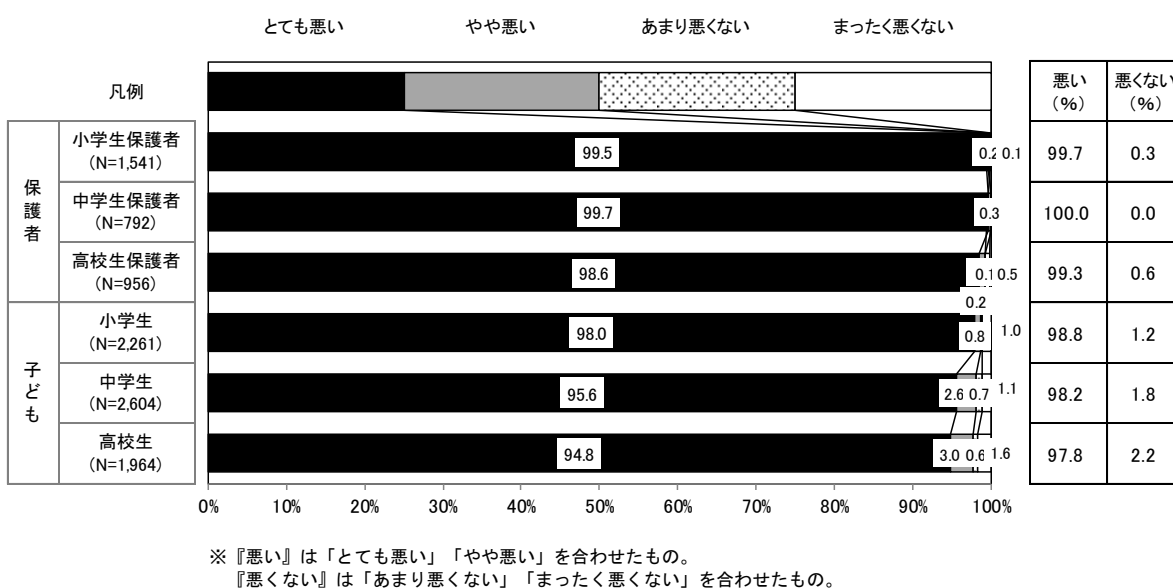


⑧大麻などの薬物を使用すること

〈大麻などの薬物を使用すること〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも『悪い』がほとんどを占めています。

子どもの結果と比べても大きな違いはありません。

大麻などの薬物を使用すること

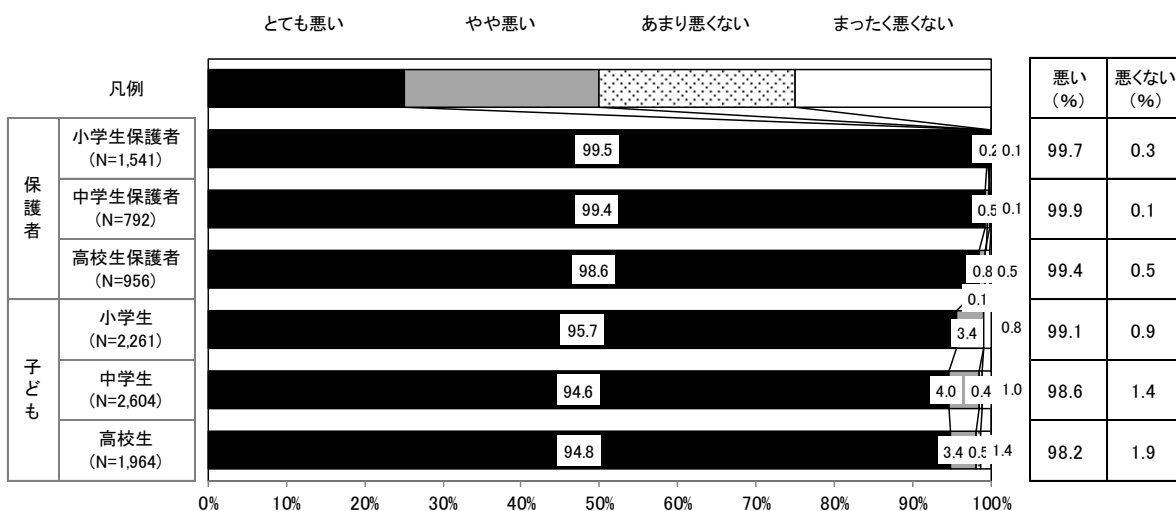


⑨他人の家の壁やシャッターなどにスプレーなどで落書きをすること

〈他人の家の壁やシャッターなどにスプレーなどで落書きをすること〉をどう思うか尋ねたところ、いずれの保護者とも『悪い』がほとんどを占めています。

子どもの結果と比べても大きな違いはありません。

他人の家の壁やシャッターなどにスプレーなどで落書きをすること

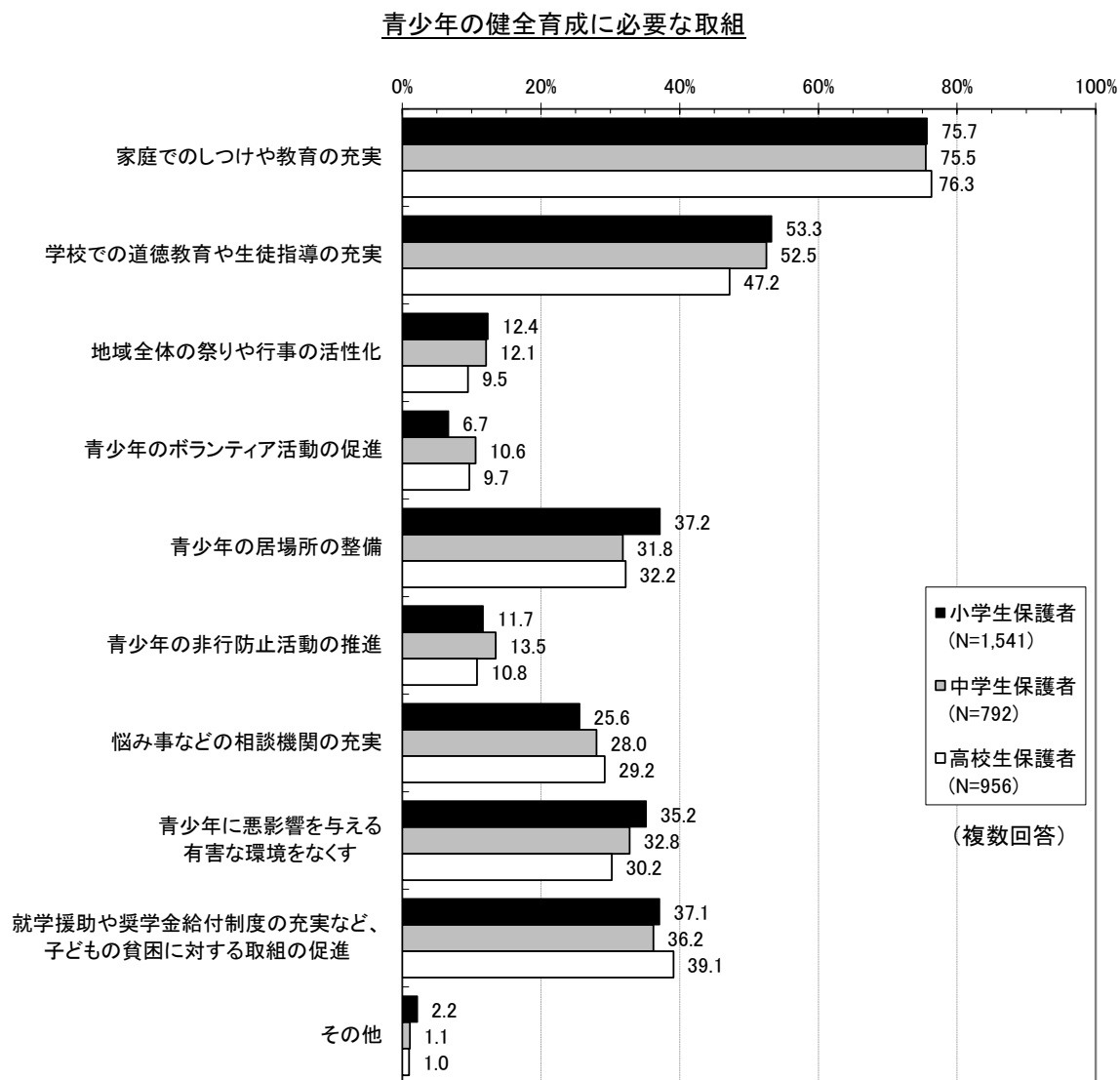


※『悪い』は「とても悪い」「やや悪い」を合わせたもの。
『悪くない』は「あまり悪くない」「まったく悪くない」を合わせたもの。

1 1. 青少年の健全育成について

(1) 青少年の健全育成に必要な取組

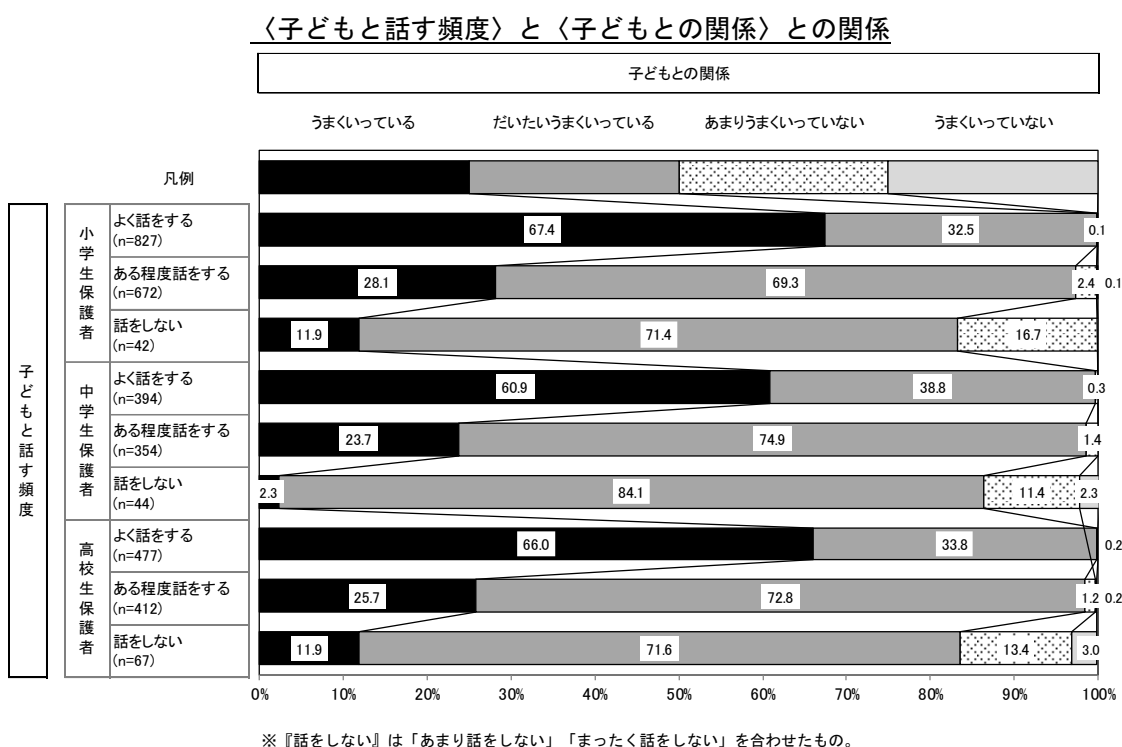
青少年の健全育成に必要な取組を尋ねたところ、いずれの保護者とも「家庭でのしつけや教育の充実」が最も多くなっています。次いで「学校での道徳教育や生徒指導の充実」、「就学援助や奨学金給付制度の充実など、子どもの貧困に対する取組の促進」となっています。



1 2. 〈子どもと話す頻度〉と他項目との関係

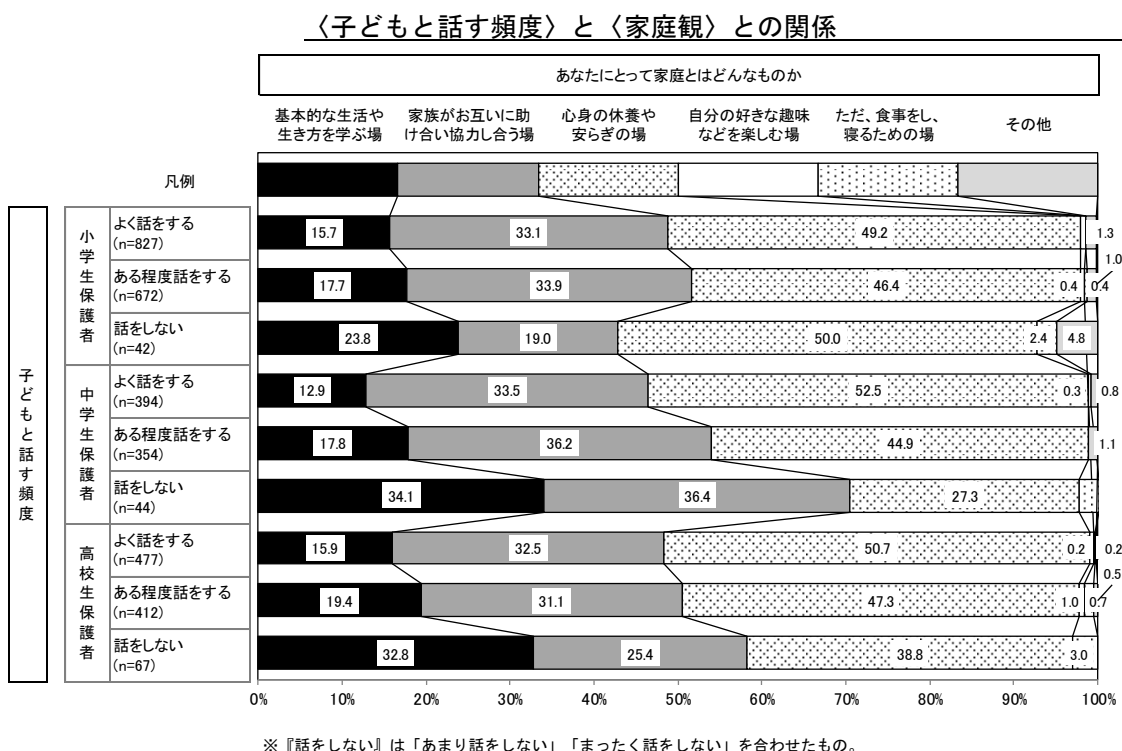
(1) 〈子どもとの関係〉との関係

いずれの保護者でも子どもとよく話をする人ほど、子どもとの関係がうまくいっていると考えている傾向がみられ、強い相関関係がみられます。



(2) 〈家庭観〉との関係

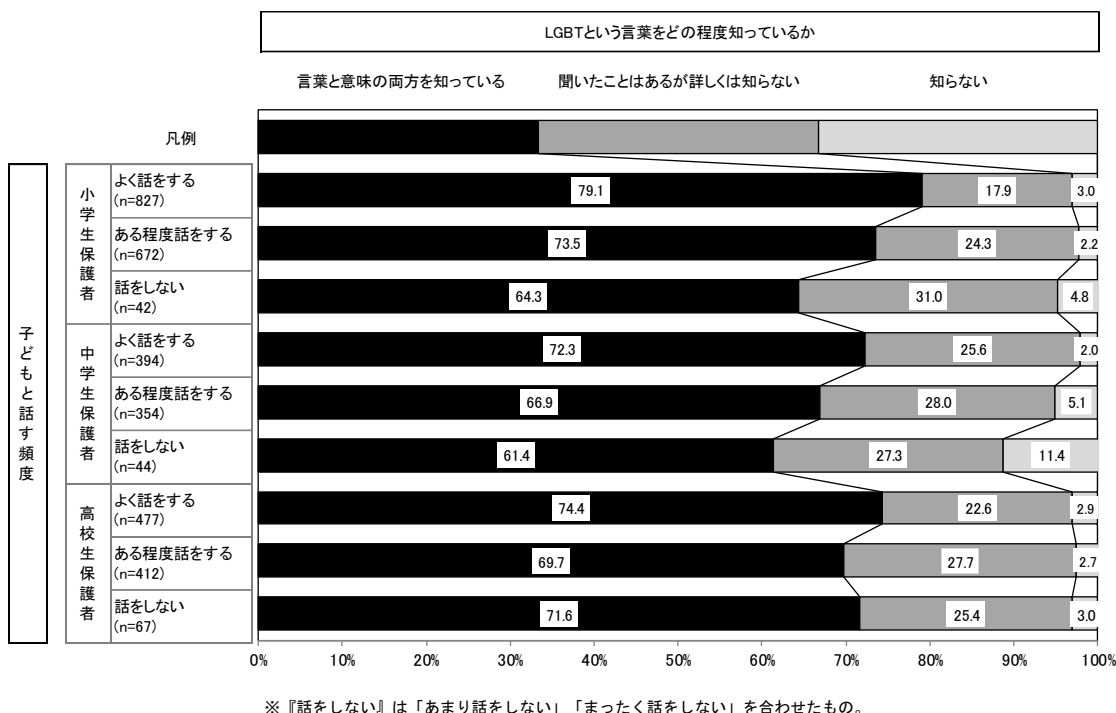
いずれの保護者でも子どもとよく話をする人ほど、家庭を「家族がお互いに助け合い協力し合う場」と捉えている傾向がみられます。子どもとの会話頻度と家庭観には、中学生保護者で強い相関関係が、小学生、高校生の保護者で一定の相関関係がみられます。



(3) 〈LGBT（性的少数者を表す総称の一つ）の認知状況〉との関係

小学生保護者、中学生保護者は、子どもとよく話をする人で、LGBTについて「言葉と意味の両方を知っている」と回答した割合が高い傾向がみられ、一定の相関関係がみられます。高校生保護者では明確な相関はみられません。

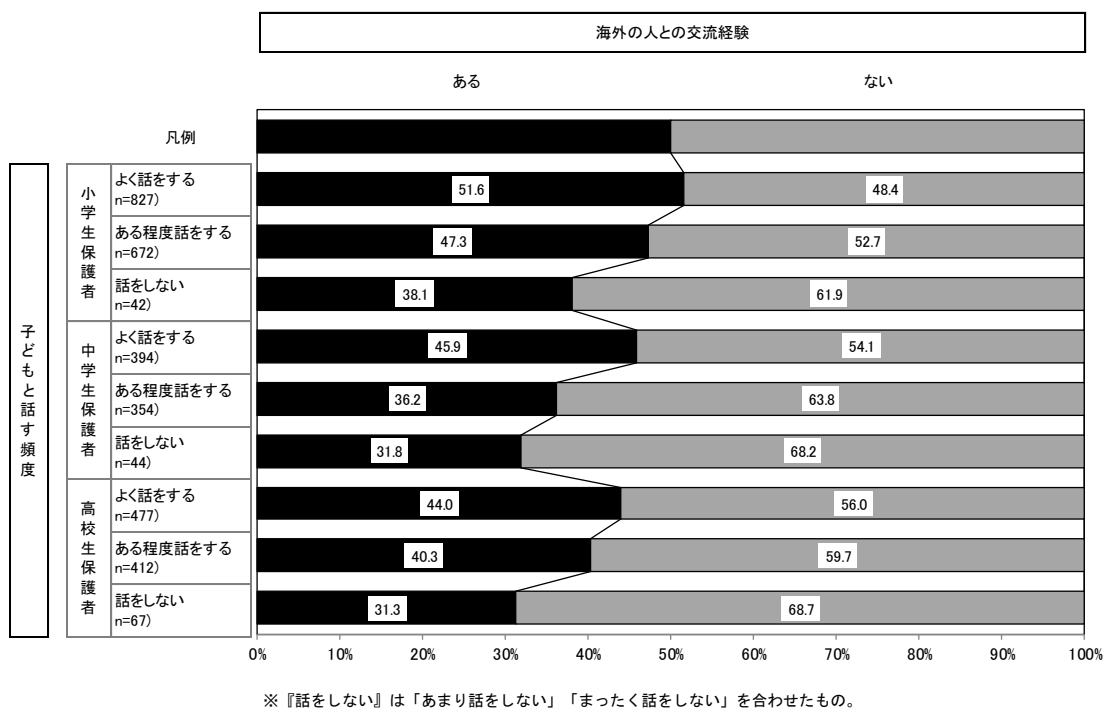
〈子どもと話す頻度〉と〈LGBT（性的少数者を表す総称の一つ）の認知状況〉との関係



(4) 〈海外の人との交流経験〉との関係

いずれの保護者でも、子どもとよく話をする人は海外の人との交流経験が多い傾向がみられ、中学生保護者で一定の相関関係がみられます。

〈子どもと話す頻度〉と〈海外の人との交流経験〉との関係



Ⅲ. 調査結果のまとめ

Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 小・中・高校生調査

(1) 日常生活について

日常の行動では、ほぼすべての行動で、「当てはまる」と「少し当てはまる」を合わせた『当てはまる』が6割を超えているが、政治や選挙への関心は小学生、中学生で4割台、高校生で約5割とかなり低くなっている。年齢とともに『当てはまる』が上昇するのは、ルール遵守、周りに迷惑をかけない、相手の立場になって考えるである。小学生は中・高校生と比較して、計画性、悪いと思うことを注意する、協力し合う、新しい発見への興味、家族への挨拶などが高い。中学生は、小学生、高校生と比較して、自発的な行動についてやや消極的な姿勢がみられる。過去的生活体験は、年齢とともに経験値も高くなると考えられ、様々な生活体験の多くで年齢の上昇と体験率の上昇が比例している。ボランティアに関わる反復体験は、高校生で多く、小・中学生を大きく上回り、5割を超えている。

(2) 抑うつ傾向

自分の力だけではどうしようもないという感じをもつ中学生、高校生は8割程度であり、社会全体の悪化を感じているのは小・中・高校生いずれも7割前後となっている。他人とつきあう煩わしさ、生きているのがいやになるなど、厭世観ともいえる感覚を持つ人は中・高校生で増加傾向にある。

多くの人が日ごろの悩みはないとしているが、年齢が上がるにつれて自分の将来、成績や進学、外見やスタイルなどへの悩みが増える。悩みの相談相手は、小・中・高校生いずれも母親が最も多い。

(3) 家族について

朝食の個食傾向は、年齢が上がるほど多くなり、高校生で4割台前半である。夕食は誰かと食事をする割合が高い。

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを行っている子どもの割合は、小・中学生で10%台、高校生が5%程度である。

世話する家族は小・中・高校生いずれも幼い兄弟であるケースが最も多く、世話の内容は、小学生、高校生で見守り、中学生で家事（食事の準備や掃除、洗濯）が最も多い。

世話する頻度は、年齢に関わらず、ほぼ毎日、時間は3時間未満が最も多いが、3時間以上7時間未満も2割を超えており、高校生では約1割が7時間以上と回答している。

世話することでできないことは、特にない以外では、小・中学生では自分の時間が取れない、高校生では睡眠時間が十分とれないが最も多く、必要な支援については、特にない以外では、小・中学生で自由に使える時間の確保、高校生では自分の今の状況について話を聞いてほしいが最も多い。

相談方法は、直接会う、SNS（LINEなど）が多く、相談相手は、年齢に関わらず「学校の先生、保健室の先生」が最も多いが、高校生では、同じような悩みを持った経験がある人（ピアサポートの人）も多い。

「ヤングケアラー」の説明文を掲げたうえで、自分がヤングケアラーであると思う割合は、小・中・高校生いずれも2%程度となっている。

(4) 学校生活について

学校生活について、友達とはできるだけ平穏に過ごしたいという傾向が強い。9割以上の子ども

もは、仲間はずれやいじめをうけた経験がなく、対処は我慢が最も多い。クラスの雰囲気には、程度の違いはあるが8割以上が満足している。教員に満足している者は8割以上おり、学校の規則についても6割以上が満足している。

学校での授業に満足している者の割合は8割以上を占める。自分の成績について小学生は7割以上が満足しており、中学生、高校生は逆に5割以上が不満足である。学校への登校意欲については、7割以上が行きたくないと感じた経験を有し、体調面が行きたくない理由として多い。

(5) 多様な性について

LGBTの意味まで理解している者は、小学生で2割であるが、年齢とともに理解者が多くなり、高校生で7割を超えている。LGBTの人が学校で過ごしやすい環境を整えるために必要なことでは、年齢に関わらず、からかいや、笑いの対象にされないことが最も多い。

(6) 地域社会とのかかわりについて

近所の人には、8割以上があいさつをしているが、近所の家との行き来はしない傾向が強い。また、小学生が悪いことをしても叱られることは少ない。ボランティア活動への参加率は前回調査から増加しており、今後のボランティア活動の参加意向は、中学生で6割台半ば、高校生で7割台後半と、高校生で参加意向が高い。

(7) インターネット利用について

自分専用の機器を所有しているのは、小学生で6割台後半、中学生で8割台後半、高校生で9割台後半を占めている。また、平日のインターネット利用時間は年齢が上がるほど長くなっている。

前回調査と比較すると、平均利用時間は小・中・高校生いずれも増加しており、1時間未満の短時間利用者の割合が減少している。インターネットの利用によって、生活の楽しさや面白さが増えている反面、学習時間、睡眠時間などは減っている。フィルタリングは、小学生、中学生は「使用している」が最も多く、高校生は「使用していない」が最も多い。前回調査と比較すると、小・中学生で「LINEなどのコミュニティサイトを利用したい」が増加し、高校生で「保護者が必要ないと判断したから」が増加している。

(8) 生成AIの認知度と使用経験

生成AIの認知度は、小学生、中学生で3割台、高校生で4割台後半である。実際の使用経験は、小学生で6.9%、中学生で7.4%、高校生で11.7%で、使用した目的は、小学生で調べものなど、中・高校生でイラストを描く、画像生成などに使用している人が多い。

(9) 進路選択について

中・高校生が思い描く将来の職業生活では、一生の仕事をできるだけ早く見つけたい、仕事の能力が評価される会社で働きたい、仕事より趣味や自分の生活を優先させたいが6割を超えている。フリーターで生活することや起業することには否定的であり、自分のスキルを評価する会社で、プライベートの時間を大事にできる働き方が望ましいと考えている。

(10) 国際化について

海外との交流経験は学校の授業や行事で得る機会が最も多いが、語学力の自信のなさから、海外留学や海外での仕事を希望しない傾向がある。

(11) 規範意識について

規範意識については、すべての項目で悪いが半数以上を占める。ただし、飲酒や深夜の外出は、

年齢が上がるにつれて悪いが減少している。匿名で誹謗中傷することは、中・高校生のほぼ全員が悪いと考えている。前回調査と比較すると、中・高校生ともに、インターネットのアダルトサイトや出会い系サイトを利用すること、食事やデートの対価としてお金や高価な品物をもらうことについて、「とても悪い」が減少しており、これらの行為に関する規範意識が弱まっている傾向がみられる。

2. 保護者調査

(1) 子どもについて

子どもとの関係は、9割以上がほぼ良好であると考えている。子どもと過ごす時間は、6割以上の保護者が納得している。子どもとの会話の頻度が少ない理由は、すべての保護者で仕事の忙しさが多い。

しつけについては、子どもをすぐ手伝ってしまう、子どもがすることにすぐ口を出すといった回答が多い。また、子どもの教育やしつけについては、9割以上の保護者が自分でできることは子どもにまかせている。悩みとしては、どの年齢層の子どもの保護者も、進学・受験・就職が多い。

(2) 家庭について

家庭観については、どの年齢層の子どもの保護者も、心身の休養や安らぎの場という回答が多い。また、日ごろの生活態度や考え方は家族を大切にする傾向が強い。

(3) 学校生活について

子どもが通っている学校には、多くの保護者が満足している。子どもの友人関係、学校の雰囲気、子どもと先生との関係についても満足している保護者が多い。ただし、特に中学生の保護者は、子どもの成績に満足している保護者は5割台後半にとどまっている。

進路については、いずれの保護者も大学までを希望する保護者が最も多い。

(4) 不登校・いじめについて

子どもが学校に行きたくないと言う経験をもつ保護者は4～5割いて、理由は心身の疲れなどが多い。また、子どもが仲間はずれやいじめをうけた経験をもつ保護者は少ないが、そのときの対処法としては学校への相談が最も多い。学校における「いじめ問題」を解決するために必要なことは、半数以上の保護者が、学校での取組を強化することが必要だと回答している。

(5) 多様な性について

LGBTについての認知状況については、意味まで理解している者が7割弱～7割台半ばで、水準は高校生とほぼ同程度の理解状況であった。

LGBTの人が学校で過ごしやすい環境整備については、「からかいや、笑いの対象にされないこと」が最も多く、8割以上を占める。

(6) 地域社会とのかかわりやボランティア活動について

近所の人とのかかわりは、あいさつや立ち話程度が多い。地域の共同清掃作業やスポーツ・レクリエーション活動への参加状況は5割以上である。ボランティア活動への参加意向は6割以上の保護者にあるが、参加率は2割台にとどまり、不参加の理由としては、活動する時間がないといったことが多い。

(7) メディア・コミュニケーションについて

子どもにスマートフォンをもたせている保護者は、子どもの年齢とともに増え、高校生ではほ

ば全員が保有している。スマートフォンは、家族間の連絡や友達との付き合いのために持たせていることが多い。フィルタリングを使用している割合は、小学生保護者で約8割、中学生保護者で7割、高校生保護者で5割弱である。フィルタリングを使用していない理由については、子どもを信頼しているからと回答している保護者が多い。

インターネット使用に関して、6割台後半～7割台後半の保護者は、サイトやアプリの利用で、他人とのトラブルや犯罪に巻き込まれることを不安視している一方、インターネットの利用について、子どもと保護者との間でルールを決めていない家庭は、子どもの年齢が上がるほど多くなり、高校生保護者で3割台前半となっている。

(8) 国際化について

半数以上の保護者は、海外の人たちとの交流経験がなく、交流のある人は海外旅行や仕事がきっかけとして多い。子どもと比較すると、学校での交流機会があるためか、子どもの方が保護者よりも交流経験は多い。

子どもの海外留学や海外での仕事については、8割を超える保護者が賛成しているが、子どもたち自身は希望しないという回答が6割台後半～7割台前半を占めている。

(9) 規範意識について

子どもの行動として、ほぼすべての行為で悪いという回答が9割以上を占めている。保護者と子どもを比較すると、仲間はずれ、暴力行為については、保護者は子どもよりも「とても悪い」という回答が多い傾向がある。

〈参考資料〉

青少年の意識・ニーズに関する調査報告書

令和6(2024)年3月

発行 福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局政策課
福岡県福祉労働部 こども未来課

〒812-8577

福岡市博多区東公園7番7号

TEL 092-651-1111(代表)

福岡県行政資料	
分類記号 JE	所属コード 4600119
登録年度 05	登録番号 0004